

江別市

ついでに

対雁 2 遺跡(7)

—石狩川改修工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成 17 年 度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

江別市

ついでに

対雁 2 遺跡(7)

—石狩川改修工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成 17 年 度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



東西方向地層断面 (73-156-ア～) N→S



噴砂と断層 (73-151-エ) NE→SW



P-179 2～4層上面の状況 E→W

例 言

- 1 本書は、石狩川改修工事に伴い財団法人北海道埋蔵文化財センターが江別市対雁2遺跡で実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。対雁2遺跡の調査報告書として7冊目となる。
- 2 本書は平成16・17年度の調査成果を収録し、発掘範囲の重複する平成11・12年度の調査成果の一部も再録している。11年度の成果の一部は既刊の報告書において発表したが、本書の内容を正式な報告とする。
- 3 調査は当財団第2調査部第1調査課が担当した。同課の調査員、鈴木 信・芝田直人・酒井秀治が調査業務を分担し、その指示のもと財団臨時職員が作業にあたった。
- 4 現場における遺構図・土層図などの作図・整理は芝田・酒井・石丸奈智・菅原美紀・田中 静・稲垣森太が担当・従事し、酒井が統括した。
- 5 調査写真・写真図版の編集は酒井が担当し、第1調査部第4調査課 菊池慈人の協力を仰いだ。
- 6 本書の報告に関する遺物整理は、土器を芝田が、石器等を酒井が担当した。
- 7 本書の執筆は芝田・酒井が分担し、文責は各項目の文末に括弧で示した。編集は主として酒井が行った。
- 8 平成17年度の放射性炭素年代測定は、加速器質量分析法(AMS)で株式会社加速器分析研究所に委託し、報文を掲載した。
- 9 調査の実施にあたり下記の諸機関・諸氏の御教示・御協力をいただいたことを記して感謝する。
(五十音順)

石狩川開発建設部江別河川事務所、同部用地課企画係、石狩市教育委員会、岩手県立博物館、恵庭市教育委員会、恵庭市郷土資料館、江別市教育委員会、江別市郷土資料館、北広島市教育委員会、釧路市埋蔵文化財調査センター、釧路市立博物館、札幌市埋蔵文化財センター、千歳市埋蔵文化財センター、北海学園大学人文学部、北海道開拓記念館、北海道立図書館、北海道立地質研究所

青野友哉、赤石慎三、秋山洋司、石井 淳、石神 敏、石川 朗、石川直章、石橋孝夫、出穂雅実、乾 哲也、乾 芳宏、今村峯雄、上野秀一、上屋真一、遠藤龍敏、大島直行、大谷敏三、大林千春、長田佳宏、小野哲也、小野寺聡、葛西智義、柏木大延、川内 基、川内谷修、北澤 実、工藤義衛、小針大志、齊藤大明、斎野裕彦、坂本 稔、佐藤由紀男、佐藤嘉広、澤田 健、杉浦重信、関矢信一郎、仙庭伸久、高瀬克範、高橋 理、田村俊之、角田 隆、友田哲弘、豊田宏良、長町章弘、奈良智法、西 幸隆、野村 崇、羽賀憲二、長谷山隆博、深澤芳樹、藤井誠二、藤尾慎一郎、松田淳子、松田 猛、松谷純一、宮 宏明、森 秀之、森岡健治、藪中 剛

記号等の説明

- 1 遺構の表記は以下に示す記号を用い、原則として調査順に番号を付した。
P：土坑
F：焼土
S：集石
- 2 遺構図の縮尺はスケール等の入っているもの以外は原則として、土坑40分の1、集石20分の1、焼土など80分の1である。
遺構平面図に方位記号がない場合は、上がN-23°-Eである。
遺構平面図の「田」「+」はグリッドラインの交点で、傍らの名称記号は右下の小発掘区を示す。
遺構平面図の・小数字は、その地点の標高(単位m)である。
- 3 遺構の規模は、「長軸の上端×下端/短軸の上端×下端/確認面からの最大深」で示してある。
一部破壊されているものは現存長を()で示し、不明な場合は-で示した。
- 4 遺物実測図と土器拓影図の縮尺は、原則として以下のとおりである。一枚の図面に違う縮尺の図が配置されたものにはスケールを付したのものもある。
復元土器：3分の1 土器拓影：3分の1 土製品：3分の1
剥片石器：2分の1 礫石器：3分の1 石製品：2分の1
- 5 復元土器の実測図記載方法については、『対雁2遺跡(8)』(平成18年度刊行予定)における土器集中1のものに準拠し、以下の6～9の記号を使用した。
- 6 復元土器の断面図上方に「▼」が付されている場合は、正面図に「▼」が付されている部位の断面を転写している。断面が複数に及ぶ場合は「▽」「◆」「◇」も使用している。
- 7 復元土器の天にアルファベット大文字を付した「U」は正面図手前、「R」は正面図奥の部位にある接合面情報を断面へ転写したことを表す。
- 8 復元土器の外底面図に「□」-「■」が付されている場合は、正面図底縁に付された「□」-「■」の位置に対応する。
- 9 復元土器の正面図空白部分に、「○」が付されている場合は内傾、「●」が付されている場合は外傾の接合面が露呈していることを表す。
- 10 破片土器の掲載番号のうち、同一番号の末尾に「a」「b」を付した場合は、これらが同一個体の未接合資料であることを表す。
- 11 石器・土製品の大きさは、「最大長×最大幅×最大厚」で記してある。欠損しているものは現存長を()で示し、不明なものは-で示した。
- 12 文中において「北埋調報」としているものは、財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書の略である。

目 次

口 絵

例 言

記号等の説明

目 次

I 調査の経緯

1 調査要項	1
2 調査にいたる経緯	2
3 調査の経過	4
4 本書の内容	8

II 調査の方法

1 調査範囲	9
2 土 工	11
3 測量と記録	13
4 資料整理	14
5 保 管	18

III 遺跡の環境

1 位 置	19
2 地 形	19
3 地 層	22
4 周辺の遺跡	35

IV 遺構と遺構の遺物

1 記載の方法	45
2 土 坑	46
3 集 石	64
4 焼 土	69
5 土器集中・剥片集中・ベンガラ・赤色化微細礫範囲・灰白色粘土範囲	70

V 包含層の遺物

1 土 器	127
2 石 器 等	177

VI 自然科学的分析

1 放射性炭素年代測定結果（株式会社加速器分析研究所）	201
-----------------------------	-----

VII 成果と問題点

1 対雁2遺跡出土のV群土器について	219
2 放射性炭素年代測定結果について	224

引用参考文献	227
--------	-----

写真図版

報告書抄録

挿 図 目 次

I 調査の経緯

図 I-1	遺跡の位置	2
図 I-2	丘陵堤	3
図 I-3	各年度の発掘範囲	5

II 調査の方法

図 II-1	発掘区の設定(1)	9
図 II-2	発掘区の設定(2)	10
図 II-3	掘削状況	12
図 II-4	取上面記録票	14
図 II-5	土壌水洗等処理票	16

III 遺跡の環境

図 III-1	遺跡付近の地形(河川改修前)	20
図 III-2	遺跡付近の地形(河川改修後)	21
図 III-3	治水地形分類と遺跡の位置	23
図 III-4	東西方向地層断面図(1)	27
図 III-5	東西方向地層断面図(2)	29
図 III-6	東西方向地層断面図(3)	31
図 III-7	南北方向地層断面図(1)	33
図 III-8	南北方向地層断面図(2)	34
図 III-9	江別市内の遺跡(1)	38
図 III-10	江別市内の遺跡(2)	39

IV 遺構と遺物の遺物

図 IV-1	遺構位置図	45
図 IV-2	土坑(1)	47
図 IV-3	土坑(2)	49
図 IV-4	土坑(3)	51
図 IV-5	土坑(4)	53
図 IV-6	土坑(5)	55
図 IV-7	土坑(6)	57
図 IV-8	土坑(7)	59
図 IV-9	土坑(8)	61
図 IV-10	土坑(9)	63
図 IV-11	集石	65
図 IV-12	集石の遺物	67
図 IV-13	焼土等(1)	71
図 IV-14	焼土等(2)	72
図 IV-15	焼土等(3)	73
図 IV-16	焼土等(4)	74
図 IV-17	焼土等(5)	75
図 IV-18	焼土等(6)	76
図 IV-19	焼土等(7)	77
図 IV-20	焼土等(8)	78
図 IV-21	焼土等(9)	79
図 IV-22	焼土等(10)	80
図 IV-23	焼土等(11)	81

図 IV-24	焼土等(12)	82
図 IV-25	焼土等(13)	83
図 IV-26	焼土等(14)	84
図 IV-27	焼土等(15)	85
図 IV-28	焼土等(16)	86
図 IV-29	焼土等(17)	87
図 IV-30	焼土等(18)	88
図 IV-31	焼土等(19)	89
図 IV-32	焼土等(20)	90
図 IV-33	焼土等(21)	91
図 IV-34	焼土等(22)	92
図 IV-35	焼土等(23)	93
図 IV-36	焼土等(24)	94
図 IV-37	焼土等(25)	95
図 IV-38	焼土等(26)	96
図 IV-39	焼土等(27)	97
図 IV-40	焼土等(28)	98
図 IV-41	焼土等(29)	99
図 IV-42	焼土等(30)	100
図 IV-43	焼土断面図	101

V 包含層の遺物

図 V-1	土器(1)	131
図 V-2	土器(2)	132
図 V-3	土器(3)	133
図 V-4	土器(4)	134
図 V-5	土器(5)	135
図 V-6	土器(6)	136
図 V-7	土器(7)	137
図 V-8	土器(8)	138
図 V-9	土器(9)	139
図 V-10	土器(10)	140
図 V-11	土器(11)	141
図 V-12	土器(12)	143
図 V-13	土器(13)	144
図 V-14	土器(14)	145
図 V-15	土器(15)	147
図 V-16	土器(16)	148
図 V-17	土器(17)	149
図 V-18	土器(18)	151
図 V-19	土器(19)	152
図 V-20	土器(20)	153
図 V-21	土器(21)	155
図 V-22	土器(22)	156
図 V-23	土器(23)	157
図 V-24	土器(24)	159
図 V-25	土器(25)	160
図 V-26	土器(26)	161

図V-27	土器㉗	163
図V-28	土器㉘	164
図V-29	土器㉙	165
図V-30	土器㉚	167
図V-31	土器㉛	168
図V-32	土器㉜	169
図V-33	土器㉝	171
図V-34	土器㉞	172
図V-35	土器㉟	173
図V-36	土器㊱	175
図V-37	土器㊲	176
図V-38	石器(1)	179
図V-39	石器(2)	180
図V-40	石器(3)	181
図V-41	石器(4)・土製品	182

図V-42	遺物分布図(1)	183
図V-43	遺物分布図(2)	184
図V-44	遺物分布図(3)	185
図V-45	遺物分布図(4)	186
図V-46	遺物分布図(5)	187

Ⅶ 成果と問題点

図Ⅶ-1	V群土器分類図(1)	220
図Ⅶ-2	V群土器分類図(2)	221
図Ⅶ-3	対雁2遺跡放射性炭素年代 測定試料採取位置図	225

表 目 次

Ⅲ 遺跡の環境

表Ⅲ-1	層面一覧	24
表Ⅲ-2	江別市内の遺跡	40

Ⅳ 遺構と遺構の遺物

表Ⅳ-1	土坑規模表	46
表Ⅳ-2	土坑形状表	46
表Ⅳ-3	生活面一覧	102
表Ⅳ-4	遺構一覧	106
表Ⅳ-5	遺構出土掲載遺物一覧	113
表Ⅳ-6	遺構出土遺物一覧	114
表Ⅳ-7	土壌フローテーション成果一覧	115

Ⅴ 包含層の遺物

表V-1	遺物集計	188
表V-2	掲載土器一覧	194
表V-3	掲載石器等一覧	200

Ⅵ 自然科学的分析

表Ⅵ-1	放射性炭素年代測定試料一覧	201
------	---------------	-----

Ⅶ 成果と問題点

表Ⅶ-1	対雁2遺跡放射性炭素年代 測定結果一覧（平成17年度 報告範囲分）	226
------	---	-----

写真図版目次

II 調査の方法

- 図版II-1 調査風景(1)
- 図版II-2 調査風景(2)
- 図版II-3 検出状況(1)
- 図版II-4 検出状況(2)

III 遺跡の環境

- 図版III-1 地層断面(1)
- 図版III-2 地層断面(2)
- 図版III-3 地層断面(3)

IV 遺構と遺構の遺物

- 図版IV-1 土坑(1)
- 図版IV-2 土坑(2)
- 図版IV-3 土坑(3)
- 図版IV-4 土坑(4)
- 図版IV-5 土坑(5)・集石(1)等
- 図版IV-6 焼土(1)
- 図版IV-7 焼土(2)
- 図版IV-8 土坑(6)
- 図版IV-9 土坑(7)
- 図版IV-10 土坑(8)
- 図版IV-11 土坑(9)
- 図版IV-12 土坑10
- 図版IV-13 土坑11
- 図版IV-14 土坑12
- 図版IV-15 土坑13・集石(2)
- 図版IV-16 集石(3)
- 図版IV-17 集石(4)・作業風景

V 包含層の遺物

- 図版V-1 土器(1)
- 図版V-2 土器(2)
- 図版V-3 土器(3)
- 図版V-4 土器(4)
- 図版V-5 土器(5)
- 図版V-6 土器(6)
- 図版V-7 土器(7)
- 図版V-8 土器(8)
- 図版V-9 土器(9)
- 図版V-10 土器10
- 図版V-11 土器11
- 図版V-12 土器12
- 図版V-13 土器13
- 図版V-14 土器14
- 図版V-15 土器15
- 図版V-16 土器16
- 図版V-17 土器17
- 図版V-18 土器18
- 図版V-19 土器19
- 図版V-20 土器20
- 図版V-21 石器(1)
- 図版V-22 石器(2)・土製品

I 調査の経緯

1 調査要項

事業名	石狩川改修工事用地内埋蔵文化財発掘調査
事業委託者	国土交通省北海道開発局石狩川開発建設部
事業受託者	財団法人北海道埋蔵文化財センター
遺跡名	対雁2遺跡（北海道教育委員会登録番号：A-02-110）
所在地	北海道江別市工業町28番地地先（石狩川河川敷緑地内）

調査期間・調査面積

	調査期間	調査面積
平成11年度	平成11年5月17日～12年3月24日(発掘6月1日～9月30日)	2,000㎡(トレンチおよび一部上層部の調査)
平成12年度	平成12年4月3日～13年3月30日(発掘5月8日～10月31日)	2,400㎡(ほかに範囲確認トレンチ調査)
平成13年度	平成13年4月2日～14年3月29日(発掘5月7日～10月31日)	1,500㎡(下層部未了)
平成14年度	平成14年4月3日～15年3月31日(発掘5月7日～10月31日)	3,450㎡(13年度着手1,500㎡の下層部を含む)
平成15年度	平成15年4月1日～16年3月31日(発掘5月9日～10月31日)	2,200㎡
平成16年度	平成16年4月3日～17年3月31日(発掘5月6日～10月31日)	3,550㎡(うち1,850㎡は次年度継続調査)
平成17年度	平成17年4月3日～18年3月31日(発掘5月9日～10月31日)	3,650㎡(うち400㎡は次年度継続調査)

調査体制

	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
	第2調査部 第3調査課	第2調査部 第3調査課	第2調査部 第5調査課	第2調査部 第4調査課	第2調査部 第1調査課	第2調査部 第1調査課	第2調査部 第1調査課
鬼柳 彰 部長							
大沼 忠春 部長							
西田 茂 部長							
西田 茂 課長	○	○					
三浦 正人 主査	○						
三浦 正人 課長							
佐藤 和雄 課長							
遠藤 香澄 課長							
鈴木 信 主任	○						
鈴木 信 主査							
西脇対名夫 主任			○	○			
笠原 興 主任							
佐藤 剛 主任							
吉田裕史洋 文化財保護主事		○	○	○			
吉田裕史洋 主任					○		
芝田 直人 主任							○
酒井 秀治 文化財保護主事		○	○	○	○		
酒井 秀治 主任						○	○

○は発掘担当者

2 調査にいたる経緯

石狩低地帯の治水事業は1869(明治2)年に明治政府が開拓使を設置し、本府を建設するに当たり松浦武四郎の進言により札幌を適地として石狩原野開拓を開始したことに始まる。石狩原野開拓のため、豊平川の治水・水運路の整備が行われ、同時にジェームス・R・ワッソンによる石狩川の地形および河流測量を1873・1874(明治6・7)年に行い「北海道石狩川図」が作成された。この地図が石狩川の河道形状を記録した最も古いものとされている。

移民による開拓が進み、開拓地が洪水氾濫区域まで広がってきていた1898(明治31)年は、春から洪水が頻発していた。そこに9月6～8日の降雨により起こった大洪水は、石狩平原の平野部のほぼ全域を冠水させ、北海道開拓に大きな打撃を与えた。そのため流域関係者は「石狩治水同盟」を結成し、貴衆両院に対し石狩川治水着手の請願を行った。これにより北海道庁は北海道治水調査会を設立し、抜本的な治水計画の調査を行うこととなった。

1909(明治42)年に岡崎文吉によってまとめられた「石狩川治水計画調査報文」は、石狩川の治水計画において最初のものであり、1910(明治43)年より始まる「北海道第一期拓殖計画」に取り入れられ、石狩川の治水事業が本格的に開始された。

江別市域においても、築堤・護岸・掘削・浚渫などの改修工事が幾度かの治水計画の改定を経ながら、長期的な観点のもとで実施されてきた。1917(大正6)年策定の計画において、対雁と篠津の大曲流部が直線化されることとなった。篠津地区については1923(大正14)年に着工し、1933(昭和8)年には通水に至った。だが、残された対雁地区の直線化工事は、治水計画の改定にあたって常に具体化が検討されてきたが、その後しばらく実現を見ることがなかった。

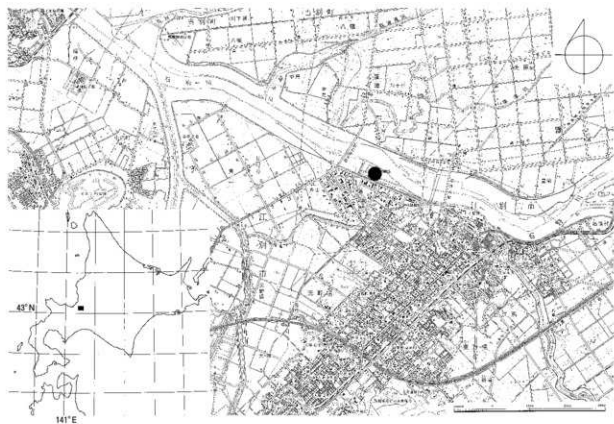


図 I-1 遺跡の位置

対雁地区において直線化工事が具体化したのは1970(昭和45)年からである。これは江別市の工業団地造成と関連するものである。地区住民の移転が始まり、開校90周年を待っていた対雁小学校が移転したのは1972(昭和47)年9月のことであった。さらに石狩川の堤防と道道石狩沼田線(現在の国道337号線)が切り替わり、当初より計画されていた堤防予定地に土が盛りられて「対雁築堤」が造設された。こうして広くとられた河川敷の一部では、1975(昭和50)年から河川環境整備事業のひとつとして「高水敷整備」工事が着手され、1981(昭和56)年に完了した。これによって石狩川河川敷緑地は、江別市が管理運営する運動公園として、野球場・サッカー場・自由広場の整備がされた。

このような治水事業が進展するなか、石狩川中・下流域において1981(昭和56)年8月上旬に停滞した前線と、台風12号および同月下旬の台風15号による2度の大雨でそれぞれ大洪水が発生した。「五六水害」と呼ばれるこの大洪水によって石狩川の工事実施基本計画が見直されることとなった。河道の掘削と浚渫による流下能力の増大、堤防強化、ダム群や遊水地群などによる洪水調節が盛り込まれた。堤防強化は護岸の築堤高上げ(+2.00m)が行われることとなった。これには軟弱地盤における堤防の安全度を高めるため「丘陵堤」として施工された(図I-2)。普通よりも傾斜の緩やかな「丘陵堤」の構築には良質で多量の土砂を必要とする。そのため、対雁地区の「高水敷」部分の土砂も「築堤盛土材」として使用されることとなった。土砂を確保するために運動公園の切り下げが計画され、削平後に「中水敷」の運動公園として再整備されることとなった。



図I-2 丘陵堤(江別河川事務所のパンフレット)

この工事は1987・89・90(昭和62・平成元・2)年と順次行われ、「石狩川改修工事に基づく築堤盛土材の採取」が進行した。1991(平成3)年12月「築堤盛土材の採取」にあたって、工事施工の立場にある石狩川開発建設部江別河川事務所から江別市教育委員会へ、埋蔵文化財包蔵地の有無の照会が行われている。その範囲は世田豊平川(旧豊平川)よりも上流側の140,000㎡である。

協議を受けた江別市教育委員会は、埋蔵文化財に関しては所在確認の調査が未実施であること、18世紀以降の江別発祥の地としての対雁(津石狩)番屋跡や対雁駅遺跡に近く、さらに1876(明治9)年の樺太アイヌ強制移住地にも近接している等、江別の歴史にとって重要な地点であることを念頭に1992(平成4)年から順次、埋蔵文化財所在確認調査を実施した。

所在確認調査は3回に分けて行われ、重機を使用して80～40～20mメッシュでの試掘穴掘削を進めた。3回目の1992年10月21～31日までの試掘調査は河川敷37,000㎡を対象にするもので、当初は20mメッシュの重機調査を行ったが、終盤に縄文土器片を発見した。そのため急速調査を範囲確認調査(B調査)に改め、10mメッシュでの包蔵地確認を行った。その結果、土器片232点・石器等63点の遺物や焼土を検出し、遺跡の所在が明確になった。念頭にあった江戸・明治期の遺構は、既に石狩川改修工事や「高水敷」整備で失われていたものの、調査の成果として未登載の縄文時代の包蔵地約20,000㎡を確認した。これを北海道教育庁文化課に報告し、遺跡名は対雁2遺跡とされた(図1-1)。

この包蔵地については現状保存が望ましいが、やむをえない場合は記録保存を目的とした発掘調査が必要である旨、石狩川開発建設部に伝えられた。石狩川開発建設部は石狩川治水の進展上工事計画の変更は不可能と判断した。1999(平成11)年度に対雁2遺跡の発掘調査を、財団法人北海道埋蔵文化財センターに委託した。北海道埋蔵文化財センターはこの事業を受託し、調査面積20,000㎡に対しての当該年度の調査計画を立案し、6月～9月までの発掘調査に着手した。

3 調査の経過

(1) 平成11(1999)年度

調査は2.5m×5mのトレンチの継続で進行し、東西方向の71・81線はほぼ連続、南北方向の142・150・158・166線は北から目的の地点まで延ばした(図1-3)。各所に土坑や焼土の重複がみられ、最も多い箇所では11枚の焼土の重複を確認した。また、調査区南辺や中央部では、公園造成時の客土を除去した段階で遺物が目立ち始め、その部分を遺物の広がりにおいて精査した結果、土器集中を確認した(図1-3)。土器集中1・3については出土遺物が多いことから調査を中断し、ブルーシートを掛けた後に土をかぶせて養生をし、次年度に調査を行うこととした。出土遺物の多くは縄文晩期後葉に属するもので、最上層部から出土する一部や西辺に続縄文初頭のものがみられた。また、琥珀塊・石炭円礫やクマとみられる土製品なども出土している。

年度内に一旦記録類と出土遺物の整理を行い、年度末に報告書『対雁2遺跡(1)』(北理調報147)として刊行した。報告書では、遺物包含層の深さが未確定であり、安全確保のため段階的な試掘が必要であること、包蔵地範囲も特に西側の限界について試掘を追加して再度判断する必要があること(同前書8頁)を指摘し、道教委文化課へも同内容の報告を提出した。

(2) 平成12(2000)年度

比較的遺構・遺物の密度の薄い北東側から、南北30m(65～71線)、東西80m(159～175線)の昨年度

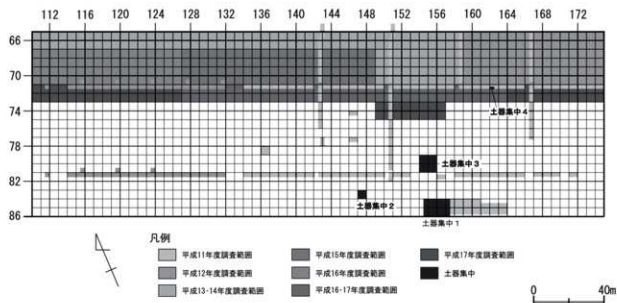


図 I-3 各年度の発掘範囲

トレンチに囲まれた2,400㎡および土器集中1・3を対象とした発掘調査を行った(図 I-3)。

調査範囲西側では土坑・焼土・炭化物層・遺物の重複が顕著で、その相互の上下関係・同一面関係の把握と記録化、層序の認識に努め、遺物の検出をみなくなる標高7.0m以下まで作業した。出土物は縄文晩期中葉から後葉に属するものであった。土器集中1・3の調査では、前年度と合わせて80,514点の遺物を取り上げた。

当年度着手範囲の記録類・出土品を整理し、年度末に報告書『対雁2遺跡(2)』(北埋調報160)を刊行した。また、土器集中3から出土した遺物の本格的な整理作業に着手した。

深部調査では遺物を確認できなかったが、標高4.0mほどの位置で自然木・クルミ殻などの年代測定資料を得た。AMS法による放射性炭素年代測定では、低位の自然遺物で2900y.BP前後と報告された。また、遺跡周辺部の探索で現石狩川の汀線付近から縄文中期～晩期・統縄文・擦文土器を採集した。石狩川改修で既に掘削した部分や周辺に、当該期の遺跡が存在していたことを示すものと考えられる。

なお、包蔵地の西側への広がりを確認するため、新たな試掘調査を求めている件については、北海道教育委員会と協議し、調査予算内で重機によるトレンチと人力での掘削土精査を行うこととなった。10月に実施した試掘の結果、従来の発掘必要範囲西辺から旧豊平川までの間のほぼ全域に土器・石器等・炭化物や焼土が分布することが判明した。この結果に基づき道教委は翌年1月、石狩川開発建設部に対して、西側110線までの概算12,500㎡を要発掘範囲に取り込む旨を文書で通知した。同建設部からはこの部分についても現状保存困難であることが道教委に伝えられた。したがって調査面積の全体は、当初の20,000㎡と合わせ約32,500㎡となった(北埋調報160)。

(3) 平成13(2001)年度

2ヶ年の調査から、今年度は昨年度に続き南北30m幅で71線以北を西側に掘り進めることを計画した。ただ遺構・遺物の密集部からの継続調査となり、やや深くに包含層が傾斜していく様相も予測されること、発掘労働力の一部を採取したままになっていた焼土等の土壌の一次整理に充てること等を

考慮して東西を149線までの50m延長に限り、調査面積を1,500㎡とした(図1-3)。

調査が進むにつれ遺構・遺物の密集部は、予想を越えて152線の東側付近まで徐々に密度を落としながら続くことが判明した。土坑94基・焼土ほか約470ヶ所など多数の遺構が重層的に検出され、これに伴う縄文晩期後葉の遺物も、層位に応じて細かい変遷を示すことが明らかになった。「遺構・遺物の検出面数=とらえられた生活面」は2.5×2.5mの小グリッドごとの最多で14面を数え、155線以東の密集部での平均でも8.5面に達した。また包含層の下限も予想外に深く、当初積算の1.5倍を超える土量を掘り下げなければ、当年度分の調査は終了しない状況が見えてきた。そこで、次年度に向けた残存部の状況把握のため深掘りトレンチを掘削し、繰越し作業量を推算した。10月初頭に道教委文化課に資料を送付し、中旬には石狩川開発建設部江別河川事務所に説明報告した。

なお、次年度に合わせるため報告となったので可能な範囲の整理を進める一方、平成11・12年度に調査・整理を行った「土器集中3」を中心とする報告書『対雁2遺跡(3)』(北埋調報177)を刊行した。

(4) 平成14(2002)年度

前述した経緯に基づいて、今年度の調査は、前年度下層部1,500㎡と南北10m(65・66線)・西端までの東西195m(110～149線)の1,950㎡、合計3,450㎡を対象とした(図1-3)。

東側の1,500㎡は、上層からの連続で何枚もの層がさらに西に傾斜していった。遺構・遺物も一部に集中を見せながら断続的に検出された。手掘り調査の到達面は、現地表から約1.5～2.5m深である。昨年度からの小グリッドごとの取上回数を通算は最大23面に達したが、遺物は縄文晩期後葉の範囲に収まるものであった。

新規着手の細長い西側1,950㎡では、まず25%調査を行い、遺構・遺物の濃淡を把握することとした。その結果をもとに、一定の土坑・焼土や遺物の検出があった148線付近や140～146線付近を中心に手掘り調査、遺構・遺物が希薄な部分は重機掘削を併用して調査した。現地表から約1.5m深を調査し、概ね140線以東で縄文前葉の包含層が重層し、135線以西では同後葉の遺物が僅かに出土した。AMS法による放射性炭素年代測定では遺跡西端部が1740±40y.BPと報告された(北埋調報193)。

平成13・14年度着手範囲および報告範囲内の平成11年度着手部分をあわせて記録類・出土品を整理し、年度末に報告書『対雁2遺跡(4)』(北埋調報193)を刊行した。

整理作業では平成13・14年度調査の記録類・遺物の整理を実施したほか、平成11・12年度に調査した「土器集中1」の出土遺物の破片接合・石膏復元・実測・写真撮影等を進めた。

(5) 平成15(2003)年度

調査は東西110m(127～149線)×南北20m(67～71線)の2,200㎡を対象とした(図1-3)。

133線以西からは、遺構・遺物の検出がほとんど見られなかった。133線以東からは、西に傾きながら遺構・遺物の検出があった。遺構は土坑13基、焼土187ヶ所、集石5ヶ所などが検出された。特に焼土では、集石炉と考えられる土坑状の浅い円形の窪みに多量の焼けた礫が検出されたものが、当遺跡で初めて確認された。遺物は土器等1,422点、石器等12,622点、計14,044点が出土した。時期は縄文晩期後葉～縄文前葉にあたり、縄文前葉のものが多数を占める。AMS法による放射性炭素年代測定では補正年代で2030～2570y.BPと報告された(北埋調報204)。

前年までの調査結果から、今年度調査範囲付近では標高7.0mまでの深度で遺構・遺物の検出があると考えられていたが、139～145線間で標高6.0m付近まで落ち込む焼土を検出した。そのため標高7.0m以下については次年度に再度確認調査を行うこととした。

平成15年度着手範囲および報告範囲内の平成11年度着手部分をあわせて記録類・出土品を整理し、年度末に報告書『対雁2遺跡(5)』(北埋調報204)を刊行した。

整理作業では、平成11・12年度に調査を行った「土器集中1」から出土した遺物の破片接合・石膏復元・実測・写真撮影等を進めている。

(6) 平成16(2004)年度

遺跡西側1,700㎡(南北67～71線間、東西110～127線間)と東側1,850㎡(南北71～73線間、東西127～163線間)の合計3,550㎡の調査を行った(図I-3)。東側1,850㎡は、これまでの調査から掘削深度が標高6m以下になることが判明している。そのため下層部は次年度に調査することとし、合わせて報告することとした。

西側からは焼土17ヵ所、土器8点・石器等17点の遺物が検出されている。時期は遺構・遺物からは不明であるが、これまでの調査の結果から縄文文化期と考えられる。AMS法による放射性炭素年代測定では補正年代で1640～1895±25y.BPと報告されている。

東側は、手掘りによる調査を行った。129～146線間は標高7.0m、146～152線間は標高6.5mまで、152～157線間は土層に沿った面で今年度の調査を終了し、養生を行って次年度の調査に備えた。土坑14基、焼土162ヵ所、集石5ヵ所などの遺構、土器9,642点、石器等21,221点が検出された。時期は縄文晩期後葉～縄文文化期前葉と考えられる。

平成16年度着手報告範囲の記録類・出土品を整理し、年度末に報告書『対雁2遺跡(6)』(北埋調報215)を刊行した。

整理作業では、平成11・12年度に調査を行った「土器集中1」から出土した遺物の破片接合・石膏復元・実測・写真撮影等を進めた。

(7) 平成17(2005)年度

南北71～73線間、東西110～175線間の3,250㎡および南北73～75線間、東西151～157線間の400㎡、合計3,650㎡の調査を行った(図I-3)。南北73～75線間、東西151～157線間の400㎡は、これまでの調査から掘削深度が標高6.0m以下になることが判明している。そのため、下層部は次年度に調査することとし、合わせて報告することとした。

南北71～73線間、東西110～175線間の調査は、重機による遺構確認と手掘りを併用して行った。110～149線間および158～175線間は標高7.0m、149～153線間は標高6.5m、153～158線間は標高6.0mまで調査を行った。平成11・16年度に検出された分を含めると、土坑45基、焼土324ヵ所、集石12ヵ所などの遺構、土器・土製品20,908点、石器等24,493点、合計45,401点が検出された。時期は、縄文晩期後葉～縄文文化期前葉と考えられる。遺構では、土坑上面に被熱した礫が集積されたものや土坑内で多量のクルミを焼いたものが検出されている。

南北73～75線間、東西151～157線間の400㎡は、焼土123ヵ所、集石4ヵ所などの遺構、土器7,487点、石器等5,095点、合計12,582点が検出された。土層に沿った面で今年度の調査を終了し、越冬養生を行って次年度の調査に備えた。

整理作業では、平成11・12年度に調査を行った「土器集中1」から出土した遺物の破片接合・石膏復元・実測・写真撮影等を進めている。

4 本書の内容

本書では、平成17年度調査の範囲3,650㎡のうち北側の部分3,250㎡（南北71～73線間、東西110～175線間）について、平成11・16・17年度に検出した遺構と土器・石器等の遺物、自然科学的分析について報告する。

I章では、調査に至る経緯とこれまでの調査の経過について説明する。II章では、当遺跡の調査の工程を概説、調査方法と遺物や図面・写真などの記録類の取り扱いについて説明する。III章では、遺跡の位置・立地とその環境、周囲の遺跡について触れる。IV章では、遺構と遺構出土の遺物についての報告を行う。V章では、遺物の報告を行う。VI章では、AMS法による放射性炭素年代測定の結果を、分析者の原稿で報告する。VII章では、V群土器についての考察および放射性炭素年代測定結果について今年度分の成果を述べる。

写真図版では、今年度の現地調査における調査風景や土層・各遺構の状況、出土した遺物を掲載する。堆積状況や土色の状況を報告するために、土層や一部の遺構の状況はカラー写真図版で掲載している。
(酒井)

II 調査の方法

1 調査範囲

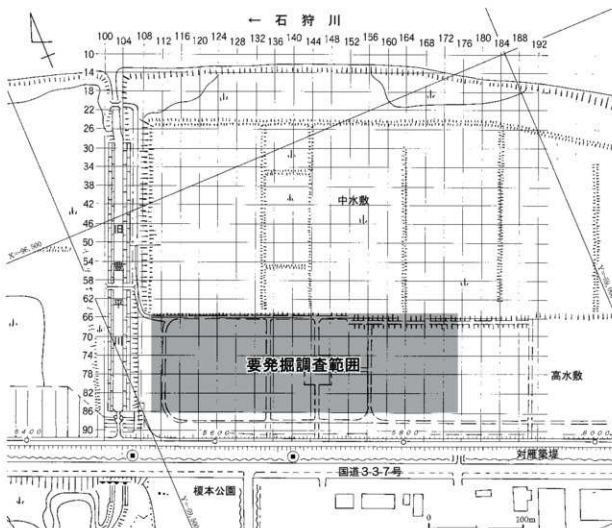
(1) 発掘区の設定

a 方格組みおよび経緯度と座標

発掘必要区域は人為的に整備された河川敷であり、石狩川築堤と平行に約100mの幅を有する高水敷に延長200mの範囲、約20,000㎡とされていたので、発掘区の設定は以下のように行った。

まず、この区域に築堤に平行・直交する5m間隔の方格を組み、それぞれの区画線に数字を与えた(図II-1)。将来的に全方向に調査範囲が拡大する可能性を考慮し、発掘必要区域の北辺を66線、南辺を86線、また西辺を135線、東辺を175線とした。なお、平成11・12年度の発掘調査および再試掘調査により要発掘調査範囲が北辺65線、南辺86線、西辺110線、東辺175線に拡大している(図II-2)。

5m発掘区(グリッド)の呼称は、方眼の北西角で交差する区画線を読む。発掘調査区域の北西角



図II-1 発掘区の設定(1)

1 調査範囲

であれば65-110区となる。さらにこの5m方眼を2.5m四方に分割して、反時計回りに北西角からア・イ・ウ・エと呼ぶ小発掘区（小グリッド）を設置し、調査の便を図った（図Ⅱ-2）。なお、平成13年度までは小グリッドをa・b・c・dとしていたが平成14年度より上記のように変更した。

平成11年度の調査着手に当たって、株式会社シン技術コンサルに委託して20m間隔の基準杭設置をおこなった。方眼設定の原点として石狩川左岸「対雁築堤」の基準線上のポイントを使用することとし、点間200mのSP5800・SP5600を測定した。SP5800からN-23°-Eに31.5mで調査範囲南辺、ここから南辺を1m東行した点を86-166の交点とした。同様にSP5600から振り出した点を確認修正点（86-126の交点）とした（図Ⅱ-2）。これを基本杭として20m方眼と範囲四隅に基準杭の打設を発注し、座標値と標高を得た。調査に必要な5m方格杭は、その都度自ら打設することとした。

上記方格の緯経度および平面直角座標（平面直角座標系第Ⅱ系）は、図Ⅱ-2中の2点A・Bで

A 66-135：北緯43度07分39.04498秒、東経141度31分14.22068秒

$$X = -96,658.037\text{m}, Y = -59,338.484\text{m}$$

B 86-175：北緯43度07分33.56540秒、東経141度31分20.69623秒

$$X = -96,828.373\text{m}, Y = -59,193.614\text{m}$$

である。この緯度・経度、平面直角座標は「日本測地系」に基づいたものである（図Ⅱ-1）。

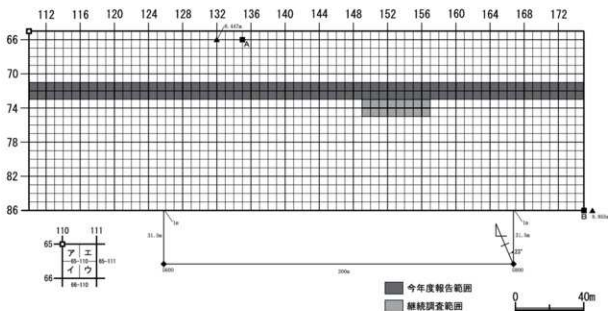
測量法とそれに伴う測量法施行令・平面直角座標系の改正が平成14年4月1日から施行され、従来の「日本測地系」に基づいた座標は「世界測地系」に基づいた「日本測地系2000」の座標に変更された。これに伴い上記の2点は下記のとおりに変更となった。

A 66-135：北緯43度07分47.83948秒、東経141度31分00.87826秒

$$X = -96,394.6809\text{m}, Y = -59,644.8276\text{m}$$

B 86-175：北緯43度07分42.36072秒、東経141度31分07.35343秒

$$X = -96,565.0169\text{m}, Y = -59,499.9618\text{m}$$



図Ⅱ-2 発掘区の設定(2)

b 水準点

I章で述べたとおり平成12年度の範囲確認調査の結果、発掘必要範囲が西側へ拡大した。この範囲に発掘が及ぶこととなった平成14年度、新規範囲の基準杭打設が再びシン技術コンサルに委託された。この際設置された基準杭の標高が平成11年設置杭から観測した結果よりほぼ10cm高くなるのが発掘開始後間もなく判明した。これは言うまでもなく「2000年度平均成果」による平成14年度の水準成果改訂を考慮した上での不一致である。平成11年設置杭間の比高にほとんど変化がないことから凍上等の影響はほぼ無視できる模様であった。

発掘終了後に取りまとめたシン技術コンサルによる再測量報告では、両年度の水準点とした一等水準点No.8551と基準杭86-176（距離約4km）の比高は2次の測量の間に0.098m減少しており、水準点自体がこの間に下降したもの、詳しくは平成11年当時水準点の真の標高は公共水準成果より0.035m高く、平成14年観測時のそれは0.063m低いものと結論された。この結論自体なお議論の余地があると思われるが、両年度の測量結果が整合しない以上、平成14年度の観測値に平成11年当時の成果を代入した標高による現場での記録に意味がないことはほぼ明らかである。そのため、平成14年度では平成11年度設置の

基準杭86-176の標高8.855m

が真であり、なおかつ経年変化がないと仮定してこの標高を使用した。このことを踏まえ、平成17年度においてもこの標高を使用している。

(2) 今年度報告の調査範囲

今年度は北辺71線・南辺73線・西辺110線・東辺175線の3,250㎡と北辺73線・南辺75線・東辺151線・西辺157線の400㎡が調査範囲であるが、後者は次年度継続調査のため、前者のみを報告範囲とする（図II-2）。また、北辺69線・南辺71線・西辺155線・東辺157線の部分について再調査を行い、報告する。

2 土工

(1) 掘削

西側の調査区である今年度調査範囲の調査を行なう前に重機を用いて、127線以西の表土剥ぎ、平成11年度調査トレンチ埋め戻し土の除去、平成12～15年度調査範囲との境界線である71線の壁面養生の除去を行い、人手で平成16年度調査の包含層養生の除去を行った。その後、113・117・121・125・129・133・137・141・145・149・161・165・169ラインに25%調査を兼ねた幅5mの南北方向トレンチを手掘りによって行い、遺構・遺物の密度を判断した（図II-3、図版II-2）。掘削深度はこれまでの調査結果から標高7.0mまでとした。その結果、手掘り区域・重機による遺構確認区域に分けて調査を行なうこととした（図II-3）。土層観察のためのベルトを東西方向73線、南北方向113・117・121・125・129・133・137・141・145・149・159・161・165・169線に設定した。これまで同様、土層は東西方向では西側に向かって落ち込んでいき、南北方向ではほぼ水平に近いことが確認されている。

人力掘削作業は主に移植ゴテ・ねじり鎌を使用して行った。遺構・遺物の検出状況に応じて竹へらや竹串を使用し、遺構・遺物を傷つけないように掘削を行った。精査・清掃の際には前記のほかにはロボウキ・ブラシ等を用いた。また、移植ゴテでは掘ることが困難な場所や遺構・遺物の見られない範囲、周回道路路盤や攪乱坑等ではスコップやツルハシ等を併用した。

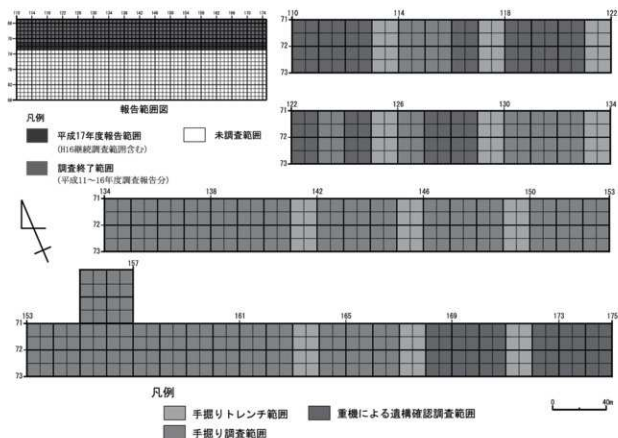
遺跡の上層部分は粘質土層であるため、乾燥すると非常に固く、塊状となり移植ゴテ等で細かく掘

削ることが困難となる。そのため、適度にじょうろや噴霧器を用いて散水を行い、日々の調査終了時にはブルーシートをかけるなど乾燥しないような配慮を行って調査を進めた。また、調査の進行により深度が深くなるため、壁面の保護には気を使った。上層部は粘土質で乾裂のため壁面が崩落する危険性がある。そのため、常にブルーシートをかけて乾燥を防ぎ、一方で砂の多い下層部の崩壊を防ぐため壁面の上下に排水溝を設けて雨水を避けた。さらに遺跡の下層部分では地層が西側に傾斜し、きつい体勢での作業を強いられると共に、水を含むと滑りやすく天候により危険をともなった。そのため、排土道や通路に歩み板や麻袋を敷いて事故の防止に努めた。

(2) 越冬養生

遺跡は冬季には土壌の凍結・融解に曝されるため、発掘終了時には未発掘部分との境界に生じた壁面の養生に留意した。73・75・110・151・157・175線の壁面では土砂で覆って法面とした。この上からブルーシートをかけて雨水や雪を防ぎ、水分の浸透による壁面の崩落や土砂の流出がおきないようにした。151線以東の調査途中の包含層は、ブルーシートをかけた後、土砂で覆って雨水や雪・凍上を防ぐようにした(図版Ⅱ-2)。

また、遺跡内には杭や窪み・段差などが多くあり危険なため、遺跡範囲をトラロープで囲い、複数の看板により遺跡内への立入禁止を掲示した。進入道にはA字ゲートを置き、遺跡への無断侵入による事故を未然に防ぐように努めた。



図Ⅱ-3 掘削状況

3 測量と記録

(1) 測量・図化

委託設置した基準杭をもとに5m方格の各交点に木杭を設置し、平面測量の基準とした。発掘範囲の高低差が大きいこともあり、光波測距機能のついた1秒単位デジタル表示のトランシットを用いた。平面測量はこの方格杭を基準として設けた簡易な水糸遣方からの手測りによった。

水準測量は自動レベルと1mm目盛のアルミスタッフを用いて方格杭に基準杭を与点とする標高を入れ、方格杭と対象の比高を直接観測、または簡易な水糸遣方と対象の比高を手測りして行った。

測量の成果は基本的に20分の1スケールの図として記録し、1mm方眼のB3・B4版セクションフィルムに鉛筆描きである。地層断面図、遺構等の平・断面図等を作成し、遺物出土状況等の詳細図を必要としたときは10分の1スケールとした。遺構図は原則1枚の図面に一つの遺構を記載した。図面には遺跡名・遺構名・グリッド名・取上面・スケール・日付・作成者等を記入した。

(2) 現場での撮影

a 撮影方法

発掘現場での撮影は、6×7サイズカメラをメインとし、35mm一眼レフカメラを補助的に用いた。同一カットを同じ条件(シャッタースピード・露出)で2コマ撮影し、それをもって1セットとした。

ほぼ全ての遺構を撮影した。遺物の出土状況なども各小グリッドの層位ごとに行い、進行状況の確認となる定点撮影も定期的に行った。撮影に際しては、各被写体の出土位置・取上面など必要な情報を入れることを考慮した。ブレ・ボケなどを防止する為に、全ての撮影は三脚・レリーズを用いて行った。

b 撮影機材

各年度によって、撮影機材・フィルムは以下のように変化している。

平成11年度：Mamiya RZ67PRO II (T-MAX100・E100S)、Nikon F3(E100S・GOLD100)

平成12年度：WISTA45VX(T-MAX100・E100S)、Nikon F3(E100S・GOLD100)

平成13～15年度：WISTA45VX(T-MAX100・E100VS)

平成16・17年度：Mamiya RZ67PRO II (T-MAX100・E100VS)

フィルムの使用頻度や収納スペースの観点から、平成13年度からは35mm一眼レフカメラでの撮影をやめ、全てを6×7サイズ(必要に応じて4×5サイズ)で行なうこととした。スライドなどで必要なカットは35mmサイズに縮小デュープしている。

フィルムは、遺跡が全体にくすんだ土色で、焼土や土坑の覆土などの色変化が再現しにくいため、平成13年度より発色性の強いものに替えた。

c 撮影データ

現場での撮影データは、撮影者が野帳にその都度記入した。平成13年度からはデジタルカメラで同一カットを撮影し、写真台帳のデジタル化を図った。

(3) 出土品の収集

a 掘り出し遺物

平成13年度以降は地区(小グリッド名)と層位所見(取上面)、取上日付の3者が基本的な収集情報となり、帰属遺構は層位所見の一種という扱いとなった。同時に、遺物は細分された各地層の内部から出土するのではなく、むしろ各層の境界に散布し、焼土などととも旧地表に沿った一連の面を形成していることが

3 測量と記録

ほぼ明らかとなった。そこで平成13年度調査からは発掘中に認識される遺構・遺物の平面的な連なりを「取上面」と呼び、これを層位上の単位として取り上げを行った。取上面には小発掘区ごとに通し番号をつけ、記録票を作成して取上日付・遺物の出土標高の範囲・当該面の遺構などを記録した(図Ⅱ-4)。

平成14年度からは取り上げた遺物に水洗に耐える軟質セラミック製図工素材の荷札に取上情報を記入して遺物とともに袋に入れていたが、取り扱いの不便さから平成15年度からは荷札を白無地のプラスチック樹脂製番号札に油性マジックで記入するように変更し、台帳化終了まで遺物に随伴するようにした。台帳化終了後は、油性マジック等用の落書き消しによって字を消去し再利用している。

なお、遺構内の遺物に詳細に番号をつけて取り上げ、遺構図中に作成したドットマップもしくは出土状況図にその取上番号や標高を記入したことがあるが、ごく少数の遺構に限られる。

取上面

現地調査の段階においては地層の正確な把握が困難であることから、小グリッド内の調査で同一

面とみられる遺構・遺物の検出面を「取上面」と称して、実務上の層位として遺構の記録・遺物収集を行っている。取上面には小グリッドごとに通し番号をつけ、○囲み数字で記載している。現場で使用した取上面記録票(図Ⅱ-4)には、取上面設定のたびに同一取上面の遺構と代表的な遺構・遺物の標高を記載した。当該小グリッドに隣接する周囲8方向の小グリッドにおける取上面の対応関係と、同面と見られる遺構についても確認できる限り記載し、後の生活面設定の一助とした。

必要に応じて現地調査の記録からそのまま転載した取上面を用いながら記載を進める。

b 土壌等

焼土の土壌に含まれる炭化物や、集中して投棄された小剥片などは、集中範囲の平面図を作成して標高を記入したうえ、土壌ごとポリ袋に採取し、その後の整理作業でフローテーションその他の方法により取り出している。小グリッドによる分割は行わず、連続した集中範囲の土壌を一括している。

4 資料整理

(1) 図面等

原図には図面番号を赤の油性サインペンで記入し、図面台帳の作成を行った。図面番号は「図1333～1559」を与えた。今報告における昨年度と今年度調査分は「図1114～1559」である。原図は取上面や遺構番号の確認、必要事項の記入・訂正などの作業を行った。訂正や変更があった場合は、その箇所が確認できるように原図に書き込んでいる。その後、原図から1mm方眼の方眼紙に鉛筆で2倍図版の版下図となる

平成17年度 対馬2遺跡		取上面記録票 遺構区				
取上面 番号	日付	レベル	遺物出土 範囲		同一取上面の遺構 に共通するポイント の標高	備考
			西	東		
			■	■		
			■	■		
			■	■		
			■	■		
			■	■		
			■	■		
			■	■		
			■	■		
			■	■		
			■	■		
			■	■		
			■	■		
			■	■		
			■	■		
			■	■		
			■	■		

図Ⅱ-4 取上面記録票

ことを考慮した素図を作成した。地図・作業工程図の一部等を除いて、素図をスキャナーで取り込んだのちパソコン上で描画ソフト(Illustrator 10.0.3・Illustrator CS)により加工し、デジタルデータで版下を作成している。

(2) 生活面

二次整理作業の中で、小グリッドごとに設定した取上面の対応関係を吟味し、遺構の共有関係や遺物の標高から一連の取上面とみなされるものをまとめて「生活面」と称して設定した。生活面は各年度の報告範囲内において各々設定する。

生活面は遺構・遺物に基づいて認定した単一旧地表面であるが、地層断面の検討によって認定しⅢ章で記載した層面とは必ずしも一致しない。そのため、層面の間に多数の生活面が存在することもあれば、全く存在しないこともある。しかし、断面上の遺構から層面と一致することが明確な場合もある。なお、表IV-2において生活面を構成する小グリッドごとの取上面と対応する層面を記載している。

生活面の編成にあたっては、複数の小グリッドにまたがる焼土・炭化物等と現場における小グリッド間の同一取上面の情報を重視した。焼土・炭化物等の検出面が上下に重なっている場合は、各々を別の生活面とした。遺物のみ検出した取上面が重なっている場合は、1つの生活面としてまとめた場合がある。また、小グリッド間の同一面の情報が無い場合においては、遺構・遺物の検出標高や層面を目安として生活面の広がりをつえている。これらの場合は層面をまたがないこと、他の小グリッドにおける取上面の順番と矛盾が起きないことを前提とした。しかし、土層の状況から生活面の設定が難しく、設定した生活面よりも新しくなる可能性がある。また、年度ごとに生活面を設定しているため、他年度に設定した生活面と前後する可能性がある。

生活面は西から1〜305面を設定した。生活面は面での広がりをとらえることを目的としているが、土層の状況、遺構・遺物の検出、出土状況により面としての広がりを捕らえることが難しい場合があった。そのため東西方向では小グリッドで2〜4区間ほどの広がりとして捉えられたものが多い。

今年度は調査範囲の東西方向で10mの幅で全域行なったことから遺跡の形成に関わるほぼ全時期の調査を行ったと考えられる。年代はこれまでの放射性炭素年代測定結果と今年度実施したもののから、補正年代で1640±25〜2890±40y.BPという測定値が出ている。これにより、遺跡の形成された時期がほぼ確認された。

(2) 出土品

a 掘り出し遺物

一次整理

掘り出された土器・石器等は、野外作業と平行して現地で水洗・乾燥・遺物台帳の作成・遺物カードの添付・注記作業を行った。水洗はボンドブラシや歯ブラシなどを使用して遺物に付着した土を洗い落とした。乾燥は新聞紙等を敷いた乾燥かごに遺物を入れて、屋外もしくは遺物乾燥小屋の室内で行った。室内では除湿機などを用いて乾燥を促した。土器片のうち固結の弱いものは乾燥後にアクリル樹脂溶液(パラロイドB72の7〜15%アセトン溶液)に浸して硬化させた場合がある。

水洗・乾燥の終了した遺物は、収集の単位ごとに遺物名と点数を決定したうえで遺物番号を与え、遺物台帳に登録した。随伴させていた取上情報を記載した番号札はコピーを取った上で遺物と分け、落書き消しを使用して文字を消去し、再利用している。

遺物台帳は、土器・土製品と石器等とに分けて作成している。B5判の様式を印刷して手作業で記

入し、小グリッド別に全遺物を登録した台帳を作成した。台帳には出土小グリッドのほか遺物番号・取上日・層位(取上面等)・遺物名・分類・材質(石器等に限定)・点数その他を記入した。遺構出土のものは、遺構名も記入した。台帳登録の終わった遺物は、台帳と同一の内容を記入した遺物カードとともに遺物番号ごとにチェック付ポリ袋に納めた。遺物カードは石器等と石器等で色を分け、石器は朱鷺色、石器等は白茶色とした。

注記は、土器片が微細なものを除く大多数、石器等が微細なもの・調整を全面的に行っているものを除いて行った。注記できなかった遺物は遺物番号ごとにポリ袋に納め、注記済みのものと同封した。注記内容は、遺跡名の略号「T2」、出土小グリッド、遺物番号で、遺構出土のものは遺構名も記入した。平成11・12年度には層位も記入している。

二次整理

一次整理の終了した遺物を埋蔵文化財センターに搬入し、分類・材質の確認、注記・接合などを行った。採用した分類の体系、図化・撮影対象の選択等についてはV章で述べる。

遺物の整理と平行して遺物台帳の修正を進めた。その完了後、平成11年トレンチのうち本年度報告の範囲と今年度の遺物についてパソコン上で表ソフト(Excel 2000)により小グリッド別の台帳を作成した。また、地層断面図・遺構図の整理に平行して現場で記録した小グリッドごとの取上面を相互に対比し、同一の生活面に属する遺構・遺物を確定する作業を進めた。帰属する生活面を特定できた遺物は、パソコン上の遺物台帳にその情報を入力した上で集計作業を行って遺物集計表を作成した。

整理終了後、原則として各遺物と遺物カードを同封したチェック付ポリ袋に戻し、遺物名・分類ごとに遺物番号順に整頓し、プラスチックコンテナに収納した。

b 土壌

現場で採取した炭化物や骨片に富む土壌のうち、前項で触れたように小剥片の集中など洗い出して掘り出し遺物の整理に加えたものもある。その大部分は平成13年度から発掘事務所脇の屋外に専用の装置(いわゆるPROJECT SEEDS MODEL TYPE-1、椿板1989b・上屋1990)を設置してフローテーション(浮遊選別)処理し、掘り出し遺物とは別の系列で整理を進めている。

土壌の乾燥は主に強風の日を選んで屋外で行い、適宜攪拌や直射日光に曝したことがある。土壌重量が概ね採取時の8割未満になった時点でフローテーション処理し、浮遊物は2.000mmおよび0.425mm、残渣は1.410mm目篩(椿板1989a)により回収した。回収物は火気と化石燃料由来の汚染を忌むので、屋外やオイルヒーター等で暖房した屋内で風乾させた。その後、現場および埋蔵文化財センターの室内で適宜ルーペ・実体顕微鏡等を用いながら遺物・炭化物等を選別した。

本書で報告する調査範囲の土壌は、すべて平成

対象の遺跡 土壌水洗等処理票		処理番号	
採取(記入者)			
採取日付	掘出日付		
採取地			
第三層(遺構名等)	質	採取時重量(0.1kg単位)	kg
備考			
採取(記入者)		処理終了日付	
処理開始日付			
処理重量 (kg単位)	kg		
処理方法	・フローテーション	・水乾選別(専用マシン)	
備考			
回収(記入者)			
回収日付	内装	浮遊物	・粒径0.425
備考			
浮遊物選別(記入者)			
掘出日付			
採取重量	2.000	0.425mm	合計
炭化物	点	点	点
骨片	点	点	点
種子	点	点	点
骨	点	点	点
炭化物	点	点	点
備考			
処理後(目録別)残渣選別(記入者)			
掘出日付			
採取重量	残 渣		合計(浮遊物+残渣)
炭化物	点	点	点
骨片	点	点	点
種子	点	点	点
骨	点	点	点
炭化物	点	点	点
土製品	点	点	点
石物	点	点	点
骨	点	点	点
炭化物	点	点	点
骨	点	点	点
備考			

図II-5 土壌水洗等処理票

17年度までに一次処理を終え遺物の選別に入っているが、選別された自然遺物の同定は未着手である。本書ではIV章で処理した土壌と、選別された遺物の量について記載し、土壌の採取された遺構の性格を判断する材料としたとどまる。なお、選別した炭化物の一部を年代測定に供しており、その結果を本書VI章に収録している。

フローテーション成果

遺構土壌のフローテーション成果を表IV-3に掲載している。現地で採取した土壌は年度ごとに通し番号(例 処理番号17-1)を付け、上記に記載の要領により処理した。調査の順に応じて同一遺構・層位の土壌が複数の処理番号に分かれた場合があるが、表ではそれらを合わせて示した。表IV-3は今年度報告範囲内のフローテーション成果のみを掲載しているため、継続調査範囲内から採取した土壌については掲載していない。そのため、処理番号が抜けているものがある。

フローテーション成果は土壌水洗等処理票(図II-5)を用いて記載した。試料の量を示す意味で処理前土壌の風乾重量を記した。また、処理後の選別対象の量を示す意味で浮遊物・残渣の重量を示した。浮遊物のうち0.425mm目篩の遺物は可能な限り草の根などの混入物を除去したもの、2.0mm目篩の遺物は混入物を除いたものの重量を記入している。土壌の風乾重量と比較しての炭化物の多寡を知ることができる。炭化物から選別された種子の同定・定量等は未実施であり、後年度に報告する予定である。

炭化物・骨・土器・石器等の重量は0.1g単位デジタル表示の電子天秤で量った。0.0gと表示しているのは微量ながらも選別されたことを示し、選別されなかった場合は「なし」と記入している。石器類の重量は石材の別、打製石器・磨製石器の別を問わない総量で、黒曜石の重量はその内数である。これらの数値は残渣重量と比較して、炭化物以外の微細遺物の多少を知ることができる。骨の種・部位等の同定も未実施であり、後年度に報告する予定である。ベンガラとしたのは赤みの強い鉱物質の粒であるが、真正のベンガラであるかどうか検討したわけではない。(酒井)

(3) 写真

a スタジオ撮影

撮影方法

光量の安定性、色再現の忠実性などの理由からストロボを用いて撮影を行っている。

土器片や石器などは、トヨ無影撮影台を使用し俯瞰撮影を行った。その際、遺物は発砲スチロールや脱脂粘土などで傾きを調整した。復元土器は、撮影台に白い背景紙を垂らして立面撮りを行なった。復元土器の撮影においては、特に立体感を表現することに留意して行なった。また、実測図では表現出来ない質感を出すようなライティングを心掛けた。立面撮影全般に、普段我々がものを見る時の自然な角度内での撮影を心掛け、写真を見る者に不自然感を与えない構図を目指した。

現場での撮影と同様に、同じ条件(ライティング・シャッタースピード・露出)で2コマ撮影し、それをもって1セットとした。

撮影機材

ストロボ機材は、2400W/Sのジェネレーター(コメットCB-2400a)を2~3台、発光部(CL25H)を2~4灯、ディフューザーフィルムを使用した。

カメラは、トヨビュー45GXに6×7用フィルムホルダーを付けて用い、フィルムはコダックのE100G(カラーリバーサル)とT-MAX100(モノクロ)を使用した。

4 資料整理

b 現像

ペーパー現像

モノクロ写真の焼き付けは、自動現像機(ILFORD ILFOLAB MG2950)での自家処理となっている。写真図版用の焼付けや密着焼きを行なっている。この機械は、印画紙を露光した後流し込むと、約1分で乾燥まで仕上げ出てくる。これはほぼ一定の条件での現像となるため、露光時間の増減による仕上がりの予想がしやすい。(菊池)

c 保管・管理

写真台帳

写真台帳はパソコンに入力しデジタルデータ化して管理している。平成13年度からは、現場で同一カットをデジタルカメラでも撮影し、その画像を貼り付けた台帳を作成している。前年度までのものは、フィルムスキャンで画像を取り込み貼り付けている。

平成14年度からは、文字データファイルに画像データを貼り付けていたのから、画像データを別フォルダーにJPEG形式で保存したものと、文字データファイルの画像領域をリンクさせる形式に移行した。これによりデータ量の圧縮と作業スピードの高速化が図られた。写真台帳をデジタルデータ化し管理することにより、写真の検索が瞬時に行なえる。また、画像を画面上で確認出来るため、不必要にオリジナルのフィルムに触れる機会が減少し、フィルムの劣化・破損などを防ぐことが出来る。

フィルム

アルバムは、コスモスプリントファイルを用いている。フィルムには1コマずつ番号をつけ、フィルム種類ごとの連番で管理している。

フィルムに触れる時は必ず手袋を着用し、油分からの変色・劣化やカビの発生を防いでいる。また、同一条件で撮影した2コマのうち1コマはオリジナルフィルムとして使用せず、長期保存に耐えるようにしている。使用頻度や貸し出し依頼の多いカットに関しては、デュープを作成し対応している。アルバムは全ての調査・整理作業が終了した後、定温・定湿に保たれた特別収蔵庫に保管される。

フォトCD

カラーフィルムの劣化・退色に対応すべく、報告書に使用したカットについては、フォトCDに焼き付けている。フォトCDは外注しており、主にブローニーサイズのカラーリバーサルフィルムからの焼き付けとなっている。E6処理されたリバーサルフィルムの耐久性について確実なデータがない現状においては、フォトCDに焼き付けて色情報をデジタルデータとして保存するのが最良と思われる。

5 保管

今回の報告に関する図面等・写真・出土遺物は2006年3月現在、道立北海道埋蔵文化財センターで保管している。図面等は全てA2版図面ファイルに調査年度・北理調報番号・遺跡名をつけて収納している。写真アルバムは全ての調査・整理作業が終了した後、定温・定湿に保たれた特別収蔵庫に保管される。出土遺物に関しては、土器片や石器等・フローテーション成果等はコンテナに収納する。コンテナには調査年度・北理調報番号・遺跡名・遺物名・分類・収納番号を記したラベルを貼り、収蔵庫に保管し、今後の活用に備えた。(酒井)

Ⅲ 遺跡の環境

1 位置

対雁2遺跡は北海道島中央部の西寄り、日本海に面する石狩平野を流れる石狩川の下流域に位置する。石狩川の河口より約33km離れた左岸の、世田豊平川(旧豊平川)との合流地点の東側に遺跡は所在している(図Ⅰ-1)。地表面は標高8.4~8.7mであり、現在は対雁堤防によって区切られて、石狩川の河川敷緑地高水敷となっている。

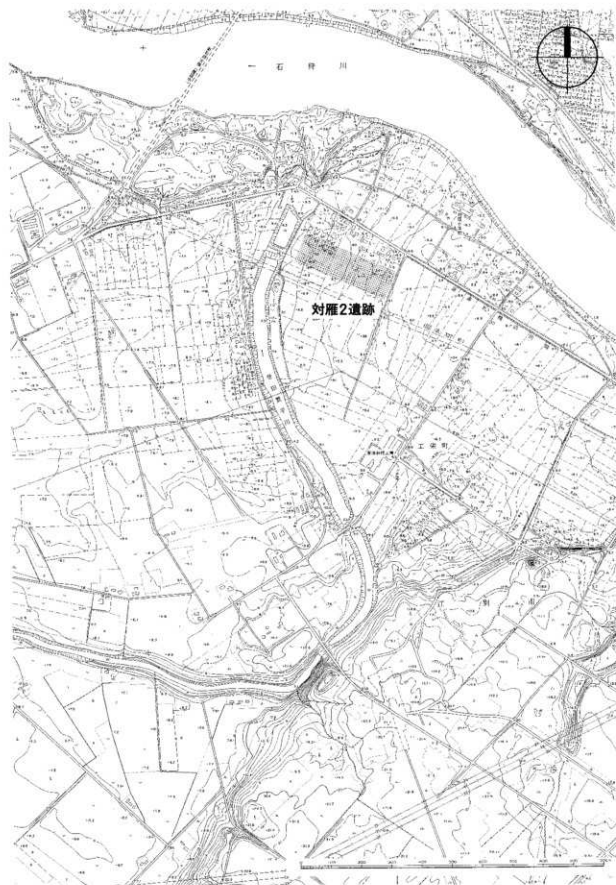
遺跡は江別市工栄町28番地地先(石狩川河川敷緑地内)に所在する。遺跡の名称は1992(平成4)年に埋蔵文化財包蔵地として周知され、縄文時代晩期・統縄文文化期の遺物包含地である「対雁遺跡」との混同を避けるため「2」という番号をつけて命名された。

「ツイシカリ」は言うまでもなくアイヌ語地名であって、語頭のツは「もとの」「もうひとつの」といった意味をもつアイヌ語 *tu* であろうとみられている(榎原1998)。しかし、「もとのイシカリ」という地名の意味するところは、いまひとつ明らかでない。この問題を含め、遺跡の人文的な環境については、すでに刊行した報告書で再三紹介してきたところであるので、参照いただければ幸いである(北埋調報147・160・177)。

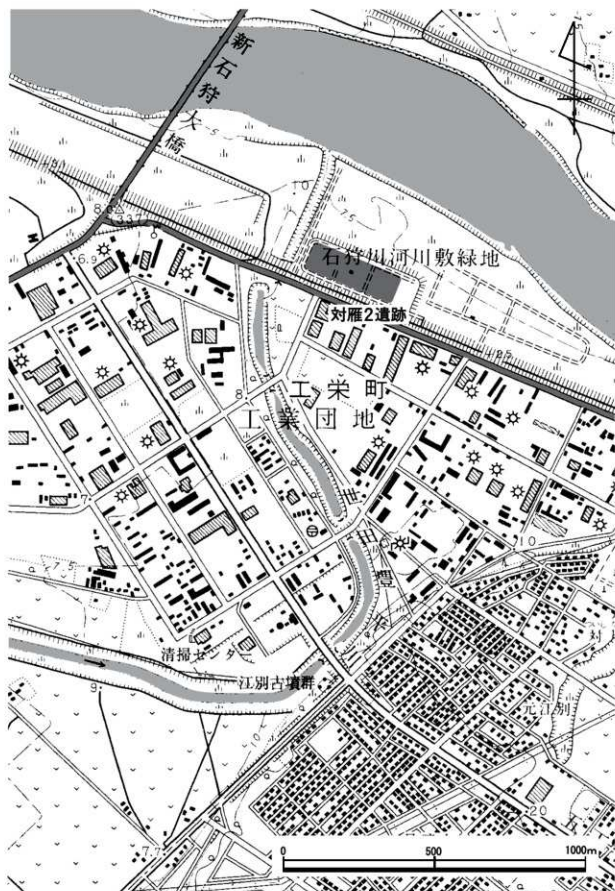
2 地形

遺跡は石狩川下流域に発達した沖積低地の中にあり、石狩川やその支流の洪水が及ぶ氾濫原にある。石狩川開発建設部の治水地形分類(石建編1979)ではこれを自然堤防としている(図Ⅲ-3)。旧豊平川河道に沿って形成されていることや、これまでの遺跡の調査から見ても賛同できるものである。また、遺跡の古環境を知る目的で行われた自然科学分析の結果からも、河川敷内の洪水堆積による地形であることが報告されている(北埋調報177・193)。その堆積状況から見て、世田豊平川が豊平川の主流であった頃にその営力によって形成された地形であると考えられる。ただし、記録で確認できる限り遺跡周辺において、これまでに洪水によって水位が標高8mを大きく超えたことはない(北埋調報147・177)。また、遺跡周囲に位置する同時期の札幌市H37遺跡やH317遺跡では標高3~5m、江別市江別太遺跡においては標高-1mに遺跡が形成されており当時の水位が高かったとは考えられない。このことからすると、この地形は近世以降とは異なる環境下で形成された古地形であると考えられる(北埋調報193)。また、現地の調査から平面的には北東-南西方向のグリッドラインよりもやや東側に振れる角度で層面が確認されており、当時の地形がこの方向で形成されていたと推測される。

図Ⅲ-1・2は、同一位置における12500分の1の遺跡周辺の地形図である。図Ⅲ-1は、石狩川の改修工事が行われる前の1967・1972年に撮影された航空写真をもとに、1999年に作成したものである。当時の遺跡は、旧豊平川に沿った標高8.7~9.4mの細長い島状の微高地の一部にあり、遺跡から北東に400mほどで標高差約8mの侵食崖となり、石狩川左岸へ到達していた。図Ⅲ-2は、1997年に国土地理院が発行した25000分の1地形図を基にしたものである。標高8.4~8.7mの堤防敷地内で、遺跡から北東に200mほどで石狩川左岸へ到達する。遺跡範囲は河川敷地内の高水敷にあり、北側は標高



図Ⅲ-1 遺跡付近の地形（河川改修前）（1966・1971年撮影の空中写真より1998年8月に作成した地形図）



図Ⅲ-2 遺跡付近の地形（河川改修後）（平成14年国土地理院発行の25000分の1地形図「江別」より抜粋）

2 地形

差3mほどの法面となって中水敷となる。この2つの地図からは、遺跡周辺の地形の変化が見て取れる。この間に行われた石狩川の改修工事により、左岸は大きく削られ直線化が図られている。遺跡は上層部分を0.3~1.0mほど、遺跡範囲の北側を削平されていると考えられる。平成13・14年度調査結果では、法面によって削平された土壌が検出されるなど、遺跡の北側についても包含層が続いていたことが明らかとなった。

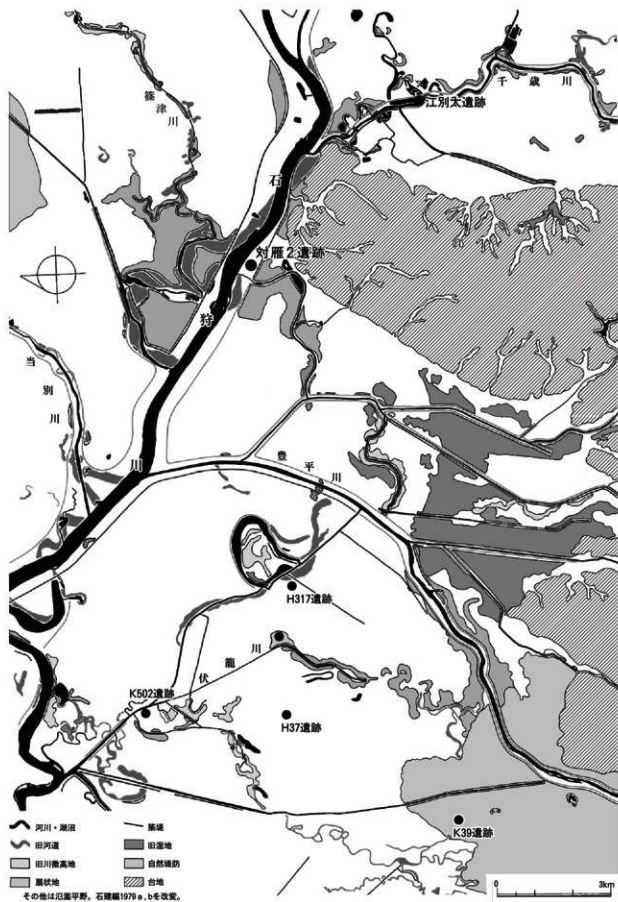
次節以降で述べるとおり、当財団の発掘調査によって、補正年代で約1600~2900y.BPの間に、この場所で標高8mおそらくは9m以上まで頻繁に水成層・風成層が形成され、その堆積の間を縫って焚火などの人間活動がおこなわれたことが明らかになった。水域と陸域とが目まぐるしく交替する様子は、自然堤防が形成される状況を示していると思われる。ただし、現代の河川敷整備で微高地の頂部が削平されているので、すべてがこの時期の所産であるとは言い切れない。自然堤防の発達の時期が判明した一例としてよいのではないかと思われる。

3 地層

今年度の土層については、概ね平成14年度に示された方法を踏襲し、層面を認定することにより分層を行うこととした。当時指摘したとおり「対雁2遺跡の遺構・遺物は地中において全く不規則に存在するのではなく、一定の面をなして出土する傾向がある。これが概ね旧地表面であること、そこに生活の痕跡が残された後で堆積が進み、新たな地表面を形成することによって遺構・遺物の墨重が起るらしく、上下の生活面を隔てる堆積物は例外なく遺物に乏しい。したがって、人為的に盛られたものでないことなどは見当が付いていたので、この間欠的な自然堆積の休止を地層断面上で特定し、それぞれの休止に対応する遺構・遺物を明らかにする」(北埋調報193)ことを目標として地層の観察を行った。Ⅲ-4~6は、東西方向110~175線間の73線における南西側壁面の図を示したものである。Ⅲ-7・8は、南北方向71~73線間の113・117・121・125・129・133・137・141・145・149・159・163・167・171線における南東側壁面の図を示したものである。東西方向の図は、現地では北東側より作図しており、これまで報告されてきた図との整合性を持たせるため、反転して掲載している。そのため、土層図は口絵および写真図版の土層写真とは左右が反転している。

対雁2遺跡の地層の最上部は、外見上では概ね堆積構造のわからない灰黄褐色~暗黄褐色の粘土質のシルトで構成されている。堆積環境・古環境の分析結果から氾濫堆積物と考えられるが、周辺から風成塵としてシルトの供給がされた可能性が指摘されている。この部分は、草草根等によると見られる攪乱も多く見られ、堆積構造がわからなくなっている一因となっている。地層の深度が増すにつれて、堆積物の粒度が増して灰褐色~黒褐色の砂を含むようになり、堆積構造が肉眼で観察できるようになる。主に灰黄茶褐色、灰白色や青灰色のシルト質粘土もしくは粘土と灰褐色~黒褐色の細粒~微細粒砂の互層となって観察される。概ね土層上位においてはシルト質粘土もしくは粘土が主となり、下位においては細粒~微細粒砂が主となる。これらは、概ね流水の影響を受けて堆積した氾濫堆積物であると考えられる(北埋調報215)。現地表からの深さが約1.0mほどになると、北東方向の走行と北西方向への傾斜が顕著に観察できるようになる。遺跡東側の調査深度内では、ほぼ外見上では概ね堆積構造のわからない灰黄褐色~暗黄褐色の粘土質のシルトで構成されている。

土層は、概ね東西方向は北西方向への緩やかな傾斜を示す堆積休止面と、それを切るきつい傾斜を示す侵食面が繰り返して現れる層面を示す(Ⅲ-4~6)。南北方向が極緩やかに北東方向へ傾斜しているもの



図III-3 治水地形分類と遺跡の位置

の、ほぼ平行した層面を示す(図Ⅲ-7・8)。層面の多くは土層の東側や上位では不明瞭となり、層面を示すことはできなかった。土層は非常に多く観察されるため、すべての侵食面・堆積休止面について分層することは不可能であった。そのため、大きな侵食面についてはできるだけ記録することとし、堆積休止面については代表的なものを現場における観察において選び出して分層することとした。

図では侵食面を赤線で示し、層面の名称を赤字によって「1a」の様に数字の後に小文字のアルファベットによって表記した。侵食面から続く堆積休止面は青線で示し、青字によって「1b」の様に連続する侵食面と同じ数字の後にアルファベットにより表記した。侵食面との等時性を確認できない堆積休止面は緑線で示し、緑字によって「1.1」の様に直上位の侵食面の数字の後に小数点で上位から名称を表記した。今年度はすべてで216面について命名を行った。侵食・堆積休止の両面において層面の連続が確認できなかった場合には、その位置から破線で示している。なお、表土・攪乱・周回道路・暗渠・B調査坑は、その範囲を薄いアミをかけて示した。上下に稲妻状に続く濃いアミは、噴砂脈を示す。

表Ⅲ-1では、命名した層面について記載した。断面上において層面にかかる遺構、平成14～16年度に設定した層面・生活面との関連を明記する。例えば、層面14-5bであれば平成14年度報告の5b面、生活面16-18であれば平成16年度報告の18面、ということである。層面下の細粒堆積物についても記載した。細粒堆積物は灰黄茶褐色、灰白色のシルト質粘土もしくは粘土である。還元が顕著な場合は青灰色の土色を呈する。その他、気付いたことを所見に記載している。

噴砂脈については、現地調査においてはほぼ南北方向の走行であること、上端を1層に切られて終わっているものが多いことが確認されている(図版Ⅱ-3)。中～極粗粒砂に細礫が混入する。幅は1～3cm程のものが多いが、10cm程のものも見受けられる。また、中には段差数cm程度の断層が確認されるものがあり、西側が低くなっている(口絵・図版Ⅲ-3)。これらの噴砂脈は、続縄文以降に起きた大きな地震による液状化現象で生じたものであろうと考えられている。噴砂脈については、平成14年度の報告(北埋調報193)に詳しいので、そちらを参照されたい。

図版Ⅲ-1・2では東西方向、図版Ⅲ-3では南北方向の一部をカラー写真図版で掲載している。土色・土質は上記のような様相を呈するが、土層の状況とともに堆積状況を確認する際に参照されたい。(酒井)

表Ⅲ-1 層面一覧

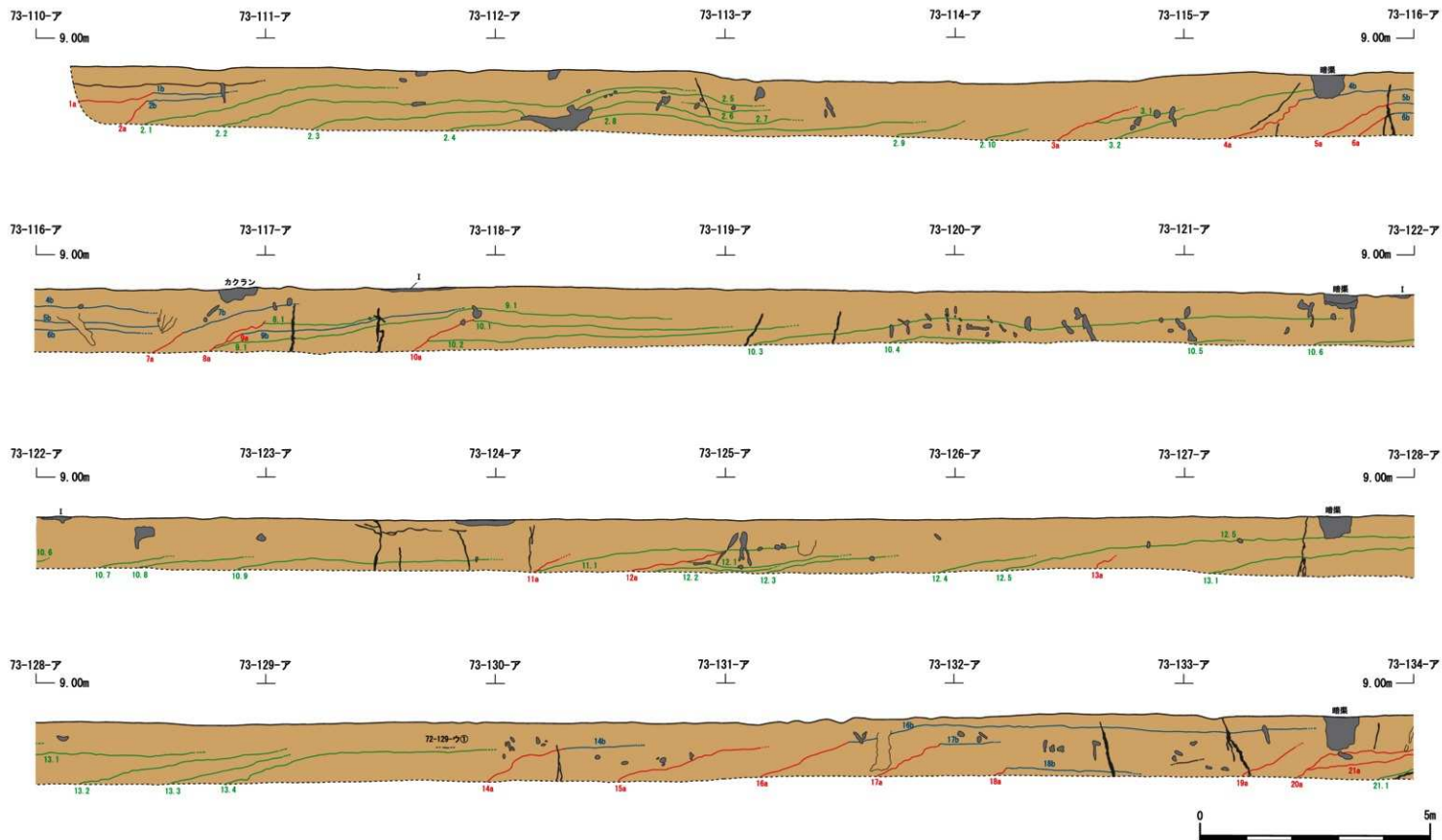
平成17年度		断面上の遺構	平成14～16年度		面下の細粒堆積物 (シルト質粘土・粘土)	所 見
73線上的名称	生活面		名 称 () 内は推定	生活面		
1a+1b					b下に厚さ～1cm	
2a+2b					b下に厚さ～1cm	
2.1					厚さ～8cm	
2.2					厚さ～1cm	
2.3					厚さ～1cm	東側は本掘の復旧により不明
2.4					厚さ～1cm	
2.5			16-4.1		厚さ～0.5cm、還元顕著	
2.6			14-5b	16-8 16-5b	厚さ～0.5cm、青灰色粘土ブロック含む	
2.7	2		16-5.1	16-10	厚さ～1cm、還元顕著	
2.8					厚さ～0.5cm、青灰色粘土ブロック含む	
2.9					厚さ～0.5cm、青灰色粘土ブロック含む	粘土ブロック点状
2.10					あり	
3a					なし	侵食面、上層は確認しがたい
3.1					厚さ～5cm、灰白色粘土	
3.2					厚さ～3cm	東側は暗渠により不明
4a+4b					b下に厚さ～1cm	
5a+5b					b下に厚さ～5cm	
6a+6b					b下に厚さ～4cm	
7a+7b			(16-10b)	(16-18)	b下に厚さ～1cm	
8a					なし	侵食面、上層は確認しがたい
8.1					厚さ～0.5cm、青灰色シルト質粘土	
9a+9b					b下に厚さ～1cm、灰黄茶褐色シルト質粘土	
9.1					b下に厚さ～5cm、灰黄茶褐色・青灰色シルト質粘土	

表Ⅲ-1 層面一覧(続き)

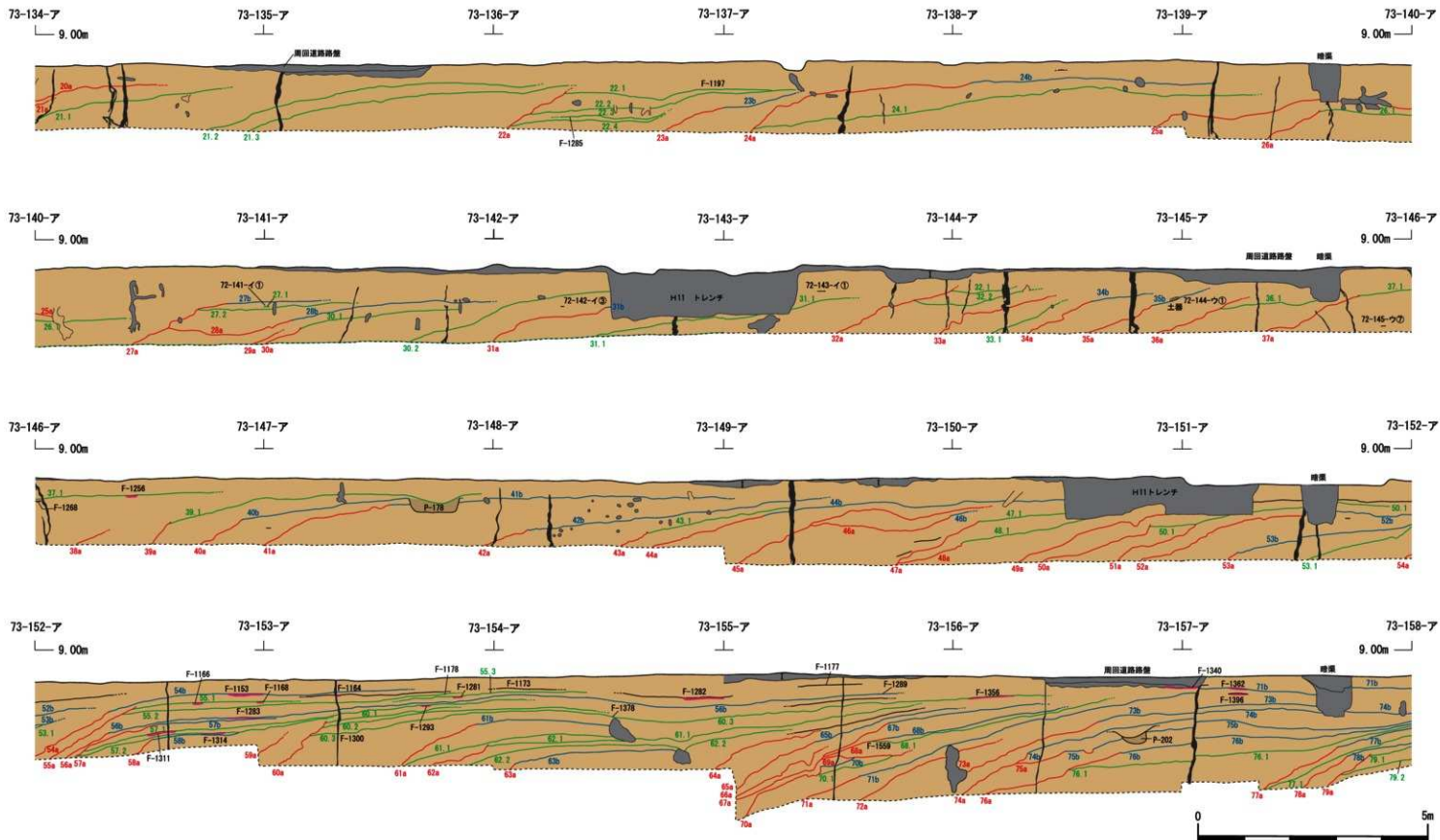
平成17年度		断面上の選積	平成14～16年度		下の結核堆積物 (シルト質粘土・粘土)	所 見
7m以上の名称	生活面		名称 ()内は確定	生活面		
10a				なし		
10.1				厚さ～3cm, 黄灰色シルト質粘土		砂食面, 上層は確認しない
10.2				厚さ～1cm, 灰黄赤褐色・黄灰色シルト質粘土		
10.3			14-14b 16-16b	厚さ～8cm, 灰白色・黄灰色粘土		
10.4				厚さ～0.5cm, 灰黄赤褐色・黄灰色シルト質粘土		
10.5				厚さ～0.5cm, 灰黄赤褐色シルト質粘土		
10.6				あり, 灰黄赤褐色シルト質粘土		直上に細粒砂層
10.7				厚さ～1cm, 灰黄赤褐色シルト質粘土		
10.8				厚さ～3cm, 灰黄赤褐色シルト質粘土		
10.9				厚さ～3cm, 灰黄赤褐色シルト質粘土		
11a				なし		砂食面, 上層は確認しない *層は甲本館の層である
11.1	9			厚さ～4cm, 黄灰色シルト質粘土		砂食面, 上層は確認しない
12a				なし		
12.1			16-20.1	厚さ～3cm, 灰黄赤褐色シルト質粘土		
12.2			16-20.2	厚さ～3cm, 灰黄赤褐色シルト質粘土・黄灰色粘土		
12.3				厚さ～4cm, 黄灰色粘土		
12.4				厚さ～0.5cm, 灰黄赤褐色シルト質粘土		
12.5				厚さ～3cm, 黄灰色粘土+フロック含有		
13a				なし		砂食面, 上層は確認しない
13.1				厚さ～7cm, 灰黄赤褐色・黄灰色シルト質粘土		
13.2			(15-16)	厚さ～8cm, 灰黄赤褐色・黄灰色粘土		
13.3				厚さ～3cm, 灰黄赤褐色・黄灰色粘土		
13.4				厚さ～3cm, 灰黄赤褐色・黄灰色粘土		
14a・14b				b下に厚さ～1cm, 灰黄赤褐色粘土		
15a				なし		砂食面, 上層は確認しない
16a・16b				厚さ～3cm, 黄赤褐色・黄灰色粘土		
17a・17b				厚さ～1cm, 灰黄赤褐色・黄灰色粘土		
18a・18b				厚さ～1cm, 黄灰色粘土		
19a				なし		砂食面, 上層は確認しない
20a				なし		砂食面, 上層は確認しない
21a				なし		砂食面, 上層は確認しない
21.1				あり, 黄赤褐色シルト		
21.2				厚さ～1cm, 灰黄赤褐色粘土		
21.3	27			厚さ～5cm, 黄赤褐色・黄灰色粘土		
22a				なし		砂食面, 上層は確認しない
22.1	31	F-1107		厚さ～0.5cm, 灰黄赤褐色粘土		
22.2				厚さ～15cm, 黄灰色粘土		
22.3	36	F-1285		あり, 灰黄赤褐色・黄灰色粘土		
22.4	37			あり, 灰黄赤褐色・黄灰色粘土		
23a・23b				b下に厚さ～1cm, 灰黄赤褐色粘土		
24a・24b				b下に厚さ～3cm, 黄赤褐色粘土		
25a				なし		砂食面, 上層は確認しない
26a				なし		砂食面, 上層は確認しない
26.1				厚さ～1cm, 灰黄赤褐色・黄灰色シルト質粘土		
27a・27b	51			b下にあり, 灰白赤褐色シルト質粘土		
27.1	53	F-1209		あり, 黄灰色粘土		
27.2	54	F-1216		厚さ～3cm, 灰白赤褐色・黄灰色・黄赤褐色シルト質粘土		
28a・28b				b下にあり, 灰白赤褐色シルト質粘土		
29a				なし		砂食面, 上層は確認しない
30a				なし		砂食面, 上層は確認しない
30.1	58			厚さ～1cm, 黄灰色・灰白赤褐色シルト質粘土		
30.2				厚さ～3cm, 黄灰色シルト質粘土		
31a・31b				b下にあり, 黄灰色・黄赤褐色シルト質粘土		H11トレンチにより重層不明
31.1				あり, 黄赤褐色シルト質粘土		H11トレンチにより重層不明
32a				なし		砂食面, 上層は確認しない
32.1				厚さ～0.5cm, 灰白赤褐色粘土		
32.2				厚さ～3cm, 黄灰色・黄赤褐色シルト質粘土		
33a				なし		砂食面, 上層は確認しない
33.1				厚さ～3cm, 黄灰色・黄赤褐色粘土		
34a・34b				b下にあり, 黄褐色シルト質粘土		
35a・35b	73			b下にあり, 黄灰色・灰黄赤褐色シルト質粘土		
36a				なし		砂食面, 上層は確認しない
36.1				厚さ～3cm, 黄灰色・灰黄赤褐色粘土		
37a				なし		砂食面, 上層は確認しない
37.1	83	F-1236		厚さ～1cm, 黄灰色・灰黄赤褐色粘土		
38a				なし		砂食面, 上層は確認しない
39a				なし		砂食面, 上層は確認しない
39.1				厚さ～1cm, 黄灰色・灰黄赤褐色シルト質粘土		砂食面, 上層は確認しない
40a・40b				b下にあり		
41a・41b				b下に厚さ～0.5cm, 灰白赤褐色シルト質粘土		
42a・42b				b下に厚さ～0.5cm, 灰白赤褐色シルト質粘土・灰黄赤褐色粘土		
43a				なし		砂食面, 上層は確認しない
43.1	100	F-1238		厚さ～5cm, 灰白赤褐色シルト質粘土・灰黄・黄赤・黄灰色粘土		
44a・44b				b下に厚さ～0.5cm, 灰白赤褐色シルト質粘土		
45a				なし		砂食面, 上層は確認しない
46a・46b				b下に厚さ～0.5cm, 灰白赤褐色・黄灰色シルト質粘土		
47a				なし		砂食面, 上層は確認しない
47.1				厚さ～1cm, 灰黄赤褐色粘土		
48a				なし		砂食面, 上層は確認しない

表Ⅲ-1 層面一覧(続き)

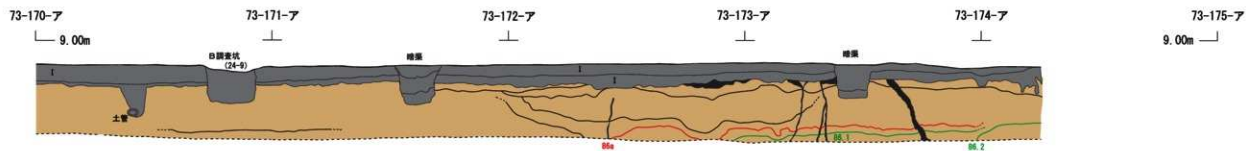
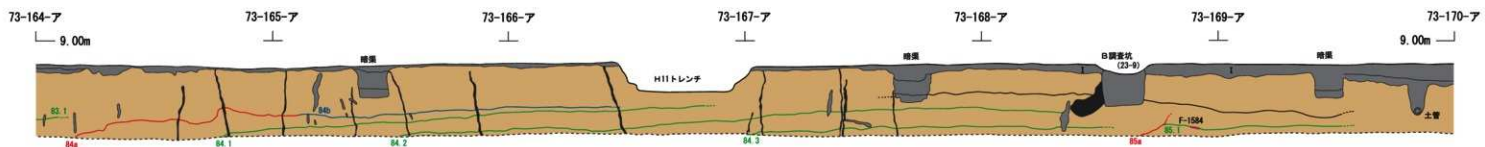
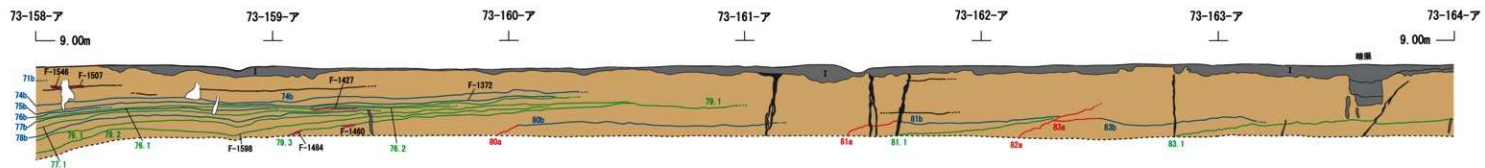
平成17年度		断面上の遺構	平成14～16年度		層下の総括堆積物 (シルト質粘土・粘土)	所 見
73層上の名称	生活面		名称 ()内は推定	生活面		
48.1				厚さ～3cm, 赤灰色・灰茶褐色粘土		
49a				なし		程度面, 上層は確認しがたい
50a				なし		程度面, 上層は確認しがたい
50.1	113			厚さ～10cm, 赤灰色・灰茶褐色粘土		
51a				なし		程度面, 上層は確認しがたい
52a-52b	117			b下にあり, 灰白色シルト質粘土		
53a-53b				b下に厚さ～0.5cm, 赤灰色・灰茶褐色粘土		
53.1				厚さ～1cm, 灰茶・黄茶・赤灰色褐色粘土		
54a-54b	133	F-1155		b下にあり, 黄茶褐色シルト質粘土		程度面, 上層は確認しがたい
55a				なし		
55.1	137	F-1160		厚さ～0.5cm, 黄茶褐色シルト質粘土		
55.2	141	F-1178		厚さ～3cm, 灰茶褐色シルト質粘土		
55.3	145	F-1281		あり, 灰白色粘土		
56a-56b	151	F-1283・1289		b下に厚さ～1cm, 灰茶褐色粘土		
57a-57b	152			厚さ～1.5cm,		
57.1	153	F-1290・1311		赤灰色粘土ブロック含む灰茶褐色シルト質粘土		
57.2	156	F-1314		厚さ～1cm,		
58a-58b	158			赤灰色粘土ブロック含む灰茶褐色シルト質粘土		
59a				b下にあり, 黄茶褐色シルト質粘土		
60a				なし		程度面, 上層は確認しがたい
60.1				厚さ～2cm, 赤灰色粘土・灰茶褐色シルト質粘土		
60.2				厚さ～1cm, 灰茶褐色シルト質粘土		程度面, 上層は確認しがたい
60.3	167	F-1300・1356 ・1378		厚さ～0.5cm, 灰白色シルト質粘土		
61a-61b				b下にあり, 灰茶褐色シルト質粘土		
61.1	171			厚さ～5cm, 灰茶褐色粘土		
62a				なし		程度面, 上層は確認しがたい
62.1	177			厚さ～1cm, 赤灰色・灰茶褐色シルト質粘土		
62.2	181			厚さ～1.5cm, 灰茶褐色シルト質粘土		
63a-63b				b下に厚さ～2cm, 灰茶褐色シルト質粘土		本組視長により裏面不明
64a	189			なし		程度面, 上層は確認しがたい
65a-65b				b下に厚さ～4cm, 暗灰色褐色粘土		
66a				なし		程度面, 上層は確認しがたい
67a-67b				b下に厚さ～4cm, 灰茶褐色粘土		
68a-68b	198	F-1559		b下に厚さ～2cm, 灰茶褐色粘土		西側は65cmに切られる
69.1				厚さ～1cm, 灰茶褐色粘土		
69a				なし		程度面, 上層は確認しがたい, 西側は65cmに切られる
70a-70b				b下に厚さ～5cm, 灰茶褐色シルト質粘土		
70.1	203			厚さ～1cm, 灰茶褐色シルト質粘土		
71a-71b	211	F-1362		b下に厚さ～3cm, 灰茶褐色シルト質粘土		
72a	214			なし		程度面, 上層は確認しがたい
73a-73b				b下に厚さ～1cm, 灰茶褐色シルト質粘土		西側は本組視長により不明
74a-74b	252	F-1379		b下に厚さ～2cm, 灰茶褐色シルト質粘土		
75a-75b	263			b下に厚さ～1cm, 灰茶褐色シルト質粘土		
76a-76b				b下に厚さ～1cm, 灰茶褐色シルト質粘土		
76.1	273			厚さ～1cm, 灰茶褐色シルト質粘土		
76.2	274	F-1427		厚さ～1cm, 灰茶褐色シルト質粘土		
77a-77b				b下に厚さ～0.5cm, 灰茶褐色シルト質粘土		
77.1	278			あり, 灰茶褐色シルト質粘土		
78a-78b	282			b下に厚さ～1cm, 灰茶褐色シルト質粘土		
79a				なし		程度面, 上層は確認しがたい
79.1				厚さ～0.5cm, 赤灰色粘土		
79.2	286	F-1508		厚さ～1cm, 灰茶褐色シルト質粘土		
79.3	288	F-1460・1484		厚さ～0.5cm, 灰茶褐色シルト質粘土		
80a-80b	298			b下に厚さ～4cm, 灰茶褐色シルト質粘土		
81a-81b				b下に厚さ～3cm, 灰茶褐色シルト質粘土		
81.1				あり, 灰茶褐色シルト質粘土		
82a				なし		程度面, 上層は確認しがたい
83a-83b				厚さ～3cm, 灰茶褐色シルト質粘土		西側は85cmに切られる
83.1				厚さ～5cm,		
84a-84b				赤灰色粘土ブロック含む灰茶褐色シルト質粘土		
84.1				b下に厚さ～1cm, 灰茶褐色シルト質粘土		
84.1				厚さ～6cm, 灰茶褐色シルト質粘土		
84.2				厚さ～3cm, 灰茶褐色シルト質粘土		
84.3				あり, 灰茶褐色シルト質粘土		
85a				なし		程度面, 上層は確認しがたい
85.1	303	F-1584		厚さ～3cm, 赤灰色粘土		
86a				なし		程度面, 上層は確認しがたい
86.1				あり, 灰茶褐色粘土		
86.2				あり, 赤灰色粘土		



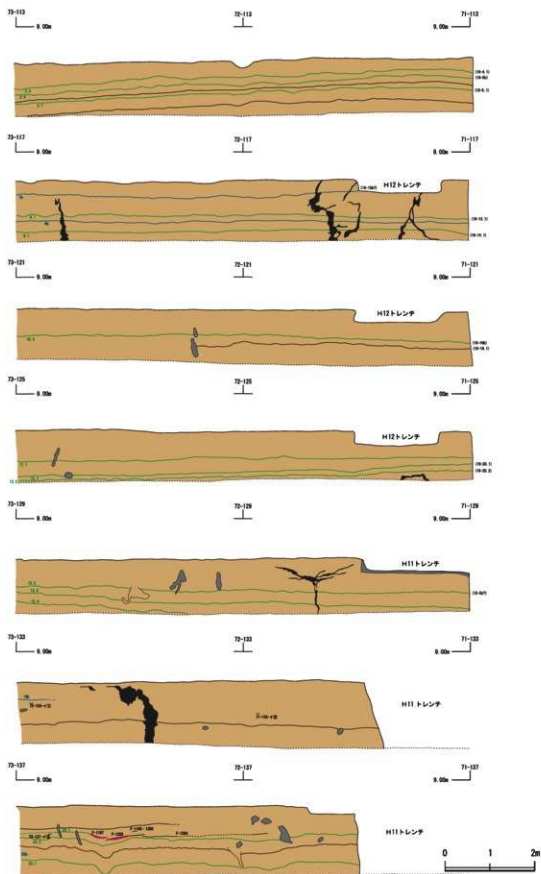
図Ⅲ-4 東西方向地層断面図(1)



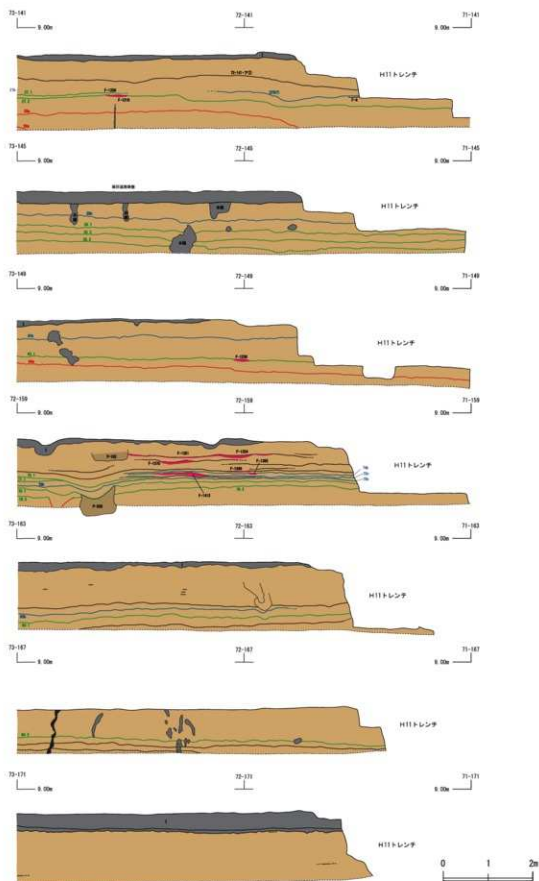
図Ⅲ-5 東西方向地層断面図(2)



図Ⅳ-6 東西方向地層断面図 (3)



図Ⅲ-7 南北方向地層断面図(1)



図Ⅲ-8 南北方向地層断面図(2)

4 周辺の遺跡

現在、江別市内には140か所の遺跡が記載されている(表Ⅲ-2)。その多くは野幌丘陵縁辺部の小河川や沢沿いに立地しており、江別の市街地には少ないように見える(図Ⅲ-9)。これは早い時期から丘陵の台地部分が開拓され、江別の中心部を形成したためであり、ここにも相当数の未周知の遺跡が存在していたと推測される。現在周知されている遺跡の大半は、1972年の踏査、1975・1977・1994年の一般分布調査で確認された。近年も詳細分布調査が継続して行われており、遺跡の数は漸増している。道路工事、河川改修、宅地造成、施設建設などに先立って一部は発掘調査されているが、坊主山遺跡のように遺跡の大半が消滅してしまった例もある。現在までに刊行された江別市内の遺跡発掘調査報告書は120冊以上にもなる。昭和初期までの調査史、時期区分ごとの遺跡の特色については、既刊の報告書(北理週報147・160)で述べている。

江別市内で対雁2遺跡とほぼ同時期と考えられる、縄文晩期後葉～続縄文初頭の遺物が出土した遺跡は、北海道教育委員会作成の埋蔵文化財包蔵地カード、および既刊の報告書によれば、現在までに35か所を数える。このうち特徴的な当該期の遺構・遺物が出検された遺跡としては、大麻3遺跡、高砂遺跡、七丁目沢2遺跡、七丁目沢6遺跡などが挙げられる。遺構は住居跡がほとんど見られず、土壌が大部分である。遺物は圧倒的に在地系の土器が多く、搬入されたと考えられる亀ヶ岡系・弥生系の土器は少ない。土器から判断すると晩期後葉よりも続縄文初頭の時期のほうが多いようである。また、土壌墓から多種多様な石器類、土製品・石製品が出土している。以下、各遺跡の特色を略述する。

大麻3遺跡(3)は野幌丘陵の西縁部、通称「大麻中央公園の沢」下流右岸に立地する。1977年以降、宅地造成に伴う発掘調査が繰り返され、縄文晩期～擦文文化期の遺構・遺物が出検されている。主体となるのは晩期末葉～続縄文初頭の土壌群で、これまでに300基以上が調査されている。土壌は規模によりいくつかのグループに分けられる。直径1.5m以上の大型のものは覆土上位に骨片を多量に含む焼土が厚く堆積しており、その直下より土器や砥石・すり石などが出している。直径1.0m以下の小型の土壌には大型礫や錨石や細かな礫片を伴うものも見られるが、遺物のないものが大部分である。1985年の第2次調査では、2体の板状土偶が小型の土壌より重なり合うような状態で出土した。この土壌は幼児の墓と推測されている。土偶2体は1987年に江別市有形文化財に指定された。

高砂遺跡(12)は、かつて石狩川の支流であった虫除(モショッケ)川中流域の沢沿いに立地する。縄文早期～擦文文化期の大規模な複合遺跡で、現在のJR高砂駅北側の住宅地、約90,000㎡の範囲に広がる。1964年以降、今年度まで18回にも及ぶ発掘調査が断続的に行われている。遺跡の南西部にあたる41番地地区では、晩期末葉～続縄文初頭の土壌が300基以上検出されている。このうち新しい時期のものは直径が1.0m以上と比較的大きく、完形の深鉢・鉢・壺・ミニチュア土器やコハク製の平玉、蛇紋岩製の熊形石製品(3例出土)、黒曜石製の岩偶などが出土しており墓である可能性が高い。この遺跡の土壌は覆土中に焼土や大型礫を伴う例が見られ、大麻3遺跡のものと類似する。土器には平行沈線・縄線文や変形工字文が施されており、緑ヶ岡系～大狩部式相当の時期が主体と考えられる。

七丁目沢2遺跡(63)は、野幌丘陵北西部を開拓する、通称「七丁目沢」下流右岸の枝沢に面している。1992年以降、4次にわたって調査され、縄文中期末葉の集落や土壌群、続縄文時代恵山式期の土壌墓群などが検出された。晩期末葉～続縄文初頭の遺構・遺物は主体ではないが、円形の土壌群が遺跡北部の平坦面および南西部の斜面下位に見られる。特徴的な遺物としては、中空土偶の破片がある。ベンガラが付着しており、施文や形状から大洞C₂式以降と推測されている。また、風倒木痕より蛇紋岩製の岩偶が出土した。形状が大麻3遺跡出土の土偶と類似することから、同時期の晩期末葉に位

置づけられている。

七丁目沢6遺跡(67)は、通称「七丁目沢」の開口部より約1km離れた右岸に位置する。1993年より10次の調査が重ねられ、約820基もの土壌や15万点以上の遺物が検出されている。時期は縄文早期～続縄文時代に及ぶが、縄文晩期末葉のものが大半を占める。長円形の大型土壌59基は埋め戻しの覆土や出土遺物などから墓と推測されている。これらの土壌墓は半径30mほどの範囲に集中しており、切り合い関係が認められないことから、墓域としての区画が存在していた可能性が高い。土壌墓の長軸方向は大部分がほぼ東西で斉一性が見られる。規模は長径が1.0～1.5m、深さが0.5m前後のものが大部分である。墳底にはベンガラが撒かれ、2または4基の柱穴が確認されたものが多い。墓標あるいは何らかの上屋構造を伴っていたと推測される。副葬品は石器類が多く、石鏃、ナイフ、石斧、鏃石、フレイク・チップなどがある。土壌墓により内容・状況は少しずつ異なっているが、石鏃とフレイク・チップは墳底付近に、ナイフと石斧は壁際にまとまって出土する傾向が見られる。また、大型礫や鏃石が壁に立てかけられるようにして置かれる例も見られ、多種多様な葬制がうかがえる。非常に数は少ないが大洞A式・緑ヶ岡式に相当する土器も出土している。この遺跡ではほかに、径1.0m以下の円形の土壌が200基以上検出されており、やはり大半が同時期の墓と推測されている。これらと長円形の土壌墓との間にどのような差異があるのかは不明な点が多い。千歳市ママチ遺跡・梅川3遺跡・キウス5遺跡では、樽前c降下火山灰を挟み「I黒層」・「II黒層」で、晩期後葉の土壌墓が小型から大型へと変化し、副葬品も多様になる傾向が認められる。七丁目沢6遺跡の2つの性格が異なる土壌墓群もこのような時間差を反映している可能性がある。

以上のように江別市内では、縄文晩期後葉～続縄文初頭の葬制を考察する上で重要な遺跡が存在している。(芝田)

江別市内の遺跡関連文献

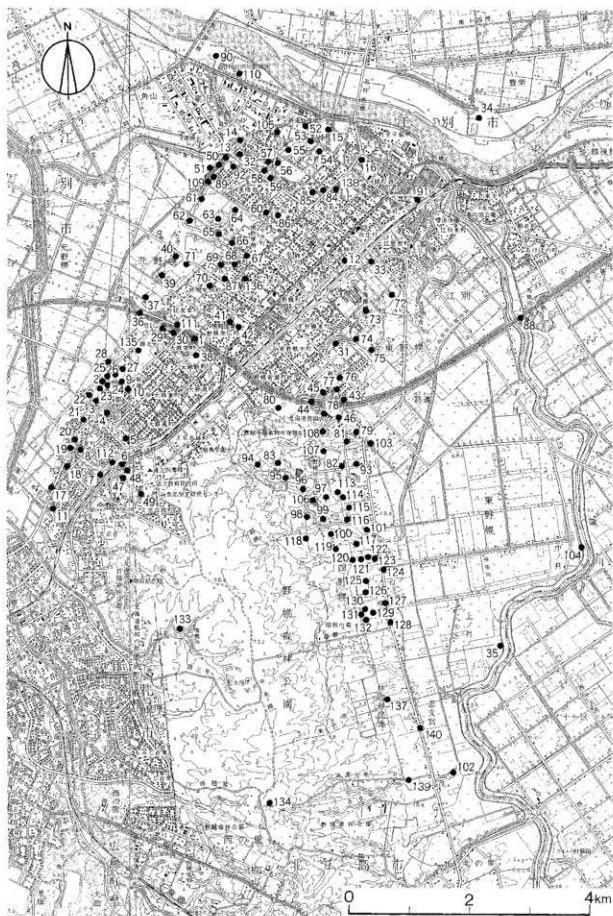
論文・書籍等

- 1 後藤寿一 1932 「古墳の発掘について報告—江別遺蹟調査第一報—『蝦夷往来』 第8号
- 2 後藤寿一 1934 「北海道の先史文化についての私見」『考古学雑誌』 24巻11号
- 3 後藤寿一 1935 「石狩国江別町の堅穴住居跡について—江別遺蹟調査第二報—『考古学雑誌』 25巻2号
- 4 後藤寿一 1935 「石狩国江別町に於ける堅穴堆積墓について」『考古学雑誌』 25巻5号
- 5 河野広道 1933 「北海道江別町円形堅穴式墳墓発見の石器時代人—頭骨とその埋葬状態—」『人類学雑誌』 48巻6号
- 6 河野広道 1934 「北海道の古墳様墳墓に就いて」『考古学雑誌』 24巻2号
- 7 河野広道 1935 「北海道石器時代概要」『ドルメン』 4巻6号
- 8 河野広道、名取武光 1938 「北海道の先史時代」『人類学・先史学講座』 第6巻
- 9 河野広道 1942 「北海道先史時代文化」『北海道文化史学』札幌中央放送局編
- 10 名取武光 1933 「北海道江別町に於ける堅穴式墳墓の発掘報告」『考古学雑誌』 23巻11号
- 11 喜田貞吉 1937 「北海道に於ける所謂『古墳』に就いて」『蝦夷往来』 第9号
- 12 藤本英夫・名倉正八郎編 1980 『日本城郭大系—北海道・沖繩—新人物往来社
- 13 北海道教育委員会 1983 『北海道のチャシ』
- 14 本堂寿一 1977 「石狩川流域のチャシコツ」『石狩川中流域の先史遺跡』空知地方史研究協議会
- 15 野中一宏 1998 「高砂遺跡の集落—石狩低地帯における縄文中期集落の一変遷例—」『時の絆—石狩喜三男先生を偲ぶ』

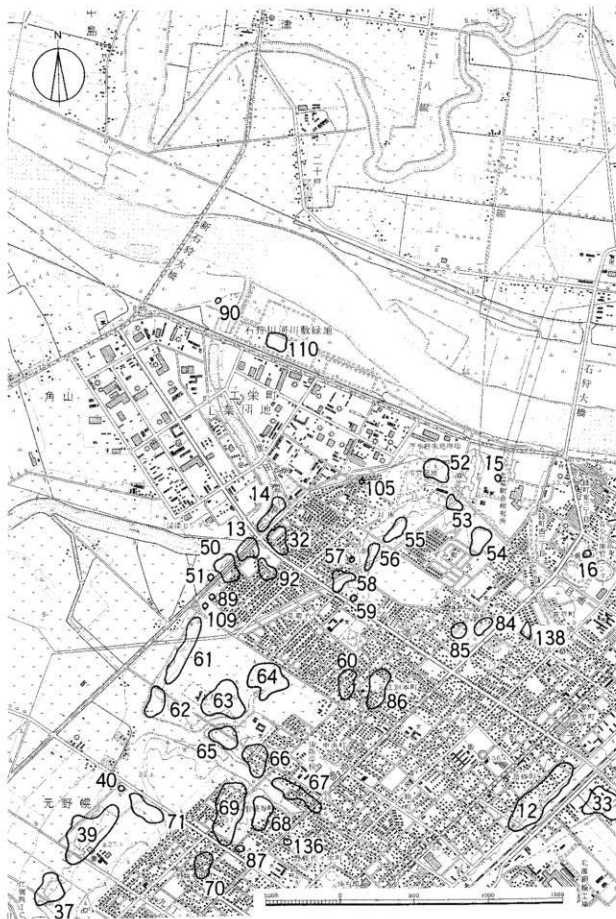
江別市文化財調査報告書

- | | |
|---|-----------------------------------|
| 16 『江別市大麻第V遺跡発掘調査報告書—江別調報1— 1970 | 21 『大麻第III遺跡—江別市第3号遺跡—』江別調報6 1978 |
| 17 『白鳥平川河岸遺跡—江別市第31号遺跡—』江別調報2 1976 | 22 『江別太道跡』江別調報9 1979 |
| | 23 『大麻1』江別調報10 1980 |
| 18 『小島の沢遺跡発掘調査報告書—江別市第34号遺跡—』江別調報3 1976 | 24 『元江別遺跡群(概報)』江別調報11 1980 |
| | 25 『東野視4・元江別3』江別調報12 1981 |
| 19 『高砂遺跡—江別市第12号遺跡—』江別調報4 1976 | 26 『元江別遺跡群』江別調報13 1981 |
| 20 『西野視遺跡—江別市第47、48、49号遺跡—』江別調報5 1976 | 27 『元江別3・大麻6』江別調報14 1982 |
| | 28 『炭・岡遺跡』江別調報15 1982 |

- 29 『大森6 旧豊平河畔』江別調報16 1983
 30 『町村農場1・七丁目沢・旧豊平河畔—江別チャーシュー後藤・大森3』江別調報17 1983
 31 『旧豊平河河畔・七丁目沢7』江別調報18 1984
 32 『旧豊平河畔』江別調報19 1986
 33 『大森3遺跡』江別調報20 1986
 34 『高砂遺跡』江別調報21 1986
 35 『大森15遺跡』江別調報22 1986
 36 『旧豊平河畔V』江別調報23 1986
 37 『大森21遺跡』江別調報24 1987
 38 『高砂遺跡』江別調報25 1987
 39 『高砂遺跡(4)』江別調報26 1988
 40 『大森21遺跡(2)』江別調報27 1988
 41 『元江別1遺跡』江別調報28 1988
 42 『大森3遺跡(3)』江別調報29 1989
 43 『高砂遺跡(5)』江別調報30 1989
 44 『元江別1・2遺跡』江別調報31 1989
 45 『元江別10遺跡』江別調報32 1989
 46 『西野幌3遺跡』江別調報33 1989
 47 『大森17遺跡』江別調報34 1989
 48 『大森13遺跡(1)』江別調報35 1990
 49 『高砂遺跡(6)』江別調報36 1990
 50 『高砂遺跡(7)』江別調報37 1990
 51 『元江別10遺跡(2)』江別調報38 1990
 52 『後藤遺跡』江別調報39 1990
 53 『元江別1・10遺跡』江別調報40 1990
 54 『大森13遺跡(2)』江別調報41 1990
 55 『大森15遺跡(2)』江別調報42 1990
 56 『西野幌3・4遺跡』江別調報43 1990
 57 『高砂遺跡(8)』江別調報44 1991
 58 『大森15・16遺跡』江別調報45 1991
 59 『高砂遺跡(9)』江別調報46 1991
 60 『西野幌1・9遺跡』江別調報47 1991
 61 『西野幌2・東野幌1遺跡』江別調報48 1991
 62 『上江別遺跡』江別調報49 1991
 63 『元江別9遺跡』江別調報50 1991
 64 『元野幌5遺跡』江別調報51 1992
 65 『高砂遺跡(10)』江別調報52 1992
 66 『西野幌3遺跡(2)』江別調報53 1992
 67 『大森3遺跡(4)』江別調報54 1992
 68 『七丁目沢2遺跡』江別調報55 1992
 69 『対雁地区宅地開発事業に伴う 埋蔵文化財包蔵地所在・範囲確認調査報告書』江別調報56 1992
 70 『西野幌11遺跡』江別調報57 1992
 71 『高砂遺跡(11)』江別調報58 1993
 72 『西野幌3(3)』江別調報59 1993
 73 『七丁目沢2遺跡』江別調報60 1993
 74 『西野幌11遺跡』江別調報61 1993
 75 『町村農場1・2遺跡(2)』江別調報62 1993
 76 『町村農場11遺跡—R T Nパーク地区埋蔵文化財包蔵地詳細分布調査—』江別調報63 1993
 77 『高砂遺跡(12)』江別調報64 1994
 78 『七丁目沢6遺跡』江別調報65 1994
 79 『大森22遺跡』江別調報66 1994
 80 『七丁目沢6遺跡(2)小島の沢遺跡』江別調報67 1994
 81 『町村農場1遺跡(3)』江別調報68 1994
 82 『町村農場1・2遺跡(4)』江別調報69 1994
 83 『町村農場1遺跡(5)町村農場2遺跡(2)』江別調報72 1995
 84 『七丁目沢6遺跡(3)』江別調報73 1995
 85 『大森15遺跡(3)』江別調報74 1995
 86 『高砂遺跡(13)』江別調報75 1995
 87 『七丁目沢4・元野幌5遺跡(2)』江別調報76 1995
 88 『七丁目沢2遺跡(3)・元野幌5遺跡(3)』江別調報78 1996
 89 『高砂遺跡(14)』江別調報79 1996
 90 『町村農場1遺跡(6)』江別調報80 1996
 91 『大森5遺跡(3)』江別調報81 1996
 92 『町村農場3遺跡』江別調報82 1996
 93 『七丁目沢2遺跡(4)・元野幌5遺跡(4)』江別調報83 1997
 94 『町村農場1遺跡(7)』江別調報84 1997
 95 『七丁目沢6遺跡(4)大森3遺跡(5)』江別調報85 1997
 96 『高砂遺跡(15)』江別調報86 1998
 97 『七丁目沢6遺跡(5)』江別調報87 1998
 98 『大森3遺跡(6)』江別調報88 1998
 99 『七丁目沢4遺跡(2)元野幌5遺跡(5)』江別調報89 1998
 100 『元江別4・5遺跡』江別調報90 1998
 101 『大森5遺跡(4)』江別調報91 1998
 102 『大森3遺跡(7)』江別調報92 1999
 103 『高砂遺跡(16)』江別調報93 1999
 104 『元野幌5遺跡(6)七丁目沢4遺跡(3)』江別調報94 1999
 105 『高砂遺跡(17)』江別調報95 2000
 106 『七丁目沢6遺跡(6)』江別調報96 2000
 107 『大森3遺跡(8)』江別調報97 2000
 108 『大森3遺跡(9)』江別調報98 2000
 109 『七丁目沢6遺跡(7)』江別調報99 2000
 110 『元野幌5遺跡(7)』江別調報100 2000
 111 『吉井の沢6遺跡』江別調報101 2001
 112 『大森6遺跡(3)』江別調報103 2002
 113 『吉井の沢2遺跡』江別調報104 2002
 114 『元江別13遺跡』江別調報105 2002
 115 『吉井の沢2遺跡(2)』江別調報106 2003
 116 『大森6遺跡(4)七丁目沢6遺跡(9)』江別調報107 2003
 117 『大森6遺跡(5)』江別調報108 2003
 118 『志文別3遺跡』江別調報109 2004
 119 『七丁目沢6遺跡(10)』江別調報110 2004
 120 『江別市内遺跡分布調査(1)』江別調報111 2004
 121 『江別市内遺跡分布調査(2)』江別調報114 2005
 122 『大森26遺跡』江別調報115 2005
- 北海道埋蔵文化財センター調査報告書**
 123 『大森1遺跡・西野幌1遺跡・西野幌3遺跡・東野幌1遺跡』1980
 124 『大森1遺跡』北理調報2 1981
 125 『吉井の沢の遺跡』北理調報5 1982
 126 『西野幌11遺跡』北理調報25 1986
 127 『西野幌3遺跡』北理調報39 1987
 128 『西野幌11遺跡・西野幌13遺跡・西野幌14遺跡・下字田遺跡』北理調報48 1988
 129 『西野幌12遺跡』北理調報54 1989
 130 『対雁2遺跡(1)』北理調報147 2000
 131 『対雁2遺跡(2)』北理調報160 2001
 132 『対雁2遺跡(3)』北理調報177 2002
 133 『対雁2遺跡(4)』北理調報193 2003
 134 『対雁2遺跡(5)』北理調報204 2004
 135 『対雁2遺跡(6)』北理調報215 2005



図Ⅲ-9 江別市内の遺跡(1)



図Ⅲ-10 江別市内の遺跡 (2)

表Ⅲ-2 江別市内の道跡

番号	道跡名	種別	所在地	立地	主な時期	調査歴	文献	備考
1	大麻1	集落跡	大麻新町・大麻文町 ・野幌住吉町17ほか	野幌丘陵西縁斜面 「吉井の沢」右岸	縄文早～晩期、 続縄文、弥文	1972踏査、1977・1988・1991 範囲確認、1979・1980発掘、 2003詳細分布、2003工事立会	25・120・ 123・131	縄文早期期の 土器片出土
2	大麻2	遺物包含地	大麻元町	野幌丘陵西縁斜面	縄文	1972踏査		
3	大麻3	集落跡・墳 墓	大麻元町178、184ほか	野幌丘陵西縁斜面 「大麻中央公園の沢」 下流右岸	縄文早～晩期、 続縄文、弥文	1973踏査、1977・1987・1990・ 1992範囲確認、1985・1985・ 1988・1991・1996・1997・ 1998発掘、2003詳細分布	21・30・33・ 42・67・95・ 98・102・ 107・108	晩期末の板状土 器2体(市有形 文化財)
4	大麻4	遺物包含地	大麻窓町	野幌丘陵西縁斜面 「大麻中央公園の沢」 下流左岸	縄文	1972踏査		
5	大麻5	集落跡	大麻中町26、28ほか	野幌丘陵西縁斜面 「大麻中央公園の沢」 中流左岸	縄文前～晩期、 続縄文	1965・1995・1997発掘、 1992試掘、1993・1994範囲確認	16・91・101	大麻V式土器の 標識道跡
6	大麻6	集落跡	文京台東町11ほか	野幌丘陵西縁斜面 小沢中流右岸	縄文早～晩期、 続縄文、弥文	1972踏査、1981・1982・2001・ 2002発掘、2001詳細分布	27・29・ 112・116・ 117・120	
7	大麻7	遺物包含地	大麻沢町	野幌丘陵西縁斜面 小沢中流左岸	縄文	1972踏査		
8	大麻8	遺物包含地	大麻沢町	野幌丘陵西縁斜面 小沢下流右岸	縄文	1972踏査		
9	大麻9	遺物包含地	大麻元町	野幌丘陵西縁斜面	続縄文	1972踏査、1987範囲確認		
10	大麻10	遺物包含地	大麻窓町	野幌丘陵西縁斜面	縄文	1972踏査		
11	大麻11	遺物包含地	大麻65、大麻西町3ほか	野幌丘陵西縁斜面 小沢下流右岸	縄文中期、弥文	1982所在確認、1987範囲確認、 2001詳細分布	120	
12	高砂	集落跡	高砂町19、20、28、 30、41ほか	野幌丘陵北東部 油除(モッシュ ヤ)川中流右岸	縄文早～晩期、 続縄文、弥文	1964踏査、 1964～2000継続的に発掘 (185)、 2000・2003工事立会、 2001・2003詳細分布	15・19・ 24・28・ 29・43・ 49・50・ 57・59・ 65・71・ 77・86・ 89・96・ 103・105・ 120	
13	後藤	墳墓・集落 跡	元江別9582ほか	世田世平川右岸段丘	縄文早・中・晩期、 続縄文、弥文	1931・1980・1985・1989発掘、 1972踏査、 1990・1996範囲確認、 1986所在確認	1・2・3・ 4・5・6・ 7・8・9・ 10・11・ 26・30・52	国指定史跡 「江別古墳群」
14	江別ヶ丘	チャシ跡	工栄町	世田世平川右岸段丘	アイヌ	1979測量、1980発掘	12・13・ 14・30	丘法式、塚1集
15	坊主山	墳墓	対峙1、2	石狩川左岸段丘 (古砂丘)	縄文早～晩期、 続縄文、弥文	1932・1960発掘、1972踏査 発掘再建設により大半が消失		江別式土器 (市有形文化財)
16	飛鳥山	集落跡	緑町西2	古砂丘	弥文	1972踏査、1975発掘		
17	大麻17	遺物包含地	大麻134ほか	野幌丘陵西縁斜面	縄文中期	1972踏査、1987・1992範囲確認	47	
18	大麻13	遺物包含地	大麻99、102、103、 105、106、108、111、 113ほか	野幌丘陵西縁斜面 「西町公園の沢」 開口部右岸	縄文早～中期	1972踏査、1988・1989・1997 範囲確認、1989発掘、 1997工事立会、 2001・2003詳細分布	48・54・ 120	
19	大麻15	集落跡	大麻96、109	野幌丘陵西縁斜面 「西町公園の沢」 開口部右岸	縄文早・中・晩期、 続縄文、弥文	1972踏査、1985・1988・1989 範囲確認、1985・1989・1990・ 1994発掘、2001・2003試掘、 2002工事立会	35・55・ 58・85	
20	大麻16	遺物包含地	大麻90	野幌丘陵西縁斜面 「西町公園の沢」 開口部右岸	縄文早・中期	1972踏査、1977・1985・1988・ 1989範囲確認、1990発掘	58	
21	大麻12	遺物包含地	大麻201、203	野幌丘陵西縁斜面	縄文	1972踏査、1980範囲確認、 1988発掘、2002・2003詳細分布	130	

表Ⅲ-2 江別市内の遺跡(続き)

番号	遺跡名	種別	所在地	立地	主な時期	調査歴	文献	備考
22	大塚18	遺物包含地	大塚元町188、189	野幌丘陵西縁斜面	縄文、弥文	1972調査		
23	上江別	遺物包含地	上江別430、422、424	野幌丘陵北東部 早苗田中央左岸	縄文早・中期	1972調査、1990発掘、 2003詳細分布	63・120	33と入れ替わる 江別市教委の 「上江別1」遺跡
24	大塚14	遺物包含地	大塚元町170	野幌丘陵西縁斜面	縄文	1969発掘、1972調査		
25	大塚20	遺物包含地	大塚元町166	野幌丘陵西縁斜面	縄文前期	1972調査、2003試掘、 2003工事立会、2004発掘		
26	大塚21	墳墓	大塚元町160	野幌丘陵西縁斜面	縄文、縄縄文、 弥文	1972調査、1986発掘確認、 1985・1986・1987発掘、 2000・2003試掘	37・40	
27	大塚22	墳墓	大塚元町159	野幌丘陵西縁斜面	縄文、縄縄文	1992発掘確認、1995発掘、 2000・2003試掘	79	
28	大塚23	遺物包含地	大塚244、245	野幌丘陵西縁斜面	縄文、縄縄文	1972調査、2000・2001試掘、 2003工事立会		
29	大塚34	遺物包含地	大塚北町563、602ほか	「吉井の沢」左岸	縄文早～晩期、 縄縄文	1972調査、 1978・1986発掘確認、 1981発掘、2001試掘	125	
30	大塚35	墳墓	大塚北町511	「吉井の沢」左岸	縄文早～晩期	1977・1988発掘確認、1981発掘	125	
31	小島の沢	遺物包含地	東野幌64、86、186 野幌東町64	野幌丘陵東縁斜面 「小島の沢」右岸	縄文中～晩期	1974・1975試掘、1993発掘、 2003詳細分布	18・80・120	
32	旧豊平河原	集落跡	元江別848、861、880 ほか	世田豊平川 右岸段丘	縄文中～晩期、 縄縄文	1975・1979・1980・ 1982・1983・1984発掘、 1978発掘確認	17・24・ 26・28・ 30・31・ 32・36	
33	大塚19	遺物包含地	大塚175ほか	野幌丘陵西縁斜面	縄文	1980発掘		33と入れ替わる
34	美原	遺物包含地	美原河川敷	石狩川石岸堆地	不明			
35	千歳川左岸河川敷	遺物包含地	東野幌河川敷	千歳川左岸段丘	不明			
36	吉井の沢1	集落跡	元野幌698、711、 753、大塚639、694ほか	「吉井の沢」左岸	縄文早～晩期、 縄縄文	1975分布、1977・1978 発掘確認、1980・1981発掘	125	
37	吉井の沢2	遺物包含地	元野幌708、745、 746ほか	野幌丘陵西縁斜面 「吉井の沢」右岸	縄文早・中～晩期、 縄縄文、弥文	1975分布、2003試掘、 2001・2002発掘	113・115	
38	吉井の沢5	遺物包含地	大塚新町36、37 大塚新町29、34、35 ほか	「吉井の沢」左岸	縄文	1975分布		
39	元野幌1	遺物包含地	元野幌838・839・841	野幌丘陵西縁斜面	縄文	1975分布、1988発掘確認		
40	元野幌2	遺物包含地	元野幌833・834・847	野幌丘陵西縁斜面	縄文	1975分布		
41	元野幌3	遺物包含地	野幌末広町2、3、10	野幌丘陵西側台地	縄文	1975分布		
42	元野幌4	遺物包含地	野幌末広町7、8	野幌丘陵西側台地	縄文中期	1975分布、2004試掘		
43	東野幌1	遺物包含地	緑が丘38	野幌丘陵東縁斜面	縄文中～晩期	1975分布、1977・1989 発掘確認、1979・1990発掘	61・123	
44	西野幌1	遺物包含地	西野幌36、37、44、 46、49、56、64、69ほか	野幌丘陵東縁斜面	縄文中・晩期、 縄縄文	1975分布、1977・1978・1986 発掘確認、1979・1990発掘	60・123	
45	西野幌2	遺物包含地	西野幌65、66、67	野幌丘陵東縁斜面	縄文中期	1975分布、1989発掘確認、 1990発掘	61	
46	西野幌3	遺物包含地	西野幌92、95、 東野幌112	野幌丘陵東縁斜面	縄文早・中～晩期	1975分布、1977・1985・1987・ 1988発掘確認、1979・1986・ 1988・1989・1990・1991・ 1992発掘	46・56・ 66・72・ 123・127	
47	文京台1	遺物包含地	文京台東町8	野幌丘陵西側台地 小沢上流右岸	縄文	1976所在確認、1988発掘	20	旧特西野幌4
48	文京台2	遺物包含地	文京台東町15、16、20	野幌丘陵西側台地 小沢上流右岸	縄文	1976所在確認	20	旧特西野幌5

表Ⅲ-2 江別市内の遺跡(続き)

番号	遺跡名	種別	所在地	立地	主な時期	調査歴	文献	備考
49	文京台3	遺物包含地	文京台東町36、37	野幌丘陵西側台地 小沢上流右岸	縄文前期	1976所在確認	20	旧村西野幌6
50	元江別1	墳墓	元江別53、854、 940、見晴台101、102	豊田豊平川 右岸段丘	縄文前～晩期、 縄縄文	1976所在確認、1979・1980・ 1987・1988・1989発掘、 1986範囲確認	24・26・ 41・44・53	豊山式期の土器 葉山土品(旧道 指定重要文化財)
51	元江別2	墳墓	元江別40、見晴台112	豊田豊平川 右岸段丘	縄文中期、縄縄文	1976所在確認、1979・1988発掘、 1986範囲確認	24・26・44	
52	対郷	遺物包含地	対郷97、100	石狩川左岸段丘	縄文中期、縄縄文	1977分布		
53	町村農場1	墳墓	対郷88、90 いずみ野ほか	石狩川左岸段丘	縄文早～中期、 縄縄文、弥文	1965・1981・1992・1993・ 1994・1995・1996発掘、 1977分布、 1992・1993範囲確認	30・75・ 81・82・ 83・90・94	
54	町村農場2	墳墓	いずみ野	石狩川左岸段丘	縄文早～後期、 縄縄文	1977分布、1992・1993・ 1994発掘、1992範囲確認	75・82・83	
55	町村農場3	遺物包含地	対郷111、112、113	石狩川左岸段丘	縄文中～後期、 弥文	1977分布、1995発掘	92	
56	町村農場4	遺物包含地	元江別75、806	石狩川左岸段丘	縄文中期	1977分布		
57	元江別3	集落跡	元江別806ほか	石狩川左岸段丘	縄文中～晩期	1977分布、1978範囲確認、 1980・1983発掘	25・27	
58	元江別4	遺物包含地	元江別809ほか	石狩川左岸段丘	縄文	1977分布、1978範囲確認、 1997発掘	100	
59	元江別5	遺物包含地	元江別108、874	石狩川左岸段丘	縄文	1977分布、1978範囲確認、 1980・1997発掘	26・100	
60	元江別6	遺物包含地	見晴台33～38	石狩川左岸段丘	縄文中～後期	1977分布、1978範囲確認		
61	元野幌5	遺物包含地	元野幌871、910	野幌丘陵北西縁	縄文早～中期、 縄縄文	1977分布、1990範囲確認、 1991・1994・1995・1996・ 1997・1998・1999発掘、 2000工事立会	64・87・ 88・93・ 99・104・ 110	
62	七丁目沢1	遺物包含地	元野幌875、881	野幌丘陵北西縁 「七丁目沢」右岸	縄文中期、縄縄文	1977分布		
63	七丁目沢2	集落跡	元野幌760	野幌丘陵北西縁 「七丁目沢」右岸	縄文早～晩期、 縄縄文	1977分布、1990範囲確認、 1991・1992・1995・1996発掘	68・73・ 88・93	
64	七丁目沢3	遺物包含地	元野幌715～716、 763、765、766	野幌丘陵北西縁 「七丁目沢」右岸	縄文中～後期、 縄縄文	1977分布、1990範囲確認		
65	七丁目沢4	遺物包含地	元野幌702、725	野幌丘陵北西縁 「七丁目沢」右岸	縄文早～晩期、 縄縄文	1977分布、1990範囲確認、 1994・1997・1998発掘	87・90・104	
66	七丁目沢5	遺物包含地	中央町36～40、 野幌町1～3ほか	野幌丘陵北西縁 「七丁目沢」右岸	縄文中期	1977分布、1981所在確認、 1983発掘		
67	七丁目沢6	墳墓	野幌代々木町1～3、 野幌町19、22～30	野幌丘陵北西縁 「七丁目沢」右岸	縄文早～晩期、 縄縄文、弥文	1977分布、1988・1989・1990・ 1992範囲確認、1989工事立会、 1990～2000統一的に発掘 (10区) 2004工事立会	78・80・ 84・95・ 97・106・ 109・116・ 119	
68	道川庭園	遺物包含地	野幌町19	野幌丘陵北西縁 「七丁目沢」左岸	縄文	1977分布、1997試掘		
69	七丁目沢7	遺物包含地	野幌町5～11、15～ 18、20	野幌丘陵北西縁 「七丁目沢」左岸	縄文中期	1977分布、1983発掘	30・31	
70	元野幌6	遺物包含地	野幌毛田町25、29ほか	野幌丘陵西側台地	縄文	1977分布		
71	元野幌7	遺物包含地	元野幌737	野幌丘陵西側台地	縄文	1977分布		
72	中原	遺物包含地	上江別451、455ほか	野幌丘陵東縁斜面	縄文中～後期、 弥文	1977分布、2000詳細分布	120	
73	上江別1	遺物包含地	上江別476、480、 484、485ほか	野幌丘陵東縁斜面 小沢上流沿岸	縄文中期	1977分布、2000・2004・ 2005詳細分布	120・121	江別市教委の 「上江別2」 遺跡
74	東野幌2	遺物包含地	東野幌836、838、 842、843、854ほか	野幌丘陵東縁斜面 「小島の沢」左岸	縄文早～中期	1977分布、2002・2003・ 2004詳細分布	120・121	
75	東野幌3	遺物包含地	東野幌856	野幌丘陵東縁斜面 「小島の沢」左岸	縄文	1977分布		

表Ⅲ-2 江別市内の遺跡(続き)

番号	遺跡名	種別	所在地	立地	主な時期	調査歴	文献	備考
76	東野幌4	集落跡	緑が丘6、9～13	野幌丘陵東縁斜面	縄文中・前期、 続縄文	1977分布、1980発掘、 1990範囲確認	25	
77	東野幌5	遺物包含地	緑が丘10～18、39はか	野幌丘陵東縁斜面	縄文	1977分布		
78	西野幌7	遺物包含地	西野幌214はか	野幌丘陵東縁斜面	縄文	1977分布、1990発掘		
79	西野幌9	遺物包含地	西野幌2、18はか	野幌丘陵東縁斜面	不明	1979分布、1990発掘	60	
80	西野幌6	遺物包含地	西野幌5-48はか	野幌丘陵東側台地	縄文	1977分布、1986範囲確認、 1986工事立会、1990発掘		
81	西野幌10	遺物包含地	西野幌3614はか	野幌丘陵東縁斜面 板沢(筋連川)左岸	縄文	1977分布		
82	西野幌11	集落跡	西野幌112	野幌丘陵東縁斜面 板沢(筋連川)右岸	縄文早～後期、 続縄文	1977分布、 1980・1985・1989範囲確認、 1984・1993工事立会、 1984・1985・1986・1990発掘、 1993詳細分布、1993・1997試掘	70・74・ 76・126・ 128	
83	下字田	遺物包含地	西野幌188地先	野幌丘陵東縁斜面 板沢に近く小沢左岸	縄文	1977分布、1982・1983・1989 範囲確認、1984発掘	128	
84	元江別7	遺物包含地	牧場町35・36	石狩川左岸段丘	縄文中～後期	1977分布、1992範囲確認		
85	元江別8	遺物包含地	牧場町30・33・37はか	石狩川左岸段丘	縄文後期	1977分布、1981範囲確認		
86	元江別9	遺物包含地	元江別本町34～41、45	野幌丘陵北側台地 金降(マッシュケ) 川中流域	縄文中～後期	1977分布、 1982・1990範囲確認、 1990・2003発掘、 2000・2002工事立会、 2003詳細分布	63・120	
87	元野幌8	遺物包含地	野幌赤町16、17、44	野幌丘陵西側台地	縄文	1977分布		
88	江別大	生産跡	江別大224はか	千歳川左岸低地 (現在は改修により 右岸)	縄文中期、続縄文	1978範囲確認、1978発掘	22	「北海道江別大 遺跡出土品」 (国指定重要文化財)
89	元江別11	集落跡	見晴台111、112	世田世平川右岸段丘	縄文中期、続縄文	1979所在確認、1979発掘、 1986範囲確認	34・36	
90	野幌番屋跡	番屋跡	工保町地先河川敷	世田世平川河口左岸	近世	1979範囲確認 河川改修により消失		
91	萩+河	墳墓	萩+河1～5	千歳川左岸の古砂丘	縄文中期、続縄文、 弥生	1980・1983範囲確認、 1981・1982発掘、掘削により 大半が消失	28	萩+河式土器の 標式遺跡
92	元江別10	墳墓	見晴台112	世田世平川右岸段丘	縄文中期、続縄文	1980・1988・1989発掘、 1986範囲確認	34・35・ 45・51・53	
93	下字田2	遺物包含地	西野幌114	野幌丘陵東縁斜面	不明			
94	下字田3	遺物包含地	西野幌927	野幌丘陵東縁斜面	不明			
95	西野幌14	遺物包含地	西野幌928、931、947	野幌丘陵東縁斜面 大沢(野水池)北岸	縄文中～後期、 続縄文	1982・1983範囲確認、 1984・1987発掘	128	
96	西野幌17	集落跡	西野幌407、501～509	野幌丘陵東縁斜面 小沢左岸	縄文後～後期	1982所在確認、1983範囲確認、 1984発掘		1985年以降、西 野幌12遺跡に統 合
97	西野幌15	遺物包含地	西野幌505、507	野幌丘陵東縁 古伏台地先端部	縄文中期	1982・1983範囲確認、 1983工事立会		
98	下字田7	遺物包含地	西野幌511	野幌丘陵東縁斜面	縄文	1997試掘		
99	西野幌16	遺物包含地	西野幌507、508、 511、1063～1065	野幌丘陵東縁斜面 小沢右岸	縄文中～後期	1982所在確認、1983範囲確認 1997試掘		
100	下字田9	遺物包含地	西野幌507、516、519	野幌丘陵東縁斜面	縄文			
101	下字田10	遺物包含地	西野幌154、166	野幌丘陵東縁斜面	縄文	1997試掘		
102	志文別	集落跡	東野幌624	志文別川下流左岸	弥生			
103	千古園	集落跡	東野幌975、39514はか	野幌丘陵東縁斜面 板沢(筋連川)右岸	縄文、弥生	2003詳細分布、2005工事立会	120	

表Ⅲ-2 江別市内の道跡(続き)

番号	道跡名	種別	所在地	立地	主な時期	調査歴	文献	備考
104	中ノ月	遺物包含地	東野観河口側	千歳川左岸低地	縄文			
105	江別第2チオシ	チオシ	対岸125ほか	世田恵平川右岸段丘	アイヌ	ほぼ消失		丘先式、塚立集
106	西野観12	集落跡	西野観497、501、508、509	野幌丘陵東縁斜面 小沢右岸	縄文早～晩期、 縄縄文	1982所在確認、1982・1983・ 1985確認確認、1982・1983・ 1984・1985・1986・1987・ 1988発掘	129	1985年以降、西 野観15道跡を視 合
107	西野観13	集落跡	西野観468、469、 471、472	野幌丘陵東縁斜面 小沢右岸	縄文、縄縄文	1982所在確認、1982・1983 範囲確認、1983工事立会、 1983発掘	128	
108	西野観4	遺物包含地	西野観96	野幌丘陵東縁斜面	縄文中期	1988・1989発掘	56	
109	元江別12	遺物包含地	見晴台112	世田恵平川 右岸段丘	縄文			
110	対岸2	遺物包含地	工業町地先河田敷	世田恵平川河口右岸 沖積低地	縄文晩期、縄縄文	1960所在確認、1990範囲確認、 1999～2003継続的に発掘	130・131・ 132・133・ 134・135	本道跡
111	吉井の沢6	遺物包含地	野幌美幸町33ほか	野幌丘陵西縁斜面	縄文早・中～晩期、 縄縄文、縄文	1994・1999範囲確認、2000発掘	111	
112	大塚36	遺物包含地	大塚500、大塚4街503	野幌丘陵西縁斜面 小沢中流右岸	縄文早・中～晩期、 縄縄文	1994範囲確認、2004発掘	122	
113	西野観18	遺物包含地	西野観504	野幌丘陵東縁斜面	不明	1994分布		
114	西野観19	遺物包含地	西野観503、504	野幌丘陵東縁斜面	不明	1994分布		
115	西野観20	遺物包含地	西野観142、145ほか	野幌丘陵東縁斜面	不明	1994分布		
116	下学田11	遺物包含地	西野観154、507	野幌丘陵東縁斜面	不明	1994分布		
117	下学田12	遺物包含地	西野観170、515	野幌丘陵東縁斜面	不明	1994分布		
118	下学田13	遺物包含地	西野観518	野幌丘陵東縁斜面	不明	1994分布		
119	下学田14	遺物包含地	西野観526、527	野幌丘陵東縁斜面	不明	1994分布		
120	荻野沢1	遺物包含地	西野観188	野幌丘陵東縁斜面	不明	1994分布		
121	荻野沢2	遺物包含地	西野観188	野幌丘陵東縁斜面	不明	1994分布		
122	荻野沢3	遺物包含地	西野観188	野幌丘陵東縁斜面	不明	1994分布		
123	荻野沢4	遺物包含地	西野観197、198ほか	野幌丘陵東縁斜面	不明	1994分布		
124	トマン別1	遺物包含地	西野観207、208ほか	野幌丘陵東縁斜面 荻野沢の枝尻右岸	縄文中期	1994分布、2002詳細分布	130	
125	トマン別2	遺物包含地	西野観209	野幌丘陵東縁斜面	不明	1994分布		
126	トマン別3	遺物包含地	西野観220、228	野幌丘陵東縁斜面	不明	1994分布		
127	トマン別4	遺物包含地	西野観213、214ほか	野幌丘陵東縁斜面	不明	1994分布		
128	トマン別5	遺物包含地	西野観209、260ほか	野幌丘陵東縁斜面	不明	1994分布		
129	トマン別6	遺物包含地	西野観247	野幌丘陵東縁斜面	不明	1994分布		
130	トマン別7	遺物包含地	西野観246	野幌丘陵東縁斜面	不明	1994分布		
131	トマン別8	遺物包含地	西野観256	野幌丘陵東縁斜面	不明	1994分布		
132	トマン別9	遺物包含地	西野観256	野幌丘陵東縁斜面	不明	1994分布		
133	道徳池北岸	遺物包含地	道立野幌森林公園内	野幌丘陵西縁斜面	不明	1994分布		
134	トフ山1	遺物包含地	道立野幌森林公園内	野幌丘陵南側斜面	縄文中期	1994分布、2002試掘		
135	大塚27	遺物包含地	大塚北508、609ほか	野幌丘陵西縁斜面	縄文中期	1986試掘		
136	七丁目沢8	遺物包含地	野幌代々木町15	野幌丘陵北西縁 「七丁目沢」左岸	縄文中期	1997範囲確認、1997・2002・ 2003工事立会、2002詳細分布		
137	志文別2	遺物包含地	西野観348、352	野幌丘陵南東斜面	縄文早～晩期	1987所在確認		
138	元江別13	遺物包含地	若草町3ほか	野幌丘陵北側台地 土除(モッシュケ) 川中流縁	縄文早～晩期	2001詳細分布、2004発掘	114・130	
139	志文別3	遺物包含地	西野観605ほか	野幌丘陵南東斜面 志文別川中流左岸	縄文早・中～晩期	2002試掘、2003発掘	118	
140	志文別4	遺物包含地	東野観571	野幌丘陵南東斜面 金太川中流左岸	縄縄文	2004工事立会		

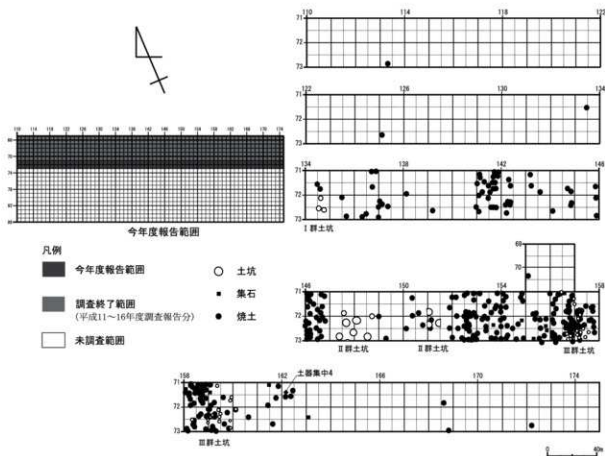
IV 遺構と遺構の遺物

1 記載の方法

図の表現・縮尺等

土坑・焼土断面は40分の1、集石は20分の1、焼土・剥片集中等は80分の1で図化している。遺物の出土状況は、必要に応じて20分の1で図化しているところがある。土坑・集石については個別に掲載した。焼土・剥片集中等は、設定された生活面ごとにまとめて掲載した。

図の表現は、太実線内が現地焼土 30%アミ・廃棄焼土 10%アミ・噴砂60%アミ、炭化物が密な範囲は長点線・疎な範囲は短点線・微細骨片の範囲は点線で示した。灰白色粘土範囲、ベンガラ・赤色化微細線範囲、剥片集中は異なるトーンで示した。焼土内では、焼成の進み具合により太実線→1点破線→2点破線として状況を表した。また、集石は▲で位置を示している。



図IV-1 遺構位置図

2 土坑

概要

今年度報告範囲内においては45基が検出されている。検出位置からⅠ～Ⅲ群の3ヵ所に分けられる。Ⅰ群は134～135線間の3基、Ⅱ群は147～152線間の11基、Ⅲ群は156～161線間の31基である。土坑は土層の状況から検出が難しく、構築面を確認することはできなかった。大きくⅢ群→Ⅱ群→Ⅰ群の順に形成されたと考えられるが、土坑群内における個別の前後関係は切り合い等がないため不明である。

規模は、長径0.5m以下の小型のもの3基、長径0.5～1.0mの中型のもの24基、長径1.0m以上の大型のもの14基、不明のもの4基である。形状は楕円形のもの14基、ほぼ円形のもの28基、未調査等により不明なもの3基である。各群ごとの内訳は表Ⅳ-1・2において示す。この表から、Ⅱ群にはほぼ円形の大型の土坑、Ⅲ群には楕円形からほぼ円形の中型の土坑が集中する傾向が見える。これは以前に行った調査の傾向と同様である。楕円形とした土坑の主軸方向については、特に法則性は見られなかった。

土坑の性格としては、土坑墓の可能性を考えられるものがあったが、明確に墓と断定することができないものはなかった。覆土はほぼ均一なシルトや粘土に少量の炭化物が混入することが多い。人為的に埋め戻されたと判断できるものは少なく、自然に埋没したものが多くと考えられる。

特徴的な土坑としては、平成15年度報告でも検出された土坑上面に焼けた礫の集積されたものが2基(P-165・167)、土坑内で数回にわたリクルミを焼いたと見られるもの(P-179)がある。多くの土坑からは遺物が出土しない。また、出土した土坑でも遺物の多くは埋没時の流れ込みによるものと考えられる。

以下、各群ごとに土坑の事実記載を行う。土坑の規模等については、遺構一覧(表Ⅳ-4)を参照されたい。

Ⅰ群土坑

134～135線間において検出された土坑群。合計3基が検出されている。規模は中型2基・大型1基、形状は楕円形1基・ほぼ円形2基である。これまでの調査からは、この付近から土坑の検出は認められていなかった。P-165・167からは、土坑上面に被熱した礫が集まって検出されている。検出状況からはほぼ同時期に形成されたものと考えられる。構築時期は、縄文文化前半、周囲で行った放射性炭素年代測定結果から補正年代で2,000～2,100y.BP前後と推測される。

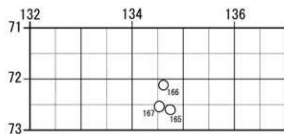
表Ⅳ-1 土坑規模表

	小型 (長径0.5m以下)		中型 (長径0.5～1m)		大型 (長径1m以上)		不明		合計	
	基(群内)	(規模内)	基(群内)	(規模内)	基(群内)	(規模内)	基(群内)	(規模内)	基(群内)	(規模内)
Ⅰ群	0 (0%)	(0%)	2 (67%)	(8%)	1 (33%)	(7%)	0 (0%)	(0%)	3 (100%)	(7%)
Ⅱ群	0 (0%)	(0%)	1 (9%)	(4%)	9 (82%)	(64%)	1 (9%)	(25%)	11 (100%)	(24%)
Ⅲ群	3 (10%)	(100%)	21 (67%)	(88%)	4 (13%)	(29%)	3 (10%)	(75%)	31 (100%)	(69%)
合計	3 (7%)	(100%)	24 (53%)	(100%)	14 (31%)	(100%)	4 (9%)	(100%)	45 (100%)	(100%)

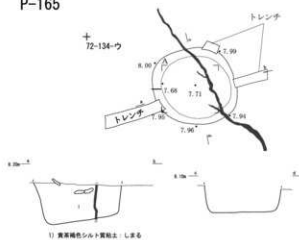
表Ⅳ-2 土坑形状表

	楕円形		ほぼ円形		不明		合計	
	基(群内)	(形状内)	基(群内)	(形状内)	基(群内)	(形状内)	基(群内)	(形状内)
Ⅰ群	1 (33%)	(7%)	2 (67%)	(7%)	0 (0%)	(0%)	3 (100%)	(7%)
Ⅱ群	2 (18%)	(14%)	8 (73%)	(29%)	1 (9%)	(33%)	11 (100%)	(24%)
Ⅲ群	11 (36%)	(79%)	18 (58%)	(64%)	2 (6%)	(67%)	31 (100%)	(69%)
合計	14 (31%)	(100%)	28 (62%)	(100%)	3 (7%)	(100%)	45 (100%)	(100%)

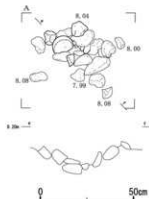
I 群土坑



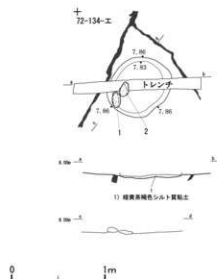
P-165



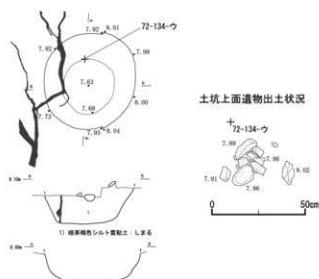
土坑上面遺物出土状況



P-166



P-167



図IV-2 土坑 (1)

2 土坑

P-165 (図IV-2/図版IV-1・8)

72-134-ウを調査中に、被熱した礫・礫片の集中を検出した。トレンチを入れて掘り込みを確認したところ壁面を検出した。

平面形はほぼ円形、規模は中型である。底面は平坦、壁面は急角度に立ち上がりほぼ垂直になる。ほぼ均一な覆土であり、自然に埋没したものと考えられる。礫集中の直下には被熱した面がなく、炭化物も見られないことから、礫はこの場で焼成されたものではなく被熱した礫をここに持ってきたと考えられる。構築面は不明であるが、礫を検出した面よりもやや下と思われる。

土坑上面の礫・礫片の集中からは31点が出土した。全て被熱している。出土した礫・礫片の総重量は7.410gである。使用されている礫は円礫で、石材は安山岩がほとんどである。調査の結果、この被熱した礫の集中はこの土坑に関係するものではなく、自然埋没途中の窪みを利用した可能性がある。

P-166 (図IV-2/図版IV-1)

72-134-エを調査中に被熱した礫2点を検出した。トレンチを入れて確認したところ、浅い掘り込みを検出した。土坑の上部は削平してしまった。

平面形はほぼ円形、規模は中型である。底面は平坦、壁面は上部を削平してしまったために不明である。礫の直下には被熱した面がなく、炭化物も見られないことから、礫はこの場で焼成されたものではなく被熱した礫をここに持ってきたと考えられる。

遺物は礫が2点土坑の底面から出土している。全て被熱している。石材は安山岩である。

P-167 (図IV-2/図版IV-1・8)

72-134-ウを調査中に、被熱した礫・礫片の集中を検出した。周囲には土質の異なる円形のプランが確認され、半裁して壁面・底面を検出した。

平面形はほぼ円形、規模は大型である。底面は平坦、壁面は緩やかに立ち上がる。ほぼ均一な覆土であり、自然に埋没したものと考えられる。礫の集中の直下には被熱した面がなく、炭化物も見られないことから、礫はこの場で焼成されたものではなく被熱した礫をここに持ってきたと考えられる。構築面は不明であるが、礫を検出した面と同じかやや下と思われる。

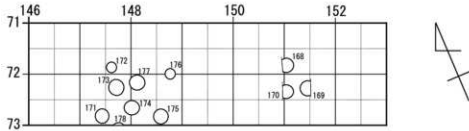
土坑上面の礫・礫片の集中からは32点が出土した。全て被熱している。出土した礫・礫片の総重量は2.745gである。使用されている礫は円礫で、石材は安山岩がほとんどである。調査の結果、この被熱した礫の集中はこの土坑に関係するものではなく、自然埋没途中の窪みを利用した可能性がある。

II 群土坑

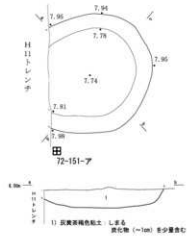
147～152線間において検出された土坑群。合計11基が検出されている。規模は中型1基・大型9基・不明1基、形状は楕円形2基・ほぼ円形8基・不明1基である。特に大型のものが多く、長径1.2mを超える土坑が8基検出されている。

147～149線間の8基(P-171～178)と151～152線間の3基(P-168～170)に分かれる。前者は、『対羅2遺跡(4)・(5)』(北埋調報193・204)で報告した土坑とほぼ同じ南北方向のライン・標高から検出されている。また、規模・形状等が類似しており、一連の土坑群を形成するものであると考えられる。これらは、ほぼ同時期に形成されたものと考えられ、構築時期は純縄文前葉、周囲で行った放射性炭素年代測定結果から補正年代で2,300～2,400y.BP前後と推測される。後者の土坑も前者と同規模・形状等が類似しており、一連の土坑群を形成するものであると考えられる。構築時期は、純縄文前葉、周囲で行った放射性炭素年代測定結果から、前者よりもやや古い2,400y.BP前後と推測される。

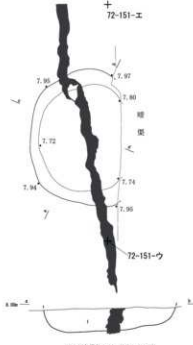
II 群土坑



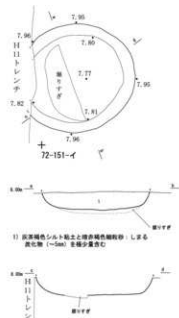
P-168



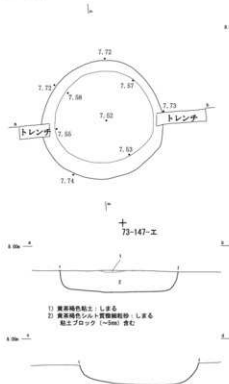
P-169



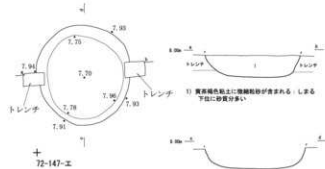
P-170



P-171



P-172



0 1m

図IV-3 土坑 (2)

P-168 (図Ⅳ-3/図版Ⅳ-8)

71-151-イを調査中に、包含層とは異なる土質の円弧状の範囲を検出した。H11年度のトレンチによって西側の一部を削平されている。トレンチの壁面を精査したところ、土坑の壁面・底面を確認した。

平面形はほぼ円形、規模は大型である。底面は平坦、壁面は緩やかに立ち上がる。ほぼ均一な覆土であり、自然に埋没したものと考えられる。構築面は、検出面よりもう少し上位であったと考えられる。遺物は出土していない。

P-169 (図Ⅳ-3/図版Ⅳ-8)

72-151-アを調査中に、包含層とは異なる土質の円弧状の範囲を検出した。暗渠によって東側の一部を削平されている。暗渠の西側壁面を精査したところ、土坑壁面・底面を確認した。

平面形はほぼ円形、規模は大型である。底面は平坦、壁面は緩やかに立ち上がりほぼ垂直になる。ほぼ均一な覆土であり、土器片が混入する。自然に埋没したと考えられる。土坑の中央では、南北に走る幅約10cmの噴砂層により土坑が分断されている。構築面は、検出面よりもう少し上位であったと考えられる。

P-170 (図Ⅳ-3/図版Ⅳ-8)

72-151-アを調査中に、包含層とは異なる土質の円弧状の範囲を検出した。H11年度のトレンチにより、西側の一部を削平されている。トレンチの壁面を精査したところ、土坑の壁面・底面を確認した。

平面形はほぼ円形、規模は大型である。底面は平坦、壁面は緩やかに立ち上がる。ほぼ均一な覆土であり、黒曜石剥片が混入する。自然に埋没したと考えられる。構築面は、検出面よりもう少し上位であったと考えられる。

P-171 (図Ⅳ-3/図版Ⅳ-8)

72-147-ア・イを調査中に、包含層とは異なる土質の円形の範囲を検出した。トレンチを入れて確認したところ、土坑の壁面・底面を検出した。

平面形はほぼ円形、規模は大型である。底面は平坦、壁面は緩やかに立ち上がりほぼ垂直になる。ほぼ均一な覆土であり、礫片が混入する。自然に埋没したものと考えられる。構築面は、検出面の上位から落ち込みのあとが検出されているので、検出面よりもう少し上位であったと考えられる。

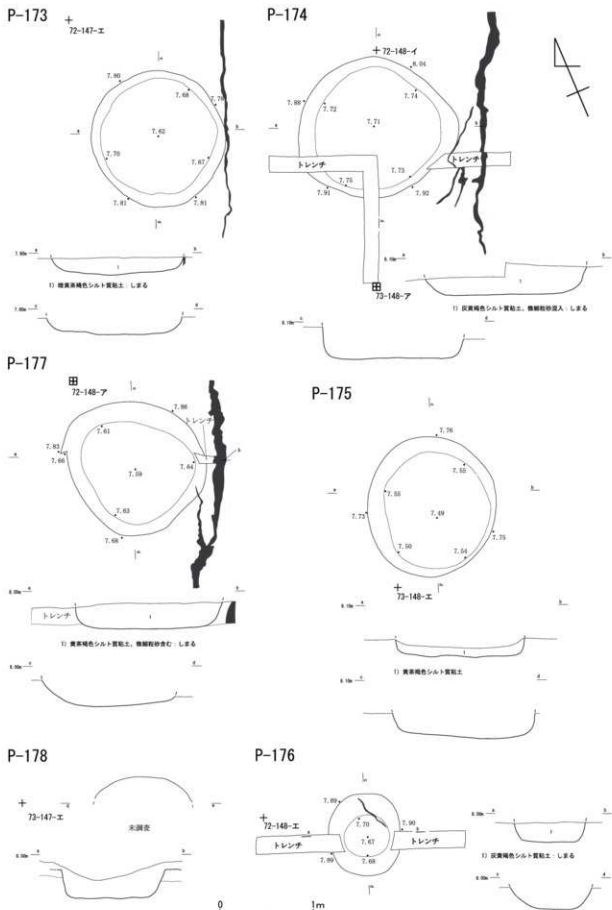
P-172 (図Ⅳ-3/図版Ⅳ-8)

71-147-ウを調査中に、包含層とは異なる土質の円形の範囲を検出した。トレンチを入れて確認したところ、土坑の壁面を検出した。

平面形はほぼ円形、規模は大型である。底面は平坦、壁面は緩やかに立ち上がりほぼ垂直になる。ほぼ均一な覆土であり、自然に埋没したと考えられる。構築面は、検出面よりもう少し上位であったと考えられる。遺物は出土していない。

P-173 (図Ⅳ-4/図版Ⅳ-8)

72-147-エを調査中に、包含層とは異なる土質の円形の範囲を検出した。半截したところ、土坑の壁面・底面を検出した。



図IV-4 土坑 (3)

2 土坑

平面形はほぼ円形、規模は大型である。底面は平坦、壁面は緩やかに立ち上がる。ほぼ均一な覆土であり、自然に埋没したと考えられる。構築面は、検出面よりもう少し上位であったと考えられる。遺物は出土していない。

P-174 (図Ⅳ-4/図版Ⅳ-8)

72-147-ウ、72-148-イを調査中に、包含層とは異なる土質の円形の範囲を検出した。トレンチを入れて確認したところ、土坑の壁面・底面を検出した。

平面形はほぼ円形、規模は大型である。底面は平坦、壁面はほぼ垂直に立ち上がりほぼ垂直になる。ほぼ均一な覆土であり、自然に埋没したと考えられる。構築面は、検出面よりもう少し上位であったと考えられる。遺物は出土していない。

P-175 (図Ⅳ-4/図版Ⅳ-8)

72-148-イ・ウを調査中に、包含層とは異なる土質の円形の範囲を検出した。トレンチを入れて確認したところ、土坑の壁面・底面を検出した。

平面形はほぼ円形、規模は大型である。底面は平坦、壁面は緩やかに立ち上がる。ほぼ均一な覆土であり、礫片が混入する。自然に埋没したと考えられる。調査中に埋没途中の覆土を検出面の0.3mほど上位で確認したが、そこでは構築面を検出できなかった。そのため構築面は、検出面よりもう少し上位であったと考えられる。

P-176 (図Ⅳ-4/図版Ⅳ-8)

71-148-ウ、72-148-エを調査中に、包含層とは異なる土質の楕円形の範囲を検出した。トレンチを入れて確認したところ、土坑の壁面を検出した。

平面形は楕円形、規模は中型である。底面は平坦、壁面は緩やかに立ち上がる。ほぼ均一な覆土であり、自然に埋没したと考えられる。この土坑群の中では小さく、形状も異なるが、同時期のものと推測される。構築面は、検出面よりもう少し上位であったと考えられる。遺物は出土していない。

P-177 (図Ⅳ-4/図版Ⅳ-8)

72-148-アを調査中に、包含層とは異なる土質の円形の範囲を確認した。トレンチを入れたが壁面を確認できず南側を精査したところ、半円形の範囲を確認し、半截して土坑の壁面・底面を検出した。

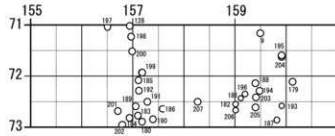
平面形はほぼ円形、規模は大型である。底面は平坦、壁面は緩やかに立ち上がる。ほぼ均一な覆土であり、自然に埋没したと考えられる。構築面は、検出面よりもう少し上位であったと考えられる。遺物は出土していない。

P-178 (図Ⅳ-4/図版Ⅳ-8)

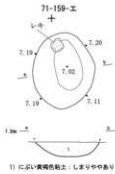
72-147-ウを調査中に、包含層とは異なる土質の半円形の範囲を検出した。73線東西方向地層断面にかかっているため北側のみを調査して、73線以南は次年度以降の調査とした。

平面形・規模は調査途中のため不明である。断面から底面は平坦で、壁面は急角度に立ち上がる。ほぼ均一な覆土であり、自然に埋没したのと考えられる。断面の観察から、構築面はほぼこの位置でよいと思われるが、埋没時に多少の削平を受けた可能性は考えられる。遺物は出土していない。

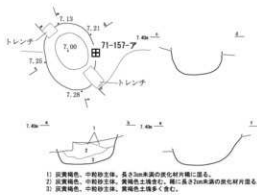
Ⅲ 群土坑



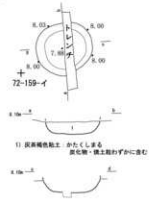
P-9



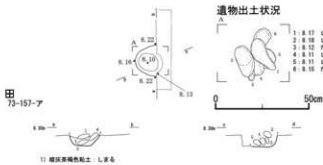
P-128



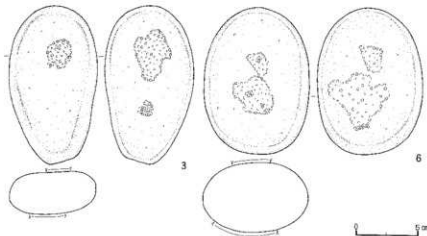
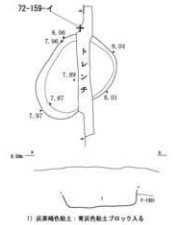
P-181



P-180



P-182



図IV-5 土坑(4)

Ⅲ群土坑

156～161線間において検出された土坑群。合計31基が検出されている。規模は小型3基・中型21基・大型4基・不明3基、形状は楕円形11基・ほぼ円形18基・不明2基である。壁面がP-194・196・200・206の様に、フラスコ状の形状をするものが見られる。Ⅱ群に比べて中型のものが多く検出されている。

『対雁2遺跡(2)・(4)』(北理調報160・193)において報告された153～161線間の土坑群と分布域・規模・形状が類似していることから、一連の土坑群を形成するものであると考えられる。これらが形成された時期は、土坑上部が削平されているので正確さは欠くが、縄文晩期後葉、周囲で行った放射性炭素年代測定結果から補正年代で2,400～2,600y.BP前後と推測される。

P-9 (図Ⅳ-5/図版Ⅳ-9)

H11年度に調査を行った。71-159-アエを調査中に、包含層とは異なる土質の楕円形の範囲を確認した。半裁して調査を行ったところ、土坑の壁面・底面を検出した。

平面形は楕円形、規模は中型である。底面はボウル状、壁面は緩やかに立ち上がる。土坑北側の底面から凝灰岩の礫が1点出土している。ほぼ均一な覆土であり、自然に埋没したと考えられる。構築面は、検出面よりもう少し上位と考えられる。

P-128 (図Ⅳ-5/図版Ⅳ-9)

H14年度に報告済みである。今回の調査範囲にかかることから再掲載した。詳細については『対雁2遺跡(4)』(北理調報193)を参照願いたい。

P-179 (図Ⅳ-6/図版Ⅳ-2～4)

72-160-アを調査中に、被熱して赤色化した焼土と炭化物が、線状に円周する状況を確認した。焼土面を検出しながら半裁したところ、一面の焼土と多量のクルミが炭化している状況が検出された。焼土面を検出し図化した後に、トレンチによって焼土の断面を確認した。およそ3回にわたり土坑内において多量のクルミを焼いていたことが確認された。5層の焼土面などから被熱した礫・礫片が10点出土しているほか、土器片12点、黒曜石剥片3点が出土している。

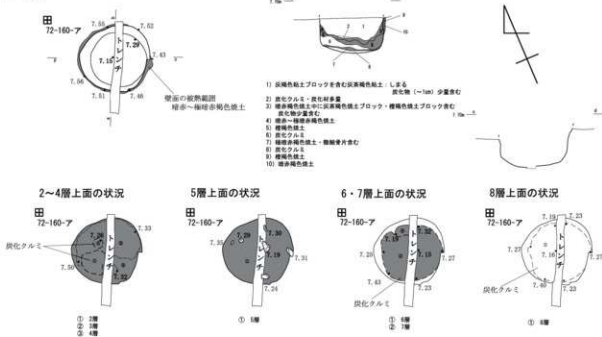
平面形はほぼ円形、規模は中型である。底面は平坦、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。土坑内においてクルミを焼いて土をかけ、また使用することを繰り返した後、自然に埋没したと考えられる。構築面は、周囲の包含層に炭化したクルミが広がる面と検出面とがほぼ同じ標高であることから、検出面とはほぼ同じと考えられる。

土坑内の焼土・炭化物をフローテーションにかけた結果、炭化クルミが2～5層336.4g、6・7層1786.3g、8層16.9g、その他9.4g、計2149.0gが検出された。採取の際にはなるべく塊で採るようにしたが、炭化クルミに完形のものはなく、大きくても半完形、ほとんどが径1cm以下の砕片であった。これらを検出した層別にAMS法による放射性炭素年代測定を行った結果、補正年代で2～5層2430±40y.BP、6・7層2470±30y.BP、8層2480±30y.BPという結果が得られた(Ⅵ章)。

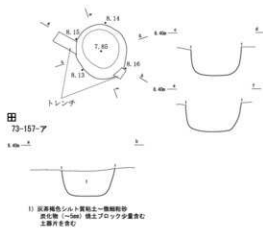
P-180 (図Ⅳ-5/図版Ⅳ-5・9)

72-157-イを調査中に、礫が集まって検出された。土坑の可能性を考慮してトレンチを入れたところ、土坑の壁面を検出した。その際に東側半分を削平してしまった。礫は西側の壁面に沿うように6点出土した。礫は被熱していない。礫を充填した土坑と考えられる。

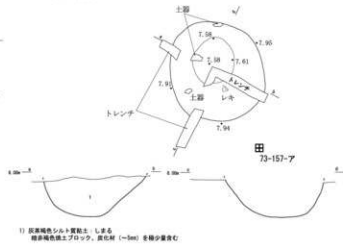
P-179



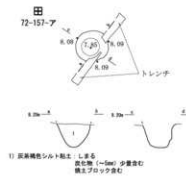
P-183



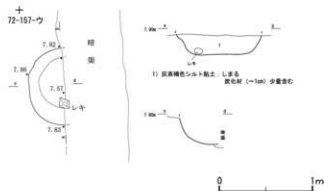
P-184



P-185



P-186



図IV-6 土坑(5)

2 土坑

平面形は上部を削平してしまったが楕円形と見られ、規模は小型である。底面は平坦、壁面は緩やかに立ち上がる。構築面は、検出面よりもう少し上位であったと思われる。

遺物はたたき石2点、礫4点、黒曜石剥片1点が出土している。3・6はともにたたき石で、扁平な棒状礫の腹背部に敲打痕のあるもの。礫・礫石器の石材は、すべて安山岩である。

P-181 (図Ⅳ-5/図版Ⅳ-10)

72-159-アを調査中に、F-1351(72-159-ア③)を切る円形の範囲を確認した。トレンチを入れて土坑の壁面・底面を検出した。

平面形はほぼ円形、規模は中型である。底面は平坦、壁面は緩やかに立ち上がる。ほぼ均一な覆土であり、自然に埋没したと考えられる。焼土を切って構築されていることから、構築面は検出面よりもう少し上位であったと考えられる。遺物は出土していない。

P-182 (図Ⅳ-5/図版Ⅳ-10)

72-159-アを調査中に、F-1351(72-159-ア③)を切る円弧状の範囲を確認した。トレンチを入れて土坑の壁面・底面を検出した。159線南北セクションにかかっていたため、72-158-エ側とは分けて調査を行った。

平面形は楕円形、規模は中型である。底面は平坦、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。ほぼ均一な覆土であり、黒曜石剥片が混入している。自然に埋没したと考えられる。159線南北方向地層断面の観察から、構築面は検出面よりもう少し上位である。

P-183 (図Ⅳ-6/図版Ⅳ-10)

72-157-イを調査中に、F-1362(72-157-イ④)を切る円形の範囲を確認した。トレンチを入れて土坑の壁面を検出した。

平面形はほぼ円形、規模は中型である。底面は平坦、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。ほぼ均一な覆土だが、やや下位に砂質が多い。自然に埋没したと考えられる。構築面は、検出面よりもう少し上位であると考えられる。覆土中に土器片や礫片が混入するが、流れ込んだものである。

P-184 (図Ⅳ-6/図版Ⅳ-10)

72-156-ウを調査中に、F-1345(72-156-ウ⑦)が凹んだ状態で検出されたため、トレンチを入れて確認したところ、土坑の壁面を検出した。調査の結果、F-1345は土坑とは関係がないと考えられる。

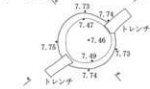
平面形はほぼ円形、規模は大型である。底面はボウル状、壁面は緩やかに立ち上がる。ほぼ均一な覆土だが、暗赤褐色焼土ブロックと炭化物が少量混入する。周囲の焼土からの流入と考えられ、自然に埋没したと考えられる。構築面は、検出面よりもう少し上位であると考えられる。覆土中に土器片や礫片が混入するが、焼土ブロック同様流れ込んだものである。

P-185 (図Ⅳ-6/図版Ⅳ-10)

72-157-アを調査中に、F-1374(72-157-ア⑥)を切る円形の範囲を確認した。トレンチを入れて土坑の壁面・底面を検出した。F-1374に付属する小ピットの可能性もあるが、規模がやや大きいため土坑とした。

平面形はほぼ円形、規模は小型である。底面はボウル状、壁面は急角度に立ち上がる。ほぼ均一な

P-187



0.5m

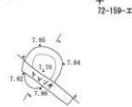


0.5m



- 1) 灰黄褐色シルト質粘土、かたくしまる
炭化材 (~5cm) 盛土ブロック少量あり

P-188



0.5m

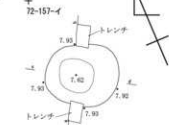


0.5m



- 1) 灰黄褐色粘土、
暗赤褐色粘土ブロック、炭化材 (~1cm) 混入する
少量あり

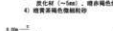
P-189



0.5m

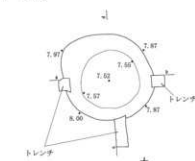


0.5m



- 1) 暗灰褐色シルト、しまる
炭化材、暗赤褐色粘土ブロック混入
2) 暗赤褐色粘土がブロック状に入る (P-187)
3) 暗灰黄褐色粘砂質粉砂
炭化材 (~5cm)、暗赤褐色粘土ブロック混入
4) 暗赤褐色粘砂質粉砂

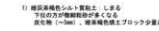
P-190



0.5m

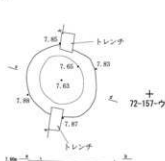


0.5m



- 1) 暗灰褐色シルト質粘土、しまる
下部の方が粘砂質が多くなる
炭化材 (~5cm)、暗赤褐色粘土ブロック少量あり

P-191



0.5m

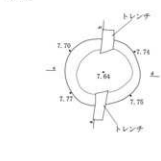


0.5m



- 1) 灰黄褐色シルト、炭砂質粉砂
暗赤褐色粘土ブロック、炭化材 (~5cm) 混入

P-192



0.5m

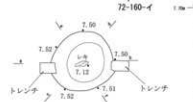


0.5m



- 1) 灰黄褐色粘砂質粉砂
暗赤褐色粘土ブロック、炭化材 (~5cm) 少量混入する

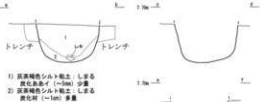
P-193



0.5m



0.5m



0.5m



0.5m



- 1) 灰黄褐色シルト粘土、しまる
炭化材あり (~1cm) 少量
2) 灰黄褐色シルト粘土、しまる
炭化材 (~1cm) 少量

0 1m

図IV-7 土坑 (6)

2 土坑

覆土であり、土器片や炭化物が少量混入する。自然に埋没したと考えられる。構築面は、検出面よりもう少し上位であると考えられる。

P-186 (図Ⅳ-6/図版Ⅳ-11)

72-157-ウを調査中に、東側を暗渠によって削平された半円形の土質の異なる範囲を確認した。暗渠の西側壁面を精査したところ、土坑の壁面・底面を検出した。

平面形は残存部からほぼ円形、規模は中型と考えられる。底面は平坦、壁面は緩やかに立ち上がる。ほぼ均一な覆土であり、焼成粘土塊・炭化物が少量混入する。自然に埋没したと考えられる。構築面は、検出面よりもう少し上位であると考えられる。南側底面から台石片が1点出土している。

P-187 (図Ⅳ-7/図版Ⅳ-5)

72-159-ウを調査中に、F-1372(72-159-ウ⑤)を切る円形の範囲を確認した。トレンチを入れて確認したところ、土坑の壁面を検出した。調査の結果、F-1372は土坑とは関係がないと考えられる。

平面形はほぼ円形、規模は中型である。底面は平坦、壁面は急角度に立ち上がりほぼ垂直になる。ほぼ均一な覆土だが、暗赤褐色焼土ブロックと炭化物が少量混入する。構築面周囲の焼土からの流入と考えられ、自然に埋没したと考えられる。構築面は、検出面よりもう少し上位であると考えられる。覆土中に土器片が混入するが、流れ込んだものである。

P-188 (図Ⅳ-7/図版Ⅳ-10)

72-159-アを調査中に、炭化物を多く含む円形の範囲を確認した。トレンチを入れて確認したところ、土坑の壁面・底面を検出した。

平面形は楕円形、規模は中型である。底面は平坦、壁面は緩やかに立ち上がりほぼ垂直になる。覆土には自然に埋没した際に構築面周囲から流入したと考えられる、暗赤褐色焼土ブロックと炭化物、土器片・頁岩剥片・礫片が混入する。構築面は、検出面よりもう少し上位であると考えられる。

P-189 (図Ⅳ-7/図版Ⅳ-11)

72-157-イを調査中に、F-1392(72-157-イ⑥)が凹みに落ち込んで行く状況が確認されたことから、トレンチを入れて確認したところ、土坑の壁面を検出した。

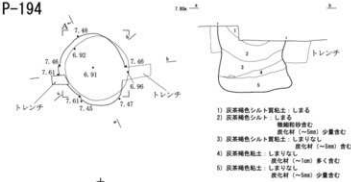
平面形は楕円形、規模は中型である。底面はボウル状、壁面は緩やかに立ち上がる。暗赤褐色焼土ブロックと炭化物が少量混入する。自然埋没の途中の3層上面でF-1392が形成されたと考えられる。構築面は、検出面とほぼ同じと考えられる。3層上面から土器片を検出するが、F-1392形成時のものである。

P-190 (図Ⅳ-7/図版Ⅳ-11)

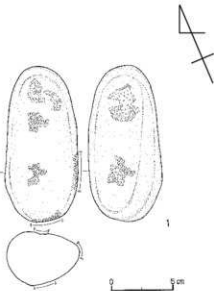
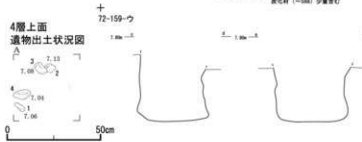
72-157-イを調査中に、包含層とは異なる土質の円形の範囲を検出した。トレンチを入れて確認したところ、土坑の壁面を検出した。

平面形はほぼ円形、規模は大型である。底面は平坦、壁面は緩やかに立ち上がりほぼ垂直になる。ほぼ均一な覆土だが、やや下位に砂質分が多く見られる。自然に埋没したと考えられる。構築面は、検出面よりもう少し上位と考えられる。覆土から土器片・頁岩剥片が出土しているが、流れ込んだものと考えられる。

P-194



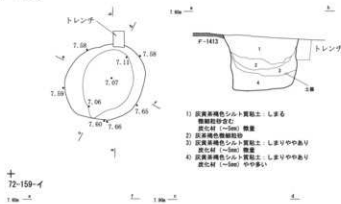
- 1) 灰黄褐色シルト質粘土、しまる
層状砂を含む
炭化材 (-5cm) 少量含む
- 2) 灰黄褐色シルト質粘土、しまる
炭化材 (-5cm) 少量含む
- 3) 灰黄褐色シルト質粘土、しまりなし
炭化材 (-5cm) 含む
- 4) 灰黄褐色粘土、しまりなし
炭化材 (-1cm) 多く含む
しまりなし
- 5) 灰黄褐色粘土、しまりなし
炭化材 (-5cm) 少量含む

4層上面
遺物出土状況図

P-195

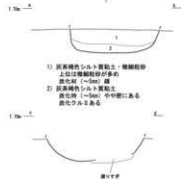
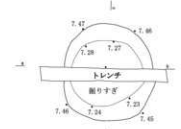
71-160-イ

P-196



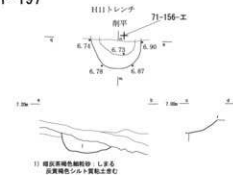
- 1) 灰黄褐色シルト質粘土、しまる
層状砂を含む
炭化材 (-5cm) 微量
- 2) 灰黄褐色シルト質粘土、しまりややあり
炭化材 (-5cm) 微量
- 3) 灰黄褐色シルト質粘土、しまりややあり
炭化材 (-5cm) 中多量

72-159-イ



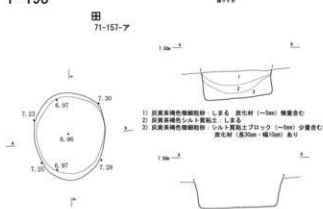
- 1) 灰黄褐色シルト質粘土、層状砂
上には層状砂が多い
炭化材 (-5cm) 微量
- 2) 灰黄褐色シルト質粘土
炭化材 (-5cm) 中やや多量
炭化材も多量

P-197



- 1) 暗灰黄褐色粘板砂、しまる
灰黄褐色シルト質粘土を含む

P-198



- 1) 灰黄褐色粘板砂、しまる、炭化材 (-5cm) 微量含む
- 2) 灰黄褐色シルト質粘土、しまる
シルト質粘土ブロック (-5cm) 少量含む
- 3) 灰黄褐色粘板砂、しまる、炭化材 (長30cm・幅10cm) 含む

図IV-8 土坑 (7)

P-191 (図IV-7/図版IV-11)

72-157-ア・イを調査中に、焼土ブロック・炭化物を含む円形の範囲を検出した。トレンチを入れて確認したところ、土坑の壁面を検出した。

平面形はほぼ円形、規模は中型である。底面は平坦、壁面は緩やかに立ち上がる。覆土には暗赤褐色焼土ブロック・炭化物が少量含まれ、ほぼ均一である。構築面付近の焼土や炭化物、土器片とともに、自然に埋没したと考えられる。検出状況から構築面はもう少し上位と考えられる。

P-192 (図IV-7/図版IV-11)

72-157-アを調査中に、土器片が立った状態で検出されたため周囲を精査したところ、周囲とは土質の異なる円形の範囲を検出した。トレンチを入れて確認したところ、土坑の壁面を検出した。

平面形はほぼ円形、規模は中型である。底面は平坦、壁面は緩やかに立ち上がる。覆土には暗赤褐色焼土ブロック・炭化物が少量含まれ、ほぼ均一である。構築面付近の焼土や炭化物、土器片とともに、自然に埋没したと考えられる。検出状況から構築面はもう少し上位と考えられる。

P-193 (図IV-7/図版IV-5・12)

72-159-ウを調査中に、炭化物を少量含む土質の異なる円形の範囲を検出した。トレンチを入れて確認したところ、土坑の壁面を検出した。

平面形はほぼ円形、規模は中型である。底面は平坦、壁面は緩やかに立ち上がりほぼ垂直となる。底面上の覆土2層には炭化物が多量に含まれ、礫が1点出土している。構築面付近の炭化物や土器片・焼成粘土塊・頁岩剥片・礫片とともに、自然に埋没したと考えられる。検出状況から構築面はもう少し上位であると考えられる。

P-194 (図IV-8/図版IV-5・12)

72-159-エを調査中に、炭化物を少量含む土質の異なる円形の範囲を検出した。トレンチを入れて確認したところ、土坑の壁面を検出した。

平面形はほぼ円形、規模は中型である。底面は平坦、壁面は急角度に立ち上がり、フラスコ状となる。覆土4層には炭化物が多量に含まれ、3層と4層の層界には土器片1点・黒曜石剥片1点・礫・礫石器6点が出土している。3層以上は自然埋没と見られるが、4層以下は埋め戻された可能性がある。検出状況から構築面はもう少し上位であったと考えられる。土坑墓の可能性はある。

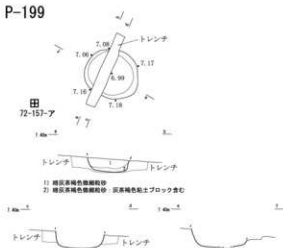
1はたたき石。棒状礫の端部と腹背部に敲打痕のあるもの。

P-195 (図IV-8/図版IV-12)

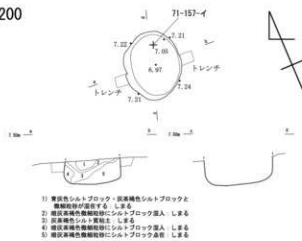
71-159-ウを調査中に、炭化物を少量含む土質の異なる円形の範囲を検出した。トレンチを入れて確認したところ、土坑の壁面・底面を検出した。

平面形はほぼ円形、規模は大型である。底面は平坦、壁面は緩やかに立ち上がりほぼ垂直になる。覆土2層には炭化クルミを含む炭化物が多く検出される。構築面付近の炭化物が流れ込んだものと思われる。検出状況から、構築面はもう少し上位と考えられる。覆土からは土器片・黒曜石剥片・礫片が検出されるが、流れ込んだものと考えられる。

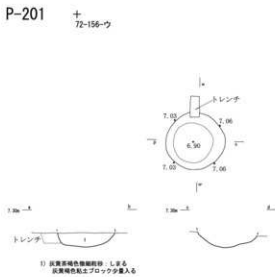
P-199



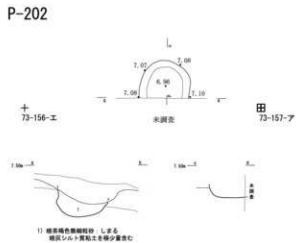
P-200



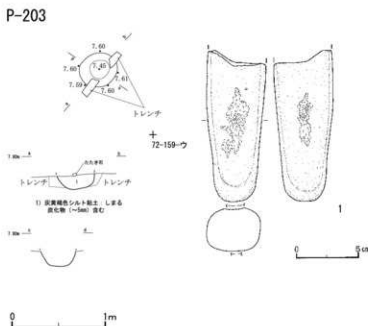
P-201



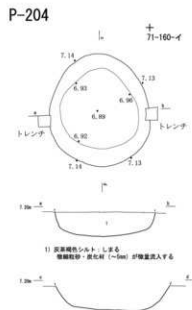
P-202



P-203



P-204



図IV-9 土坑(8)

P-196 (図IV-8/図版IV-13)

72-159-アを調査中に、F-1413(72-159-ア④)を切る円形の範囲を検出した。トレンチを入れて確認したところ、土坑の壁面を検出した。

平面形は楕円形、規模は中型である。底面は平坦、壁面は急角度に立ち上がり、フラスコ状となる。覆土には炭化物を少量含む。自然に埋没したものと考えられる。検出状況から構築面はもう少し上位と考えられる。覆土からは土器片・焼成粘土塊・黒曜石剥片・頁岩剥片・礫片が検出されるが、流れ込んだものと考えられる。

P-197 (図IV-8/図版IV-13)

平成13・14年度調査範囲との境界壁面において土坑の壁面・底面を確認した。このことから、71-156-ア・エの調査において精査したところ、土質の異なる半円形の範囲を検出した。

土坑北側は削平されてしまったため、平面形・規模は不明である。底面は平坦、壁面は緩やかに立ち上がりほぼ垂直になる。71線東西方向地層断面の観察から、土坑の上部は土層の侵食面によって削平されていることが確認された。このことから、構築面はもう少し上位と考えられる。覆土はほぼ均一で、自然に埋没したものと考えられる。遺物は検出されていない。

P-198 (図IV-8/図版IV-13)

71-156-エを調査中に、土質の異なる円形の範囲を検出した。半截して土坑の壁面・底面を確認した。

平面形は楕円形、規模は中型である。底面は平坦、壁面は急角度に立ち上がりほぼ垂直になる。覆土2層と3層の層界に炭化材が検出されているが、構築面付近の炭化物が流れ込んだものと思われる。検出状況から構築面はもう少し上位と考えられる。遺物は出土していない。

P-199 (図IV-9/図版IV-13)

71-157-イを調査中に、土質の異なる円形の範囲を検出した。トレンチを入れて確認したところ、土坑の壁面・底面を検出した。

平面形はほぼ円形、規模は中型である。底面は平坦、壁面は緩やかに立ち上がりほぼ垂直となる。覆土はほぼ均一な微細粒砂であり、自然に埋没したと考えられる。検出状況から構築面はもう少し上位と考えられる。遺物は出土していない。

P-200 (図IV-9/図版IV-13)

71-156-ウ・エ、71-157-ア・イを調査中に、土質の異なる楕円形の範囲を検出した。トレンチを入れて確認したところ、土坑の壁面を検出した。

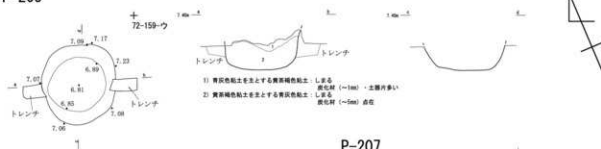
平面形は楕円形、規模は中型である。底面は平坦、壁面は急角度に立ち上がりフラスコ状になる。覆土は堆積状況から5層に分層されるが、自然に埋没したと考えられる。土器片が混入する。検出状況から構築面はもう少し上位と考えられる。

P-201 (図IV-9/図版IV-13・14)

72-156-ウを調査中に、土質の異なる円形の範囲を検出した。トレンチを入れて確認したところ、土坑の壁面を検出した。

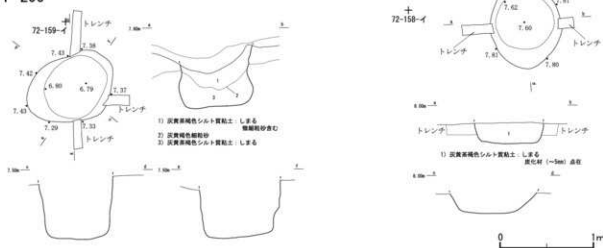
平面形はほぼ円形、規模は中型である。底面は平坦、壁面は緩やかに立ち上がる。覆土はほぼ均一

P-205



P-207

P-206



図IV-10 土坑 (9)

で、自然に埋没したと考えられる。検出状況から構築面はもう少し上位と考えられる。遺物は出土していない。

P-202 (図IV-9・図版IV-14)

72-156-ウを調査中に、73線東西方向地層断面にかかる状況で土質の異なる半円形の範囲を検出した。73線を断面として半截したところ、土坑の壁面・底面を検出した。

南側未調査のため、平面形・規模は不明である。断面観察から底面はボウル状、壁面は緩やかに立ち上がりフラスコ状になる。壁面上部が侵食面に削平されていることが観察できるので、構築面はもう少し上位と考えられる。覆土はほぼ均一で、自然に埋没したと考えられる。遺物は出土していない。

P-203 (図IV-9・図版IV-14)

72-159-アを調査中に、土質の異なる円形の範囲を検出した。トレンチを入れて確認したところ、土坑の壁面を検出した。

平面形はほぼ円形、規模は小型である。底面は平坦、壁面は緩やかに立ち上がる。覆土はほぼ均一で、炭化物・土器片・礫片が少量混入する。検出状況から構築面はもう少し上位と考えられる。土坑検出面からたたき石片が出土している。土坑に伴うかどうかは不明。

1 はたたき石片。棒状礫の腹背部に敲打痕のあるもの。

3 集石

P-204 (図IV-9/図版IV-14)

71-159-ウを調査中に、土質の異なる円形の範囲を検出した。トレンチを入れて確認したところ、土坑の壁面を検出した。

平面形はほぼ円形、規模は大型である。底面は平坦、壁面は緩やかに立ち上がり急角度となる。覆土はほぼ均一で、炭化物を微量含む。自然に埋没したと考えられる。検出状況から構築面はもう少し上位と考えられる。遺物は出土していない。

P-205 (図IV-10/図版IV-15)

71-159-イを調査中に、炭化物を多く含む円形の落ち込みを検出した。トレンチを入れて確認したところ、土坑の壁面を検出した。

平面形はほぼ円形、規模は中型である。底面は平坦、壁面は緩やかに立ち上がりほぼ垂直になる。覆土1層には炭化物や土器片・黒曜石剥片が多く混入しているが、自然に埋没した際に流れ込んだものと考えられる。検出状況から構築面はもう少し上位と考えられる。

P-206 (図IV-10/図版IV-15)

71-159-イの159線南北方向断面付近を調査中に、周囲とは異なり炭化物が検出されないセクション面にかかる半円形の範囲を検出した。断面に沿ってトレンチを入れたところ、土坑の壁面を検出した。南北方向断面の調査後、残る西側部分を調査した。

平面形は楕円形、規模は中型である。底面は平坦、壁面は緩やかに立ち上がりフラスコ状になる。覆土はほぼ均一であり、土器片・焼成粘土塊・礫片が混入する。自然に埋没したと考えられる。159線南北方向地層断面の観察から土坑上面が削平されているので、構築面はもう少し上位と考えられる。

P-207 (図IV-10/図版IV-15)

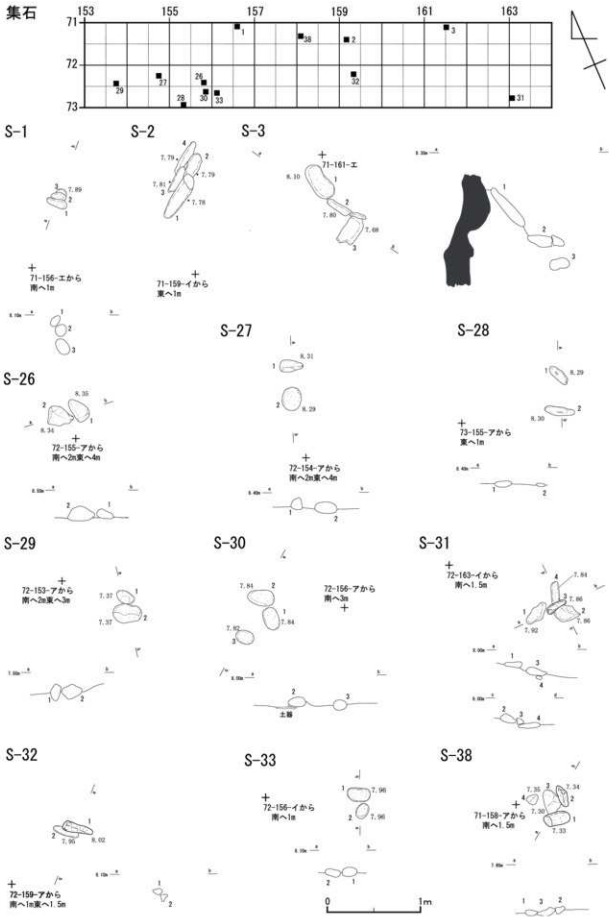
72-158-ア・イを調査中に、土質の異なる円形の範囲を検出した。トレンチを入れて確認したところ、土坑の壁面を検出した。

平面形は楕円形、規模は中型である。底面は平坦、壁面は緩やかに立ち上がりほぼ垂直になる。覆土はほぼ均一で、炭化物・土器片が混入する。自然に埋没したと考えられる。検出状況から構築面はもう少し上位と考えられる。

3 集石

複数の礫が集まって検出されたものを集石として扱っている。今年度報告範囲において12カ所を検出している。すべて拳大から人頭大の礫・礫石器が2～4点集まって検出されている。P-165・167において検出された被熱した礫・礫片の集中も集石の一種と考えられる。石材は安山岩や砂岩が多い。検出された礫の平均は、長径13.7cm・短径9.0cm・厚さ5.5cm・重さ565.1gである。S-27・28・29から検出された6点が被熱していた。

遺跡やその周囲からは、河川堆積に由来する泥岩の小礫以外に礫が出土することはない。これらの礫・礫石器は、他の場所から持ち込まれたものであると考えられる。このことについては、土坑や包含層から出土する礫・礫石器も同様であろうと考えられる。各集石から検出された礫・礫石器の大きさ等の詳細



図IV-11 集石

については表IV-2を参照されたい。なお、S-1～3については平成11年度に報告済みであるので、検出状況図のみ再掲し、遺物実測図・写真は『対雁2遺跡(1)』(北埋調報147)を参照願いたい。

検出位置については、焼土とともに生活面別の図に▲で掲載するとともに、1/20で詳細図を掲載した。

S-1 (図IV-11)

平成11年度のトレンチ調査において71-156-エを調査中に拳大の円礫・棒状礫3点が検出された。上下方向に重なって検出されたことから土坑の可能性が考えられたが、掘り込み等は確認できず集石とした。

遺物は礫が出土している。詳細については『対雁2遺跡(1)』(北埋調報147)において、実測図・写真が報告されているので、そちらを参照願いたい。

S-2 (図IV-11)

平成11年度のトレンチ調査において71-159-アを調査中に棒状礫4点が検出された。同一方向に向けて集まって検出されたことから、袋のようなものに入れてあった可能性がある。

遺物は石斧未製品、たたき石、台石片、礫が出土している。詳細については『対雁2遺跡(1)』(北埋調報147)において、実測図・写真が報告されているので、そちらを参照願いたい。

S-3 (図IV-11)

平成11年度のトレンチ調査において71-161-エを調査中に拳大の棒状礫3点が検出された。上下差があるが、東側にある噴砂によって持ち上げられたものと考えられる。

遺物はたたき石、台石片、礫が出土している。詳細については『対雁2遺跡(1)』(北埋調報147)において、実測図・写真が報告されているので、そちらを参照願いたい。

S-26 (図IV-11/図版IV-15)

72-155-エ①面(生活面124)を調査中に拳大の扁平礫2点が検出された。掘り込み等の可能性を考慮し、トレンチを入れて周囲の精査・断面確認を行ったが、検出されなかった。

出土した礫には、特に使用された痕跡は見られない。石材は、1が安山岩と2が砂岩。

S-27 (図IV-11・12/図版IV-15)

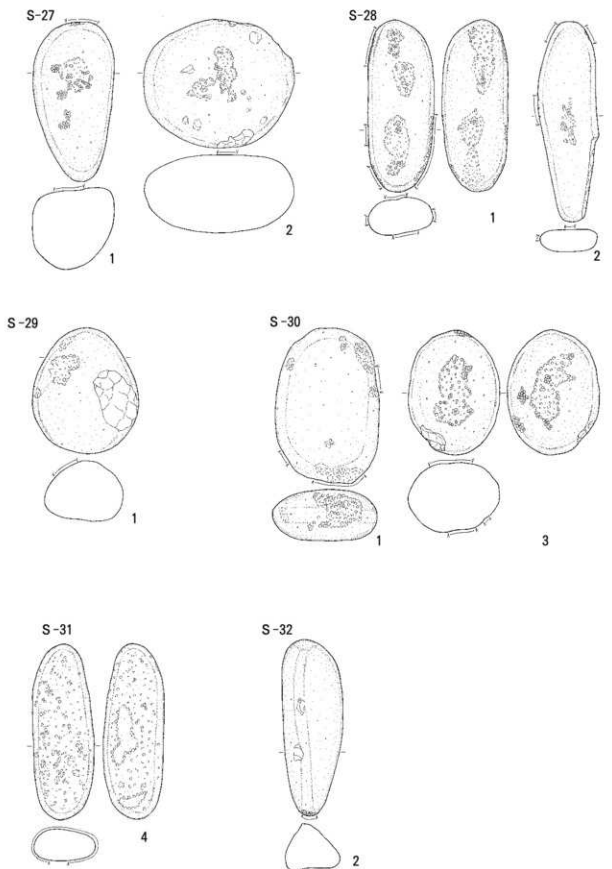
72-154-エ①面(生活面124)を調査中に拳大の扁平礫2点が検出された。掘り込み等の可能性を考慮し、トレンチを入れて周囲の精査・断面確認を行ったが、検出されなかった。

1は棒状礫の端部と腹背部に敲打痕があるたたき石、2は扁平礫の腹背部に敲打痕がある台石。2点共に被熱している。石材は、ともに安山岩。

S-28 (図IV-11・12/図版IV-16)

72-155-イ①面(生活面124)を調査中に棒状の扁平礫2点が検出された。掘り込み等の可能性を考慮し、周囲の精査・断面確認を行ったが、検出されなかった。

1・2は扁平な棒状礫の周縁部と腹背部に敲打痕があるたたき石。2点共に被熱している。石材は、1は安山岩、2は砂岩。



図IV-12 集石の遺物

S-29 (図IV-11・12/図版IV-16)

72-153-エ⑥面(生活面167)を調査中に拳大の扁平礫2点が検出された。掘り込み等の可能性を考慮し、周囲の精査・断面確認を行ったが、検出されなかった。石材は、2点とも安山岩。

1は扁平礫の腹背部に敲打痕があるたたき石。出土した2点共に被熱している。

S-30 (図IV-11/図版IV-5・16)

72-155-ウ⑥面(生活面167)を調査中に、一括土器(図V-6-8、図版V-2-8)とともに拳大の扁平礫3点が検出された。土器の底部周縁に置かれていたのかと考えられたが、集石の下からも土器片が出土することから、土器の内部に入っていた可能性が考えられる。周囲には炭化物が広がっている。掘り込みの可能性を考慮して、上面の土器を取上げた後に周囲の精査・断面確認を行ったが、検出されなかった。石材は、3点とも安山岩。

1は扁平礫の周縁部に敲打痕があるたたき石。3は扁平礫の周縁部に敲打痕があるたたき石。

S-31 (図IV-11・12/図版IV-16)

72-163-ア③面(生活面235)を調査中に、棒状礫や扁平礫が4点集まって検出された。掘り込み等の可能性を考慮し周囲の精査、トレンチを入れての断面確認を行ったが、検出されなかった。

4は扁平な棒状礫のほぼ全体に敲打痕があるたたき石。石材は1・4が砂岩、2・3が安山岩。

S-32 (図IV-11・12/図版IV-16)

72-159-ア⑦面(生活面235)を調査中に、棒状礫が2点集まって検出された。掘り込み等の可能性を考慮して周囲の精査を行ったが、検出されなかった。石材は、2点とも安山岩。

2は棒状礫の端部に敲打痕があるたたき石。

S-33 (図IV-11・12/図版IV-16)

72-156-イ④面(生活面163)を調査中に、扁平礫が2点集まって検出された。掘り込み等の可能性を考慮して周囲の精査、トレンチを入れて断面確認を行ったが、検出されなかった。同じ面から同様の礫が検出されており関連性が考えられるが、詳細は不明。遺物には、特に使用した痕跡は認められない。石材は2点とも安山岩。

S-38 (図IV-11/図版IV-17)

72-156-イ④面(生活面269)を調査中に、棒状礫・扁平礫が4点集まって検出された。掘り込み等の可能性を考慮して周囲の精査、トレンチを入れて断面確認を行ったが、検出されなかった。出土した遺物には、特に使用した痕跡は認められなかった。石材は4点とも安山岩。

4 焼土

焼土は平成11・16・17年度調査において、合計324ヵ所が検出されている。焼土の検出される範囲は136線以東に多く分布し、136～138線間・141～142線間・146～147線間・152～155線間・156～159線間の北東-南西方向に大きな分布範囲が確認できる。この傾向はⅢ章で見た層面において、大きな侵食が少なく平坦な休止面の続く時期と重なるようである。このことから、焼土は平坦な所ばかりではなく、斜度のきつい斜面にも形成されることがあるものの、川辺に安定して平坦な地表面が現れたと考えられる時期に多く形成されたようである。この時期に水成層と見られる薄い堆積層を挟んで、焼土が重なって検出される状況が見られる。

焼土の調査ではF-1268(図Ⅳ-13・図版Ⅵ-7)に見られるように、焼成面の上面に焼土粒や炭化物・微細骨片の混入する層(灰層)がある。それらが確認できた際には、その範囲を記録したのちに土層観察用のベルトを残して焼成面の検出を行った。焼土は全てについて表面観察・断面観察を行った。ほとんどの焼土における表面の土壌を採取し、フローテーション処理により内容物の収集を行っている。フローテーション成果については表Ⅳ-7を参照されたい。焼土の平面図については、生活面ごとに1/80で掲載した。焼土は、現地・廃棄の別を実線内のアミの濃度によって区別し、濃いものを現地、薄いものを廃棄としている。また、写真図版においては代表的なものをカラーで掲載し、焼土の検出・焼成状況を把握する一助とした。焼土の断面は、代表的なものを図Ⅳ-43に掲載している。

焼土については大きく2つに分類している。その場で焼成された現地性のもの243ヵ所、本来の焼土の位置から移動していると見られる廃棄のもの77ヵ所、未調査などで不明なもの4ヵ所である。廃棄のものについては、現場で調査員が表面観察・断面観察等により、現地での焼成が見られないと判断したものである。現地での表面観察やフローテーション成果により微細骨片が検出したもの100ヵ所、クルミの炭化物が得られたもの178ヵ所がある。

特徴的な焼土としては焼土上面に掻き出し跡が確認できるもの、熱を受けたと見られる粗粒砂が焼土上面にあるもの、F-1507のように窪みを利用したもの(図版Ⅳ-7)、F-1157のように円形で浅い小ビットが伴うもの(図版Ⅳ-7)があげられる。また、土坑ではあるがP-179のように土坑内においてクルミを焼いて焼土が形成されているものが検出されている。

F-1154・1156・1157・1158・1159・1169・1171・1175・1178・1299・1316・1325・1334・1343・1408・1415・1507・1600の18ヵ所では、焼土上面に掻き出しと見られる土層の乱された跡が確認された。周囲に焼土粒や炭化物が散在している状況が見られる。

F-1161・1162では、多量の粗粒砂が焼土上面に見られた。

F-1176・1178・1200・1310・1341・1392・1507・1598の8ヵ所では、自然の窪みや土坑の窪みを利用したと見られる状況が確認できた。

F-27①・38①・65①・1157②・1167①・1241①・1369④・1390⑦の8ヵ所(○内は小ビットの数)では、径0.1m・深さ0.05mほどの円形の小ビット(SP)が伴うものが確認された。この小ビットは焼土付近に土器が倒れないように据え付けるためのものと考えられる。

F-1206・1237・1253・1256・1260の5ヵ所では近隣に剥片集中が見られる。

F-1295・1346・1415・1597の4ヵ所では噴砂による断層により、焼土が段差を生じている。

焼土の形成された年代を測定するためにAMS法による放射性炭素年代測定を行った。F-1241(生活面105)・1267(生活面118)・1283(生活面151)・1299(生活面167)・1380(生活面206)・1355(生活面182)・1369(生活面188)・1446(生活面266)・1372(生活面263)・1585(生活面302)・1586(生活面305)において、

5 土器集中・剥片集中・ベンガラ・赤色化微細礫範囲・灰白色粘土範囲

フローテーションにより採取された炭化物を用いた。また、平成16年度に報告を行った放射性炭素年代測定のうち、TK2-72~80は今年度報告範囲である(北埋調報215)。焼土では1253(生活面83)・1162(生活面129)・1177(生活面124)・20(生活面210)を測定した。その結果、補正年代で2330±25(F-1253)~2890±40(F-1585)y.BPという測定値を得た。個別の測定結果については、本報告VI章に詳細を掲載しているので参照願いたい。

5 土器集中・剥片集中・ベンガラ・赤色化微細礫範囲・灰白色粘土範囲

(1) 土器集中

平成11年度のトレンチ調査時に、71-162-Aにおいて土器片が222点集まって出土しており、土器集中4として報告を行った(北埋調報147)。出土位置、復元土器(図V-4-5、図版V-2-5)を再掲載する。土器集中4は1個体のみ出土であり、土器集中1・3とは性格が異なるため、包含層の遺物として報告する。復元土器については本報告V章を参照願いたい。ここから検出した炭化物で放射性炭素年代測定を行った結果、補正年代で2520±40y.BPという測定値を得ている。

(2) 剥片集中

剥片集中は特に遺構番号をつけることをしなかったが、13ヵ所から検出されている。検出位置については焼土とともに生活面別の図に1/80で掲載している。出土している石材は、ほとんどが黒曜石であり、頁岩やチャート・玉髄が少量ある。石器や剥片の大きなものはなく、微細なものが包含層中から集まって検出される。焼土の周辺から検出されることが多い。図版IV-5で掲載した剥片集中は、F-1206近辺において白色の頁岩剥片が検出された状況である。

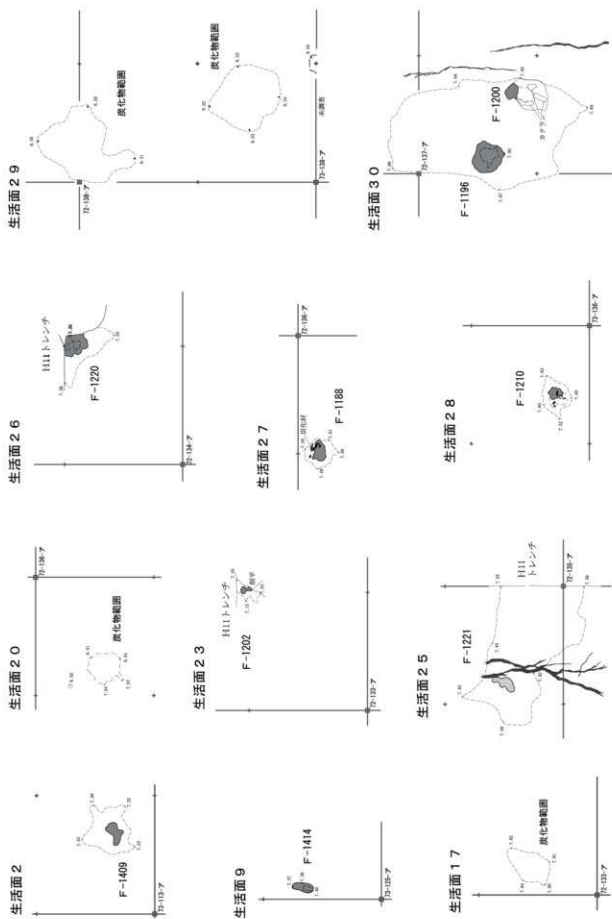
(3) ベンガラ・赤色化微細礫範囲

ベンガラや焼けて赤色化した微細礫粒が点在する範囲を確認している。検出位置については、焼土とともに生活面別の図に1/80で掲載している。赤色化微細礫粒は粒径1~2mm程の粒状のものである。石材としては砂岩や珪岩が見られる。ベンガラと一緒に点在していることから見て、同様の意味合いのものと考えられる。そのため、周囲に墓坑等の存在の可能性を考慮して調査を進めたが、確認されなかった。

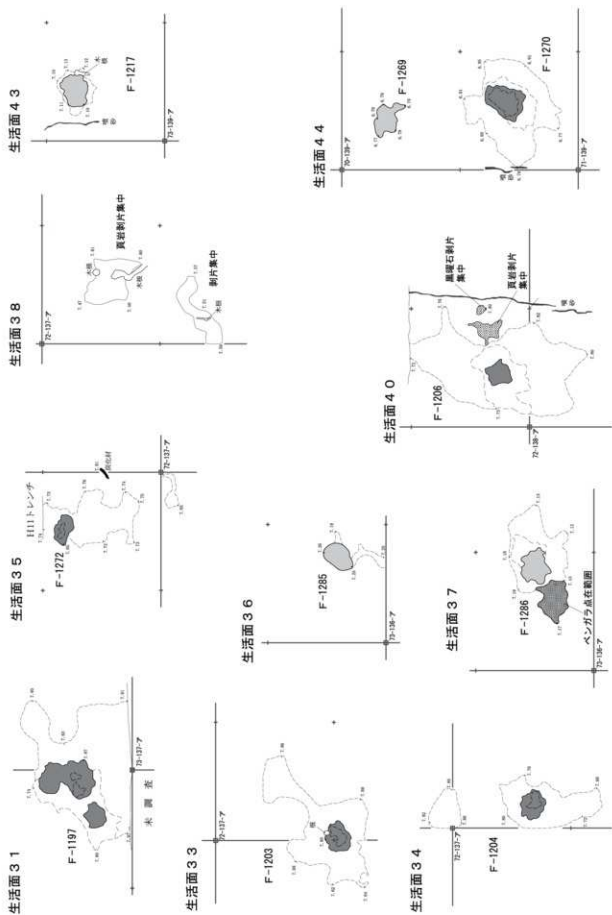
(4) 灰白色粘土範囲

包含層調査中に白色~灰白色の粘土が20~40cmほどの広がりとして2ヵ所検出されている。また、灰集中として『対雁2遺跡(1)』(北埋調報147)で報告したのも同様のものと考えられる。層厚は、1cmほどである。検出位置については、焼土等とともに生活面別の図に1/80で掲載している。掘り込み等は確認されていない。遺跡からは焼成粘土塊が出土していることから、土器製作にかかわるものではないかと考えている。

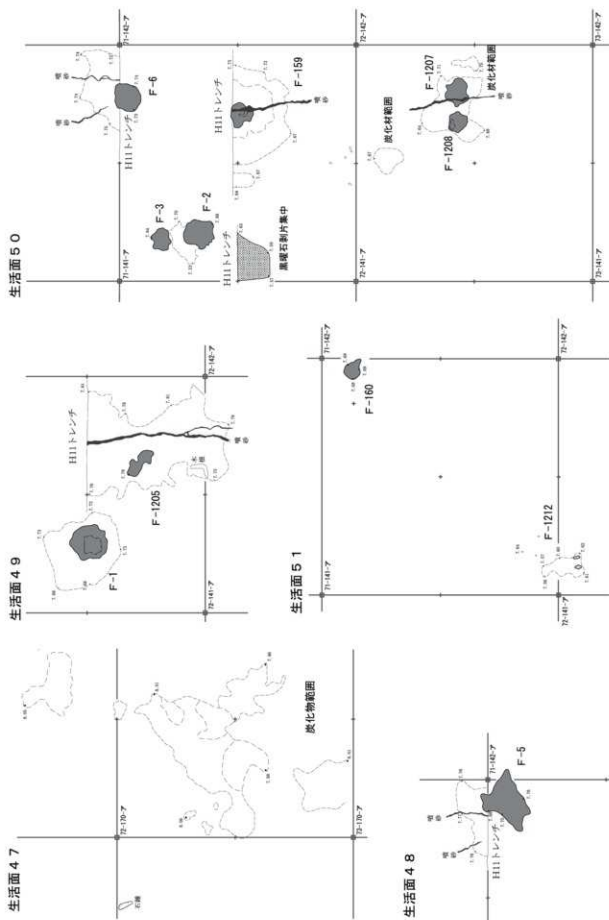
(酒井)



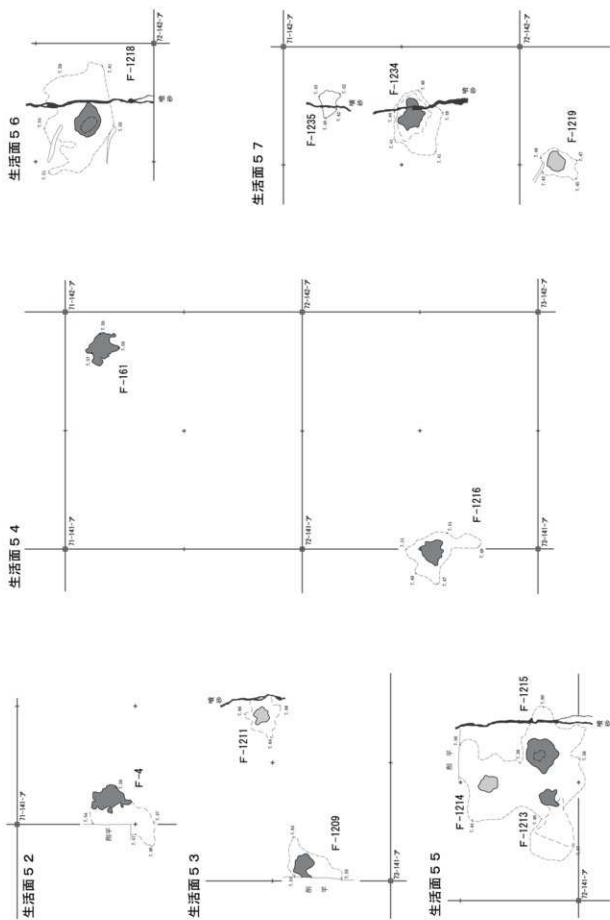
図IV-13 焼土等 (1)



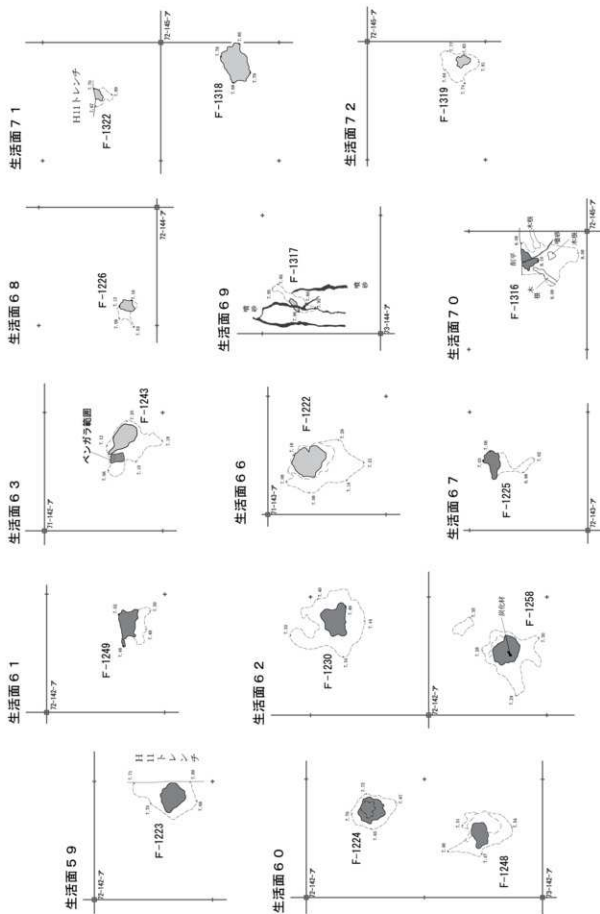
図IV-14 焼土等 (2)



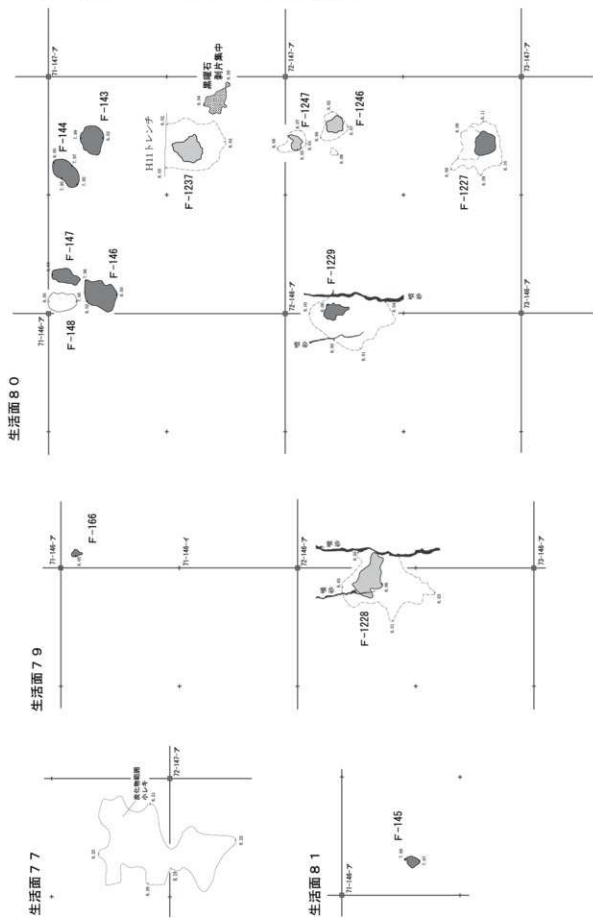
図IV-15 焼土等 (3)



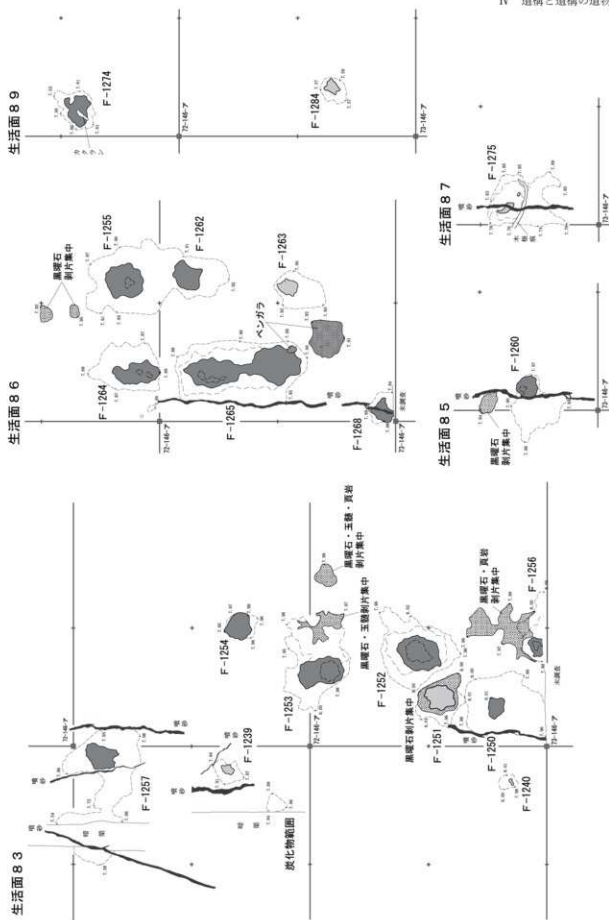
図IV-16 焼土等 (4)



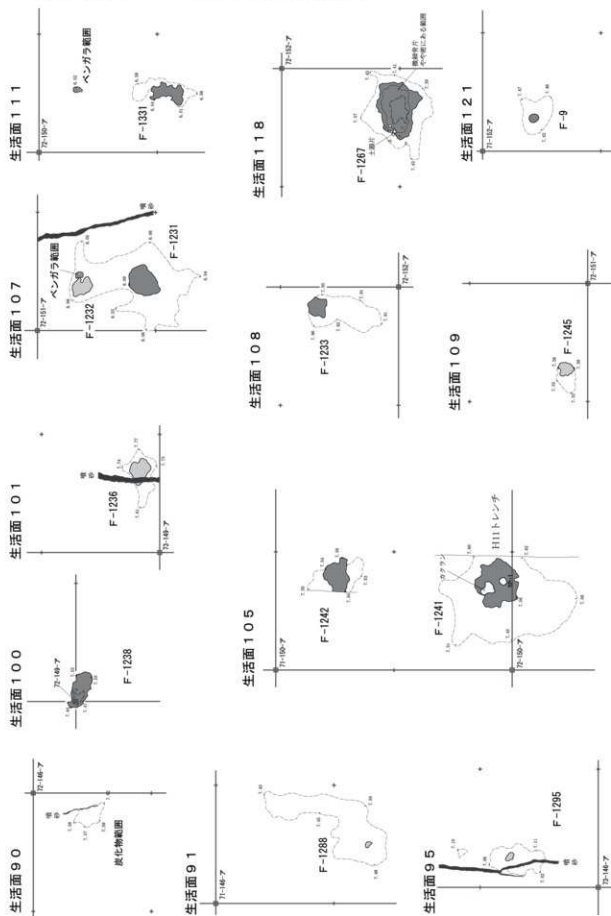
図IV-17 焼土等 (5)



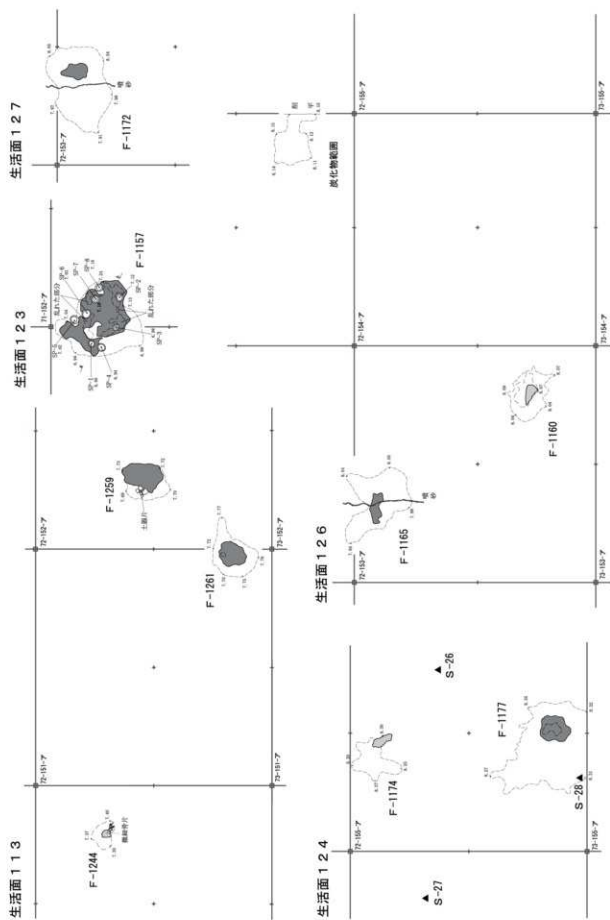
図IV-18 焼土等 (6)



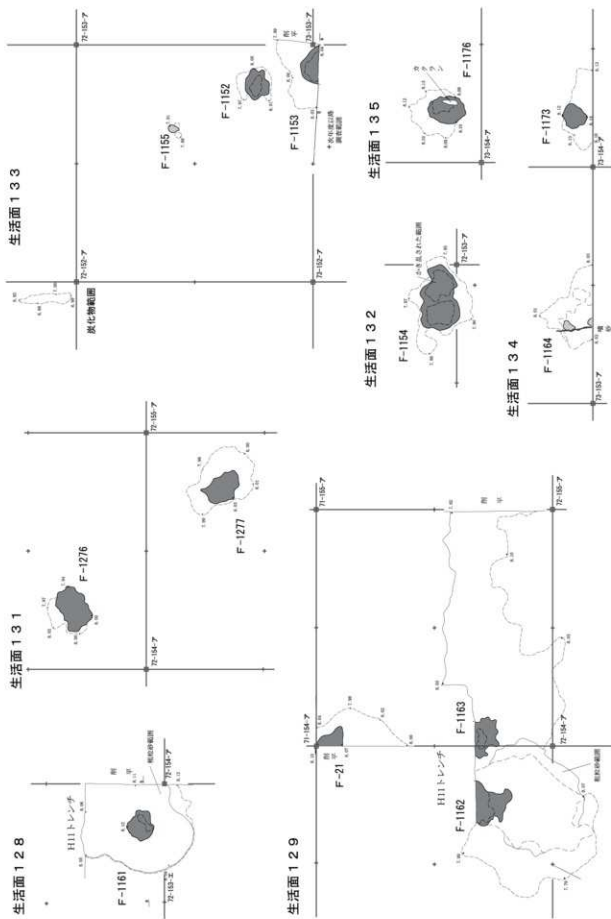
図IV-19 焼土等 (7)



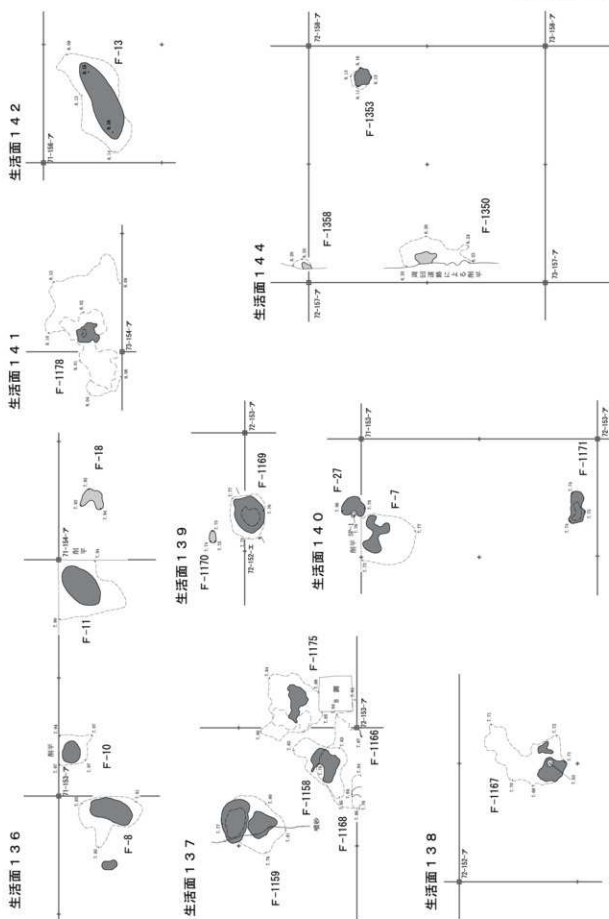
図IV-20 焼土等 (8)



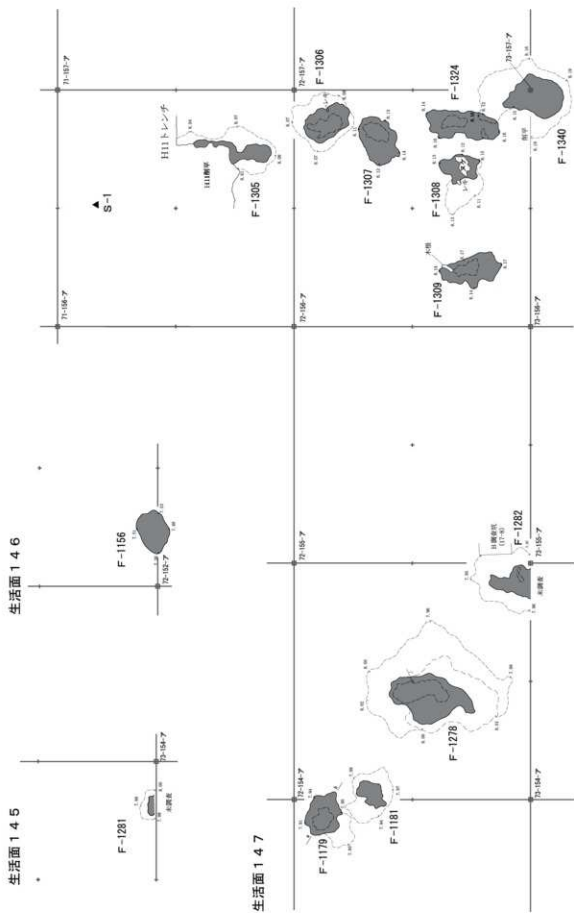
図IV-21 焼土帯 (9)



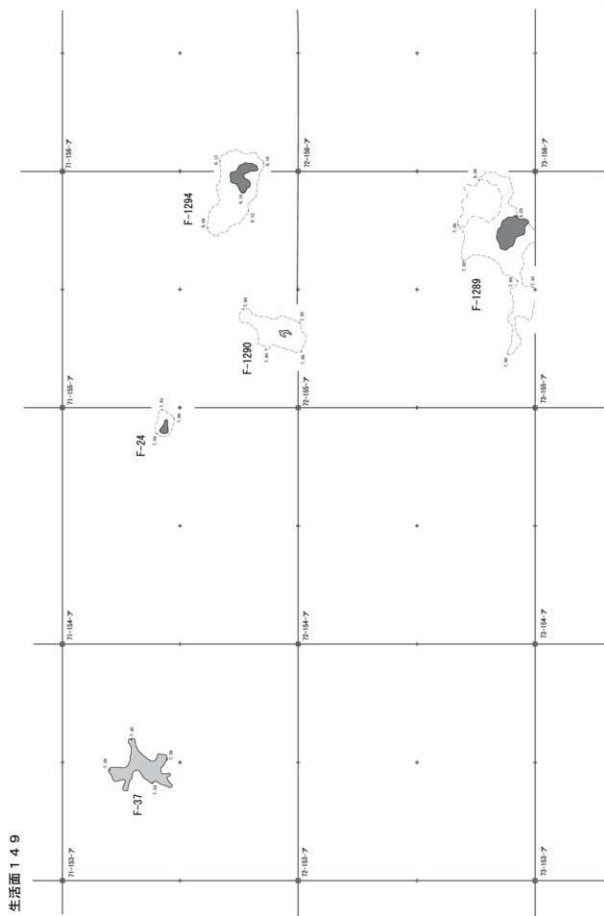
図四-22 焼土等 (10)



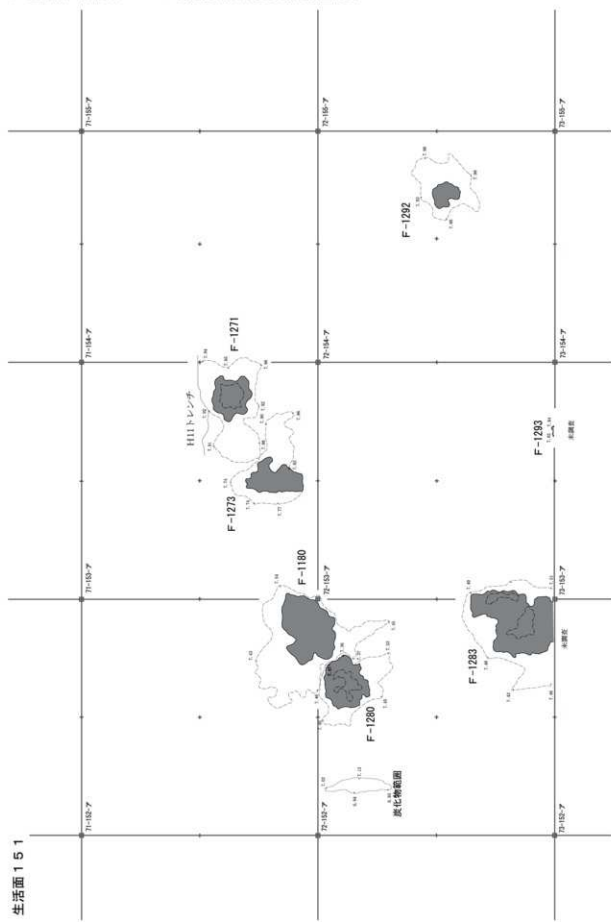
図IV-23 焼土等 (11)



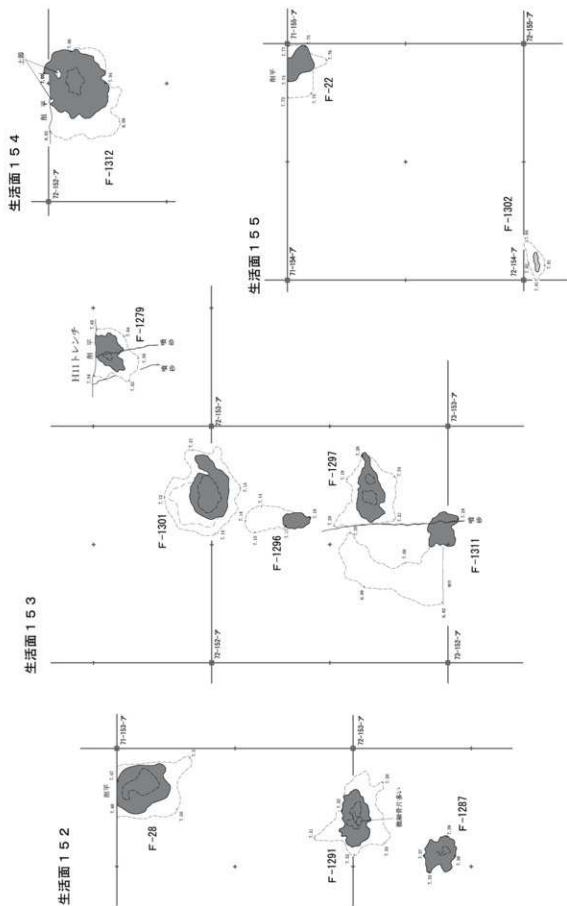
図IV-24 焼土等 (12)



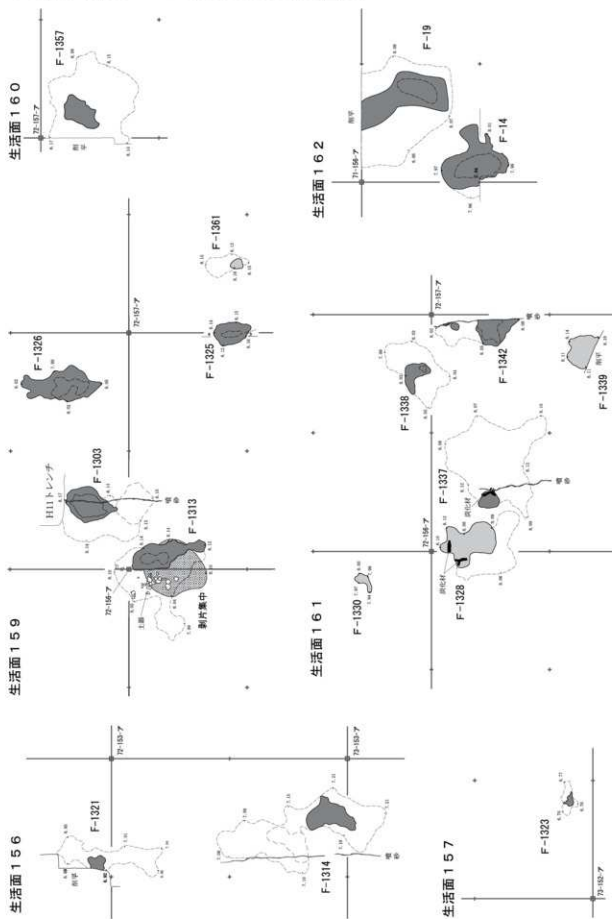
図IV-25 焼土等 (13)



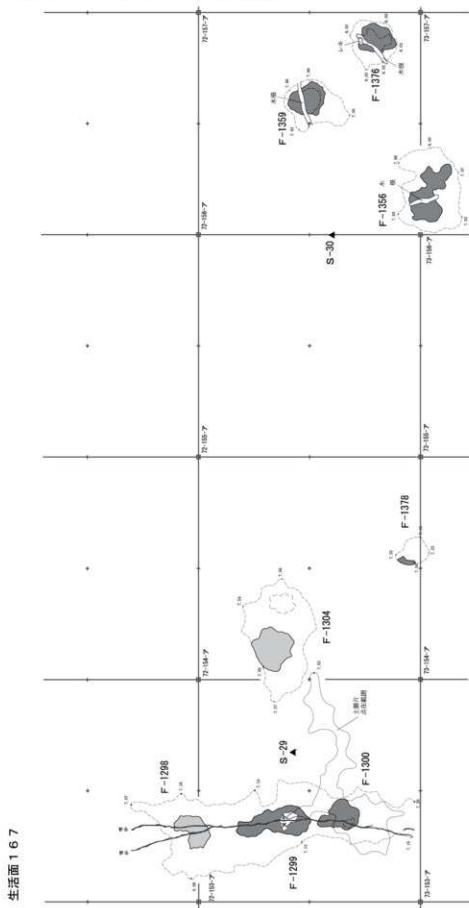
図IV-26 焼土等 (14)



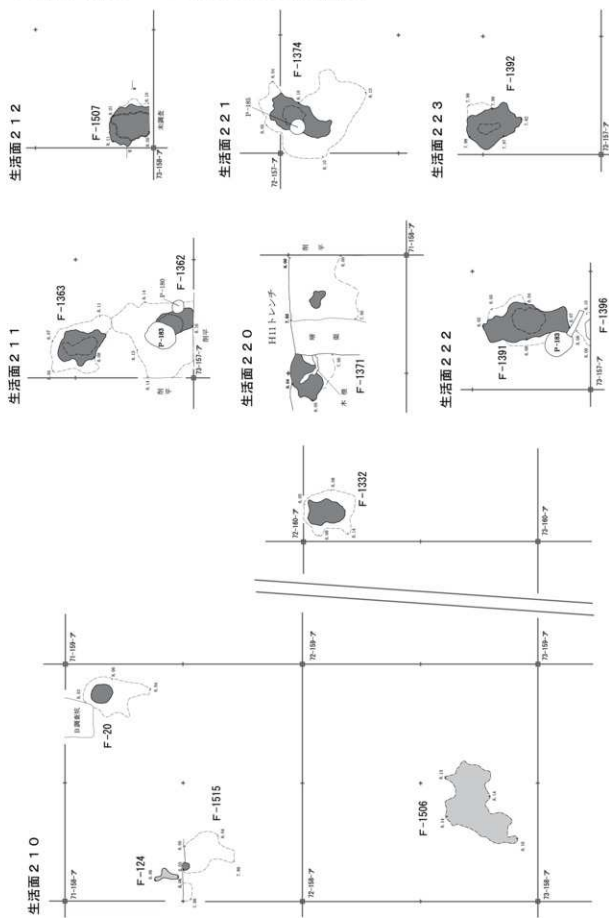
図IV-27 焼土等 (15)



図IV-28 焼土等 (16)



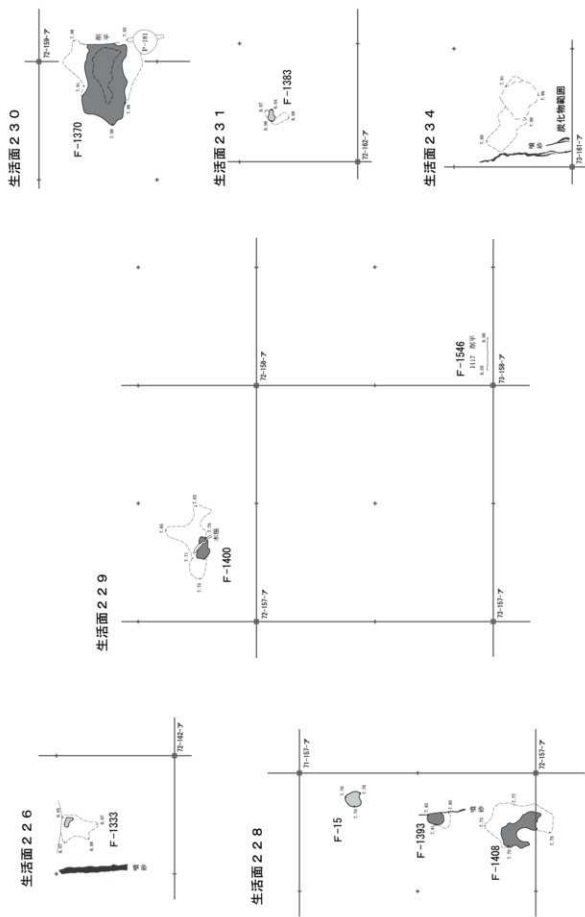
図IV-30 焼土等 (18)



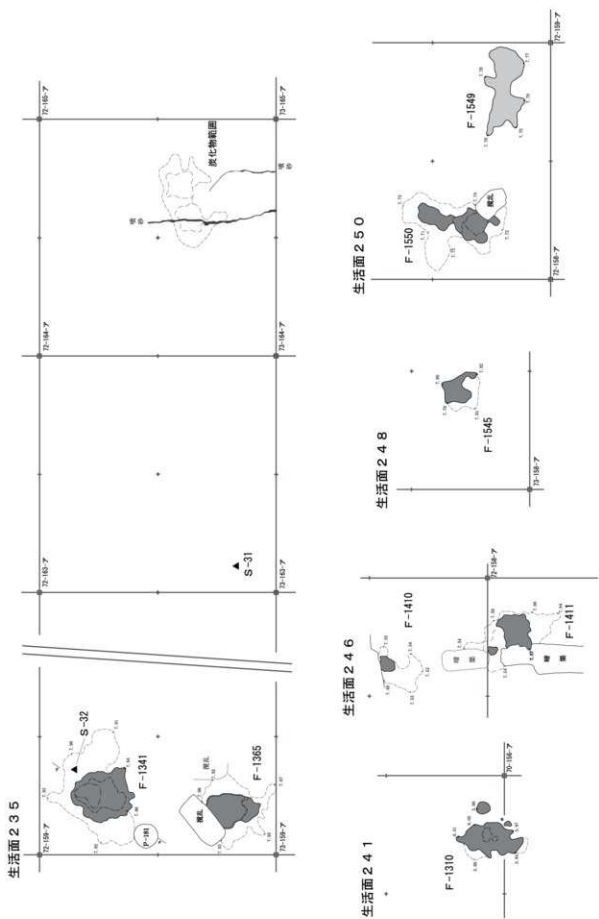
図IV-32 焼土等 (20)



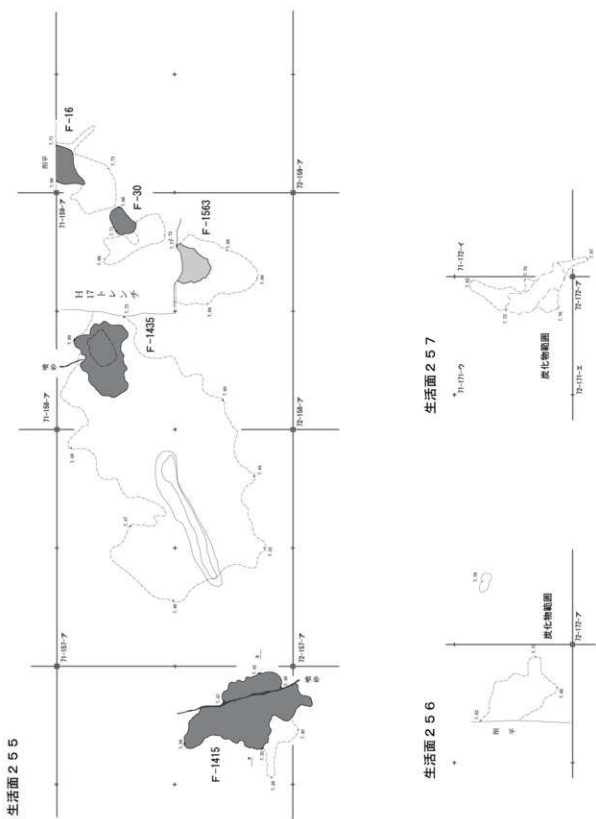
図IV-33 焼土等 (21)



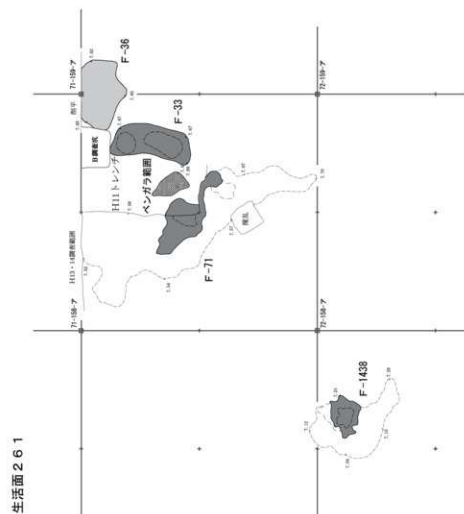
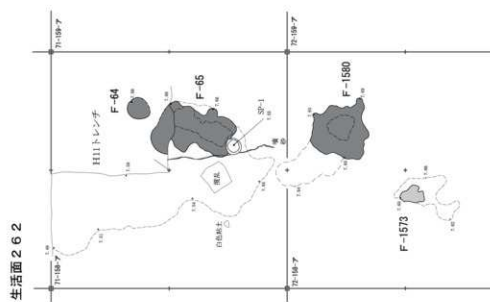
图IV-34 烧土等 (22)



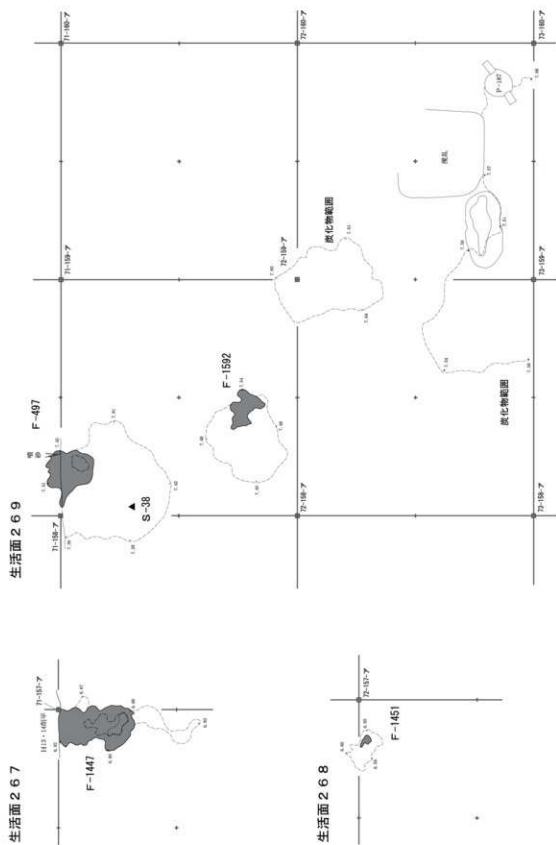
図IV-35 焼土等 (23)



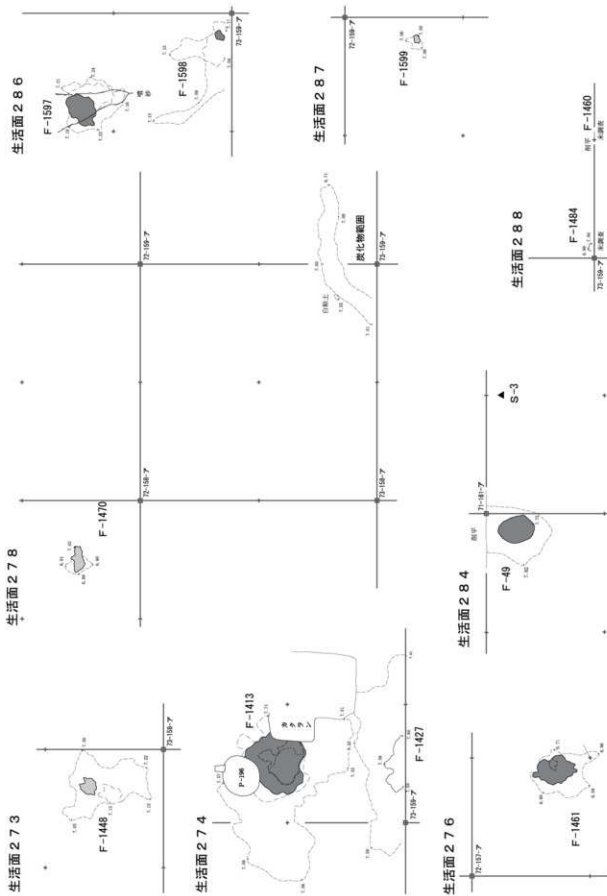
図IV-37 焼土等 (25)



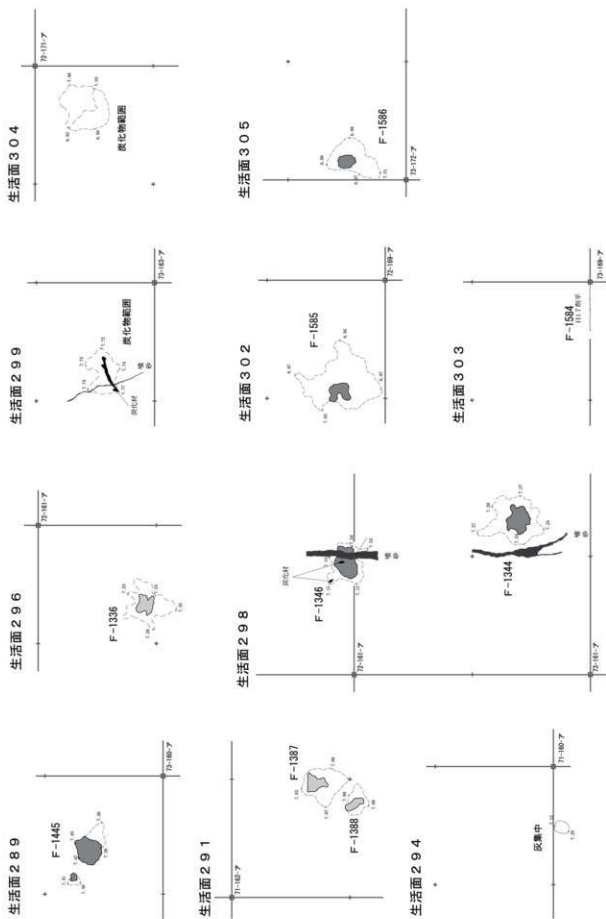
図IV-38 焼土等 (26)



図IV-40 焼土等 (28)



図IV-41 焼土等 (29)



図IV-42 焼土等 (30)

F-1355



- 1) 暗褐色焼土
 - 2) 暗褐色焼土より中や明るい
 - 3) 暗赤～暗赤褐色焼土
 - 4) 炭化材 (～20m) 中や明
- ※ 遺地

F-1169



- 1) 暗赤～暗赤褐色焼土質粘土に暗褐色焼土を被る。暗赤褐色焼土がブロック状に落ちる。かき出し層により厚い部分
 - 2) 暗赤褐色焼土と炭化物物が少量ずつ混ざる
 - 3) 暗褐色焼土
 - 4) 暗赤褐色焼土
- ※ 遺地

F-1325



- 1) 暗褐色焼土
 - 2) 暗赤褐色焼土
 - 3) 暗赤褐色焼土
- ※ 遺地

F-1341



- 1) 灰褐色焼土中に暗褐色～暗赤褐色焼土ブロック散在する。炭化材 (～20m) 多く含む
 - 2) 暗褐色焼土
 - 3) 暗赤～暗赤褐色焼土
 - 4) 炭化材 (～10m)、炭化コルク 盛
- ※ 遺地

F-1157



- 1) SP-1: 暗赤褐色焼土質粘土、暗褐色焼土と炭化物物がブロック状に入る
 - 2) 暗赤褐色焼土、暗赤褐色焼土質粘土に暗褐色焼土を被る暗褐色焼土と暗赤褐色焼土が少く、炭化物物も多く含む
 - 3) 暗褐色焼土、しまり強く、粘性あり
 - 4) 暗赤褐色焼土、ややしまり、粘性あり
 - 5) 暗赤褐色焼土質粘土、暗褐色焼土前 (～20m)、暗赤褐色焼土と炭化物物がブロック状に少量混ざる。(かき出しで動いたもの、再堆積?)
 - 6) 暗赤褐色焼土、中や明る、粘性あり
 - 7) 暗褐色焼土、しまる、粘性あり
 - 8) 暗赤褐色焼土、中や明る、粘性なし
 - 9) 暗赤褐色 (灰赤～焼土) (①焼土形成に由来する灰赤。②焼土形成に由来する暗赤。③焼土形成に由来する暗赤。④焼土形成に由来する暗赤。⑤焼土形成に由来する暗赤。⑥焼土形成に由来する暗赤。⑦焼土形成に由来する暗赤。⑧焼土形成に由来する暗赤。⑨焼土形成に由来する暗赤。⑩焼土形成に由来する暗赤。⑪焼土形成に由来する暗赤。⑫焼土形成に由来する暗赤。⑬焼土形成に由来する暗赤。⑭焼土形成に由来する暗赤。⑮焼土形成に由来する暗赤。⑯焼土形成に由来する暗赤。⑰焼土形成に由来する暗赤。⑱焼土形成に由来する暗赤。⑲焼土形成に由来する暗赤。⑳焼土形成に由来する暗赤。㉑焼土形成に由来する暗赤。㉒焼土形成に由来する暗赤。㉓焼土形成に由来する暗赤。㉔焼土形成に由来する暗赤。㉕焼土形成に由来する暗赤。㉖焼土形成に由来する暗赤。㉗焼土形成に由来する暗赤。㉘焼土形成に由来する暗赤。㉙焼土形成に由来する暗赤。㉚焼土形成に由来する暗赤。㉛焼土形成に由来する暗赤。㉜焼土形成に由来する暗赤。㉝焼土形成に由来する暗赤。㉞焼土形成に由来する暗赤。㉟焼土形成に由来する暗赤。㊱焼土形成に由来する暗赤。㊲焼土形成に由来する暗赤。㊳焼土形成に由来する暗赤。㊴焼土形成に由来する暗赤。㊵焼土形成に由来する暗赤。㊶焼土形成に由来する暗赤。㊷焼土形成に由来する暗赤。㊸焼土形成に由来する暗赤。㊹焼土形成に由来する暗赤。㊺焼土形成に由来する暗赤。㊻焼土形成に由来する暗赤。㊼焼土形成に由来する暗赤。㊽焼土形成に由来する暗赤。㊾焼土形成に由来する暗赤。㊿焼土形成に由来する暗赤。
 - 10) 暗赤褐色焼土、シルト質物が混入、しまりなく、サラサラ
- ※ 遺地
※ SP-1 盛
※ 掘削にわたり掘り直し使用された焼土と考えられる
※ 暗赤褐色焼土が中や明るもの一部分は認められる
※ 平層が不連続であるため、使用した焼土の中心も移動していると考えられる

0 1m

F-1179



- 1) 灰褐色焼土中に暗褐色～暗赤褐色焼土ブロックが多く混入する。炭化材、炭化コルク混入する
 - 2) 暗褐色焼土
 - 3) 暗赤～暗赤褐色焼土
- ※ 遺地

F-1153



- 1) 暗赤褐色 (灰赤) 粘土に暗褐色焼土と炭化物物が多く混入する
 - 2) うすい暗褐色、粘土に暗褐色土が多く混入する。炭化物物多く含む、かき出しされた部分
 - 3) 暗褐色焼土、しまる、粘性あり
 - 4) 暗赤褐色焼土、しまる、粘性あり
- ※ 遺地

F-1161



- 1) 暗赤褐色の多く含む暗赤褐色焼土質シルト、炭化物物含む
 - 2) 暗赤褐色焼土質粘土
 - 3) 暗褐色焼土
 - 4) 暗赤褐色焼土
 - 5) 暗赤褐色焼土質シルト、暗赤褐色少量含む
 - 6) 暗赤褐色焼土 (暗赤褐色多量含む)
 - 7) 暗赤褐色焼土質粘土、上部に炭化物物 (SP-1) 含む
- ※ 遺地

F-1507



- 1) 暗褐色焼土ブロック、炭化材 (～10m) 盛、炭化コルク多量、かき出し
 - 2) 暗褐色焼土
 - 3) 暗赤～暗赤褐色焼土
 - 4) 炭化材 (～10m) 盛
- ※ 遺地

F-1369



- 1) 暗赤～暗赤褐色焼土
 - 2) 暗赤～暗赤褐色焼土
 - 3) 炭化材 (～10m) 盛
 - 4) 炭化材 (～10m) 中や明
 - 5) 暗赤褐色焼土質シルト、炭化材が混入する
- ※ 遺地
※ SP-1 盛

F-1415



- 1) 暗赤～暗赤褐色焼土、炭化材 (～10m) 多く含む。少しかき出しされている
- ※ 遺地
※ 埋砂による影響

図IV-43 焼土断面図

表IV-3 生活面一覧

M17 生活面	商 務 区	層 面	軌道建設計画		通 橋	M17 生活面	商 務 区	層 面	軌道建設計画		通 橋
			線 路	全 長					線 路	全 長	
1	72-13-ア/イ/エ	3.1				52	72-100-ウ/イ/エ	27.0	27.100		
2	72-13-イ	3.1	15-3.1	15-10	F-149	53	72-101-ア/イ/エ				F-4
3	72-13-イ	2.3				54	72-100-ウ/イ/エ				F-4
4	72-11-ア/イ/エ	2.2	2.2			55	72-101-ア/イ/エ	27.1			F-1309-1311
5	72-15-イ	3.1				56	72-101-エ	27.2			F-161-1216
6	71-15-イ	3.1				57	72-100-ウ/イ/エ				F-161-1216
7	71-17-イ	3.1				58	72-101-ア/イ/エ				F-1210-1211+1215
8	72-15-イ	10.9				59	72-101-ア/イ/エ	28.0	30.100		F-1210-1211+1215
9	72-15-イ	11.1			F-1414	60	72-101-ア/イ/エ	28.0	30.100		F-1218
10	71-15-エ	13.3				61	72-101-ア/イ/エ	28.0	30.100		F-1229-1230+1235
11	72-19-ア/イ/エ	13.4				62	72-101-ア/イ/エ	30.0	30.100		F-1230
12	72-19-ア/イ/エ	13.4				63	72-101-ア/イ/エ	30.2	31a.100		F-1231+1248
13	71-13-イ	10.1				64	72-101-ア/イ/エ	30.2	31a.100		F-1349
14	72-10-ア	10.1				65	72-101-ア/イ/エ	30.2	31a.100		F-1250-1258
15	72-10-ア	10.1				66	72-101-ア/イ/エ	31.0	31.100		F-1343
16	71-13-ア	10.1				67	72-101-ア/イ/エ	31.0	31.100		F-1343
17	72-10-ア	10.1				68	72-101-ア/イ/エ	31.0	31.100		F-1343
18	71-13-ア	10.1				69	72-101-ア/イ/エ	31.0	31.100		F-1343
19	71-13-ア	10.1				70	72-101-ア/イ/エ	31.0	31.100		F-1343
20	72-14-イ/ウ/エ	10a-20a				71	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1222
21	71-15-イ/ウ/エ	10a-20a				72	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1225
22	72-14-イ/ウ/エ	10a-20a				73	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1225
23	72-15-イ	10a-20a				74	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1317
24	72-15-イ	10a-20a				75	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1318
25	71-13-ア	10a-20a				76	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1319
26	71-13-ア	10a-20a				77	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1319
27	71-13-ア	10a-20a				78	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1319
28	71-13-ア	10a-20a				79	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1319
29	71-13-ア	10a-20a				80	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1319
30	71-13-ア	10a-20a				81	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1319
31	71-13-ア	10a-20a				82	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1319
32	71-13-ア	10a-20a				83	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1319
33	71-13-ア	10a-20a				84	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1319
34	71-13-ア	10a-20a				85	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1319
35	71-13-ア	10a-20a				86	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1319
36	71-13-ア	10a-20a				87	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1319
37	71-13-ア	10a-20a				88	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1319
38	71-13-ア	10a-20a				89	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1319
39	71-13-ア	10a-20a				90	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1319
40	71-13-ア	10a-20a				91	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1319
41	71-13-ア	10a-20a				92	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1319
42	71-13-ア	10a-20a				93	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1319
43	71-13-ア	10a-20a				94	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1319
44	71-13-ア	10a-20a				95	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1319
45	71-13-ア	10a-20a				96	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1319
46	71-13-ア	10a-20a				97	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1319
47	71-13-ア	10a-20a				98	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1319
48	71-13-ア	10a-20a				99	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1319
49	71-13-ア	10a-20a				100	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1319
50	71-13-ア	10a-20a				101	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1319
51	71-13-ア	10a-20a				102	72-101-ア/イ/エ	31.1	31a.100		F-1319

表IV-3 生活面一覧(続き)

M12 生活面	築地	遺構	建物遺構対出		遺構	M12 生活面	築地	遺構	建物遺構対出		遺構
			遺構	生活面					遺構	生活面	
88	71-106-7	5ab-43.130				71-106-7					
89	71-106-2	5ab-43.130				144	71-107-1(2)/7	71b上		F-1350-1351-1358	
90	71-109-7					145	71-107-2(1)(2)/7	55.3		F-1361	
91	71-109-1	43.1			F-1208	146	71-107-2(1)(2)/7	55.3		F-1356	
92	71-108-2					147	71-107-2(1)(2)/7	55.3	56a	F-1179-1181-1274-1282-1283-1284-1307-1309-1310-1311-1313	
93	71-109-7					148	71-107-2(1)(2)/7	55.3	56a		
94	71-109-1					149	71-107-2(1)(2)/7	55.3	56a		
95	71-109-1(2)/2	43.1-44.0			F-1208	150	71-107-2(1)(2)/7	55.3	56a		
96	71-109-2(1)(2)	56b-47.0				151	71-107-2(1)(2)/7	56a		F-1180-1271-1273-1280-1281-1282-1283	
97	71-109-2(1)(2)	56b-47.0				152	71-107-2(1)(2)/7	56a			
98	71-109-2(1)(2)	56b-47.0				153	71-107-2(1)(2)/7	56a			
99	71-109-2(1)(2)	56b-47.0				154	71-107-2(1)(2)/7	56a			
100	71-109-2(1)(2)	56b-47.0				155	71-107-2(1)(2)/7	56a			
101	71-109-2(1)(2)	56b-47.0				156	71-107-2(1)(2)/7	56a			
102	71-109-2(1)(2)	56b-47.0				157	71-107-2(1)(2)/7	56a			
103	71-109-2(1)(2)	56b-47.0				158	71-107-2(1)(2)/7	56a			
104	71-109-2(1)(2)	56b-47.0				159	71-107-2(1)(2)/7	56a			
105	71-109-2(1)(2)	56b-47.0				160	71-107-2(1)(2)/7	56a			
106	71-109-2(1)(2)	56b-47.0				161	71-107-2(1)(2)/7	56a			
107	71-109-2(1)(2)	56b-47.0				162	71-107-2(1)(2)/7	56a			
108	71-109-2(1)(2)	56b-47.0				163	71-107-2(1)(2)/7	56a			
109	71-109-2(1)(2)	56b-47.0				164	71-107-2(1)(2)/7	56a			
110	71-109-2(1)(2)	56b-47.0				165	71-107-2(1)(2)/7	56a			
111	71-109-2(1)(2)	56b-47.0				166	71-107-2(1)(2)/7	56a			
112	71-109-2(1)(2)	56b-47.0				167	71-107-2(1)(2)/7	56a			
113	71-109-2(1)(2)	56b-47.0				168	71-107-2(1)(2)/7	56a			
114	71-109-2(1)(2)	56b-47.0				169	71-107-2(1)(2)/7	56a			
115	71-109-2(1)(2)	56b-47.0				170	71-107-2(1)(2)/7	56a			
116	71-109-2(1)(2)	56b-47.0				171	71-107-2(1)(2)/7	56a			
117	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
118	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
119	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
120	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
121	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
122	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
123	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
124	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
125	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
126	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
127	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
128	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
129	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
130	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
131	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
132	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
133	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
134	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
135	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
136	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
137	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
138	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
139	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
140	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
141	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
142	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
143	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
144	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
145	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
146	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
147	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
148	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
149	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
150	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
151	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
152	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
153	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
154	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
155	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
156	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
157	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
158	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
159	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
160	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
161	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
162	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
163	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
164	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
165	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
166	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
167	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
168	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
169	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
170	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									
171	71-109-2(1)(2)	56b-47.0									

表IV-3 生活面一覧(続き)

417 生活面	業務区	種別	勤務時間		連携	417 生活面	業務区	種別	勤務時間		連携
			開始	終了					開始	終了	
172	70-130-ウ②	61.1-63.0時間	14-49 22.1上	14-163	F-25+1329+1349	211	71ab	71-130-ア①/イ①/エ①	71ab-75ab	P-1362+1363	
	71-130-ア										
	72-130-ア①/ウ①/エ①/オ①										
173	71-130-ウ②	61.1-63.0時間				212	71ab-75ab	71-130-ア①	F-1367		
	71-130-ア①/エ①										
175	71-130-ア②	61.1-63.0時間				214	72a	72-130-ア①	F-1315		
	71-130-ア②										
176	71-130-ウ②/エ②	61.1-63.0時間				215	72a-75ab	72-130-ウ①/エ①	F-1368		
	72-130-ウ②										
177	72-130-ア①/イ①	62.1				216	72a-75ab	71-130-ウ①/エ①	F-1369		
	72-130-ア②										
178	71-130-ウ②	61.1-62.3時間				217	72a-75ab	71-130-ア②	F-1370		
	72-130-ウ②										
179	72-130-ア①	61.1-62.3時間				218	72a-75ab	72-130-ア①	F-1371		
	72-130-ア②										
181	72-130-イ①/イ②/エ①	62.2			F-1368	219	71b-75ab	71-130-イ①/イ②/エ②	F-1372		
	72-130-イ②/イ③/エ②										
182	72-130-イ①/ウ①/エ①/オ①	62.2-64.0時間 64ab			P-1340+1354+1355	220	71b-75ab	71-130-イ①/ウ①/エ①/オ①	F-1373		
	72-130-イ②/イ③/エ②/エ③										
183	71-130-イ①	62.2-64.0時間			F-1369	221	71b-75ab	71-130-イ②	F-1374		
	72-130-イ②										
184	71-130-イ①	62.2-64.0時間				222	71b-75ab	71-130-イ②	F-1391+1398		
	72-130-イ②										
185	71-130-エ①	62.2-64.0時間				223	71b-75ab	71-130-イ③	F-1392		
	72-130-エ②										
186	71-130-ウ①/エ①	62.2-64.0時間			F-1352	224	71b-75ab	71-130-ウ①/エ①	F-1375		
	71-130-ウ②										
187	72-130-ア①/イ①/ウ①/エ①	62.2-64.0時間			F-1362	225	71b-75ab	72-130-ア②/イ②/ウ②/エ②	F-1376		
	71-130-イ②										
188	71-130-イ①	62.2-64.0時間			F-1369	226	71b-75ab	71-130-イ②	F-1323		
	72-130-イ②										
189	71-130-イ①	64a				227	71b-75ab	71-130-イ②	F-1324		
	72-130-イ②										
190	71-130-イ①	64a-65ab			F-1377	228	71b-75ab	71-130-イ②	F-1325		
	72-130-イ②										
191	71-130-イ①	64a-65ab				229	71b-75ab	71-130-イ②	F-1326		
	72-130-イ②										
192	71-130-ア①/イ①	64a-65ab				230	71b-75ab	71-130-ア②/イ②/ウ②/エ②	F-1327		
	72-130-ア②/イ②/ウ②/エ②										
193	72-130-ア①	65ab-67ab				231	71b-75ab	72-130-ア②	F-1328		
	72-130-ア②										
194	72-130-ア①	65ab-67ab				232	71b-75ab	72-130-ア②	F-1329		
	72-130-ア②										
195	72-130-ア①	65ab-67ab				233	71b-75ab	72-130-ア②	F-1330		
	72-130-ア②										
196	71-130-エ①	65ab-66ab				234	71b-75ab	71-130-エ②	F-1331		
	72-130-エ②										
197	71-130-エ①	65ab-66ab				235	71b-75ab	71-130-エ②	F-1332		
	72-130-エ②										
198	72-130-ア①	66b			F-1559	236	71b-75ab	72-130-ア②	F-1333		
	72-130-ア②										
199	72-130-ア①/イ①	66ab-68.0時間			F-1379	237	71b-75ab	72-130-ア②/イ②	F-1334		
	71-130-イ②										
200	70-130-イ①/ウ①/エ①	66ab-68.0時間	14-49 36.5-42.1 44	14-201	F-31+129+130	238	71b-75ab	70-130-イ②/ウ②/エ②	F-15+1380+1381		
	71-130-イ②/ウ②/エ②										
201	72-130-ア①	66ab-68.0時間			F-1364	239	71b-75ab	72-130-ア②	F-1400+1446		
	72-130-ア②										
202	72-130-イ①	68.1-71.0時間			F-1381	240	71b-75ab	72-130-イ②	F-1401+1447		
	72-130-イ②										
203	71-130-イ①/イ②/ウ①/エ①	70.1				241	71b-75ab	71-130-イ②/ウ②/エ②	F-1370		
	72-130-イ③										
204	70-130-イ①	70.1-71ab				242	71b-75ab	70-130-イ②	F-1383		
	71-130-イ②										
205	69-130-イ①/イ②	70.1-71ab				243	71b-75ab	69-130-イ③/イ④	F-1384		
	71-130-イ③										
206	69-130-イ①	70.1-71ab			F-1386	244	71b-75ab	69-130-イ②	F-1385		
	72-130-イ②/エ②										
207	69-130-イ①	71ab上				245	71b-75ab	72-130-イ③/エ③	F-1314+1315		
	72-130-イ②										
208	71-130-イ①	71ab上				246	71b-75ab	71-130-イ②	F-1316+1317		
	72-130-イ②										
209	72-130-ア①/イ①/ウ①/エ①	71ab上				247	71b-75ab	72-130-ア②/イ②/ウ②/エ②	F-1318+1319		
	72-130-ア③										
210	71-130-ア①/イ①/ウ①/エ①	71ab上 東北業務			F-30+121+1332+ 800+1315	248	71b-75ab	71-130-ア②/イ②/ウ②/エ②	F-1373+1338		
	72-130-ア②/イ②/ウ②/エ②										
211	71-130-ア①	71ab上				249	71b-75ab	71-130-ア②	F-1374		
	72-130-ア②										
212	71-130-ア①	71ab-75ab				250	71b-75ab	71-130-ア②	F-1375		
	72-130-ア②										
213	71-130-ア①	71ab-75ab				251	71b-75ab	71-130-ア②	F-1376		
	72-130-ア②										
214	72-130-ア①	72a				252	71b-75ab	72-130-ア②	F-1377		
	71-130-ア②										
215	71-130-ア①	72a-75ab				253	71b-75ab	71-130-ア②	F-1378		
	72-130-ア②										
216	71-130-ウ①/エ①	72a-75ab				254	71b-75ab	71-130-ウ②/エ②	F-1379		
	72-130-ウ②										
217	71-130-ア②	72a-75ab				255	71b-75ab	71-130-ア③	F-1380		
	72-130-ア③										
218	71-130-ウ①	72a-75ab				256	71b-75ab	71-130-ウ②	F-1381		
	72-130-ウ②										
219	72-130-ア①/イ①	71b-75ab				257	71b-75ab	72-130-ア②/イ②	F-1382		
	71-130-イ②										
220	71-130-ア①/イ①/ウ①/エ①	71b-75ab				258	71b-75ab	71-130-ア②/イ②/ウ②/エ②	F-1383		
	72-130-ア②/イ②/ウ②/エ②										
221	71-130-ア①	71b-75ab				259	71b-75ab	71-130-ア②	F-1384		
	72-130-ア②										
222	72-130-ア①	71b-75ab				260	71b-75ab	72-130-ア②	F-1385		
	71-130-ア②										
223	71-130-ア①/イ①	71b-75ab				261	71b-75ab	71-130-ア②/イ②	F-1386		
	72-130-ア②/イ②										
224	71-130-ア①/イ①/ウ①/エ①	71b-75ab				262	71b-75ab	71-130-ア②/イ②/ウ②/エ②	F-1387		
	72-130-ア③/イ③/ウ③/エ③										
225	71-130-ウ①	71b-75ab				263	71b-75ab	71-130-ウ②	F-1388		
	72-130-ウ②										
226	71-130-イ①	71b-75ab				264	71b-75ab	71-130-イ②	F-1389		
	72-130-イ②										
227	71-130-ア①/イ①/ウ①/エ①	71b-75ab				265	71b-75ab	71-130-ア②/イ②/ウ②/エ②	F-1390		
	72-130-ア③/イ③/ウ③/エ③										
228	71-130-ア①	71b-75ab				266	71b-75ab	71-130-ア②	F-1391		
	72-130-ア②										
229	71-130-ア①	71b-75ab				267	71b-75ab	71-130-ア②	F-1392		
	72-130-ア②										
230	71-130-ア①/イ①/ウ①/エ①	71b-75ab				268	71b-75ab	71-130-ア②/イ②/ウ②/エ②	F-1393		
	72-130-ア③/イ③/ウ③/エ③										
231	71-130-ア①	71b-75ab				269	71b-75ab	71-130-ア②	F-1394		
	72-130-ア②										
232	71-130-ア①	71b-75ab				270	71b-75ab	71-130-ア②	F-1395		
	72-130-ア②										
233	71-130-ア①	71b-75ab				271	71b-75ab	71-130-ア②	F-1396		
	72-130-ア②										
234	71-130-ア①	71b-75ab				272	71b-75ab	71-130-ア②	F-1397		
	72-130-ア②										
235	71-130-ア①	71b-75ab				273	71b-75ab	71-130-ア②	F-1398		
	72-130-ア②										
236	71-130-ア①	71b-75ab				274	71b-75ab	71-130-ア②	F-1399		
	72-130-ア②										
237	71-130-ア①	71b-75ab				275	71b-75ab	71-130-ア②	F-1400		
	72-130-ア②										

表IV-4 遺構一覧

土坑

図番号	遺構名	群	調査区	上端(長さ×幅)/下端(長さ×幅)/深さm	長軸方向	形状	図版番号	備 考
図IV-5	P-9	Ⅲ	71-159-ア/エ	0.82×0.66/0.54×0.26/0.18	N-10°-W	楕円形	図版IV-9	
図IV-5	P-128	Ⅲ	70-156-ウ 71-156-エ	0.74×0.54/0.40×0.32/0.28	N-4°-E	楕円形	図版IV-9	
図IV-2	P-165	I	72-134-ウ	0.95×0.84/0.75×0.66/0.29		ほぼ円形	図版IV-10	上面に鉄熱燻の礫石
図IV-2	P-166	I	72-134-エ	0.68×0.59/0.50×0.48/0.03	N-41°-E	楕円形	図版IV-10	
図IV-2	P-167	I	72-134-ア/イ/ウ/エ	1.06×0.96/0.58×0.54/0.41		ほぼ円形	図版IV-10	上面に鉄熱燻の礫石
図IV-3	P-168	Ⅱ	71-150-ウ 71-151-イ	1.38×1.28/1.08×1.06/0.24		ほぼ円形?	図版IV-8	西側一部削平
図IV-3	P-169	Ⅱ	72-151-ア/エ	1.46×(0.97)/1.12×(0.87)/0.22	N-3°-W	楕円形	図版IV-8	東側一部削平
図IV-3	P-170	Ⅱ	72-150-エ 72-151-ア	1.24×1.16/1.14×0.92/0.21		ほぼ円形	図版IV-8	西側一部削平
図IV-3	P-171	Ⅱ	72-147-イ/ウ	1.28×1.26/1.04×0.96/0.22		ほぼ円形	図版IV-8	
図IV-3	P-172	Ⅱ	71-147-ウ	1.06×1.00/0.90×0.81/0.24		ほぼ円形	図版IV-8	
図IV-4	P-173	Ⅱ	72-147-エ	1.42×1.42/1.24×1.23/0.19		ほぼ円形	図版IV-8	
図IV-4	P-174	Ⅱ	72-147-ウ 72-148-イ	1.70×1.50/1.34×1.30/0.31		ほぼ円形	図版IV-8	
図IV-4	P-175	Ⅱ	72-148-イ/ウ	1.48×1.36/1.24×1.12/0.28		ほぼ円形	図版IV-8	
図IV-4	P-176	Ⅱ	71-148-ウ 72-148-エ	0.87×0.77/0.44×0.48/0.23	N-3°-W	楕円形	図版IV-8	
図IV-4	P-177	Ⅱ	72-147-エ 72-148-ウ	1.50×1.26/1.19×1.06/0.28		ほぼ円形?	図版IV-8	
図IV-4	P-178	Ⅱ	72-147-ウ 72-147-エ	- × - / - × - / (0.30)		不明	図版IV-8	南側未調査
図IV-6	P-179	Ⅲ	72-160-ア	0.74×0.70/0.30×0.32/0.41		ほぼ円形	11区・ 図版IV-2-3-4	内部で多量のタタキが焼か れている 14C年代測定(TK2-97-90)
図IV-5	P-180	Ⅲ	72-157-イ	(0.30)×0.25/0.22×0.18/0.12	N-67°-W	楕円形	図版IV-5-9	
図IV-5	P-181	Ⅲ	72-159-ア/イ	0.60×0.55/0.44×0.42/0.15		ほぼ円形	図版IV-10	
図IV-5	P-182	Ⅲ	72-158-ウ 72-159-イ	0.96×0.70/0.82×0.60/0.17	N-43°-E	楕円形	図版IV-10	
図IV-6	P-183	Ⅲ	72-157-イ	0.58×0.54/0.42×0.36/0.30		ほぼ円形	図版IV-10	
図IV-6	P-184	Ⅲ	72-156-ウ 72-157-イ	1.10×1.04/0.45×0.46/0.37		ほぼ円形	図版IV-10	
図IV-6	P-185	Ⅲ	72-157-ア	0.25×0.32/0.19×0.19/0.24		ほぼ円形	図版IV-10	
図IV-6	P-186	Ⅲ	72-157-ウ	0.82×(0.54)/0.38×(0.27)/0.29		ほぼ円形?	図版IV-11	
図IV-7	P-187	Ⅲ	72-159-ウ	0.62×0.60/0.50×0.46/0.27		ほぼ円形	図版IV-5	
図IV-7	P-188	Ⅲ	72-159-ア	0.46×0.40/(0.20)×0.35/0.16	N-27°-E	楕円形	図版IV-10	
図IV-7	P-189	Ⅲ	72-157-イ	0.78×0.66/0.37×0.35/0.31	N-81°-W	楕円形	図版IV-11	
図IV-7	P-190	Ⅲ	72-157-イ/ウ	1.04×0.94/0.62×0.63/0.48		ほぼ円形	図版IV-11	
図IV-7	P-191	Ⅲ	72-157-ア/イ	0.80×0.74/0.54×0.46/0.25		ほぼ円形	図版IV-11	
図IV-7	P-192	Ⅲ	72-157-ア	0.80×0.72/0.60×0.46/0.13		ほぼ円形	図版IV-11	
図IV-7	P-193	Ⅲ	72-159-ウ	0.68×0.63/0.40×0.42/0.40		ほぼ円形	図版IV-5-12	
図IV-8	P-194	Ⅲ	72-159-ア/エ	0.78×0.64/0.66×0.65/0.70		ほぼ円形	図版IV-5-12	
図IV-8	P-195	Ⅲ	71-159-ウ	1.04×0.96/(0.30)×0.78/0.24		ほぼ円形	図版IV-12	
図IV-8	P-196	Ⅲ	72-159-ア	0.88×0.80/0.77×0.54/0.59	N-32°-E	楕円形	図版IV-13	
図IV-8	P-197	Ⅲ	70-156-イ/ウ 71-156-ア/エ	(0.54)×(0.30)/(0.36)×(0.15)/0.19		不明	図版IV-13	北側目11年度削平
図IV-8	P-198	Ⅲ	71-156-エ 71-157-ア	0.94×0.76/0.82×0.74/0.34	N-2°-W	楕円形	図版IV-13	
図IV-9	P-199	Ⅲ	71-157-イ	0.59×0.52/0.56×0.42/0.19		ほぼ円形	図版IV-13	
図IV-9	P-200	Ⅲ	71-156-ウ/エ 71-157-ア/イ	0.73×0.61/0.64×0.51/0.27	N-9°-W	楕円形	図版IV-13	
図IV-9	P-201	Ⅲ	72-156-ウ	0.63×0.60/0.42×0.42/0.16		ほぼ円形	図版IV-13-14	
図IV-9	P-202	Ⅲ	72-156-ウ 72-156-エ	(0.40)×0.33/(0.34)×0.36/0.28		不明	図版IV-14	南側未調査
図IV-9	P-203	Ⅲ	72-159-ア	0.40×0.35/0.21×0.20/0.16		ほぼ円形	図版IV-14	
図IV-9	P-204	Ⅲ	71-159-ウ	1.20×1.06/0.96×0.82/0.25		ほぼ円形	図版IV-14	
図IV-10	P-205	Ⅲ	72-159-イ	0.85×0.79/0.58×0.58/0.42		ほぼ円形	図版IV-15	
図IV-10	P-206	Ⅲ	72-158-ウ 72-159-イ	0.90×0.78/0.70×0.58/0.64	N-41°-E	楕円形	図版IV-15	
図IV-10	P-207	Ⅲ	72-158-ア/イ	0.92×0.74/0.62×0.62/0.21	N-3°-W	楕円形	図版IV-15	

表IV-4 遺構一覧(続き)

焼土

図番号	遺構名	H17 生活面	位 置	分類	現地確認 内容物	フローテーション	図版番号	備 考
図IV-15	F-1	49	71-141-ア/イ②	焼地		◎		
図IV-15	F-2	50	71-141-ア	焼地		○		
図IV-15	F-3	50	71-141-ア	焼地		○		
図IV-16	F-4	52	71-140-ウ①/エ/71-141-ア/イ②	焼地		◎		
図IV-15	F-5	48	70-141-ウ①/71-141-エ/71-142-ア	焼地		◎		
図IV-15	F-6	50	70-141-ウ②/71-141-エ	焼地	炭化ケルミ	◎		
図IV-23	F-7	140	70-152-イ/ウ②/71-152-ア/エ	焼地		×		
図IV-23	F-8	136	71-152-エ	焼地		○		
図IV-20	F-9	121	71-152-ア	焼地		×		
図IV-23	F-10	136	70-152-イ/71-152-ア	焼地		○		
図IV-23	F-11	136	70-152-ウ/70-154-イ/ 71-152-エ/71-154-ア	焼地		◎		
図IV-23	F-13	142	71-156-ア	焼地		◎		
図IV-28	F-14	162	71-155-ウ②/エ/71-156-ア/イ②	焼地	骨片	◎		
図IV-24	F-15	228	71-156-エ	焼地		◎		
図IV-27	F-16	255	70-159-イ/71-158-エ/71-159-ア	焼地		◎		
図IV-23	F-18	136	71-154-ア	焼地		×		
図IV-28	F-19	162	70-156-イ/71-156-ア/エ	焼地	骨片	◎		
図IV-32	F-20	210	71-158-エ	焼地		◎		H1C年代測定(TK2-80)
図IV-22	F-21	129	70-152-ウ/70-154-イ/ 71-152-エ/71-154-ア	焼地		○		
図IV-27	F-22	155	70-154-ウ/71-154-エ	焼地		◎		
図IV-29	F-23	172	70-152-ウ③/70-156-イ②/ 71-152-エ/71-156-ア	焼地		◎		
図IV-25	F-24	149	71-154-エ	焼地		○		
図IV-36	F-25	252	70-157-ウ/70-158-イ/ 71-158-ア②/エ/71-157-エ	焼地	骨片	◎		
図IV-36	F-26	252	71-158-エ	焼地		◎		
図IV-23	F-27	140	70-152-ウ③/71-152-エ	焼地		○		小ビット1E
図IV-27	F-28	152	70-152-ウ/71-152-エ①	焼地		○		
図IV-27	F-30	255	71-158-エ	焼地		○		
図IV-31	F-31	200	70-156-イ/ウ②/71-156-ア/エ	焼地		○		
図IV-38	F-33	261	71-158-エ	焼地	骨片 炭化ケルミ	◎		H1C年代測定(TK2-8)
図IV-38	F-36	261	70-158-ウ/70-159-イ/ 71-158-エ/71-159-ア	焼地		○		
図IV-25	F-37	149	71-152-ア/エ	焼地		◎		
図IV-39	F-38	263	71-158-ア①/イ/ウ/エ/71-157-エ	焼地	骨片 炭化ケルミ	◎		H1C年代測定(TK2-12)
図IV-41	F-49	284	70-160-ウ/70-161-イ/ 71-161-エ/71-161-ア	焼地		◎		
図IV-38	F-64	262	71-158-エ	焼地		×		
図IV-38	F-65	262	70-158-イ/ウ/71-158-ア②/イ②/ウ②/エ	焼地	骨片 炭化ケルミ	◎		小ビット1E
図IV-38	F-71	261	71-158-ア②/イ②/ウ②/エ/71-158-イ/ウ	焼地		◎		
図IV-32	F-124	210	71-158-ア①	焼地		◎		
図IV-31	F-129	200	71-156-エ	焼地		◎		
図IV-31	F-130	200	71-156-エ	焼地		◎		
図IV-18	F-143	80	71-146-エ	焼地		○		
図IV-18	F-144	80	71-146-エ	焼地		○		
図IV-18	F-145	81	71-146-ア	焼地		○		
図IV-18	F-146	80	71-146-ア	焼地		○		
図IV-18	F-147	80	71-146-ア	焼地		○		
図IV-18	F-148	80	70-146-イ/71-146-ア	焼地		○		
図IV-15	F-159	50	71-141-ア/イ③/ウ③/エ	焼地		◎		
図IV-15	F-160	51	71-141-エ	焼地		○		
図IV-16	F-161	54	71-141-エ	焼地		○		
図IV-18	F-166	79	71-146-ア	焼地		○		
図IV-33	F-340	227	70-158-ア②/イ②/71-158-ア②	焼地		◎		
図IV-33	F-341	227	70-158-ア②/イ②/71-158-ア②	焼地	骨片 炭化ケルミ	◎		◎(H13実施)
図IV-40	F-497	269	70-157-ウ②/70-158-イ②/ 71-158-ア②/エ/71-157-エ②	焼地	骨片 炭化ケルミ ペンダラ	◎		◎(H13実施)
図IV-36	F-625	252	70-156-ウ②/71-156-エ/71-156-ア	焼地		◎		◎(H13実施)
図IV-22	F-1152	132	72-152-ウ②	焼地		○		
図IV-22	F-1153	132	72-152-ウ①/72-152-イ①	焼地		○		
図IV-22	F-1154	132	71-152-ウ①/71-152-イ②/72-152-エ①	焼地	骨片	○		
図IV-22	F-1155	132	72-152-エ②	焼地		○		
図IV-24	F-1156	146	71-152-イ③/72-152-ア③	焼地		○		
図IV-21	F-1157	123	71-151-エ①/71-152-ア②	焼地	骨片	○		図版IV-7 小ビット8E
図IV-23	F-1158	137	72-152-ウ②	焼地		○		
図IV-23	F-1159	137	72-152-イ②/ウ②/エ②	焼地		○		
図IV-21	F-1160	136	72-152-ウ①	焼地		○		

表IV-4 遺構一覧(続き)

焼土

図番号	遺構名	H17 生活面	位 置	分類	現地確認 内容物	フローテーション	図版番号	備 考
図IV-22	F-1161	126	71-152-ウ②/71-154-イ①/ 72-153-エ②/72-154-ア②	瓦地	炭化ケルミ	○		
図IV-22	F-1162	129	71-153-イ③/ウ④/71-154-イ①/ 72-153-ア②/エ③	瓦地	炭化ケルミ	○	H4C年代測定(TK2-78)	
図IV-22	F-1163	129	71-153-ウ③/71-154-イ①/ウ②/71-155-イ①(2間)/ 72-154-ア②/エ③	瓦地		○		
図IV-22	F-1164	134	72-153-イ②/ウ③	廃棄		○		
図IV-21	F-1166	126	71-153-イ①/72-153-ア①	瓦地		○		
図IV-23	F-1166	137	72-152-ウ②	未定		○		南側未調査
図IV-23	F-1167	138	72-152-ア④/エ⑤	瓦地		○		小ピット1基
図IV-23	F-1168	137	72-152-ウ②/72-153-イ①	未定		○		南側未調査
図IV-23	F-1169	139	71-152-ウ②/72-152-エ③	瓦地		○		図版IV-7
図IV-23	F-1170	139	71-152-ウ②	廃棄		○		
図IV-23	F-1171	140	71-152-ウ②	瓦地		○		
図IV-21	F-1172	127	71-153-イ①/72-153-ア②	瓦地		○		
図IV-22	F-1173	134	72-154-イ①	瓦地	炭化ケルミ	○		
図IV-21	F-1174	124	72-155-ア①	廃棄		○		
図IV-23	F-1175	137	72-152-ウ②/72-153-イ①	瓦地		○		
図IV-22	F-1176	135	72-154-イ①	瓦地		○		
図IV-21	F-1177	124	72-155-イ①/ウ①	瓦地	炭化ケルミ ベンガラ	◎		H4C年代測定(TK2-79)
図IV-23	F-1178	141	72-153-ウ③/72-154-イ③	瓦地		◎		
図IV-24	F-1179	147	72-153-エ④/72-154-ア③	瓦地	炭化ケルミ	◎		図版IV-7
図IV-26	F-1180	151	71-152-ウ③/71-153-イ③/ 72-152-エ②/72-153-ア③	瓦地	骨片	◎		
図IV-24	F-1181	147	72-153-エ④/72-154-ア③	瓦地		◎		
図IV-13	F-1188	27	72-135-ア①/エ②	瓦地		◎		
図IV-13	F-1190	30	71-136-ウ①/71-137-イ①/ 72-136-ウ①/エ①/72-137-ア①/イ①	瓦地		○		
図IV-14	F-1197	31	72-136-ウ②/72-137-イ②	瓦地	骨片	○		
図IV-13	F-1200	30	72-137-ア①/イ①	瓦地		○		
図IV-13	F-1202	33	71-133-ア①/イ①/ウ②/エ①	瓦地		○		
図IV-14	F-1203	33	72-136-ウ③/エ③/72-137-ア②/イ③	瓦地		○		
図IV-14	F-1204	34	71-137-イ②/72-137-ア②/イ②	瓦地		○		
図IV-15	F-1205	49	71-141-イ②/ウ②/エ②/72-141-エ②	瓦地		○		
図IV-14	F-1206	40	71-138-ア①/イ①/ウ②/72-138-ア③	瓦地	炭化ケルミ	◎		図版IV-5
図IV-15	F-1207	50	72-141-ウ①/エ③	瓦地		○		
図IV-15	F-1208	50	72-141-ウ①/エ③	瓦地		○		
図IV-16	F-1209	53	72-140-ウ①/72-141-イ①	瓦地		○		
図IV-13	F-1210	38	72-135-ウ②	瓦地		◎		
図IV-16	F-1211	53	72-141-ウ②/エ④	廃棄		◎		
図IV-15	F-1212	51	71-141-イ④/72-141-ア②	廃棄		○		
図IV-16	F-1213	55	71-141-イ⑤/ウ④/72-141-ア③/エ⑤	瓦地		○		
図IV-16	F-1214	55	71-141-イ⑤/ウ④/エ⑤	廃棄		○		
図IV-16	F-1215	55	71-141-イ⑤/ウ④/72-141-エ⑤	瓦地		○		
図IV-16	F-1216	54	72-140-ウ①/エ①/72-141-ア③/イ②	瓦地		○		
図IV-14	F-1217	43	72-139-イ①	廃棄		○		
図IV-16	F-1218	56	71-141-イ⑥/ウ⑤/エ⑥	瓦地		○		
図IV-16	F-1219	57	72-141-ア④/エ⑥	廃棄		○		
図IV-13	F-1220	36	71-134-ア①/イ②/ウ③/エ④	瓦地	炭化ケルミ	◎		
図IV-13	F-1221	35	71-134-イ②/ウ②/71-135-イ②/ 72-134-エ③/72-135-ア①	廃棄	炭化ケルミ	◎		
図IV-17	F-1222	66	71-143-ア①	廃棄		○		
図IV-17	F-1223	59	72-142-ア②/エ②	瓦地		○		
図IV-17	F-1224	60	72-142-ア③	瓦地		○		
図IV-17	F-1225	67	71-143-イ⑤	瓦地		○		
図IV-17	F-1226	68	71-143-イ⑥/ウ②	廃棄		○		
図IV-18	F-1227	80	72-146-ウ②	瓦地		○		
図IV-18	F-1228	79	72-145-ウ③/エ①/72-146-ア③	廃棄		○		
図IV-18	F-1229	80	72-145-エ②/72-146-ア③	瓦地		○		
図IV-17	F-1230	62	71-142-ア②/イ①/ウ①	瓦地		○		
図IV-20	F-1231	107	72-151-ア②/イ②	瓦地		◎		
図IV-20	F-1232	107	72-151-ア②	廃棄	ベンガラ	◎		
図IV-20	F-1233	108	71-151-ウ②	瓦地		◎		
図IV-16	F-1234	57	71-141-ウ③/エ①	瓦地		◎		
図IV-16	F-1235	57	71-141-エ①	不明		○		
図IV-20	F-1236	101	72-149-イ②	廃棄		○		図例木下により覆反されている
図IV-18	F-1237	80	71-146-ウ②/エ②	廃棄		◎		

表IV-4 遺構一覧(続き)

焼土

図番号	遺構名	H17 生活面	位 置	分類	現地確認 内容物	フローテーション	図面番号	備 考
図IV-20	F-1238	100	71-148-ウ①/71-149-イ①/ 72-148-エ③/72-149-ア①	焼地		○		
図IV-19	F-1239	83	71-145-ウ③	焼棄		○		
図IV-19	F-1240	83	72-145-ウ③	焼棄		○		
図IV-20	F-1241	105	71-150-イ②/72-150-ア③/エ④	焼地		○		小ピット1層 14C年代測定(TK2-81)
図IV-20	F-1242	105	71-150-ア①	焼地		○		
図IV-17	F-1243	63	71-142-ア②	焼棄	ベンガラ	○		
図IV-21	F-1244	113	72-150-エ①	焼棄	骨片	○		
図IV-20	F-1245	109	71-150-ウ①	焼棄		○		
図IV-18	F-1246	80	72-146-エ④	焼棄		○		
図IV-18	F-1247	80	71-146-ウ②/72-146-エ④	焼棄		○		
図IV-17	F-1248	60	72-142-イ③	焼地		○		
図IV-17	F-1249	61	72-142-ア④	焼地		○		
図IV-19	F-1250	83	72-146-イ③	焼地		○		
図IV-19	F-1251	83	72-146-ア③/イ③	焼棄		○		
図IV-19	F-1252	83	72-146-ア③/イ③/ウ③/エ④	焼地	骨片 炭化ケルミ	◎		
図IV-19	F-1253	83	71-146-イ②/ウ④/72-146-ア③/エ④	焼地	炭化ケルミ	◎		14C年代測定(TK2-76)
図IV-19	F-1254	83	71-146-イ②/ウ④	焼地		◎		
図IV-19	F-1255	86	71-146-イ③/ウ③/72-146-ア③/エ③/エ④	焼地		◎		
図IV-19	F-1256	83	72-146-イ③/ウ③	焼地	炭化ケルミ	◎		
図IV-19	F-1257	83	71-145-ウ③/72-145-ア③/エ③/72-146-ア③	焼地		○		
図IV-17	F-1258	62	72-142-ア②	焼地		○		
図IV-21	F-1259	113	72-152-ア③/イ③	焼地		○		
図IV-19	F-1260	85	72-145-ウ③/72-146-イ③	焼地		○		
図IV-21	F-1261	113	72-151-ウ③/72-152-イ③	焼地		○		
図IV-19	F-1262	86	72-146-エ③/エ④	焼地		○		
図IV-19	F-1263	86	72-146-イ③/ウ③/エ③/エ④	焼棄		◎		
図IV-19	F-1264	86	71-146-イ③/72-146-ア③	焼地		◎		
図IV-19	F-1265	86	72-146-ア③/イ③	焼地	炭化ケルミ ベンガラ	◎		
F-1266		欠産						
図IV-20	F-1267	118	72-151-ウ③/エ③/エ④	焼地	骨片 炭化ケルミ	◎		14C年代測定(TK2-82)
図IV-19	F-1268	86	72-145-ウ③/エ③/エ④/72-146-イ③	焼地		○	図IV-7	
図IV-14	F-1269	44	70-139-ア④	焼棄		○		
図IV-14	F-1270	4	70-139-イ②	焼地	骨片	○		
図IV-26	F-1271	151	71-153-ウ③/エ①/71-154-イ④	焼地	骨片	○		
図IV-14	F-1272	35	71-136-ウ③/エ①/72-136-エ③	焼地	炭化ケルミ	◎		
図IV-26	F-1273	151	71-153-イ③/ウ④	焼地		◎		
図IV-19	F-1274	89	71-146-ア①/イ③	焼地		○		
図IV-19	F-1275	87	72-145-ウ③/エ③/72-146-イ③	焼棄		○		
図IV-23	F-1276	131	71-154-イ③	焼地	炭化ケルミ	◎		
図IV-23	F-1277	131	72-154-エ②	焼地		◎		
図IV-24	F-1278	147	72-154-ア③/イ④/ウ①/エ③	焼地	骨片	○		
図IV-27	F-1279	153	71-153-ア①/イ①	焼地		○		
図IV-26	F-1280	151	72-152-ア③/イ②	焼地	骨片	◎		
図IV-24	F-1281	145	72-153-ウ④	焼地		◎		
図IV-24	F-1282	147	72-154-ウ①/72-155-イ③	焼地		◎		
図IV-26	F-1283	151	72-152-ウ③/72-153-イ②	焼地	骨片 炭化ケルミ	◎		14C年代測定(TK2-83)
図IV-19	F-1284	89	72-146-イ②	焼棄		○		
図IV-14	F-1285	36	72-136-イ①	焼棄		○		
図IV-14	F-1286	37	72-136-イ②/ウ②	焼棄	ベンガラ	○		
図IV-27	F-1287	152	72-152-ア③/イ③	焼地		○		
図IV-20	F-1288	91	71-146-ア②/イ③	焼棄		○		
図IV-25	F-1289	149	72-155-イ④/ウ④	焼地		○		
図IV-25	F-1290	149	71-155-イ③/72-155-ア④	焼棄	炭化ケルミ	◎		
図IV-27	F-1291	152	71-152-ウ⑥/72-152-エ④	焼地	骨片	◎		
図IV-26	F-1292	151	72-155-ウ③/エ④	焼地	炭化ケルミ	◎		
図IV-26	F-1293	151	72-153-ウ③	焼地		○		
図IV-25	F-1294	149	71-155-ウ③/71-156-イ③	焼地		○		
図IV-20	F-1295	95	72-146-ア③/イ③	焼棄		○		
図IV-27	F-1296	153	72-152-エ④	焼地		◎		
図IV-27	F-1297	153	72-152-ウ③	焼地	骨片	◎		
図IV-30	F-1298	167	71-153-イ③/72-153-ア②	焼棄		○		
図IV-30	F-1299	167	72-153-ア②/イ③/ウ④/エ④	焼地	骨片	◎		14C年代測定(TK2-84)
図IV-30	F-1300	167	72-153-イ③/ウ④	焼地	骨片	◎		
図IV-27	F-1301	153	71-152-ウ②/72-152-エ④	焼地	骨片	◎		

表IV-4 遺構一覧(続き)

焼土

図番号	遺構名	H17 生活面	位 置	分類	現地確認 内容物	フローテーション	図面番号	備 考
図IV-27	F-1302	156	72-154-ア③	廃棄		×		
図IV-28	F-1303	159	71-156-イ⑤/72-156-ア③	瓦地	骨片	○		
図IV-30	F-1304	167	72-153-エ⑥/72-154-ア⑥/イ⑥	廃棄		○		
図IV-24	F-1305	147	71-156-ウ③/エ	瓦地		○		
図IV-24	F-1306	147	71-156-ウ③/72-156-エ②	瓦地	骨片	○		
図IV-24	F-1307	147	72-156-エ②	瓦地	骨片	○		
図IV-24	F-1308	147	72-156-イ②/ウ②	瓦地	炭化ケル①	○		
図IV-24	F-1309	147	72-156-イ②	瓦地		○		
図IV-25	F-1310	241	69-155-ウ①/70-155-エ④	瓦地	骨片	○		
図IV-27	F-1311	153	72-152-イ⑤/ウ⑤	瓦地		○		
図IV-27	F-1312	154	71-152-イ⑤/ウ⑥/72-152-ア⑥/エ⑥	瓦地	骨片	○		
図IV-28	F-1313	159	71-155-ウ⑤/71-156-イ⑤/ 72-155-エ⑤/72-156-ア⑤	瓦地	骨片 炭化ケル①	○		
図IV-28	F-1314	156	72-153-ウ⑥/エ⑥	瓦地		○		
図IV-29	F-1315	175	71-153-エ②/71-154-ア②	廃棄		○		
図IV-17	F-1316	70	71-144-ウ①	瓦地		○		
図IV-17	F-1317	69	72-144-イ①	廃棄		○		
図IV-17	F-1318	71	72-144-エ②	廃棄		×		
図IV-17	F-1319	72	72-144-エ②	廃棄		○		
	F-1320		欠番					
図IV-28	F-1321	156	71-152-ウ⑥/72-152-エ⑥	瓦地		○		
図IV-17	F-1322	71	71-144-ウ②	廃棄		○		
図IV-28	F-1323	157	72-152-イ③	瓦地		○		
図IV-24	F-1324	147	72-156-ウ②	瓦地	骨片	○		
図IV-28	F-1325	159	72-156-エ②③④	瓦地	骨片	○		
図IV-28	F-1326	159	71-156-ウ⑥	瓦地	骨片	○		
図IV-29	F-1327	163	72-156-ウ⑥/エ⑥	瓦地	骨片 炭化ケル①	○		
図IV-28	F-1328	161	72-155-エ⑥/72-156-ア⑥	廃棄		○		
図IV-29	F-1329	172	72-155-エ①	廃棄		○		
図IV-28	F-1330	161	71-155-ウ⑥	廃棄		○		
図IV-20	F-1331	111	72-150-ア⑤/イ⑤	瓦地		○		
図IV-22	F-1332	210	72-160-ア①	瓦地		○		
図IV-24	F-1333	236	71-161-ウ③	廃棄		○		
図IV-30	F-1334	227	71-158-ウ③/71-159-イ②/ 72-158-エ③/72-159-ア③	瓦地	骨片	○		
	F-1335		欠番					
図IV-42	F-1336	296	72-160-ウ①/エ③	廃棄		○		
図IV-28	F-1337	161	72-156-ア④/エ③	瓦地		○		
図IV-28	F-1338	161	71-156-ウ⑥/72-156-エ⑥	瓦地	骨片	○		
図IV-28	F-1339	161	72-156-ウ⑥	廃棄	骨片	○		
図IV-24	F-1340	147	72-156-ウ②/72-157-イ③	瓦地	骨片	○		
図IV-35	F-1341	235	72-159-ア①/エ③	瓦地	骨片 炭化ケル①	○		
図IV-28	F-1342	161	72-156-エ③	瓦地	骨片	○		
図IV-29	F-1343	163	72-156-エ④	瓦地	骨片	○		
図IV-42	F-1344	198	72-161-ウ④	瓦地		○		
図IV-29	F-1345	182	72-156-ウ②	瓦地		○		
図IV-42	F-1346	298	71-161-イ①/ウ①/72-161-ア①/エ④	瓦地		○		
図IV-29	F-1347	165	72-156-ウ③/エ⑥/72-157-ア③④⑤間/イ③④⑤間	瓦地	骨片	○		
図IV-29	F-1348	181	71-155-イ⑥/72-155-ア⑥	瓦地		○		
図IV-29	F-1349	172	72-155-エ②	瓦地	骨片 炭化ケル①	○		
図IV-23	F-1350	144	72-157-ア②/イ③	廃棄		○		
図IV-30	F-1351	227	72-158-ウ③/エ③/ 72-159-ア③/イ③	瓦地	骨片 炭化ケル①	○		
図IV-31	F-1352	186	71-155-ウ⑥/エ④/71-156-ア/イ⑥	瓦地		○		
図IV-23	F-1353	144	72-157-エ①	瓦地		○		
図IV-29	F-1354	182	72-156-イ⑥	廃棄		○		
図IV-29	F-1355	182	72-155-ウ⑥/エ⑥/72-156-ア⑥/イ⑥	瓦地		○	図面IV-7 H4C年代測定(TK3-86)	
図IV-30	F-1356	167	72-156-イ⑤	瓦地		○		
図IV-28	F-1357	160	72-156-エ②③④/72-157-ア④	瓦地		○		
図IV-23	F-1358	144	71-157-イ②/72-157-ア②	廃棄		○		
図IV-30	F-1359	167	72-156-ア⑥/イ④/ウ⑥/エ⑥	瓦地	骨片	○		
図IV-31	F-1360	183	72-156-ア⑥/エ②	瓦地	骨片 炭化ケル①	○		
図IV-28	F-1361	159	72-157-ア③④間/イ③④間	廃棄	炭化ケル①	○		
図IV-32	F-1362	211	72-156-ウ②③④間/72-157-イ④	瓦地	骨片	○		
図IV-32	F-1363	211	72-157-ア⑤/イ④	瓦地	骨片	○		
図IV-31	F-1364	201	72-155-ウ①/72-156-イ⑥	瓦地		×		

表IV-4 遺構一覧(続き)

焼土

図番号	遺構名	H17 生活面	位 置	分類	現地確認 内容物	フローテーション	図版番号	備 考
図IV-35	F-1365	235	72-159-イ⑤	焼地	骨片	○		
図IV-35	F-1366	227	71-157-ウ②/エ/71-158-ア②/イ④	焼地	骨片	○		
図IV-39	F-1367	163	71-156-ウ①	廃棄	×			
図IV-33	F-1368	225	71-156-ウ③/71-157-イ⑤	焼地	骨片	○		
図IV-31	F-1369	188	71-155-ウ①/71-156-イ②/ 72-155-エ②/72-156-ア②	焼地	◎			小ビット4基 H1C年代測定(TK2-67)
図IV-34	F-1370	230	72-158-エ②/72-159-ア⑤	焼地	骨片	◎		
図IV-32	F-1371	220	71-157-ア①/イ③/ウ③/エ/71-158-ア①/イ③/イ③	焼地	◎			
図IV-39	F-1372	263	72-159-ウ③/エ③/72-160-ア③/イ③/ウ③	焼地	骨片 炭化ケル土	◎		H1C年代測定(TK2-90-TK-91)
図IV-36	F-1373	236	71-159-ウ③/72-159-エ③/72-160-ア③	焼地	骨片 炭化ケル土	◎		
図IV-32	F-1374	221	71-157-イ③/72-156-エ③/南側上/72-157-ア③	焼地	骨片	◎		
図IV-33	F-1375	224	72-157-ウ③/エ③	焼地	◎			
図IV-30	F-1376	167	72-156-ウ③	焼地	骨片	◎		
図IV-31	F-1377	190	71-154-エ③	焼地	◎			
図IV-30	F-1378	167	72-154-エ③	焼地	◎			
図IV-31	F-1379	199	72-156-イ③	焼地	骨片	◎		
図IV-31	F-1380	206	70-155-ア③	焼地	骨片	◎		H1C年代測定(TK2-85)
図IV-31	F-1381	202	72-156-イ③	焼地	◎			
図IV-31	F-1382	187	72-156-ア③/南側/エ③	焼地	骨片	◎		
図IV-34	F-1383	201	71-162-イ③	廃棄	×			
図IV-42	F-1387	291	71-162-ア①/イ①	廃棄	◎			
図IV-42	F-1388	291	71-162-ア①/イ①	廃棄	◎			
図IV-33	F-1389	225	72-156-エ③/南側/72-157-ア③	焼地	骨片 炭化ケル土	◎		
図IV-33	F-1390	227	71-157-ア①/イ①	焼地	◎			小ビット7基
図IV-32	F-1391	222	72-157-イ⑤	焼地	骨片	◎		
図IV-32	F-1392	223	72-157-ア②/イ①	焼地	骨片	◎		
図IV-34	F-1393	228	71-156-ウ③	焼地	×			
図IV-36	F-1394	251	71-159-イ②	廃棄	◎			
図IV-36	F-1395	252	71-158-ウ③/71-159-イ③/ 72-158-エ③/72-159-ア③	廃棄	◎			
図IV-32	F-1396	222	72-157-イ⑤	未定	◎			南側土調査
図IV-33	F-1397	225	72-156-ウ③/南側/エ③/南側/ 72-157-ア③/イ①	焼地	骨片 炭化ケル土	◎		
図IV-39	F-1398	264	71-159-ウ③	焼地	炭化ケル土	◎		
図IV-36	F-1399	251	71-158-ウ③/71-159-イ③/ 72-158-エ③/72-159-ア③	焼地	◎			
図IV-34	F-1400	229	71-157-イ③	焼地	◎			
図IV-34	F-1408	228	71-156-ウ③/72-156-エ③	焼地	骨片 炭化ケル土	◎		
図IV-13	F-1409	2	72-113-イ①	焼地	炭化ケル土	×		
図IV-35	F-1410	246	71-157-ウ③	焼地	◎			
図IV-35	F-1411	246	71-157-ウ③/72-157-エ③	焼地	◎			
図IV-39	F-1412	263	71-158-ウ③/71-159-イ③/ 72-158-ア③/エ③/72-159-ア③	焼地	骨片 炭化ケル土	◎		
図IV-41	F-1413	274	72-158-ウ③/エ③/72-159-ア③/イ③	焼地	骨片 炭化ケル土	◎		
図IV-13	F-1414	9	72-125-イ①	焼地	◎			
図IV-37	F-1415	255	71-156-ウ③/72-156-エ③	焼地	◎			
図IV-41	F-1427	274	72-158-ウ③/72-159-イ③/ウ③	焼地	◎			
図IV-37	F-1435	255	71-157-ア②/イ③/ウ③/エ②/ 71-158-ア②/イ③/エ②	焼地	骨片 炭化ケル土	◎		
図IV-38	F-1438	261	71-157-ウ③/72-157-ア③/エ③	焼地	骨片 炭化ケル土	◎		
図IV-42	F-1445	289	72-159-ウ③	焼地	炭化ケル土	◎		
図IV-39	F-1446	266	71-157-イ③/ウ③/72-157-ア③/エ③	焼地	骨片 炭化ケル土	◎		H1C年代測定(TK2-86)
図IV-40	F-1447	267	70-156-ウ③/70-157-イ③/ 71-156-ウ③/エ②/71-157-ア③	焼地	骨片	◎		
図IV-41	F-1448	273	72-157-ウ③	廃棄	◎			
図IV-40	F-1451	268	71-156-ウ③/72-156-エ③	焼地	◎			
図IV-41	F-1460	288	72-159-イ③	焼地	×			
図IV-41	F-1461	276	72-157-ア③/イ③/ウ③/エ③	焼地	炭化ケル土	◎		
図IV-41	F-1470	278	71-157-ウ③	廃棄	◎			
図IV-41	F-1484	288	72-159-イ③	焼地	×			
図IV-32	F-1506	210	72-158-イ②/ウ②	廃棄	◎			
図IV-32	F-1507	212	72-158-イ③	焼地	骨片	◎		図版IV-7
図IV-32	F-1515	210	71-158-ア①/イ①	焼地	◎			
図IV-36	F-1538	236	71-156-ア③/イ③	焼地	骨片	◎		
図IV-35	F-1545	248	72-158-イ③	焼地	◎			

表IV-4 遺構一覧(続き)

焼土

図番号	遺構名	H17生活面	位 置	分 類	現地確認 内容物	フローテーション	図版番号	備 考
図IV-34	F-1546	229	72-156-ウ①	焼地		×		
図IV-35	F-1549	250	71-156-ウ②	商業	現代ケルミ	○		
図IV-35	F-1550	250	71-156-ア③/イ④	焼地	骨片	○		
図IV-36	F-1554	252	72-156-イ①/ウ②	焼地	骨片	○		
図IV-36	F-1556	252	71-156-イ①	商業		○		
図IV-31	F-1559	198	72-155-ウ③	焼地		×		
図IV-37	F-1563	255	71-156-ウ④/エ⑤	商業		○		
	F-1568		欠番					
図IV-38	F-1573	262	72-156-ア②/イ④	商業		○		
図IV-39	F-1579	263	71-156-イ③/ウ④/71-159-イ②/ 72-156-ア②/エ⑤	焼地	骨片 現代ケルミ	○		
図IV-38	F-1580	262	71-156-イ③/ウ④/72-156-ア②/エ⑤	焼地	骨片 現代ケルミ	○		
	F-1581		欠番					
図IV-42	F-1584	303	72-168-ウ①	焼地		×		
図IV-42	F-1585	302	71-168-イ①/ウ①	焼地		○		14C年代測定(TK2-00)
図IV-42	F-1586	305	72-172-イ①	焼地	現代ケルミ	○		14C年代測定(TK2-05)
図IV-39	F-1590	263	71-156-ウ④/エ⑤/71-159-ア①/イ④	商業		○		
図IV-40	F-1592	269	71-156-イ②/ウ③	焼地	現代ケルミ	○		
図IV-41	F-1597	286	72-156-ア②/ウ③/エ④	焼地		○		
図IV-41	F-1598	286	72-156-ウ③	焼地		○		
図IV-41	F-1599	287	72-156-エ④	商業	骨片	○		
図IV-29	F-1600	164	72-156-エ④⑤⑥	焼地	骨片 現代ケルミ	○		

集石・土器集中・剥片集中・ベンガラ・赤色化微細礫粒範囲・灰白色粘土範囲

図番号	遺構名	位 置	H17生活面	図版番号	備 考
図IV-11	S-26	72-156-エ①	124	図版IV-15	礫
図IV-11-12	S-27	72-156-エ①	124	図版IV-15	たたき石・白石
図IV-11-12	S-28	72-156-イ①	124	図版IV-16	たたき石
図IV-11-12	S-29	72-156-イ④	167	図版IV-16	たたき石・礫
図IV-11	S-30	72-156-ウ③	167	図版IV-16	たたき石・礫
図IV-11-12	S-31	72-163-ア③	235	図版IV-16	たたき石・礫
図IV-11-12	S-32	72-159-ア③	235	図版IV-16	たたき石・礫
図IV-11-12	S-33	72-156-イ④	163	図版IV-16	礫
図IV-11	S-38	72-156-イ④	259	図版IV-17	礫
図IV-36	土器集中4	71-162-ア	236		
図IV-14	剥片集中	72-137-ア④	38		頁岩
図IV-14	剥片集中	72-137-イ④	38		頁岩
図IV-14	剥片集中	71-138-イ②	40	図版IV-5	頁岩
図IV-14	剥片集中	71-138-イ②/ウ②	40		黒曜石
図IV-15	剥片集中	71-140-ウ②/エ⑤/71-141-ア①/イ④	50		黒曜石
図IV-16	剥片集中	71-146-ウ③	80		黒曜石
図IV-19	剥片集中	72-146-ア②/イ③	83		黒曜石
図IV-19	剥片集中	72-146-イ③/ウ③	83		黒曜石・頁岩
図IV-19	剥片集中	72-146-ア②/エ⑤	83		黒曜石・玉髄
図IV-19	剥片集中	72-146-エ⑤	83		黒曜石・頁岩・玉髄
図IV-19	剥片集中	72-146-ウ②/72-146-イ④	85		黒曜石
図IV-19	剥片集中	71-146-ア①/イ③	86		黒曜石
図IV-28	剥片集中	72-135-エ③/72-136-ア③	159		黒曜石
図IV-31	剥片集中	71-158-イ①	207		黒曜石
図IV-36	剥片集中	71-158-イ①	252		黒曜石
図IV-19	ベンガラ範囲	71-146-イ②/72-146-ア②/イ③/ウ③/エ⑤	83		
図IV-17	ベンガラ範囲	71-142-ア③	63		
図IV-14	ベンガラ範囲	72-136-イ②	37		
図IV-19	ベンガラ範囲	72-146-イ②	86		
図IV-20	ベンガラ範囲	72-151-ア②	107		
図IV-38	ベンガラ範囲	71-158-ア②	264		
図IV-20	ベンガラ範囲	72-150-ア②	111		
図IV-29	赤色化微細礫粒範囲	72-156-イ④	163		
図IV-36	灰白色粘土範囲	72-156-ウ④/エ⑤	252		
図IV-36	灰白色粘土範囲	72-159-ウ④	252		
図IV-38	灰白色粘土範囲	71-158-イ③	262		
図IV-41	灰白色粘土範囲	72-156-ウ③	278		
図IV-42	灰白色粘土範囲	72-156-ウ③	278		

表IV-5 遺構出土掲載遺物一覧

土坑													
図番号	遺構名	名 称	発掘区	遺物番号	取上層	生活層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	図番番号	備考
P-2	溝	72-139-エ	001	-	-	-	(16.2)	(13.5)	(7.4)	(1450)	凝灰岩	図IV-1	
P-163	溝	72-134-ウ	002	-	-	-	(6.9)	(4.5)	(3.0)	(70)	珪岩	図IV-1	既熟
P-163	溝	72-134-ウ	003	-	-	-	(5.5)	(3.2)	(3.3)	(110)	凝灰岩	図IV-1	既熟
P-163	溝	72-134-ウ	004	-	-	-	9.6	7.0	6.1	510	凝灰岩	図IV-1	既熟
P-163	溝	72-134-ウ	005	-	-	-	(7.8)	(5.4)	(6.8)	(290)	凝灰岩	図IV-1	既熟
P-163	溝	72-134-ウ	006	-	-	-	(15.9)	(10.9)	(5.4)	(1070)	凝灰岩	図IV-1	既熟
P-163	溝	72-134-ウ	007	017	-	-	(11.3)	(11.4)	(5.4)	(720)	凝灰岩	図IV-1	既熟
P-163	溝	72-134-ウ	008	-	-	-	(11.0)	(7.8)	(5.8)	(650)	凝灰岩	図IV-1	既熟
P-163	溝	72-134-ウ	009	-	-	-	(11.3)	(7.6)	(6.6)	(500)	凝灰岩	図IV-1	既熟
P-163	溝	72-134-ウ	010	-	-	-	(10.8)	5.5	4.5	(290)	砂岩	図IV-1	既熟
P-163	溝	72-134-ウ	011	011	019,020	-	12.0	12.6	4.1	780	凝灰岩	図IV-1	既熟
P-163	溝	72-134-ウ	012	-	-	-	(11.1)	(8.3)	(4.0)	(630)	凝灰岩	図IV-1	既熟
P-163	溝	72-134-ウ	013	-	-	-	(9.2)	(6.8)	(5.2)	(225)	凝灰岩	図IV-1	既熟
P-163	溝	72-134-ウ	014	-	-	-	(10.9)	4.7	1.8	(110)	珪岩	図IV-1	既熟
P-163	溝	72-134-ウ	015	-	-	-	(8.5)	(7.9)	(5.4)	(240)	凝灰岩	図IV-1	既熟
P-163	溝	72-134-ウ	016	-	-	-	(10.2)	(6.3)	(3.6)	(105)	凝灰岩	図IV-1	既熟
P-163	溝	72-134-ウ	021	-	-	-	(9.3)	(6.8)	(3.0)	(300)	凝灰岩	図IV-1	既熟
P-163	溝	72-134-ウ	022	-	-	-	(7.8)	(6.4)	(3.2)	(130)	凝灰岩	図IV-1	既熟
P-163	溝	72-134-ウ	023	-	-	-	(9.5)	(6.1)	(4.1)	(185)	凝灰岩	図IV-1	既熟
P-163	溝	72-134-ウ	024	-	-	-	(10.5)	(6.2)	(4.4)	(275)	凝灰岩	図IV-1	既熟
P-166	溝	72-134-エ	025	-	-	-	(6.0)	(4.9)	(3.6)	(110)	凝灰岩	図IV-1	既熟
P-166	溝	72-134-エ	001	-	-	-	16.0	8.6	5.4	1045	凝灰岩	図IV-1	既熟
P-166	溝	72-134-エ	002	-	-	-	15.0	10.0	5.7	810	凝灰岩	図IV-1	既熟
P-167	溝	72-134-イ	002	-	-	-	(7.5)	(5.7)	(4.8)	(130)	砂岩	図IV-1	既熟
P-167	溝	72-134-イ	008	-	-	-	(9.3)	(10.1)	(3.4)	(280)	砂岩	図IV-1	既熟
P-167	溝	72-134-イ	029	-	-	-	13.2	8.5	6.9	1130	凝灰岩	図IV-1	既熟
P-167	溝	72-134-イ	030	-	-	-	(10.2)	(4.0)	(3.5)	(220)	砂岩	図IV-1	既熟
P-167	溝	72-134-イ	031	-	-	-	15.1	4.6	4.9	430	凝灰岩	図IV-1	既熟
P-167	溝	72-134-イ	032	033,034,037,038,039,040,041,042,043	-	-	(9.9)	(9.1)	(6.2)	(585)	砂岩	図IV-1	既熟
P-179	溝	72-160-ア	007	-	-	-	11.7	8.7	7.3	950	凝灰岩	図IV-2	既熟
P-179	溝	72-160-ア	008	-	-	-	(5.4)	(2.9)	(1.6)	(20)	凝灰岩	図IV-2	既熟
P-179	溝	72-160-ア	009	-	-	-	(10.2)	(5.5)	(3.2)	(320)	凝灰岩	図IV-2	既熟
P-179	溝	72-160-ア	010	-	-	-	(5.6)	(4.7)	(1.9)	(40)	凝灰岩	図IV-2	既熟
P-179	溝	72-160-ア	011	-	-	-	(2.6)	(1.4)	(1.1)	(33)	凝灰岩	図IV-2	既熟
P-179	溝	72-160-ア	012	-	-	-	(4.8)	(4.0)	(3.3)	(70)	凝灰岩	図IV-2	既熟
P-179	溝	72-160-ア	013	-	-	-	(4.9)	(3.2)	(1.4)	(16)	砂岩	図IV-2	既熟
P-179	溝	72-160-ア	014	-	-	-	(10.2)	(6.8)	(3.9)	(250)	砂岩	図IV-2	既熟
P-179	溝	72-160-ア	015	-	-	-	(5.4)	(3.3)	(0.9)	(15)	凝灰岩	図IV-2	既熟
P-179	溝	72-160-ア	016	-	-	-	(5.3)	(3.5)	(2.4)	(35)	凝灰岩	図IV-2	既熟
P-180	溝	72-157-イ	009	-	-	-	20.3	9.1	4.6	1260	凝灰岩	図IV-9	
P-180	溝	72-157-イ	010	-	-	-	16.3	9.7	6.3	1470	凝灰岩	図IV-9	
図IV-5-3	P-180	たたき石	72-157-イ	006	-	-	12.5	7.0	3.6	457	凝灰岩	図IV-9	
P-180	溝	72-157-イ	010	-	-	-	15.6	8.5	5.7	1100	凝灰岩	図IV-9	
P-180	溝	72-157-イ	011	-	-	-	11.3	8.9	4.3	630	凝灰岩	図IV-9	
図IV-5-6	P-180	たたき石	72-157-イ	012	-	-	11.6	8.5	5.3	830	凝灰岩	図IV-9	
P-186	骨石片	72-157-ウ	014	-	-	-	(8.6)	(9.0)	(9.0)	(900)	凝灰岩	図IV-11	
P-193	溝	72-159-ウ	022	-	-	-	(9.7)	6.0	3.0	(225)	凝灰岩	図IV-12	
P-193	溝	72-159-ウ	021	-	-	-	(14.9)	(7.7)	(5.5)	(60)	砂岩	図IV-12	
P-194	溝	72-159-ア	023	-	-	-	(14.3)	(9.2)	(6.0)	(1000)	凝灰岩	図IV-12	
P-194	溝	72-159-ア	024	-	-	-	(14.2)	(14.3)	(8.1)	(1970)	凝灰岩	図IV-12	
P-194	溝	72-159-ア	025	-	-	-	17.0	10.4	6.3	1545	凝灰岩	図IV-12	
図IV-8-1	P-194	たたき石	72-159-ア	006	-	-	12.3	5.7	4.2	410	凝灰岩	図IV-12	
図IV-9-1	P-203	たたき石	72-159-ア	098	-	-	(12.0)	(4.7)	(3.5)	(300)	凝灰岩	図IV-14	
集石													
図番号	遺構名	名 称	発掘区	遺物番号	取上層	生活層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材	図番番号	備考
S-28	溝	72-155-エ	001	①	124	11.8	8.1	5.3	685	凝灰岩	図IV-15		
S-28	溝	72-155-エ	002	②	124	13.5	(10.3)	7.2	(1030)	砂岩	図IV-15		
図IV-12-1	S-27	たたき石	72-154-エ	001	①	124	12.6	6.5	6.0	600	凝灰岩	図IV-17	既熟
図IV-12-2	S-27	たたき石	72-154-エ	002	②	124	10.2	11.9	6.0	1080	凝灰岩	図IV-17	既熟
図IV-12-3	S-28	たたき石	72-155-イ	001	①	124	13.5	5.2	2.9	340	砂岩	図IV-17	既熟
図IV-12-2	S-28	たたき石	72-155-イ	002	②	124	14.4	4.7	1.8	287	砂岩	図IV-17	既熟
図IV-12-1	S-29	たたき石	72-155-エ	007	⑦	167	9.9	8.4	4.9	550	凝灰岩	図IV-17	既熟
S-29	溝	72-155-エ	003	③	253	13.3	(8.4)	(7.2)	(1440)	凝灰岩	図IV-17	既熟	
図IV-12-1	S-30	たたき石	72-155-ウ	003	③	167	12.2	8.2	4.1	650	凝灰岩	図IV-17	既熟
S-30	溝	72-155-ウ	004	④	167	15.0	8.6	5.7	1030	凝灰岩	図IV-16		
図IV-12-3	S-30	たたき石	72-155-ウ	005	⑤	167	9.8	7.3	5.4	513	凝灰岩	図IV-17	
S-31	溝	72-163-ア	002	②	255	13.1	6.4	3.5	360	砂岩	図IV-16		
S-31	骨石片	72-163-ア	003	③	255	(11.8)	(8.9)	(4.6)	(566)	凝灰岩	図IV-16		
S-31	溝	72-163-ア	004	④	255	10.9	3.5	3.6	215	凝灰岩	図IV-16		
図IV-12-1	S-31	たたき石	72-163-ア	005	⑤	253	13.4	4.7	1.6	217	砂岩	図IV-16	
S-32	溝	72-159-ア	024	④	255	15.6	5.6	3.8	456	凝灰岩	図IV-16		
図IV-12-1	S-32	たたき石	72-159-ア	035	⑤	255	13.8	4.7	3.4	3197	凝灰岩	図IV-17	
S-33	溝	72-156-イ	010	⑩	163	11.8	7.3	4.9	630	凝灰岩	図IV-16		
S-33	溝	72-156-イ	011	⑪	163	8.1	6.3	3.6	290	凝灰岩	図IV-16		
S-38	溝	71-158-ア	303	③	309	14.0	7.2	3.8	460	凝灰岩	図IV-17		
S-38	溝	71-158-ア	304	④	309	(12.1)	4.6	3.7	250	凝灰岩	図IV-17		
S-38	溝	71-158-ア	305	⑤	309	(13.5)	(9.1)	(6.0)	(60)	凝灰岩	図IV-17		
S-38	溝	71-158-ア	306	⑥	309	(6.0)	(5.5)	(3.3)	(130)	凝灰岩	図IV-17		

表IV-6 遺構出土遺物一覧

遺構	分類		石器等																遺物計						
	土器等		石 器	石 片	ナイフ 類	つまみ付の ナイフ	ス タ レ イ バ ー	た た か 石	石 織	合 石	す り 石	砥 石	石 杖	瓦 フ レ イ タ	ワ フ レ イ タ	磨 製 石 器 片	加 工 施 さ る 石	黒 曜 石		鏡 石	石 の 他	磁 石	陶 ・ 土 器 片	石 製 品	石 器 計
	土 器	土 製 品																							
P-2																								1	1
P-165																								31	31
P-166																								2	2
P-167																								32	32
P-169	2	2																							2
P-170																		1							1
P-171																								1	1
P-175																								4	4
P-179	12	12																						10	25
P-180																								4	7
P-182																								1	1
P-183	7	7																						1	8
P-184	5	5																						1	6
P-185	3	3																							3
P-186	1	1																							1
P-187	6	6																							6
P-188	32	32																						2	36
P-189	6	6																							6
P-190	16	16																							1
P-191	4	4																							4
P-192	6	6																							6
P-193	6	3	9																						2
P-194	11	11																							2
P-195	4	4																							2
P-196	42	5	47																						2
P-200	1	1																							2
P-201	3	3																							1
P-205	84	1	85																						7
P-206	2	1	3																						2
P-207	3	3																							2
上掲計	255	11	266																						30
S-1																									3
S-2																									1
S-3																									1
S-26																									2
S-27																									2
S-28																									1
S-29																									1
S-30																									2
S-31																									1
S-32																									1
S-33																									2
S-38																									4
集計																									18
上掲・集計	255	11	266																						30
上掲・集計																									18
上掲・集計																									174
上掲・集計																									480

表IV-7 土壌フローテーション成果一覧

遺構名	始発層番号	有機物土壌		経路	炭化	骨	土器	土器	土器類	石製類	陶磁器	植物遺体	動物遺体	その他遺体	備考
		目録番号	数量												
P-165	16-76-92	40.3	0.0	0.0	7.5	あり	なし	なし	なし	なし	0.0	なし	なし	なし	軽石0.0kg
P-166	16-93	4.2	0.0	0.0	1.6	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
P-167	16-100	11.6	0.0	0.0	3.3	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
P-168	16-133	0.7	2.3	0.4	0.3	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
P-170	16-139	0.3	0.3	0.0	0.1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
F-179	17-159-160	63.3	36.0	33.8	2790.5	あり	0.6	14.1	16	1.7	9.0	0.0	15	1	軽石0.0kg 軽石0.0kg
P-205	161-162														
P-205	17-283	8.0	77.7	14.3	83.9	あり	3.6	29.9	35	なし	3.1	2.8	68	なし	右側1点 ペンガラ0.0kg
F-1	11-438														
F-1	16-77	7.0	3.3	0.8	0.8	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
F-3	11-433	2.4	0.0	0.1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
F-3	11-432	1.0	0.0	0.1	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
F-4	16-134	2.2	2.6	1.4	2.4	あり	なし	なし	なし	なし	0.6	0.6	6	なし	
F-5	11-436-437	9.5	1.5	0.0	0.0	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
F-6	11-441-449														
F-6	658	3.0	1.0	0.0	1.0	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
F-8	11-131	0.9	0.1	0.1	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
F-10	11-115-119	6.5	2.5	0.9	3.0	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
F-11	11-113-133														
F-11	718	10.2	1.0	10.7	13.0	あり	0.0	0.3	0	なし	5.3	5.2	568	なし	軽石1.0kg
F-13	11-1-2-3-4														
F-13	36-38	11.6	15.1	10.4	18.8	あり	0.0	4.5	0	なし	1.5	0.8	50	8	軽石0.2kg
F-14	11-112-132														
F-14	137-138	9.6	1.0	0.7	18.8	あり	0.2	1.0	1	なし	0.4	0.4	24	1	
F-15	16-288														
F-15	11-588	1.4	0.2	0.0	5.0	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
F-16	11-144	2.8	7.2	4.4	17.0	あり	0.3	5.8	0	なし	0.1	0.0	2	1	軽石0.1kg
F-19	11-5-9	30.8	12.3	8.1	50.0	あり	0.5	12.8	0	なし	8.3	4.3	168	217	
F-20	11-16-11														
F-20	11-139-134	2.1	3.6	0.8	21.0	あり	なし	なし	なし	なし	0.0	なし	なし	なし	
F-21	11-134	1.2	なし	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
F-22	11-160	1.2	1.4	1.4	5.2	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
F-25	11-114	5.8	0.3	0.0	2.0	あり	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
F-24	11-139	0.2	0.2	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0	1	なし	
F-25	11-143-387														
F-25	389-391	10.9	4.6	2.4	38.0	あり	11.3	13.4	35	なし	1.3	0.6	73	33	軽石0.3kg
F-25	17-425														
F-27	11-125	0.1	0.0	0.0	なし	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
F-28	11-135-127	1.4	7.3	2.2	3.0	あり	0.1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
F-28	16-26	6.1	0.3	0.3	1.9	なし	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0	2	なし	
F-30	11-151-388														
F-30	390	2.4	3.1	2.4	4.0	あり	0.0	2.5	0	なし	0.0	0.0	2	なし	右側0.0kg
F-31	11-502	5.8	0.2	0.2	2.0	なし	0.0	なし	なし	なし	0.0	0.0	1	なし	
F-33	11-335-368														
F-33	601	16.3	0.2	0.6	60.0	あり	0.7	23.8	1	2.1	1.0	0.0	5	3	軽石1.0kg
F-36	11-597	3.0	25.3	2.8	96.0	なし	0.1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
F-37	11-203	4.6	0.6	0.3	0.0	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
F-38	11-353-362														
F-38	389-436	64.7	86.8	60.3	1492.4	あり	15.2	229.8	214	1.3	78.9	17.5	916	9	軽石38.6kg 軽石2.2kg ペンガラ0.1kg
F-49	11-344	0.8	0.0	0.0	0.0	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
F-65	17-470	25.3	7.3	4.8	137.9	あり	11.7	40.4	30	0.2	0.6	0.3	3	18	軽石0.2kg ペンガラ0.0kg
F-71	11-405	13.9	21.5	9.5	136.7	あり	0.4	85.1	55	なし	0.9	0.4	7	9	軽石0.0kg ペンガラ0.0kg
F-124	11-587	0.1	0.0	0.0	0.0	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
F-129	11-594	0.4	0.0	0.0	0.0	あり	0.0	なし	なし	なし	0.0	なし	なし	なし	
F-130	11-595	0.1	なし	0.0	0.0	なし	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
F-143	11-478	6.0	0.2	0.2	1.1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
F-144	11-477	4.9	0.2	0.3	3.9	なし	なし	なし	なし	なし	3.0	なし	なし	なし	
F-145	11-474	0.7	0.1	なし	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
F-146	11-483	2.1	0.8	0.0	0.0	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
F-147	11-473	0.3	0.0	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
F-148	11-480	1.1	0.1	0.1	0.5	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
F-159	16-49	6.9	6.3	2.6	1.4	あり	なし	なし	なし	なし	0.3	1.2	1.3	68	3
F-160	11-439	1.2	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
F-161	11-460-461	8.4	0.8	0.3	0.7	なし	なし	0.4	0	なし	0.0	0.0	1	なし	
F-166	11-476	1.1	0.0	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
F-349	17-371	4.9	6.8	3.0	—	あり	0.0	6.1	35	なし	0.2	0.1	23	13	軽石0.0kg ペンガラ0.0kg
F-497	17-276														
F-497	17-483	8.5	6.4	3.6	44.4	あり	0.1	0.7	3	なし	0.2	0.2	10	3	ペンガラ0.0kg
F-1152	16-2	8.4	2.6	1.5	14.6	あり	なし	なし	なし	なし	1.6	1.4	6	3	
F-1153	16-3	18.8	3.8	3.1	33.0	あり	0.1	0.4	0	なし	9.5	9.4	113	3	軽石0.0kg
F-1154	16-4	64.9	18.2	2.7	167.7	あり	1.3	0	0	0.3	1.2	1.3	68	3	軽石0.0kg
F-1155	16-5	0.1	0.8	0.1	1.2	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
F-1156	16-6	13.6	13.7	4.0	3.7	なし	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0	2	なし	
F-1157	16-7	32.4	40.0	19.2	33.3	なし	0.3	11.9	2	なし	0.4	0.0	18	38	
F-1158	16-8	6.6	6.5	3.9	6.0	あり	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0	2	なし	軽石0.0kg
F-1159	16-9	33.9	33.3	17.1	7.7	あり	なし	なし	なし	なし	0.2	0.2	11	なし	
F-1160	16-10	8.7	17.1	10.9	4.9	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
F-1161	16-11	17.2	21.9	6.7	633.2	あり	なし	なし	なし	なし	58.1	0.0	3	なし	小礫57.8kg 軽石0.0kg 右側0.0kg
F-1162	16-12	27.4	26.9	15.8	110.4	あり	なし	7.6	13	なし	1.6	0.2	20	なし	軽石1.0kg
F-1163	16-13	37.3	13.2	6.5	37.0	あり	なし	0.6	0	なし	0.7	0.0	4	5	軽石0.0kg
F-1164	16-14	4.0	3.8	2.5	1.8	あり	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0	2	なし	軽石0.0kg
F-1165	16-15	2.3	2.9	2.1	0.7	あり	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0	なし	なし	軽石0.0kg
F-1166	16-16	0.2	0.0	0.0	0.1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	

表IV-7 土壌フローテーション成果一覧(続き)

遺構名	処理層号	原始土壌 目録p	炭水化物重量%		総炭 量%	消化 カルシ 量%	骨 量%	土器 残片%	土器 点数	土製品 数%	石製器 数%	遺構石 数%	断面点数		その他重量%	備考
			2.0mm	0.425mm									1.0mm	2.0mm		
T1-1600	11-154	2.7	2.2	1.4	36.2	あり	0.1	0.0	1	なし	0.0	0.0	0	0		
フレイクアップ集中																
T1-1541-A	11-155	4.4	0.1	0.1	7.0	なし	0.0	なし	なし	なし	6.6	6.6	1003	なし	石灰0.0g	
E-2-上																
T1-1541-B	11-596	0.8	なし	0.0	1.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
E-2-中																
T1-143-A	11-119	3.0	0.0	0.2	0.2	なし	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
E-2-上																
T1-143-B	11-20	1.2	0.0	0.0	0.1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
E-2-中																
T1-143-C	11-21-22	0.6	0.5	0.4	2.3	あり	なし	なし	なし	なし	1.1	なし	なし	なし	石灰1.0g	
E-2-上																
T1-143-D	11-23~25	0.2	なし	0.0	39.6	あり	なし	なし	なし	なし	38.9	0.0	1	なし	石灰28.0g	
E-2-中																
T1-143-E	11-26	1.6	11.7	0.9	1.3	なし	0.0	なし	なし	なし	0.3	なし	なし	なし	石灰0.3g	
E-2-上																
T1-143-F	11-27	6.4	15.0	5.8	47.2	あり	0.0	なし	なし	なし	39.9	なし	なし	なし	小礫0.0g	
E-1																
T1-155	11-29	1.9	2.9	1.5	2.9	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
E-1																
T1-155	11-30~32	3.2	7.4	3.7	1.8	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
E-2-上																
T1-155	11-33~35	1.8	9.8	2.6	1.2	あり	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0	2	なし		
E-2-上																
T1-156-U	11-39	1.8	7.0	1.7	4.7	あり	0.0	0.5	0	なし	1.8	1.5	13	8		
E-2-中																
T1-156	11-40	1.4	1.2	0.5	5.8	あり	なし	なし	なし	なし	1.5	1.4	13	4		
E																
T1-156-A	11-41	4.8	6.9	6.8	34.9	あり	0.0	5.6	1	なし	2.0	0.2	18	15		
E-2-上																
T1-157	11-42-43	10.0	7.0	5.8	32.6	あり	なし	13.0	1	なし	0.4	0.0	7	5		
E-2-中																
T1-159-A-E	11-44	1.0	2.4	0.9	10.0	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
E-2-中																
T1-159-A-E	11-45~54	48.8	30.8	21.1	82.0	あり	0.1	34.0	2	なし	4.9	0.8	20	22	礫片0.3g軽石0.1g	
E-2-中																
T1-160-A	11-55-56	0.1	0.2	0.0	0.6	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
E-2-中																
T1-161-E	11-57	0.2	1.6	0.4	0.8	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
E-2-中																
T1-161-A	11-58~60	0.2	1.2	0.5	0.8	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
E-2-下																
T1-161-E	11-61~63	11.0	10.5	3.8	19.0	あり	なし	4.6	0	なし	0.0	0.0	1	なし	礫0.0g	
E-2-中																
T1-163-A	11-64	0.2	0.0	0.0	1.5	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
E-1																
T1-159-E	11-110	0.8	2.3	1.4	1.0	あり	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
E-2-上																
T1-152-A	11-111	0.2	0.9	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
E-2-中																
T1-153-I	11-116	0.1	0.4	0.2	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
E-2-中																
T1-153-A-E	11-117	0.9	0.0	0.1	13.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
E-2-中																
T1-158-E	11-118	0.9	0.4	0.2	7.0	あり	なし	4.5	0	なし	0.0	0.0	2	なし		
E-2-上																
T1-153-E	11-120	0.3	0.1	0.1	1.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
E-2-中																
T1-153-E	11-121~123	0.9	0.6	0.4	1.0	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
E-1																
T1-151-A-E	11-125	2.6	1.5	0.7	2.0	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
E-1																

表IV-7 土壌フローテーション成果一覧(続き)

試料名	処理番号	原始土壌 含水率 %	炭化物質重量%		残渣 重量%	炭化 クルム %	香 草 %	土器 重量%	土器 点数	土製品 重量%	石製品 重量%	磁器 重量%	割片点数		その他重量%	備考
			2.0mm	0.425mm									備考	2.0mm		
炭化物質層 71-152-ア B-2-上	11-128	0.1	0.0	0.0	なし	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 71-155-ア+エ 71-156-ア+イ B-2-上	11-130	1.1	1.1	1.0	10.0	あり	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0	7	なし		
炭化物質層 71-161-ア B-3	11-136	0.1	0.1	0.1	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質層 71-154-ア B-2-上	11-141	0.8	0.0	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質層 71-152-エ B-3	11-142	6.0	0.5	0.3	1.0	あり	なし	0.1	0	なし	0.1	0.1	3	なし		
炭化物質層 71-153-エ B-3	11-172	0.0	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質層 71-153-エ B-3	11-173	0.3	0.4	0.2	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質層 71-153-エ B-3	11-174	0.5	なし	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質層 71-153-エ B-3	11-175	0.0	0.1	0.1	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0	1	なし		
炭化物質層 71-153-ア B-3	11-176	0.1	なし	なし	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	0.2	なし	なし	なし	石炭0.2g	
炭化物質層 71-153-ア B-3	11-177	0.0	0.5	0.2	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質層 71-153-ア B-3	11-178	—	0.2	なし	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質層 71-153-ア B-3	11-179	—	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質層 71-153-ア B-3	11-180	0.1	0.0	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質層 71-153-ア B-3	11-181	0.0	0.1	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質層 71-153-ア B-3	11-182	0.1	0.4	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0	1	なし		
炭化物質層 71-153-ア B-3	11-183	0.2	0.0	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質層 71-162-ア B-1	11-195	0.3	0.5	0.2	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0	1	なし		
炭化物質層 70-159-イ 71-159-ア B-2-中2	11-200	2.8	10.2	4.7	1.0	あり	0.1	なし	なし	なし	0.0	0.0	1	なし		
炭化物質層 71-158-エ B-2-中2	11-201	6.6	0.9	0.7	54.0	あり	4.0	12.8	1	0.1	0.0	なし	なし	1		
炭化物質層 71-159-ア B-2-中2	11-202	3.7	0.5	0.7	8.0	あり	0.2	0.3	0	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質層 71-160-エ 71-160-ア B-2-中1	11-246	0.8	0.9	0.4	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質層 71-160-ア B-2-中1	11-247	0.7	0.3	0.1	11.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質層 71-162-ア+エ B-2-上	11-248	2.6	1.4	1.1	8.0	なし	なし	なし	なし	なし	0.1	0.0	3	なし	練片0.1g	
炭化物質層 71-161-ア B-2-上	11-299	0.0	5.5	なし	(0.0)	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質層 71-161-エ B-2-上	11-400	0.0	0.2	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質層 71-155 B-1	11-401	0.1	0.2	0.0	0.0	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質層 71-155 B-1	11-402	0.1	0.1	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質層 71-155 B-1	11-403	0.1	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		

表IV-7 土壌フローテーション成果一覧(続き)

遺構名	処理番号	風乾土壌 量(g)	炭化物質重量%		残渣 量(g)	炭化 クルム	骨 殖量(g)	土器 重量(g)	土器 点数	土製品 重量(g)	石器類 重量(g)	遺骨類 重量(g)	照片点数		その他重量%	備考
			2.0mm	0.425mm									備考	2.0mm		
炭化物検出 71-161-E E-1	11-421	0.1	なし	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 71-161-E E-1	11-422	0.1	1.9	0.8	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 71-161-A E-2上	11-423	0.2	1.6	0.4	2.0	なし	0.0	1.4	1	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 71-140-E E-2下F	11-448	1.1	0.3	0.2	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 71-146 E-1	11-469	0.6	0.0	0.0	0.1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 不明 E-1	11-542	0.3	0.3	0.0	9.0	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
E-1 E-2上	11-577	0.0	なし	なし	(2.0)	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 71-158-E E-2中B	11-582	0.0	0.0	0.0	(2.0)	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 71-158-E E-2中D	11-621	—	なし	なし	0.0	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 72-155-A(3)	16-28	0.5	0.0	0.0	7.4	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 71-133-A(3)	16-45	0.1	0.3	0.0	0.8	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 71-133-A(3)	16-46	0.3	1.1	0.2	0.5	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 71-133-A(3)	16-49	3.6	1.8	0.6	12.1	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 72-139-A(3)	16-56	0.1	0.2	0.1	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 71-138-A(1)	16-59	3.1	2.1	1.8	6.5	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 72-138-A(3)	16-60	4.5	0.1	0.1	5.8	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 72-135-A(3)	16-63	5.4	6.0	2.2	1.2	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 72-134-A(3)	16-64	0.3	0.2	0.0	0.7	なし	なし	なし	なし	なし	0.4	なし	なし	なし	鱗片0.4g	
炭化物検出 72-134-A(3)	16-66	0.2	0.4	0.0	0.3	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 71-139-A(2)	16-67	1.1	5.7	0.9	0.7	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 71-139-A(2)	16-68	0.3	0.6	0.1	0.1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 72-139-A(2)	16-69	4.1	16.1	4.4	1.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 71-143-A(3)	16-78	3.6	3.4	3.3	0.3	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 71-143-A(3)	16-79	1.6	1.7	1.2	1.4	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 71-141-A(3)中D	16-80	2.3	1.7	1.0	1.3	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 72-141-A(3)中E	16-81	0.5	1.0	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 72-143-A(3)	16-82	0.3	0.1	0.1	0.9	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 71-143-A(3)	16-83	0.1	0.3	0.0	0.2	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 71-143-A(3)	16-84	0.1	1.0	0.2	0.6	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 72-143-A(3)	16-85	0.0	0.1	0.1	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 72-143-A(3)	16-87	1.3	2.1	1.2	1.5	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 72-143-A(3)	16-88	0.2	0.2	0.1	0.3	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 71-143-A(3)	16-89	0.1	0.0	0.0	0.5	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 72-141-A(3)	16-90	0.5	0.8	0.4	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 71-143-A(3)	16-91	0.1	0.1	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 71-139-A(2)	16-96	0.2	0.2	0.1	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 72-139-A(2)	16-97	0.1	0.0	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物検出 71-146-A(1)	16-108	4.1	4.1	2.7	16.2	なし	なし	なし	なし	なし	5.1	0.0	2	なし	鱗片5.1g	
炭化物検出 72-146-A(3)	16-109	0.4	0.2	0.1	2.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		

表IV-7 土壌フローテーション成果一覧(続き)

選別名	処理番号	風乾土壌 質量%	炭化物質質量%		腐植 質量%	炭化 クムス	有機 炭素%	土器 質量%	土器 点数	土製品 質量%	石製品 質量%	磁器製品 質量%	銅片点数 (備考)	その他質量%	備考	
			2.0m	0.425mm												
炭化物質選別	16-110	6.1	10.1	6.4	8.9	なし	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0	2	なし		
炭化物質選別	72-110-エ①															
炭化物質選別	16-111	0.3	0.9	0.3	0.0	なし	なし	0.0	1	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-110-エ②															
炭化物質選別	16-112	0.1		0.0	0.3	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-110-エ③															
炭化物質選別	16-113	0.2	1.2	0.5	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-113-ア①															
炭化物質選別	16-114	0.5	1.3	0.5	0.2	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-114-エ②															
炭化物質選別	16-115	1.1	2.4	0.5	8.9	なし	なし	なし	なし	なし	0.2	0.2	18	なし		
炭化物質選別	72-115-エ②															
炭化物質選別	16-119	0.2	0.0	0.0	0.3	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-119-イ②ウ②															
炭化物質選別	16-120	0.9	0.4	0.1	0.7	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-120-イ②															
炭化物質選別	16-131	0.5	0.5	0.4	0.4	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-119-エ②															
炭化物質選別	16-132	1.6	0.5	0.3	0.8	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-119-エ②															
炭化物質選別	16-137	3.5	1.0	1.0	1.8	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-130-イ①															
炭化物質選別	16-138	3.1	1.6	1.8	5.3	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-130-ア②															
炭化物質選別	16-139	0.3	0.0	0.5	0.1	なし	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0	1	なし		
炭化物質選別	72-130-イ②															
炭化物質選別	16-140	0.1	なし	0.0	0.1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-131-ウ②															
炭化物質選別	16-141	0.1	0.0	0.0	0.2	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-131-エ②															
炭化物質選別	16-145	2.8	5.3	4.6	0.5	なし	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0	2	なし		
炭化物質選別	72-145-エ②															
炭化物質選別	16-153	0.1	1.3	0.1	0.2	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-141-イ②															
炭化物質選別	16-158	0.6	0.3	0.2	1.5	なし	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0	1	なし		
炭化物質選別	72-151-ア②															
炭化物質選別	16-160	2.8	8.0	2.6	2.7	あり	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0	2	なし		
炭化物質選別	72-151-ウ②															
炭化物質選別	16-170	0.5	1.6	0.4	1.1	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-131-ウ②															
炭化物質選別	16-171	0.8	0.8	0.6	6.6	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-118-ア①															
炭化物質選別	16-172	0.1	0.3	0.2	0.1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-151-エ②															
炭化物質選別	16-175	10.0	3.8	2.0	16.4	あり	0.8	3.3	8	なし	0.3	0.0	10	なし	小礫0.3g ベシガ90.5g	
炭化物質選別	72-151-ウ②エ②															
炭化物質選別	16-178	0.2	0.0	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-130-ウ②															
炭化物質選別	16-179	0.2	0.1	0.1	0.2	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-147-イ②															
炭化物質選別	16-180	0.7	4.1	2.8	0.6	なし	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-147-エ①															
炭化物質選別	16-188	5.2	4.8	1.3	1.2	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-136-ウ②エ②															
炭化物質選別	16-190	0.8	0.0	0.0	0.5	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-136-ウ②															
炭化物質選別	16-192	1.3	0.2	0.2	0.5	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-136-ウ②															
炭化物質選別	16-193	0.0	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-135-ア②															
炭化物質選別	16-194	0.4	1.2	0.2	0.2	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-145-ウ②															
炭化物質選別	16-200	0.5	0.5	0.2	0.2	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-145-エ①															
炭化物質選別	16-205	0.7	16.8	5.7	1.1	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-155-ア②															
炭化物質選別	16-206	0.5	6.6	2.6	1.1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-155-ウ②															
炭化物質選別	16-207	1.6	14.0	4.4	1.6	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-155-ア②															
炭化物質選別	16-208	0.3	1.5	0.5	0.5	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-155-イ②															
炭化物質選別	16-209	0.0	0.1	0.1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-155-ウ②															
炭化物質選別	16-210	0.6	5.6	1.7	1.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-155-エ②															
炭化物質選別	16-213	0.3	11.4	4.1	0.2	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-155-イ②															
炭化物質選別	16-220	0.8	0.7	0.4	0.3	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-145-ア②															
炭化物質選別	16-221	0.1	0.1	0.1	0.3	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-152-イ②															
炭化物質選別	16-224	1.1	0.3	0.1	5.5	なし	なし	なし	5.3	3	なし	0.1	0.0	1	なし	小礫0.1g
炭化物質選別	72-151-イ①															
炭化物質選別	16-225	0.2	0.2	0.3	0.3	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-153-イ②															
炭化物質選別	16-226	0.1	なし	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		
炭化物質選別	72-153-イ②															

表IV-7 土壌フロートーション成果一覧(続き)

遺構名	地層番号	風乾土壌 量(g)	炭化物質量		炭化 クムシ	骨 殖	土器 数	土器 点	土製品 数	石器 数	遺物 量	照片点数		その他量	備考
			2.0mm	0.25mm								備考	2.0mm		
炭化物質層 72-153-イ(巻)	16-227	0.3	0.3	0.2	0.2	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-154-ア(巻)	16-234	2.7	2.8	1.1	1.1	なし	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0	1	なし	
炭化物質層 72-155-ウ(巻)	16-235	0.2	0.7	0.3	0.7	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-153-イ(巻)	16-262	0.2	0.2	0.0	0.3	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-153-イ(巻)	16-263	0.4	0.3	0.2	0.8	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-153-ウ(巻)	16-264	0.2	0.1	0.1	0.1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-149-ア(巻)	16-267	0.4	0.0	0.0	0.2	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-149-イ(巻)	16-268	0.2	1.5	1.5	1.2	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 71-144-イ(巻)	16-270	0.0	なし	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 71-144-イ(巻)	16-271	0.5	1.2	0.1	0.2	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-144-エ(巻)	16-273	1.3	5.3	1.5	2.4	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-147-イ(巻)	16-276	0.3	1.1	0.3	0.9	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-153-ア(巻)	16-278	0.2	0.0	0.1	0.4	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-155-ア(巻)	16-279	0.6	1.0	0.0	1.4	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 71-155-イ(巻)	16-280	0.7	1.1	0.3	0.4	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-155-ウ(巻)	16-281	0.5	1.4	0.6	1.1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-155-エ(巻)	16-282	1.2	2.8	1.1	2.6	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 71-161-ウ(巻)	17-1	0.3	0.3	0.0	4.8	なし	なし	1.1	4	なし	0.0	0.0	1	なし	
炭化物質層 71-161-イ(巻)	17-2	2.7	0.7	0.2	39.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 71-164-イ(巻)	17-3	0.7	0.0	0.0	15.8	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 71-164-イ(巻)	17-4	3.8	13.1	2.2	11.5	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-160-ウ(巻)	17-6	3.8	0.1	0.0	136.3	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-160-ウ(巻)	17-7	1.1	0.0	0.0	31.9	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-160-エ(巻)	17-8	1.4	0.0	0.0	38.1	なし	なし	なし	なし	なし	0.0	なし	なし	なし	軽石0個
炭化物質層 72-161-ア(巻)	17-9	1.2	0.7	0.1	11.7	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-161-ア(巻)	17-10	1.4	0.2	0.1	39.0	なし	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0	1	なし	
炭化物質層 72-161-ア(巻)	17-11	0.5	2.1	0.2	4.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-161-イ(巻)	17-12	8.7	3.9	0.6	139.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-165-エ(巻)	17-13	0.1	0.0	0.0	0.1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-161-エ(巻)	17-14	0.1	0.0	0.0	0.2	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-163-ア(巻)	17-15	0.2	0.3	0.0	1.7	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-163-ア(巻)イ(巻) ウ(巻)エ(巻)	17-16	2.1	4.0	0.6	2.3	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-163-イ(巻)	17-17	0.5	0.1	0.0	2.9	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-165-ウ(巻)	17-18	1.6	0.1	0.0	1.9	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-161-ウ(巻)	17-19	3.6	13.9	3.6	1.7	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 71-160-イ(巻)	17-20	5.0	7.4	1.1	9.8	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-161-ア(巻)	17-22	0.1	0.2	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-164-イ(巻)ウ(巻)	17-23	5.3	4.9	4.9	8.4	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 71-164-イ(巻)	17-24	0.3	0.3	0.1	2.3	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 71-164-エ(巻)	17-25	0.4	0.0	0.0	1.8	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 71-161-ウ(巻)	17-26	1.0	0.3	0.2	4.7	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 71-161-イ(巻)	17-27	0.3	0.3	0.1	1.8	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 71-164-イ(巻)	17-28	0.5	1.4	0.4	2.2	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-161-ア(巻)	17-29	0.0	0.0	0.0	0.1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	

表IV-7 土壌フローテーション成果一覧(続き)

選別名	処理番号	風乾土壌 量(g)	炭化物質重量%		残渣 重量%	炭化 クムス	骨 重量%	土砂 重量%	土砂 点度	土製品 重量%	石粉類 重量%	繊維類 重量%	別片点度		その他重量%	備考
			2.0mm	0.425mm									備考	2.0mm		
炭化物質選別	72-10	0.3	0.4	0.2	0.9	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	72-11	0.4	0.8	0.2	0.6	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	72-13	0.4	1.5	0.3	0.7	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	71-15	3.9	4.4	1.1	5.4	あり	なし	0.2	3	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	72-15	0.2	0.0	0.0	0.1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	72-16	0.3	0.2	0.0	0.2	なし	なし	なし	なし	なし	0.0	0.0	1	なし	なし	
炭化物質選別	72-17	0.0	なし	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	72-18	0.2	0.1	0.0	0.5	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	71-19	4.2	3.4	1.7	6.6	なし	なし	2.3	6	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	71-20	0.4	0.1	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	71-21	2.1	1.7	1.1	3.5	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	71-22	0.3	0.0	0.0	0.8	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	71-23	0.1	なし	0.0	3.2	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	72-24	0.2	0.1	0.1	1.3	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	71-25	0.3	0.0	0.0	1.6	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	71-26	0.4	なし	0.0	0.5	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	71-27	0.1	なし	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	72-28	4.6	8.3	2.7	6.2	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	72-29	0.1	0.0	0.0	0.2	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	71-30	0.9	0.6	0.2	3.9	なし	なし	0.1	1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	71-31	1.4	1.3	0.1	11.8	なし	なし	2.3	7	なし	0.3	0.3	3	なし	なし	
炭化物質選別	71-32	3.6	7.3	1.6	35.3	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	72-33	3.7	3.5	1.1	41.5	あり	なし	10.4	13	なし	0.6	0.5	22	1	なし	
炭化物質選別	72-34	4.8	3.2	0.4	30.8	あり	0.0	6.3	8	なし	0.2	0.2	25	なし	なし	
炭化物質選別	72-35	1.3	0.8	0.2	5.3	あり	なし	0.2	2	なし	0.1	なし	なし	5	なし	
炭化物質選別	72-36	0.1	0.1	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	72-37	0.0	なし	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	71-38	5.5	7.7	4.3	14.4	あり	なし	0.3	1	なし	0.5	0.1	19	なし	軽石0.4g	
炭化物質選別	72-39	1.6	2.3	0.4	7.3	あり	なし	3.7	1	なし	0.0	0.0	2	なし	なし	
炭化物質選別	72-40	0.4	3.4	0.4	0.4	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	72-41	1.8	1.0	0.6	6.9	なし	なし	1.0	2	なし	2.8	1.3	26.5	5	軽石1.3g 小砂0.1g	
炭化物質選別	72-42	2.9	2.2	0.6	0.6	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	71-43	0.1	0.6	0.2	0.4	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	72-44	0.0	0.0	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	72-45	0.2	0.2	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	71-46	0.5	0.6	0.4	1.2	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	71-47	0.2	1.1	0.1	0.6	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	72-48	0.2	0.0	0.0	0.1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	72-49	0.1	0.3	0.2	0.2	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	72-50	0.3	なし	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	72-51	0.5	0.2	0.2	2.5	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	72-52	0.7	0.8	0.4	0.4	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	72-53	0.3	4.5	0.8	2.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質選別	72-54	0.1	1.3	0.3	3.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	

表IV-7 土壌フローテーション成果一覧(続き)

遺構名	処理番号	風乾土壌 質量% 2.0m	炭化物質質量%		炭化 ケルマ 質量%	骨 質 質量%	土器 質量%	土器 点数	土製品 質量%	石製品 質量%	遺骨 質量%	照片点数 備考	その他質量%	備考	
			0.425mm	2.0mm											
散化物範囲 72-150-イ④	17-89	2.3	0.0	なし	76.0	なし	0.0	なし	なし	なし	71.3	0.0	1	なし	小樽71.3g
散化物範囲 71-150-エ⑥															
散化物範囲 71-150-エ⑥	17-90	5.2	14.9	3.8	6.7	あり	なし	なし	なし	なし	0.1	0.1	30	なし	
散化物範囲 71-150-イ④															
散化物範囲 71-151-イ④	17-95	0.6	0.3	0.1	0.2	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 71-151-イ④	17-96	1.0	3.5	0.7	1.0	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 71-151-イ④	17-97	0.5	0.6	0.2	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 71-151-イ④															
散化物範囲 71-153-ウ⑦	17-100	2.7	1.0	0.5	4.0	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 71-154-イ④															
散化物範囲 72-159-ウ⑤(イ)	17-101	2.6	8.9	1.4	15.4	あり	なし	5.0	4	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 72-153-イ④	17-106	0.2	0.6	0.5	0.3	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 72-154-エ⑦	17-107	0.2	0.0	0.0	0.2	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 72-155-ア④	17-108	1.4	4.5	0.8	0.8	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 72-157-イ④	17-109	0.1	0.0	0.0	0.2	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 69-155-エ⑥	17-110	0.6	0.4	0.2	0.2	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	(4層内範囲)
散化物範囲 71-151-イ④	17-111	0.2	0.0	0.0	0.2	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 71-157-ウ⑤	17-112	0.5	1.3	0.4	3.3	あり	なし	0.4	1	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 72-153-ウ⑤	17-113	0.4	0.0	0.0	0.1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 72-154-ア④	17-114	0.4	0.3	0.5	0.7	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 72-154-イ④	17-115	0.3	0.4	0.3	0.1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 72-159-ア④	17-116	1.5	1.5	0.3	22.5	あり	0.0	0.0	3	なし	0.0	0.0	1	なし	
散化物範囲 71-155-イ④	17-120	0.0	なし	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 71-155-ウ⑤	17-121	0.0	0.2	0.1	0.5	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 71-156-エ⑥	17-122	1.2	0.4	0.1	1.8	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 72-155-ウ⑤	17-123	0.2	0.4	0.0	0.1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 72-155-イ④	17-124	0.3	0.7	0.3	0.5	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 72-159-ウ⑤	17-125	3.0	14.8	3.9	14.5	あり	なし	1.1	6	なし	0.4	0.4	3	なし	ペンダ90.0g
散化物範囲 70-155-ア④	17-127	0.3	0.0	0.0	0.1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	(4層内範囲)
散化物範囲 72-155-ウ⑤	17-132	0.2	1.2	0.5	0.5	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 72-155-イ④	17-135	0.3	1.1	0.2	2.1	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 72-162-ウ⑤	17-140	1.2	4.0	1.6	2.6	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 71-162-イ④	17-141	1.7	0.3	0.2	2.9	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 72-159-イ④	17-142	0.3	0.4	0.2	0.3	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 71-156-ア④	17-146	0.1	0.1	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 71-155-イ④	17-151	0.0	0.1	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 72-155-ウ⑤	17-152	0.7	0.4	0.1	0.4	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 72-162-イ④	17-153	0.4	0.2	0.1	1.7	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 71-155-イ④	17-168	0.0	0.2	0.0	0.1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 72-162-ウ⑤	17-169	5.3	3.7	3.1	3.4	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 72-113-ア④(イ)	17-172	0.5	0.0	0.0	0.8	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 71-159-ウ⑦	17-173	2.7	9.5	1.4	55.9	あり	なし	2.8	1	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 71-159-ウ⑦	17-174	2.9	0.4	0.5	32.5	あり	なし	なし	なし	なし	1.9	なし	なし	なし	横片1.9g軽石0.0g
散化物範囲 71-117-イ④	17-186	0.1	なし	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
散化物範囲 71-159-ウ⑦	17-189	0.8	0.7	0.2	4.2	あり	なし	なし	なし	なし	0.1	なし	なし	なし	横片0.1g
散化物範囲 72-113-イ④	17-190	4.7	3.9	2.7	143.1	あり	0.0	なし	なし	なし	0.2	0.2	31	なし	

表IV-7 土壌フローテーション成果一覧(続き)

遺構名	地層番号	風乾土壌 質量% 2.0mm	炭化物質質量%		残渣 質量%	炭化 クムス	骨 質量%	土器 質量%	土器 点数	土製品 質量%	石器類 質量%	磨石 質量%	割片点数		その他質量%	備考
			2.0mm	0.425mm									備考	2.0mm		
炭化物質層 71-125-①	17-192	0.0	なし	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 71-157-①イ(骨 の重さ)	17-193	1.2	1.7	0.4	10.1	あり	なし	2.2	6	なし	0.0	0.0	2	5	軽石0.0g	
炭化物質層 72-157-エ(骨)	17-221	0.8	0.8	0.5	6.6	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-115-①(骨)	17-247	0.6	0.0	0.0	1.4	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 71-115-①(骨)	17-249	0.5	0.7	0.1	0.1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-114-ア(骨)	17-250	0.5	0.2	0.1	0.1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-114-イ(骨)	17-251	0.4	0.5	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-114-エ(骨)	17-252	0.1	なし	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 71-123-①(骨)	17-254	0.0	0.0	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-159-ア②イ(骨 の重さ)	17-274	39.2	79.0	21.8	307.8	あり	9.8	129.1	169	なし	20.0	16.9	829	100	軽石0.5g ペシタリ0.6g	石礫1点
炭化物質層 71-171-①(骨)	17-412	6.4	30.4	0.6	—	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 71-171-② 71-172-① 72-172-ア(骨)	17-434	4.3	30.0	1.9	—	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 71-155-①(骨)	17-435	1.2	0.7	0.1	—	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 71-171-②(骨)	17-434	0.5	0.0	0.1	—	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 71-155-①(骨) 72-155-ア②イ(骨)	17-439	6.1	6.2	2.2	—	あり	なし	2.2	2	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 71-157-①(骨)	17-440	4.6	2.2	0.7	—	あり	なし	なし	なし	0.0	0.0	1	なし	なし	なし	
炭化物質層 71-156-ア(骨)	17-458	0.5	0.2	0.0	0.4	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 71-156-①(骨)	17-459	0.8	0.1	0.1	0.4	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 71-170-① 72-169-① 72-170-ア②イ(骨 の重さ)	17-460	12.7	91.8	25.3	37.8	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
炭化物質層 72-170-エ(骨)	17-487	8.5	15.4	13.8	49.7	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
土器内の土 72-155-ア	16-1	0.9	なし	0.0	22.9	なし	なし	22.8	0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
17-33										欠番						
17-34										欠番						
17-35										欠番						

* 残渣重量の()は水洗別である。

V 包含層の遺物

1 土器

(1) 分類

基本的に(財)北海道埋蔵文化財センターが従来用いてきた土器分類に準拠している。すなわち縄文時代早期のものをⅠ群とし、以下順次前期、中期、後期、晩期をⅡ群、Ⅲ群、Ⅳ群、Ⅴ群とする。統縄文土器はⅥ群、擦文土器はⅦ群である。対雁2遺跡ではⅤ群が大半を占め、Ⅵ群が僅少である以外は他の時期の遺物は出土していない。

Ⅴ群土器は、従来の分類では以下のように前葉に属するものをa類、中葉に属するものをb類、後葉に属するものをc類としてきた。その内容は大洞式との並行関係で以下のように定義されている。

a類：大洞B式、大洞BC式とこれに並行する在地の土器群

b類：大洞C₁式、大洞C₂式とこれに並行する在地の土器群

c類：大洞A式、大洞A'式とこれに並行する在地の土器群

本遺跡では縄文時代晩期後半の在地系土器が多く出土している。しかし、搬入品と考えられる個体は極端に少なく、出土状況や生活面などから大洞諸型式との並行関係が捉えられる例は見られない。時間軸上の並行関係が不明である以上、本遺跡において晩期の土器を時期で分別する根拠は、現段階では乏しい。よって、今回の報告ではⅤ群b類とⅤ群c類を分けずに、「Ⅴ群土器」として一括する。

Ⅵ群土器は平成15年度調査範囲(67~70-127~148グリッド)で多く出土していることから、『対雁2遺跡(5)』(北理調報204)での分類を踏襲した。すなわち、鈴木 信「Ⅶ-3 道央部における統縄文土器の編年」『千歳市 ユカンボシC15遺跡(6)』(北理調報192)に準拠する。その内容は以下の各類に共通する属性を含む道央の統縄文土器である。今年度報告範囲ではⅥ群a類が出土した。

a類：大狩部式、琴似式、江別太1式、アヨロ2 a・b式、鈴木(2003)のH37丘珠(古中新)期・H317(古新)期・H37栄町(古新)期にあたる未命名型式の土器群

b類：江別太2式、後北A式、後北B式、後北C₁式、アヨロ3 a・b式

c類：後北C₂D式、北大I式 d類：北大II式、北大III式

e類：鈴木(2003)の刺突文土器、円形刺突文土器、無文土器

(2) 掲載基準

今回は、時期→器種→施文→接合状況を基準として掲載した。時期は(1)分類でも述べたように、縄文時代晩期後半のものを「Ⅴ群土器」、統縄文時代前葉のものを「Ⅵ群a類土器」とする。

器種は、倒円錐台形の器形のもの器高と口径の比率によって分けた。すなわち、器高が口径の4/5以上のものを「深鉢」、4/5未満2/3以上のものを「鉢」、2/3未満1/3以上のものを「浅鉢」、1/3未満のものを「皿」と呼称する。また、胴部に比して著しく窄まる頸部を有するものを「壺」と呼称する。規格は、形状を考慮して、深鉢・壺については器高、鉢・浅鉢・皿については口径で分けた。すなわち、深鉢・壺の「大型」は器高35cm以上、「中型」は器高35cm未満25cm以上、「小型」は器高25cm未満15cm以上。鉢・浅鉢・皿の「大型」は口径30cm以上、「中型」は口径30cm未満20cm以上、「小型」は口径20cm未満10cm以上。深鉢・壺の器高が15cm未満のもの、鉢・浅鉢・皿の口径が10cm未満のものを「ミニチュア土器」とする。

施文は、本遺跡の土器集中3の報告における形態分類および文様名称（北埋調報177）を参考にした。基本的に口唇裝飾→下地調整→背景文様→上描き・直描き文様→付加要素の順に記述する。破片資料については特徴的な文様のみ略述する。口唇裝飾は、口縁部端面に施される裝飾・施文のことで、突起、指頭瓦痕、工具瓦痕、縄端面瓦痕、縄端瓦痕、回転縄文などがある。下地調整とは、文様のある土器の施文以前の状態を示し、「無文（ナデのまま）」、「回転縄文」、「回転縄文の後にナデ」などがある。背景文様とは、複数の文様が重複・分断して描かれる場合、口縁部を廻るように展開し、上描き・直描き文様の下敷きとなる単純な文様のことで、「横位縄端面瓦痕文」、「横位沈線文」、「柵目状沈線文」などがある。上描き文様とは、複数の文様が重複する場合に背景文様の上に描かれる文様、直描き文様とは、背景文様がなく下地に直接描かれる文様である。上描き・直描き文様の内容は共通で、主に沈線による「斜位・縦位線文」、「蛇行線文」、「括弧文」、「渦巻文」、「断続・連続山形文」などがある。付加要素は、主たる上描き・直描き文様の内部または周縁に付け加えられる文様で、貼付帯、刺突（列）、ナデ消し凹帯などがある。底部が残存するものについては、「平底」、「丸底」、「凸底」、「凸平底」などに形態分類した。凸底は、底部円盤のやや内側より胴部の粘土紐を立ち上げたもので、底縁外周が肥厚する。凸平底は底部円盤の外底面周縁に輪状の粘土紐を接合したもので、内側が凹む。

浅鉢については、『千歳市キウス5遺跡（5）A-2地区』（北埋調報125）における鉢形土器3類の部位名称を参考にした。すなわち、口縁部端面の最も裝飾性に富んだ突起を前部分と見なして「前突起」、これと対面する後部分の突起を「後突起」とし、左右部分に相当する突起をそれぞれ「左突起」「右突起」とする。また、前突起から左・右突起までの端面に施文頻度が高い部分を「主飾部」、後突起から左・右突起の手前までの端面に施文頻度が低い部分を「副飾部」と呼ぶ。

接合の結果、器形を復元できたものを「復元資料」、できなかったものを「破片資料」とした。同一個体の口縁部と底部が接合せず、図上で器形を復元したものが一部ある。破片は、基本的に口縁部と底部を抽出し、無文あるいは縄文のみが施された胴部を除外した。

(3) 概要

① 報告範囲

今回の報告範囲は71・72-110-174グリッドで、平成11・12・16・17年度に調査された。平成11・12年度はトレンチ調査（北埋調報147・160）であり、平成16年度は一部について上層部分を調査し、平成17年度に調査範囲を完掘した。調査区は平成12～16年度の各調査範囲に接するため（1章第3節参照）、過年度の調査範囲より出土したものと同一個体である土器片が多く確認された。次年度継続調査範囲である73・74-149-156グリッド出土のもの（平成18年度以降報告予定）とも同様である。このため、二次整理では、今年度まですべての年度で出土した土器と接合を試みた。ただし、報告範囲に含まれない土器集中1～3、調査区外のトレンチより出土したものは除いた。その結果、器形の復元が可能となった土器は、既報告のものであっても、再実測して新たに掲載した。また、接合はしなかったが同一個体で、生活面の同面情報や出土位置が重要と考え、あえて掲載したのものもある。

報告の対象は土器片20,714点である。このうち2840点（13.7%）が接合し、54個体（図上復元を含む）が復元に至った。これらとは別に破片682点（3.3%）から成る147個体を抽出し、合計201個体を掲載した。このほか、既報告土器と同一個体で掲載より除外したもの、次年度以降報告予定範囲より出土した破片と接合したもの、剥落・磨耗などにより外面が不鮮明なものなどが87個体あった。個体識別と接合の結果から、今年度報告範囲より出土した土器片は、最低でも288以上の個体由来すると推測される。

②出土分布

土器の大部分は包含層より出土しており、遺構に伴うものは非常に少ない。平面的な分布を見ると、155～159ラインに集中しており、その前後は漸減する。110～136、168～174ラインでは希薄である(図V-42・43)。この傾向はこれまでの調査結果とほぼ一致する。本遺跡の地盤は河川堆積によるもので、土層は水平ではなく、基本的に東から西方向へ傾斜している(Ⅲ章第2・3節参照)。このため、同一標高では西側のほうが東側よりも時期が新しいと考えられる。時期別の出土傾向を見ると、標高8.0m前後より下位の中～下層では、136～150ラインで統縄文時代前葉、150～168ラインで縄文時代晩期中～後葉の土器が出土しており、遺跡の堆積状況とほぼ一致する。しかし、標高8.0m前後までの上層では、72～162グリッドでVI群a類(図V-23-52)、74～155グリッドでVI群b類(平成18年度以降報告予定)がV群土器とほぼ同じ高さより出土するなど、地点による新旧は不明瞭になる。調査当初Ⅱ-1層と呼称されていた、この黄褐色粘土層は河川堆積ではなく風成層と考えられ、微地形の影響などにより層序が乱れている可能性がある(Ⅲ章第2節参照)。よって、本遺跡の上層部分より出土した土器については、伴出した焼土などから生活面が明瞭に決定されるものを除き、層別的な新旧の判別が困難なものがある。

③接合関係

掲載資料のうち2点以上接合したのは、復元54個体、破片107個体の計161個体である。水平方向の接合関係は、グリッド(調査区)を基準として以下の4種類に分けた。ただし、1点ごとの出土地点を計測していないので、実際の破片間の水平距離はこの分類よりも縮まる可能性がある。

- A：小グリッドの範囲内(2.5m×2.5m)で接合するもの
- B：大グリッドの範囲内(5.0m×5.0m)で接合するもの
- C：大グリッド2つの範囲内(5.0m×10.0m)で接合するもの
- D：大グリッド3つ以上の範囲内(10.0m×10.0m～)で接合するもの

接合点数の多い復元資料では、Aが19個体、Bが22個体、Cが6個体、Dが7個体となっている。AまたはBが大半を占め、土器片が比較的散逸していないことを示す。よって、復元資料の場合、原位置をそれほど移動していない個体が多いと推測される。一方、破片資料は接合点数が2ないし3点程度のものが大部分で、Aが80個体、Bが19個体、Cが5個体、Dが3個体となっている。同一個体がA～Dの範囲に出土しなかったものが多いことから、土器片が広範囲に散逸したことを示す。

垂直方向の接合関係は、以下の5種類に分けた。遺物を取り上げる際、小グリッド単位では出土位置の高低を基準とすることが多いため、最も出土点数の多い小グリッドの取り上げ面を対象とした。

- a：同一小グリッド内で、1面の内部でのみ接合するもの
- b：同一小グリッド内で、2ないし3面にまたがり接合するもの
- c：同一小グリッド内で、4面以上にまたがり接合するもの
- d：同一小グリッド内で、複数面にまたがり接合するが1面のみ空白があるもの
- e：同一小グリッド内で、複数面にまたがり接合するが2面以上空白があるもの

復元資料では、aが37個体、bが10個体、cが1個体、dが4個体、eが2個体となっている。破片資料ではaが90個体、bが14個体、cが0個体、dが2個体、eが1個体となっている。いずれもaが最も多く、土器片が極端に上下していないことを示す。すなわち、土器が使用された生活面での垂直位置をほぼ保っていると考えられる。b～eの原因としては、凍上現象などの自然営力、人間または動物による攪乱、取り上げ面の誤認などが考えられる。

④製作技術

本遺跡より出土する土器の胎土には砂礫が混和されており、その構成物の内容や分量によって、いくつかの類型に分けられる。ただし、この分別は破断面をルーペまたは肉眼で観察した結果によるもので、顕微鏡を用いた観察や化学的な成分分析は行わなかった。よって、実際には識別できた以上の類型が存在すると思われる。今回は、大まかに以下の6種類に分けた。

- 1：石英・長石・角閃石などの鉱物と径2mm以下の礫・軽石をほぼ均質に含む胎土
- 2：石英・長石を多く含む、径2mm以下の礫・軽石がやや少ない、粗い胎土
- 3：石英・角閃石を多く含む、径2mm以下の礫・軽石がやや少ない、粗い胎土
- 4：石英・長石・角閃石などと比して、径2mm以下の礫・軽石がやや多い、粗い胎土
- 5：石英・長石・角閃石などの鉱物と径1mm以下の礫・軽石をほぼ均質に含む、緻密な胎土
- 6：鉱物や砂礫などの混和が非常に少ない、緻密な胎土

今年度報告範囲で胎土を観察した201個体のうち、1が176個体(87.6%)と大半を占め、この他は5個体(2.5%)、3が7個体(3.5%)、4が8個体(3.9%)、5が3個体(1.5%)、6が2個体(1.0%)と少数である。縄文時代晩期の在地系土器は1を主体とし、2～4の大部分を含む。搬入系土器は5・6を主体とし、1を一部含む。続縄文時代前葉の土器は、1または5を主体とし、4を一部含む。また、過年度に指摘されたように(北埋調報177・193)、土器片または土塊を混入させる例が今回も12個体(18・19・22・23・25など)に見られた。99には鮭の椎骨と推測される魚骨片が混入されている。

土器の成形に際して粘土紐を継ぎ合わせた面、すなわち接合面については、過年度の報告でも製作技術上の変化要素の1つとして重視されてきた(北埋調報177・193・204、鈴木・西脇2003)。土器の内外面に露呈する破断面のうち、割れ口が水平で、表面がナデられたように滑らかなものを接合面とみなした。土器の外内側が高く内側が低くなるものを「内傾接合」、その逆に傾くものを「外傾接合」と表現する(佐原1967)。今年度接合面が観察された土器は、復元15、破片10の計25個体である。この他の個体は、接合面が露呈せず、成形は不明である。V群土器は内傾接合が20個体(1・4・8・20・28・33・34・36・39・43・47・65・71・82・83・96・127・140・160・183)、外傾接合は5個体(18・23・38・41・198)が確認された。VI群a類土器には接合面が確認されなかった。

内面の調整は、深鉢・鉢・浅鉢の場合、ほぼ水平方向に横ナデされるものが大部分である。工具による条痕を残すものは少なく、ほとんどが消されている。搬入品と考えられる個体には、磨かれて光沢を有するものが見られる(197・198)。主に深鉢の口縁部と底部付近には、指頭による浅い凹みが確認されることが多い。壺の内面は口縁部を除き調整が荒く、凹凸が残る。胎土に含まれる砂礫のうち、粒径の大きいものが器面に浮き出す例が認められるが、ごく少数である。

⑤使用痕

V群土器の内外面に炭化物が付着する例は、深鉢56個体(復元8、破片48)、鉢・浅鉢17個体(復元5、破片12)がある。皿・壺・ミニチュア土器には見られない。96は、煮こぼれによる汁垂れの痕跡と推測される黒色付着物が口縁部を垂下する。土器集中3の報告では、炭化物の付着例から口径15.8cm、器高8.0cm以上の鉢・浅鉢の機能を煮炊きと推測している(北埋調報177)。今年度報告においても、炭化物が付着する鉢・浅鉢で最も小さいものの規格は、口径19.0cm、器高9.4cm(推定)であり、これに合致する。

VI群a類土器の内外面に炭化物が付着する例は、深鉢4個体(復元2、破片2)がある。鉢・ミニチュア土器には見られない。

(4) V群土器

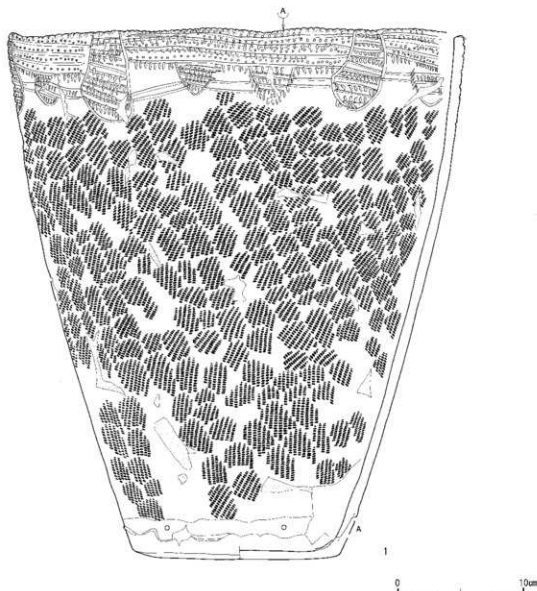
①深鉢 (図V-1~14・24~32/表V-2/図版V-1~5・10~17)

a 横位沈線の間に刻み・刺突が充填されるもの (1)

1は器高42.0cmを測る大型深鉢。端面はやや内傾し、外縁に棒状工具による刻み。外面は、斜位回転R L斜走縄文(口縁部ナデ消し)→垂下屈曲沈線文→横位沈線4条(沈線間に錐状工具による刺突列)→横位沈線より垂下する小さな屈曲沈線文→横位沈線2条→屈曲文内部にも横位沈線。沈線の一部は筒状工具により縦位に刻まれる。底部は平底。平成12年度報告の図V-1-11-31(北埋調報160)と接合する。

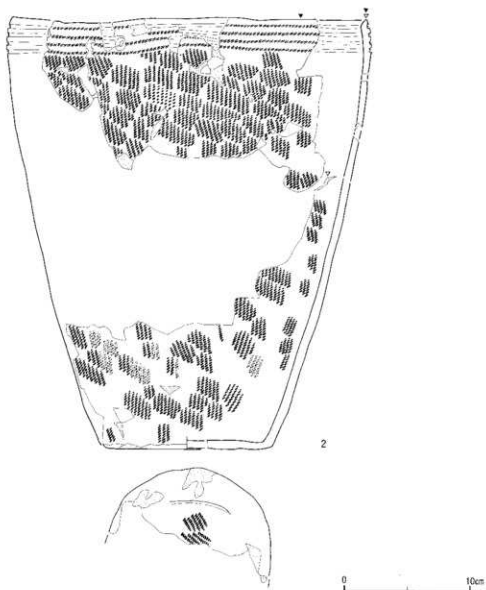
b 横位縄側面圧痕が施されるもの(2・3・5・55~74)

2は推定器高34.1cmを測る中型深鉢。口縁~底部が接合せず、図上復元。口縁部がやや内傾する器

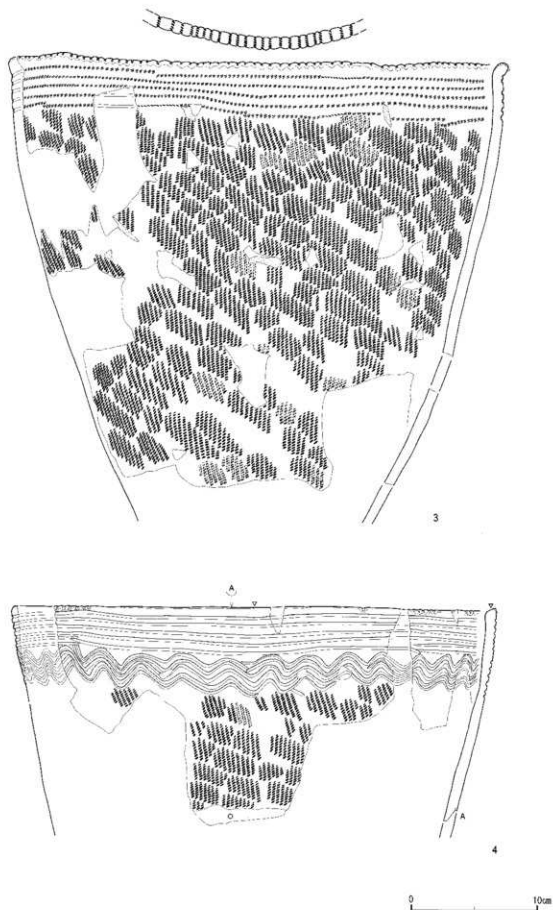


図V-1 土器 (1)

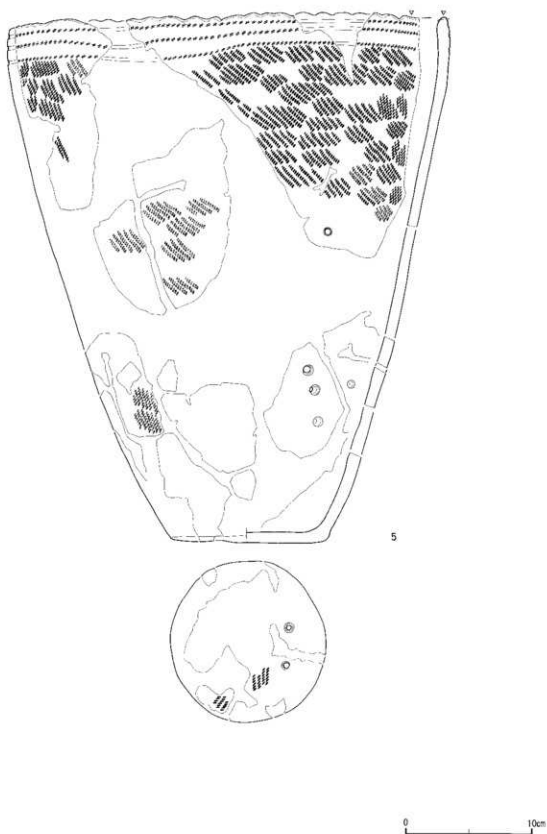
形。端面は内傾する。外面は、斜位回転RL縦走縄文（口縁部ナデ消し）→横位RL縄側面圧痕4条。底部は平底で、底外面に回転？RL縄文。口縁部に2孔1対の補修孔。内面の一部に炭化物が付着する。3は底部を欠失するが、残存器高より大型深鉢と推測される。外側へやや肥厚する端面は内傾し、縦位RL縄側面圧痕。外面は、斜位回転RL縦走縄文（口縁部ナデ消し）→横位RL縄側面圧痕5条（一部連結せず）。5は器高41.8cmを測る大型深鉢。平成11年度に「土器集中4」として調査されたが（北埋調報147）、その後1個体のみ出土で他の土器集中のような性格をもたないことが判明したため、包含層の遺物として報告する（IV章第5節参照）。端面はやや内傾し、指頭による連続圧痕。外面は、横位回転RL斜走縄文（口縁部ナデ消し）→横位RL縄側面圧痕3条（間隔広めて、やや不整）。胴部下半の地文は摩滅で不鮮明。底部は平底で、底外面に回転RL縄文。胴部下半に15か所、底部に2か所補修孔が確認される。このうち胴部の2か所は内面まで貫通していない。



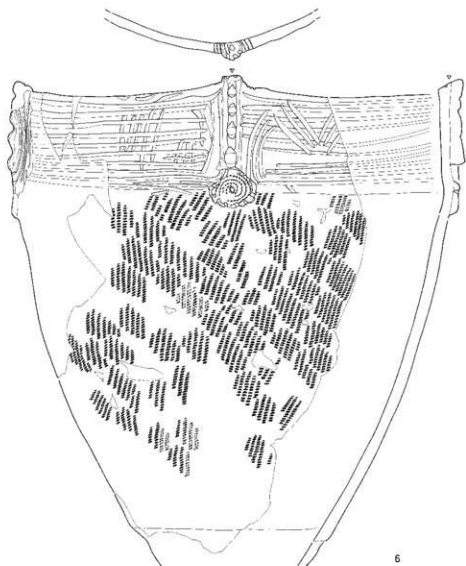
図V-2 土器 (2)



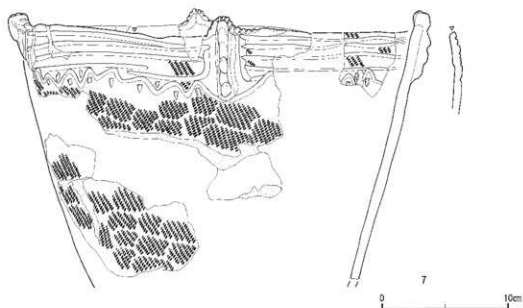
図V-3 土器 (3)



図V-4 土器 (4)

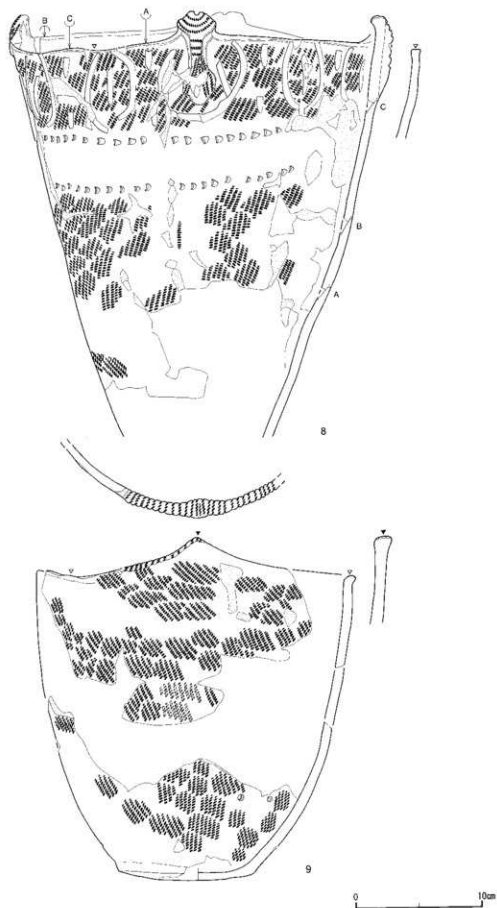


6

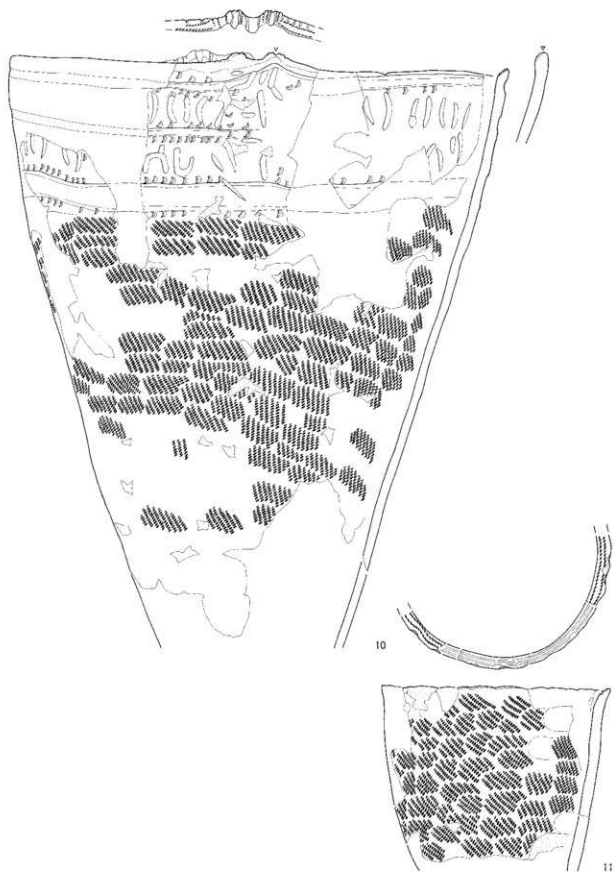


7

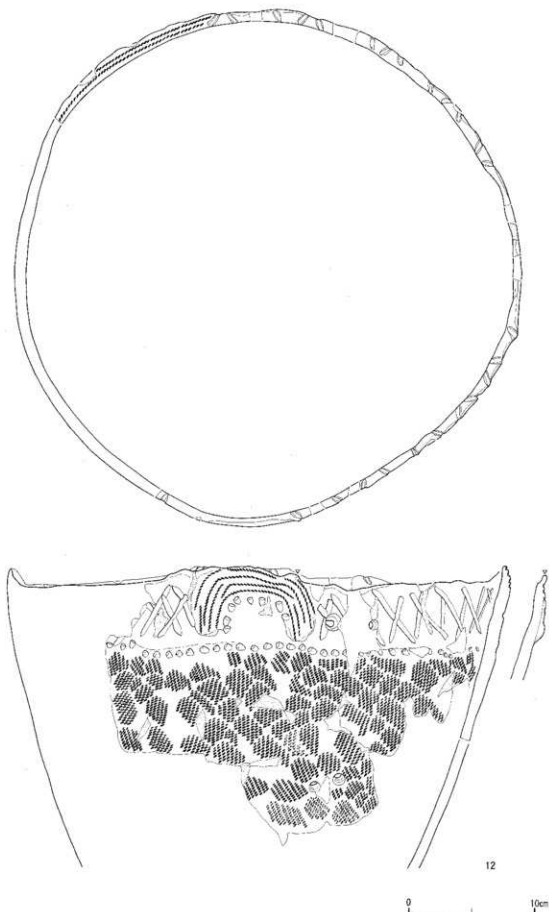
図V-5 土器 (5)



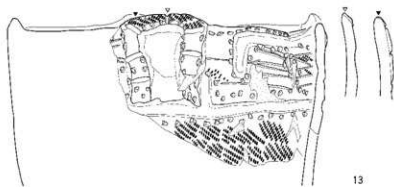
圖V-6 土器 (6)



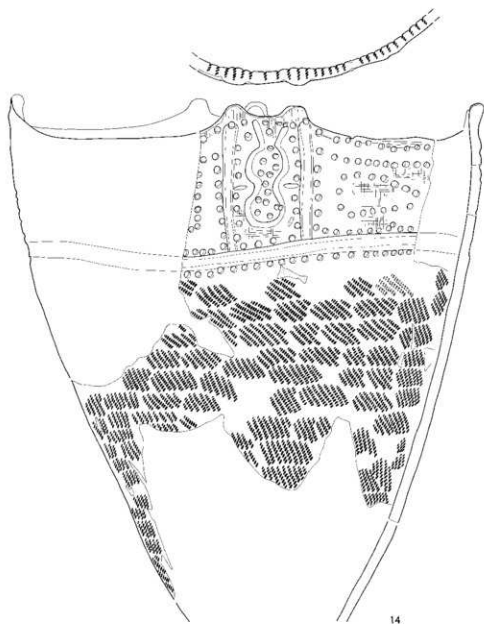
図V-7 土器 (7)



圖V-8 土器(8)



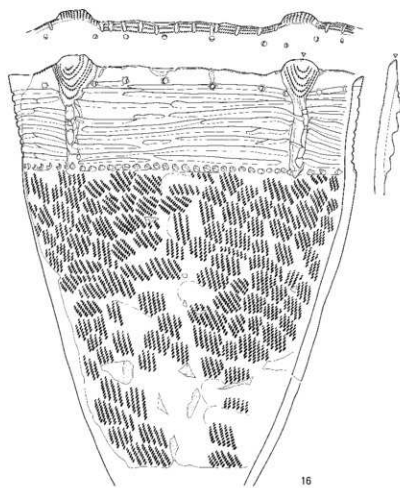
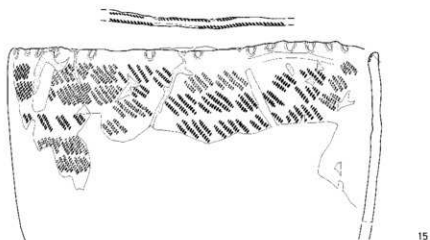
13



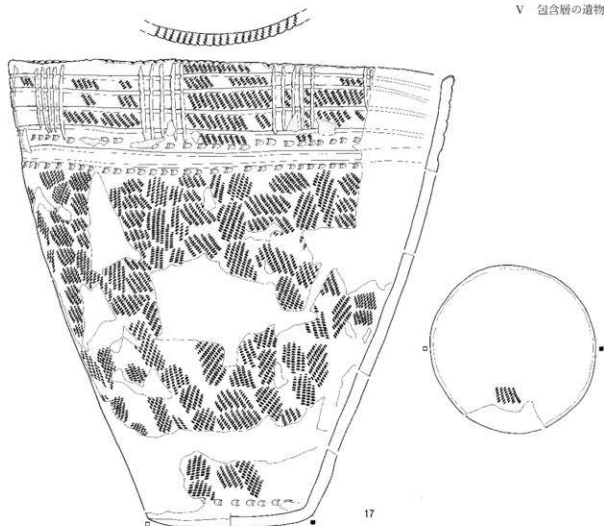
14



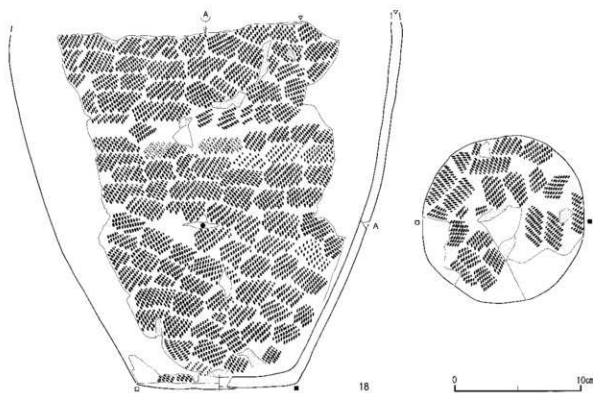
図V-9 土器(9)



图V-10 土器 (10)



17



18

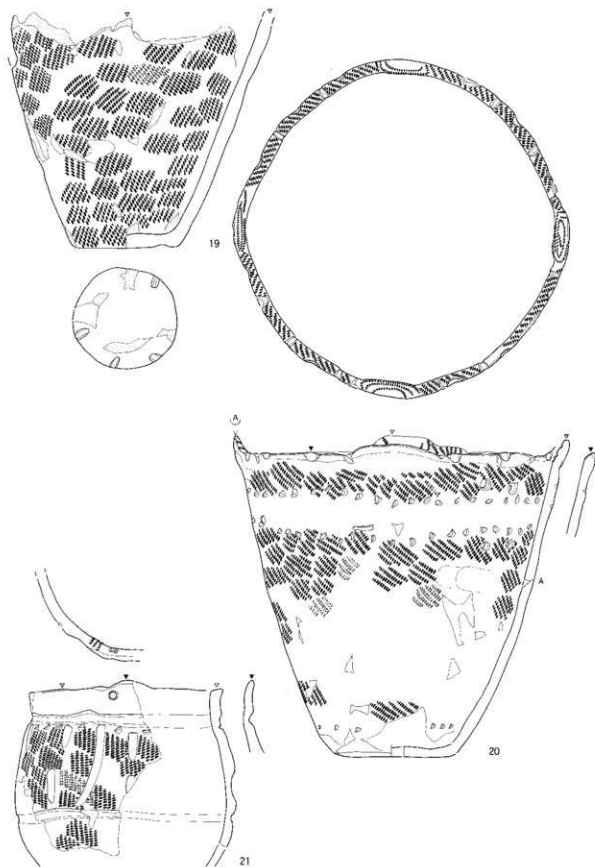
図V-11 土器 (11)

55~74は破片資料。55~58は口縁部に縄1ないし2条が疎らに側面圧痕されるもの。55は端面に縄端圧痕、外面に横位R L縄側面圧痕1条。56・57は横位R L縄が2条側面圧痕されるが、いずれも全周せず、段違いになる。55・56は口縁部がやや内傾する器形。58は外面が無文で、横位R L縄側面圧痕2条。59~70は3条以上の縄が密に側面圧痕されるもの。いずれもやや幅の太い原体を縄1~2条程度の間隔で連続して圧痕している。大部分が2段撚りR Lの原体であるが、64のみ1段撚りRの原体を用いている。縄側面圧痕の数は、3条(62・67・69)、4条(59・65)、5条(60・61・63・64・66・68・70)と様々である。64は摩滅のため、器表が不鮮明。67~69は端面に指頭による連続圧痕。70 a・bは端面に横位L縄側面圧痕1条。62・66には、それぞれ2孔1対の補修孔が確認される。71~74は浮線を伴うもの。71は水平、下向弧状、斜位、縦位のR L縄側面圧痕が組み合わさる。器表には回転方向の異なるR L斜走縄文が上下に施され、羽状縄文風となっている。端面はほぼ水平で、低い台形突起→横位R L縄側面圧痕1条→肥厚する外縁に縄端圧痕→上部にボタン状突起→渦巻状R L縄側面圧痕。口縁部には円形刺突孔1か所。72は端面がやや内傾し、斜めから指頭連続圧痕→ナデ。口唇直下より垂下する縦位、そして波状のR L縄側面圧痕が組み合わさる。73は端面がやや内傾し、山形突起1か所(推定)確認される。外面は横位R L縄側面圧痕4条→短い弧状沈線。74は端面がやや内傾し、L縄側面圧痕3条→内外縁に細い棒状工具による連続圧痕。外面は縦位・横位R L縄側面圧痕。

c 横位沈線が施されるもの(4・24・25・75~99)

4は胴~底部の大半を欠失するが、口径(38.1cm)から大型深鉢と推測される。端面はやや内傾し、外縁の一部に棒状工具の先端による圧痕。外面は、斜位回転R L縦走縄文(口縁部ナデ消し)→細い横位沈線5条・波状沈線5条。内外面に炭化物が付着する。平成14年度報告の図V-1-13-480(北埋調報193)と接合する。24は胴部下位~底部を欠失するが、口径(38.0cm)から大型深鉢と推測される。端面はやや内傾し、山形突起10か所(推定)→突起頂部に細い縦位沈線(一部)。外面は、胴部上位に斜位回転R L縦走縄文・胴部下位に斜位回転L R横走縄文(口縁部ナデ消し)→口唇直下に2条、下位に6条の横位沈線(沈線間に無文帯)。25は残存器高23.4cmを測る中型深鉢で、胴部下位~底部を欠失する。端面は内傾し、弧状のくぼみ4か所(推定)→縦位L R縄側面圧痕→外縁部に竹管状工具による縦位側面圧痕。外面は斜位回転L R縦走縄文→密な間隔の横位沈線5ないし6条→短い縦位沈線→下部に連続山形沈線と横位沈線が各1条。

75~99は破片資料。75・76は下部に浮線が付加されるもの。75は、口唇直下に竹管状工具による縦位側面圧痕→上部に不整な横位沈線3条→下部に連続山形沈線1条。76は、横位沈線4条→垂下屈曲沈線が左右対称で2か所。77~79は細く不整な沈線が疎らに施されるもの。いずれも細く幅の一定しない沈線が、全周せずに断続的に廻る。77・78は全体に摩滅しており不鮮明。78は端面に指頭による連続圧痕、79は端面外縁に竹管状工具による縦位の刻み。80~86はやや細く不整な沈線が施されるもの。いずれも沈線の幅はほぼ一定であるが、間隔が一定しない。81~84は特に細密な沈線が描かれる。端面に横位L縄側面圧痕が、81・82は1条、83は2条。81・82は端面外縁に縄端による刻み。80~84は沈線が密に全周するが、85・86は疎らに段違いになる。83は推定口径が小さく、ミニチュア土器の可能性が。85は補修孔が2か所確認される。86は口縁部が屈曲し、内傾する器形。87~95はやや太く不整な沈線が施されるもの。いずれも沈線の幅・間隔はほぼ一定で、わずかに波打つが途切れるものは見られない。88の沈線は中央が隆起しており、半截竹管状工具の内面により施されたと考えられる。91は端面に指頭圧痕。93は端面に横位L縄側面圧痕1条、外縁が竹管状工具による縦位側面圧痕。94は端面に回転R L縄文。95は端面外縁に棒状工具の先端による刻み。96~99は太く整った沈線が施されるもの。96は、幅の一定な横位沈線5条。胴部には非常に細い沈線が疎らに横走する。97は、直



図V-12 土器(12)

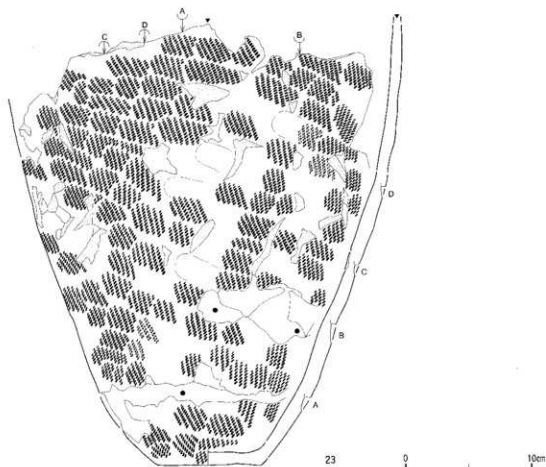
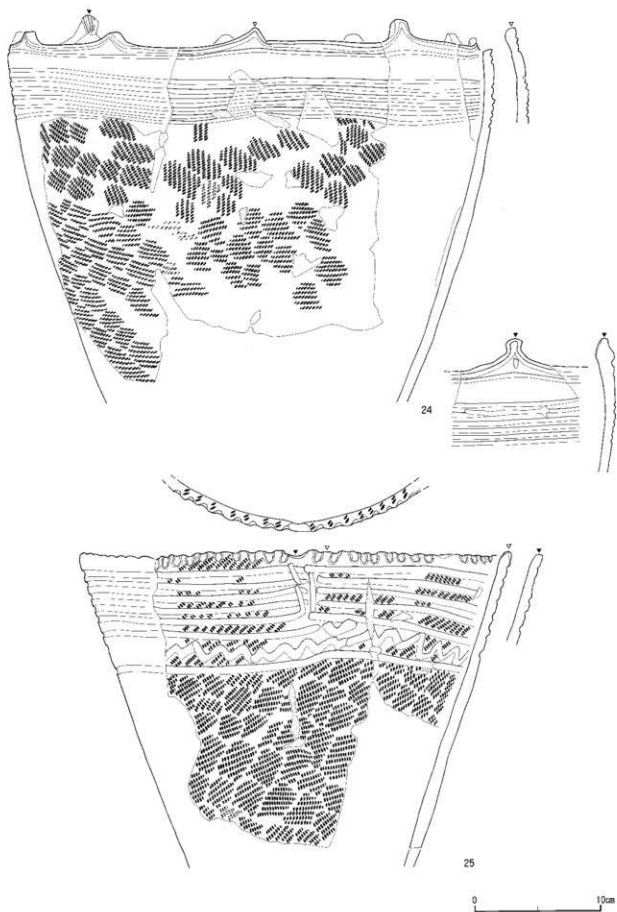


图 V-13 土器 (13)



図V-14 土器 (14)

線のな横位沈線が等間隔に6条。98は、狭い間隔で横位沈線5条。99は、端面に山形突起1か所、外面には直線的な横位沈線が3条。

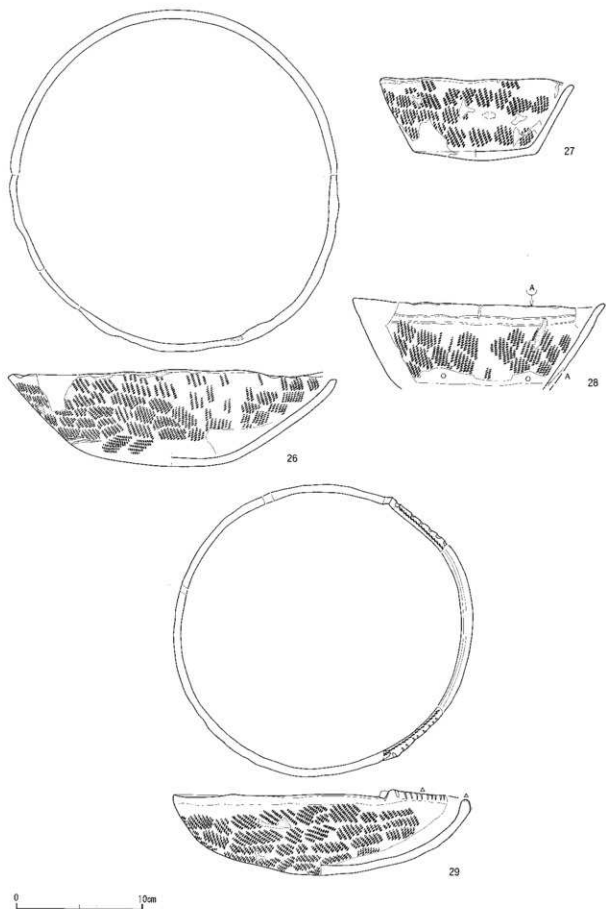
d 横位繩側面圧痕・沈線に刺突列が加わるもの(100~107)

100~107は破片資料。100~102は繩側面圧痕の下部に刺突列が見られるもの。100は、端面に竹管状工具による縦位側面圧痕。外面は、斜位回転R L斜走繩文→横位R L繩側面圧痕4条→竹管状工具による下からの刺突列。平成14年度報告の図V-23-13-166(北理調報193)と同一個体だが、接合しない。101は口縁部がやや内側へ屈曲する器形。端面は内傾し、肥厚する外縁が棒状工具の先端による刻み。外面は、斜位回転R L斜走繩文(口縁部ナデ消し)→横位R L繩側面圧痕4ないし5条→半截竹管状工具による横からの刺突列。102 a・bは、口縁部が内側へ屈曲する器形。端面はほぼ水平で、山形突起を有する。突起の頂部は篋状工具による縦位・横位の刻み。外面は横位回転R L斜走繩文(口縁部ナデ消し)→横位L繩側面圧痕4条→突起下で外面からの円形刺突孔(2孔1対)、短い放射状のL繩側面圧痕→屈曲部に竹管状工具による下からの刺突列。また、補修孔が1か所確認される。103~106は沈線の下部に刺突列が見られるもの。103は、外面に斜位回転R L斜走繩文→横位沈線6条→竹管状工具による下からの刺突列。104は口縁部が内湾する器形。外面は、無文(ナデのまま)→上位に横位L繩側面圧痕4条、下位に横位沈線4条→竹管状工具による下からの刺突列。内面にも横位L繩側面圧痕4条。105は、端面が低い台形突起→頂部に縦位L繩側面圧痕→外縁に棒状工具による刻み。外面が横位回転R L斜走繩文(口縁部ナデ消し)→横位沈線5条→突起下に内面からの円形刺突孔(1か所)→竹管状工具による下からの刺突列→胴部上位に波状または弧状の沈線。106は繩文不明(口縁部ナデ消し)→横位沈線5条→竹管状工具による下からの刺突列。107は沈線の間に刺突列が見られるもの。繩文不明(口縁部ナデ消し)→口唇直下に半截竹管状工具による横からの刺突列→横位沈線3条→上下に刺突列を伴うナデ消し帯→下部に横位沈線1条。

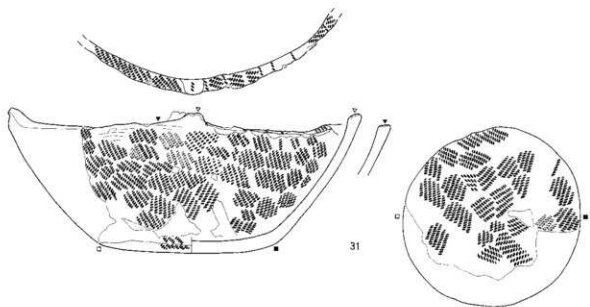
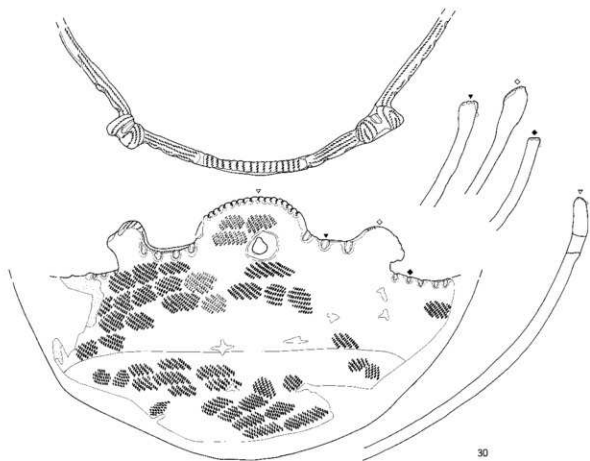
e 横位繩側面圧痕・沈線に貼付帯が加わるもの(6・7・108~114)

6は残存器高37.8cmを測る大型深鉢で、底部を欠失する。口縁部は内傾きみで、口縁下部と底部に屈曲する段。端面は内傾。外面は、斜位回転R L縦走繩文(段より上位の口縁部ナデ消し)→垂下する粘土紐の下部にボタン状の突起を付加する貼付帯4か所(推定)→貼付帯の外面には棒状工具による横位側面圧痕、頂部には円形刺突と縦位L繩側面圧痕、ボタン状突起には円形刺突を中心に渦巻状L繩側面圧痕(周縁部にも刺突列)→横位・弧状・斜位沈線。底部の屈曲は横ナデによって上下2段に凹帯を作り出す。7は胴下半→底部を欠失するが、口径と残存する胴部の形状から中型深鉢と推測される。上面観は歪んだ隅丸方形を呈する。端面は内傾し、山形突起4か所。外面は斜位回転R L斜走繩文(口縁部ナデ消し)→山形突起より垂下する貼付帯→貼付帯外面には棒状工具による横位側面圧痕、頂部には縦位L繩側面圧痕→横位沈線4条(貼付帯の両側縁はL字状短沈線)→下部に連続山形沈線1条と、その内部に竹管状工具による下からの刺突。

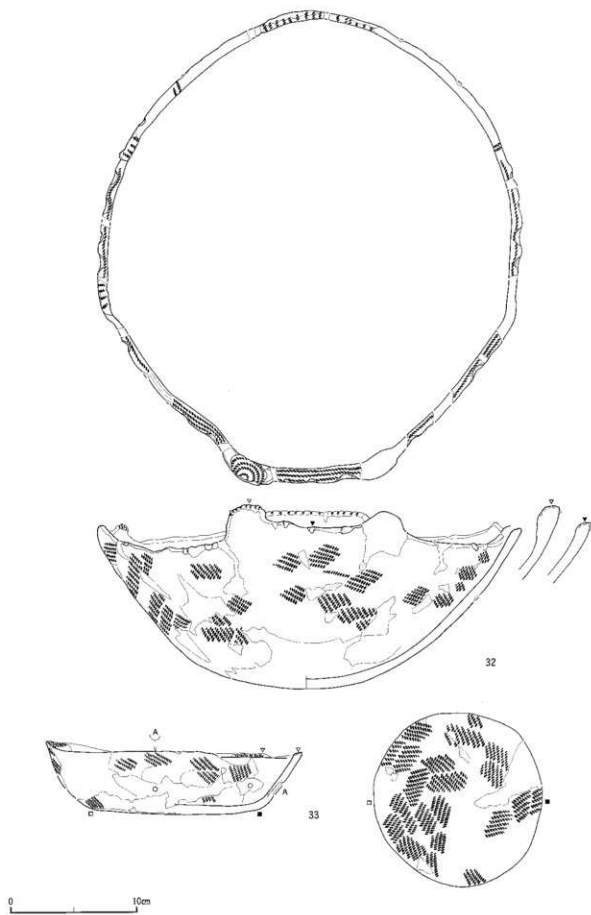
108~114は破片資料。108~111は繩側面圧痕に貼付帯を付加したもの。108は口縁部が内側へ屈曲する器形。端面の山形突起より垂下する短い貼付帯→横位R L繩側面圧痕5条→屈曲部に半截竹管状工具による斜め下からの刺突列。109は縦位の貼付帯(側面穿孔により把手状)→貼付帯の外面は繩端による刻み、頂部は棒状工具の先端による刺突→横位R L繩側面圧痕3条→繩端による刺突列2段。110は端面の山形突起より垂下する貼付帯→貼付帯の外面は縦位L繩側面圧痕と棒状工具の横位側面圧痕、頂部は棒状工具の側面による刻み→横位L繩側面圧痕7条→縦位沈線。補修孔が1か所確認される。111は端面の山形突起から垂下する、先端がボタン状となる縦位の貼付帯→ボタン状突起に指頭圧痕による凹み→横位R L繩側面圧痕4条→下部のナデ消し帯の上方貫入。112~114は沈線に貼付



図V-15 土器 (15)



图V-16 土器 (16)



図V-17 土器 (17)

帯を付加したものの。112は口縁部が内側へ屈曲する器形。端面には横位L縄側面圧痕2条、双峰の山形突起の頂部に縦位L縄側面圧痕。外面には山形突起より垂下する貼付帯→貼付帯の外面に細い棒状工具による刻み→横位沈線3条→屈曲部に半截竹管状工具による下からの刺突列。113は端面が横ナデにより中央が凹む。山形突起が1か所確認され、頂部に縦位L縄側面圧痕。外面は山形突起より垂下する「T」字状の貼付帯→半同心円や縦位のL縄側面圧痕→不整な横位沈線5条（貼付帯の左右で縦位の沈線に切られる）。114は端面に間隔の開く二峰突起。外面は突起から垂下する弧状の貼付帯→貼付帯には横位L縄側面圧痕、竹管状工具による刺突列→横位沈線3条（貼付帯の左右で縦位の短沈線により切られる）。

f 括弧状沈線文を主体とするもの（8・10・115～122）

8は残存器高30.3cmを測る中型深鉢で、底部を欠失する。口縁は水平ではなく、小波状きみ。端面はやや内傾。外面は斜位回転R L斜走縄文→括弧状沈線・縦位短沈線→分銅形の貼付帯4か所（推定）は、外面に半同心円状L縄側面圧痕、頂部に竹管状工具による刻み→胴部上位に幅広のナデ消し帯、その上下に竹管状工具による横からの刺突列。10は残存器高46.5cmを測る大型深鉢で、底部を欠失する。端面は内傾し、縦位・横位L縄側面圧痕。双峰の山形突起が2か所現存し、頂部に竹管状工具による刻み。外面は縦位・横位回転R L斜走縄文→上下に刺突列を伴うナデ消し凹帯3段→凹帯の間に括弧状沈線文が2段（下段は不整）。

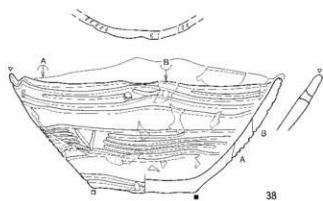
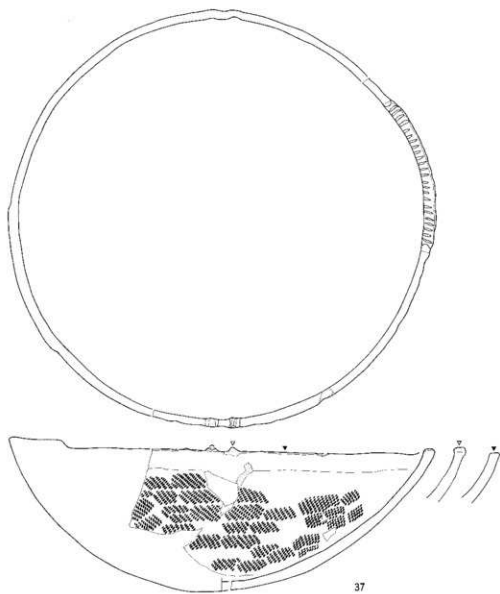
115～122は破片資料。115～117は縄側面圧痕を背景とするもの。いずれも括弧文の一部のみであるが、沈線の形態から類推してここに含めた。115は端面に山形突起、縦位L縄側面圧痕、竹管状工具による刻み。外面は横位L縄側面圧痕7条→相反する弧状沈線→下部にナデ消し凹帯。116は端面が鋭角に内傾し、回転R L縄文。外面は横位L縄側面圧痕7条（現存）→弧状・縦位沈線。117は口縁部がやや内側へ屈曲する器形で、口唇を欠く。外面は横位R L縄側面圧痕5条→弧状沈線→屈曲部分に半截竹管状工具による斜め下からの刺突列。118は沈線を背景とするもの。端面は鋭角に内傾し、縦位L縄側面圧痕→外縁に竹管状工具による刻み。外面は横位沈線4条→括弧状沈線→下部に幅の狭いナデ消し凹帯。119 a・bは縄側面圧痕・沈線の両方を背景とするもの。口縁部がやや内側へ屈曲する器形。端面は丸く、内外両面より縦位L縄側面圧痕。外面は、上段に横位R L縄側面圧痕6条、下段に横位沈線6～7条→上下段それぞれ下部に半截竹管状工具による斜め下からの刺突列→上下段に互いに対応する位置で括弧文。平成14年度報告の図V-56-13-439（北埋調報193）と同一個体だが、接合しない。120は櫛歯状沈線を背景とするもの。端面は内傾、縦位L縄側面圧痕→指頭による深い圧痕。外面は、細密な縦位櫛歯状沈線→連結括弧文と縦位連続括弧文の複合→上下に刺突列を伴うナデ消し凹帯。121・122は背景のないもの。121は肥厚する端面に山形突起→縦位・横位L縄側面圧痕。外面は、斜位回転R L斜走縄文→括弧状沈線→下部にナデ消し凹帯。122は口縁部がやや内傾する器形。端面は鋭角に内傾し、回転R L縄文→竹管状工具の側面による「ハ」の字状の刻み。外面は、斜位回転R L斜走縄文→括弧状沈線→下部に横位梯子状沈線。

g 弧状・渦巻状・蛇行・斜位・縦位沈線文を主体とするもの（12～14・123～136）

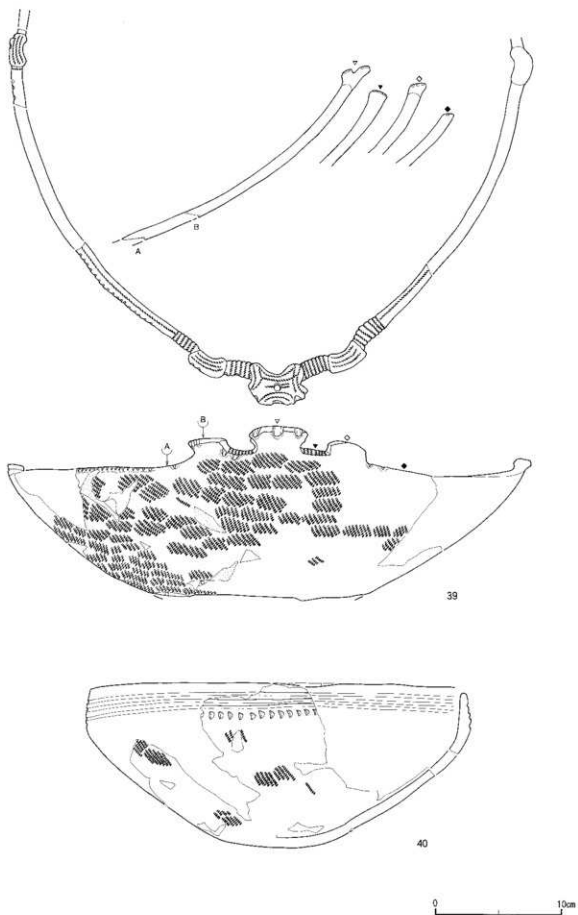
12は胴部下位～底部を欠失するが、口径（40.0cm）から大型深鉢と推測される。端面は内傾し、山形突起4か所（推定）→竹管状工具による「ハ」の字状の刻み→一部に横位R縄側面圧痕2条。外面は、斜位回転R L縦走縄文（口縁部ナデ消し）→交差する斜位・縦位沈線→突起下に上向弧状の貼付帯、その外面に弧状R縄側面圧痕数条→口縁部ナデ消し帯および貼付帯の下部に竹管状工具による横あるいは下からの刺突列。13は胴～底部を欠失するが、残存部分から中型深鉢と推測される。端面は丸みを帯び、外傾する。外面は、横位回転R L斜走縄文→細く不整な横位沈線→上方・下方へ交互に



図V-18 土器 (18)



图V-19 土器 (19)



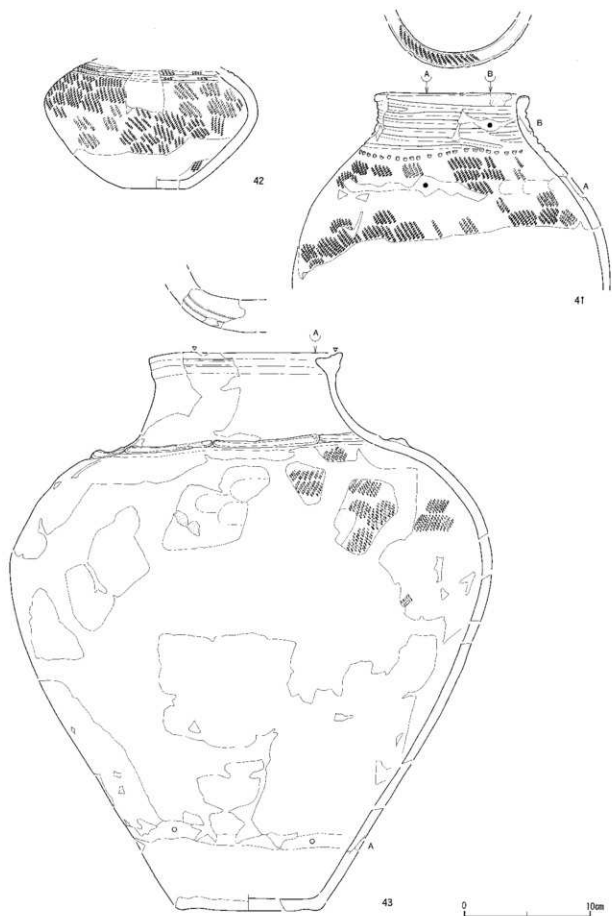
図V-20 土器(20)

貫入するナデ消し凹帯2段→下方が開いた方形貼付帯4か所(推定)、その外面に竹管状工具による刻み、一部に回転R L縄文→凹帯の周縁部および貼付帯上には竹管状工具の先端による刺突列。14は残存器高39.8cmを測る大型深鉢で、底部を欠失する。端面は内傾し、双峰の山形突起が4か所(推定)→縦位R縄側面圧痕。外面は、横位回転R L斜走縄文(口縁部ナデ消し)→細密な櫛目状沈線→突起下に縦位・横位のナデ消し凹帯による区画、その内部に上方が開く分銅形沈線→凹帯の周縁および区画内部に棒状工具の先端による縦位・横位・楕円状の刺突列。平成14年度報告の図V-68-13-444 a・b(北埋調報193)と接合する。

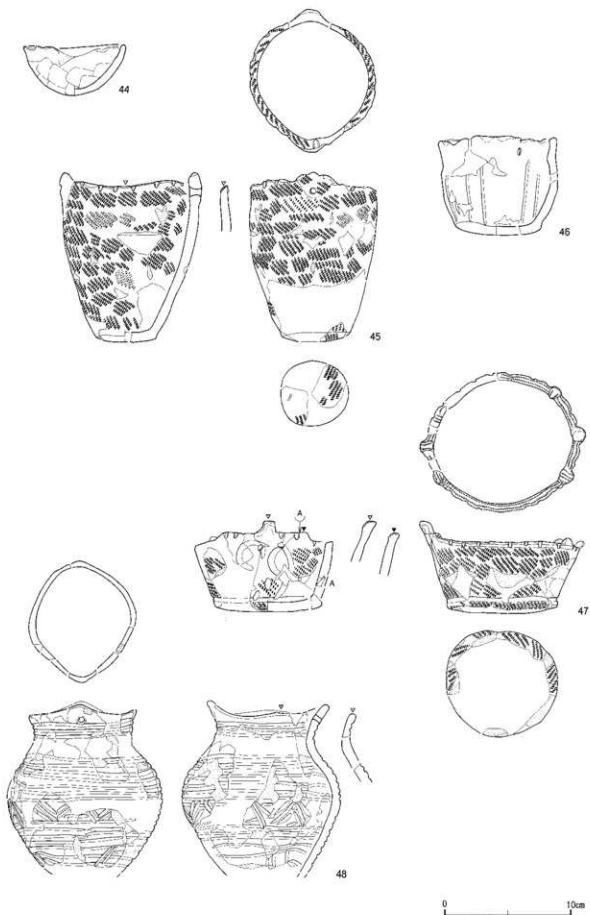
123~136は破片資料。123~130は弧線・曲線などが描かれるもの。123 a・bは、端面に単峰の山形突起→指頭圧痕により3連の小突起。外面は、突起下に相対する蛇行沈線→外部に横位R L縄側面圧痕4条(端部が縦位の短沈線に切られる)。124は端面がほぼ水平、箆状工具による縦位の刻み。口唇直下には内面よりの円形刺突孔が2か所確認される。外面は、断続する2重の上向弧状沈線→下部に横位沈線1条(現存)。125は、横位沈線2条→その内部に上下対称に組み合わさる渦巻状沈線→下部に連続山形沈線。平成14年度報告の図V-68-13-376 a・b(北埋調報193)と同一個体だが、接合しない。126 a・bは端面が内傾し、単峰あるいは双峰の山形突起→頂部には渦巻状R縄側面圧痕→突起間には縦位R縄側面圧痕、そして棒状工具の側面による刻み。外面は、細密な横位櫛歯状沈線→渦巻状あるいは楕円状沈線と縦位沈線の組み合わせ→下部には半截竹管状工具による横からの刺突列。127 a・bは端面が内傾し、山形突起→回転R L縄文→外縁に竹管状工具の側面による刻み。外面は、横位沈線4条→弧状沈線により連結された楕円状の区画→内部は強く横ナデされて凹み、半截竹管状工具による刺突列。128は口縁部がやや外側へ開く。端面は鋭角に内傾し、回転R L縄文→外縁は指頭による刻み。外面は、不整な波状沈線4ないし5条→縦位沈線。129は、無文→水平から下向きに屈曲する沈線4条。130は端面がやや内傾し、縦位R縄側面圧痕。外面は無文→細い横位沈線2条と、これらを繋ぐ弧状沈線→内部を小さな円形刺突で充填。131・132は斜線が描かれるもの。131は口唇直下に竹管状工具による下からの刺突列→横位沈線6条→断続山形沈線。132は口縁部がやや内側へ屈曲する。端面は尖り、外縁に竹管状工具の側面による刻み。外面は、断続山形沈線→屈曲部に半截竹管状工具による横からの刺突列→屈曲の下部はナデ消し。133~135は垂線が描かれるもの。133は、端面が内傾し、横位L縄側面圧痕2条→指頭による凹み、その両端は縦位L縄側面圧痕2条。外面は、横位沈線6ないし7条→4条を単位とする縦位沈線→下部に半截竹管状工具による横からの刺突列。134は端面が内傾し、縦位R縄側面圧痕。外面は、口唇直下に棒状工具の側面圧痕→細密な櫛目状沈線→半截竹管状工具による刺突列を左右に伴う縦位沈線→下部に同様の刺突列を伴うナデ消し凹帯。135は口縁部上位を欠く。縦位の貼付帯2か所(上部を欠損)→横位沈線と半截竹管状工具による下からの刺突列。残存部に垂線は見られないが、刺突列の多用を共通する要素と考え、ここに含めた。

h ナデ消し凹帯が顕著に見られるもの(16・17・21・22・136)

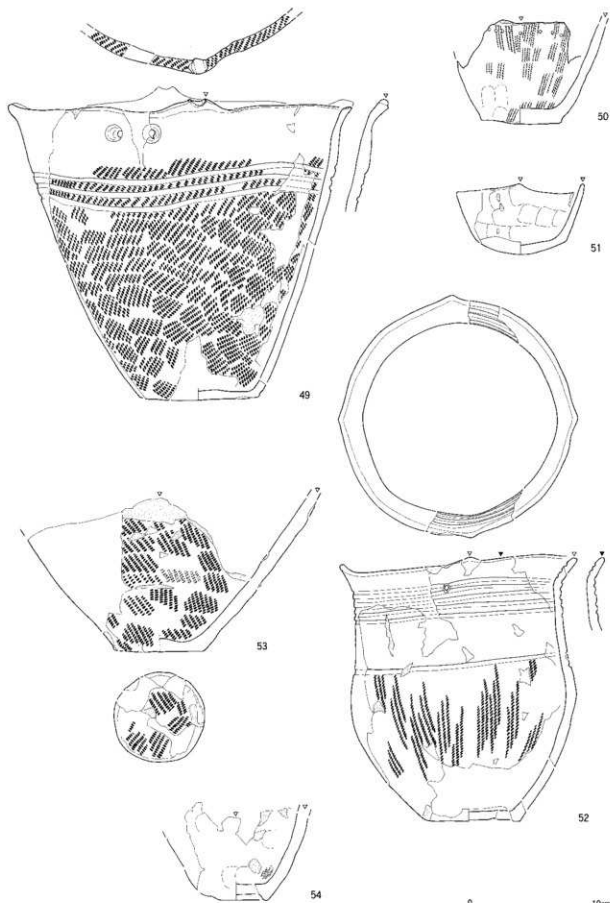
16は残存器高32.7cmを測る中型深鉢で、底部を欠失する。端面は内傾し、山形突起が5か所(推定)→横位L縄側面圧痕3条、その上から竹管状工具による刻み→突起上には縦位L縄側面圧痕。外面は、斜位回転R L斜走縄文→口縁部が強くナデ消され、幅広の凹帯→密な間隔で不整に廻る横位沈線→上部には棒状工具による円形刺突列、下部には半截竹管状工具による横からの刺突列→山形突起の外面にはボタン状突起、そこから垂下する粘土紐の貼り付け→ボタン状突起には半同心円状R縄側面圧痕、粘土紐には棒状工具による側面圧痕。17は器高36.7cmを測る大型深鉢。端面は内傾し、縦位L縄側面圧痕。外面は、回転方向の異なるL R、R Lの原体を併用する斜走縄文→横位沈線4条→5~6条組みの縦位沈線→半截竹管状工具による横からの刺突列を上下に伴うナデ消し凹帯。底部は丸底、同じ



図V-21 土器 (21)



图V-22 土器 (22)



図V-23 土器 (23)

工具による横からの刺突列。底外面にも回転R L縄文。平成14年度報告の図V-70-13-163 a・b（北埋調報193）と接合する。21は残存器高13.8cmを測る小型深鉢で、底部を欠失する。口縁部がすぼまり、胴部が膨らむ器形。端面はやや内傾し、山形突起→一部に縦位R縄側面圧痕。外面は、斜位回転R L縦走縄文（口縁部ナデ消し）→山形突起下には2孔1対（推定）の円形刺突→ナデ消し凹帯→下部に竹管状工具による斜め下からの刺突列→胴部上～中位に縦位短沈線と弧状沈線→胴部下位にナデ消し凹帯。22は胴部下位～底部を欠失するが、口径（40.2cm）から大型深鉢と推測される。端面は鋭角に内傾し、回転R L縄文。外面は、斜位回転R L斜走・縦走縄文→横位沈線6条→上方へ貫入するナデ消し凹帯→上下に半截竹管状工具による横からの刺突列。2孔1対の補修孔が2か所確認される。

136は破片資料。端面は鋭角に内傾し、外縁が肥厚。外面は、口縁部は無文帯→横位沈線5条→断続山形沈線（3条）→比較的幅広のナデ消し凹帯→下部に半截竹管状工具による下からの刺突列。

i ナデ消し帯と刺突列のみで顕著な文様が見られないもの（20・137～139）

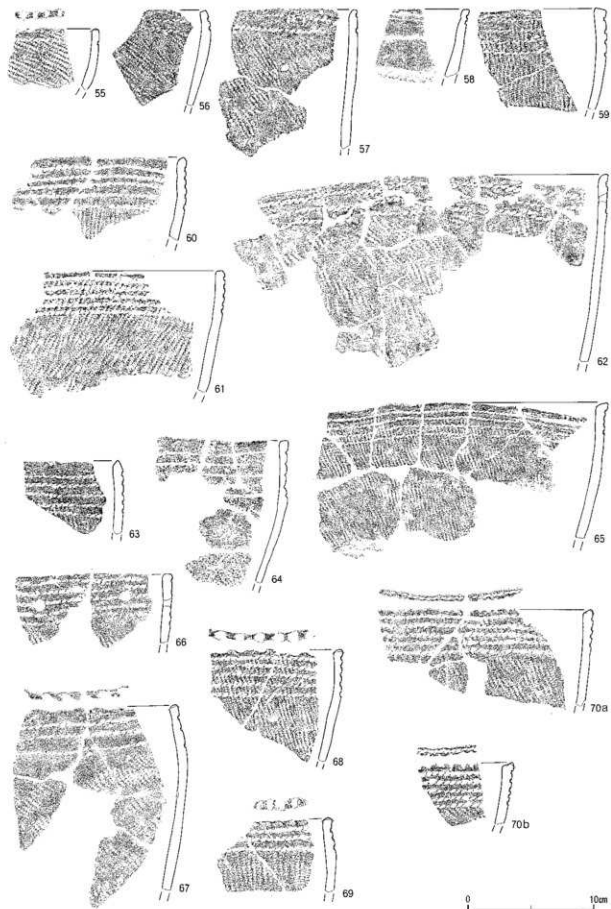
20は器高24.6cmを測る小型深鉢。端面は内傾し、粘土貼り付けによる山形突起4か所→回転R L縄文→竹管状工具による疎らな刻み→突起部分に同心円状R L縄側面圧痕。外面は、斜位回転R L斜走縄文→口縁部に浅いナデ消し帯→その上下に半截竹管状工具による横からの刺突列。底部は平底。補修孔が4か所確認されるが、このうち2か所は貫通していない。

137～139は破片資料。いずれも口縁部にナデ消し凹帯が作り出され、上下に刺突列を伴う。137・139は外面に斜位回転R L斜走縄文、138は無文。137は端面が鋭角に内傾し、回転R L縄文。139は貼付帯の頂部に指頭による凹み→周縁部にも刺突列。

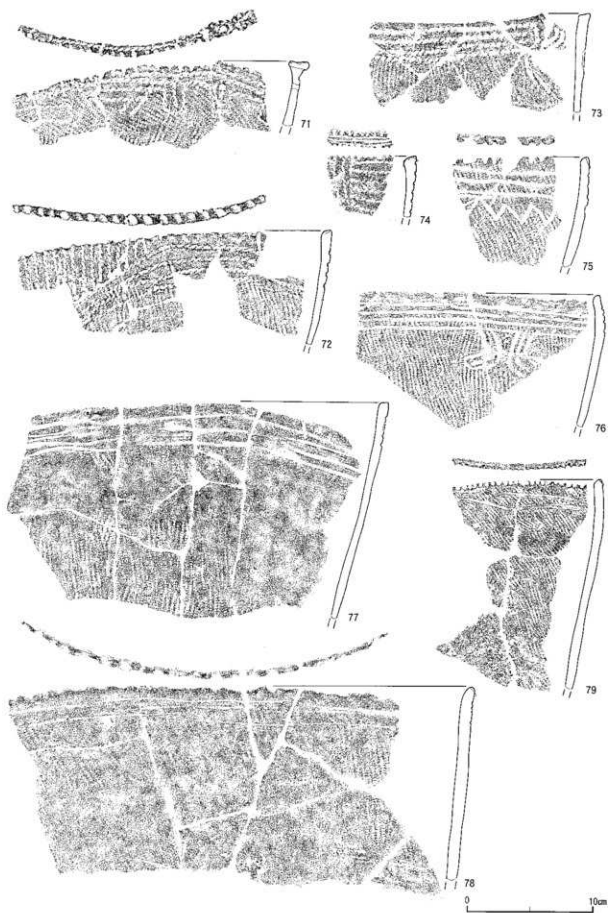
j 縄文のみ、または無文のもの（9・11・15・140～152）

9は推定器高27.0cmを測る中型深鉢。口縁～底部が接合せず、図上での復元。端面はやや内傾し、波状口縁の頂部に縦位R縄側面圧痕。外面は、横位回転R L斜走縄文。胴部下位に2孔1対の補修孔。底部は凸底。11は残存器高13.8cmを測る小型深鉢で、底部を欠失する。端面は内傾し、横位R縄側面圧痕2条→外縁に竹管状工具による刻み。外面は、横位回転R L斜走縄文。15は胴～底部を欠失するが、口径（28.9cm）から中型深鉢と推測される。端面は内傾し、内外両端にL縄側面圧痕。外面は、横位回転R L斜走縄文（口縁部ナデ消し）→口唇直下に竹管状工具による疎らな刻み。

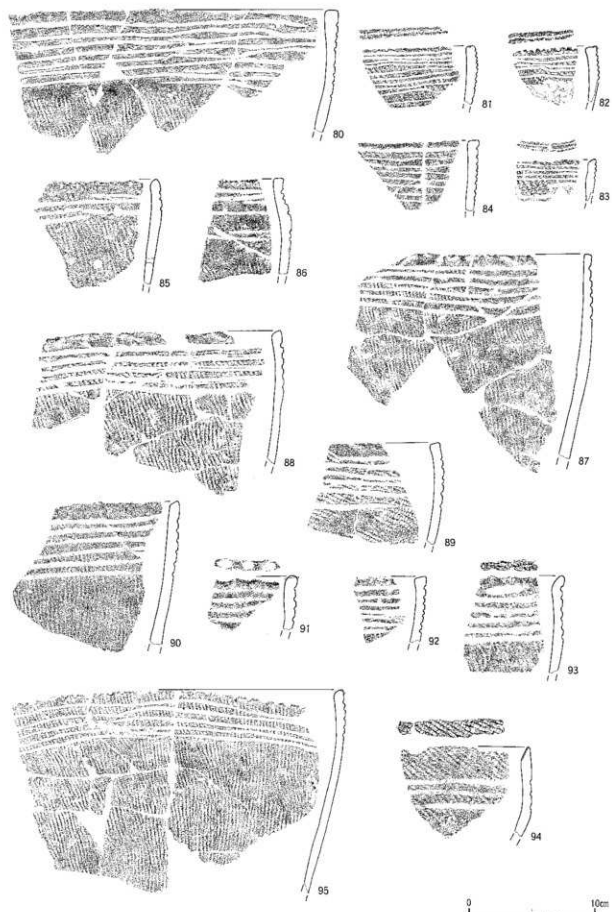
140～152は破片資料。140～150は縄文のみが施されるもので、いずれもR L斜走縄文。141は端面が強くナデ調整され、内面に粘土めくれが見られる。142は端面が鋭角に内傾する。143は器表がナデられ、縄文が不鮮明。144・145は端面に回転R L縄文。144は指頭、145は竹管状工具により外縁が刻まれる。146は端面が鋭角に内傾し、山形突起2か所→縦位R縄側面圧痕→内縁に半截竹管状工具による斜め上からの刺突列。補修孔が2か所確認される。147は端面が筒状工具により深く刻まれる。148は口縁部が窄まり、胴部が膨らむ器形。端面は丸く肥厚し、外縁に縄端による刻み。149は口縁部がつまみ出しにより肥厚し、爪痕が残る。肥厚帯上に竹管状工具による「八」の字状の刻み。150は「H」字状の粘土紐が口唇に被せて貼り付けられていたと推測される。貼付帯の外面は棒状工具による側面圧痕→肥厚する頂部は同じ工具の先端による刺突。口唇直下には円形刺突孔が1か所確認される。151・152は無文（ナデのまま）。151は端面に山形突起→縦位R縄側面圧痕→頂部に棒状工具による側面圧痕。外面は、山形突起下にボタン状突起→縦位R縄側面圧痕→棒状工具による内面からの穿孔。152は、逆三角形の貼付帯→側縁に指頭によって強くナデ押された凹み→中央に内・外両面からの穿孔→同心円状R縄側面圧痕→周縁部に半截竹管状工具による下からの刺突列→貼付帯下に刺突列を上下に伴うナデ消し凹帯。



図V-24 土器 (24)



图V-25 土器 (25)



図V-26 土器(26)

k 口縁部を欠く、または底部のみのもの(18・19・23・156~162)

18は残存器高28.8cmを測る中型深鉢の胴~底部。外面は、横位回転R斜走縄文。底部は丸底で、底外面に回転R斜走縄文。19は深鉢の胴~底部。外面は、太めの原体による横位回転R斜走縄文。底部は凸平底。底面外縁に竹管状工具による疎らな刻み。23は残存器高34.8cmを測る大型深鉢の胴~底部。外面は斜位回転R斜走縄文(指押さえによる凹凸)。底部は凸平底。内外面の剥落が著しい。

156~162は底部のみが接合した破片資料。156・162は平底。157は凸平底。158は丸底。159~161は凸底。いずれも底外面に回転縄文。156は底面外縁に縄端による刺突列。159は外面にナデ消し。160・161は内外面ともに剥落・摩滅が著しい。162は底面外縁に浅い指頭圧痕。

②鉢・浅鉢・皿(図V-15~20・33~36/表V-2/図版V-6・7・18~20)

a 顕著な突起や文様が見られないもの(26~29・163~169・185)

26は推定口径26.9cmを測る中型浅鉢。上面観は楕円形。口縁部は不整に波打ち、端面がやや内傾する。口唇直下に粘土めくれ。外面は斜位回転R斜走縄文(指ナデにより一部不鮮明)。底部はやや丸みを帯びた平底。27は推定口径15.2cmを測る小型浅鉢。上面観は円形。口縁部は小波状で、端面が丸い。口唇直下に粘土めくれと爪痕。外面は斜位回転R斜走縄文。底部はやや丸みを帯びた平底。

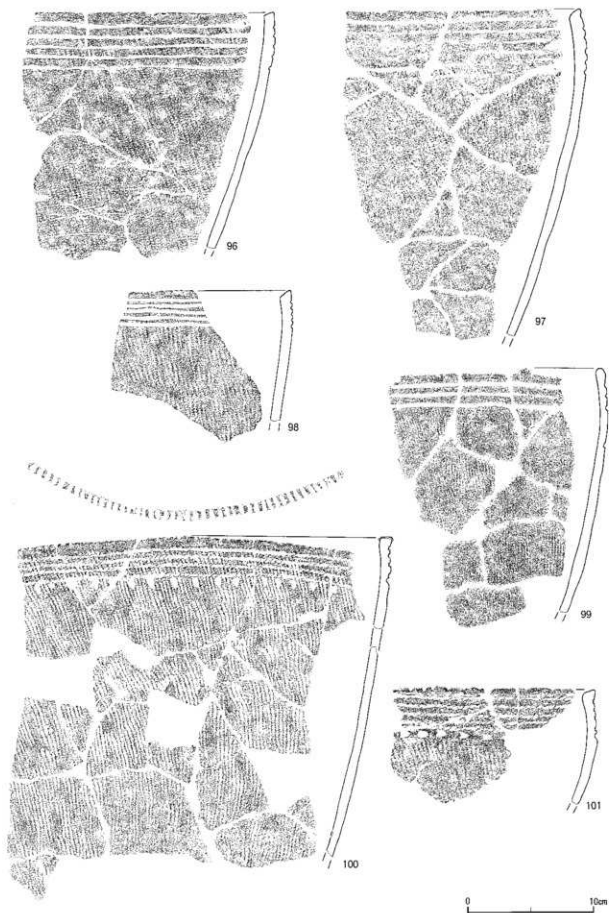
28は推定口径15.2cmを測る小型浅鉢で、底部を欠失する。上面観は円形。口縁部は平縁で、端面がやや内傾する。外面は斜位回転R縦走縄文(口縁部ナデ消し)。29は推定口径23.4cmを測る中型浅鉢。上面観は楕円形。口縁部は平縁で、1/3ほどは低い台形の突起。端面はやや内傾し、横位R縄側面圧痕1~2条→外縁に竹管状工具による刻み。欠損部分に前突起が存在していた可能性がある。外面は横位回転R斜走縄文(口縁部ナデ消し)。底部は丸底。

163~169・185は破片資料。b・cの一部(前突起以外の部分)である可能性もあるが、全体を類推することができないため便宜的にここに含めた。163のみ平縁で、164~166、168・169は小突起を有する。小突起の形態は、いずれも単峰で、丸形もしくは方形のもの(164・167・168・169)、角状に両端が突き出るもの(166)、欠損により不明なもの(165)がある。端面の施文は、無文(163・165)、横位縄側面圧痕(164・165~168)、縦位縄側面圧痕(166・167)などがある。外面に横位・斜位回転R斜走縄文が施されるものが大部分で、168のみ無文。164は突起下の内面に円形刺突孔。165は先端が窄まる器形で、上面観は卵型と推測される。166は口唇直下が棒状工具の側面により刻まれる。167の大型の山形突起は、類例から後突起の可能性もある。168は突起の頂部に円形刺突孔。169は口唇直下が指頭により刻まれ、端面が小波状になっている。85は小型の皿。口縁部がやや外側へ開き、口唇直下に粘土めくれ。丸底で、器表全体に回転R斜走縄文が施される。

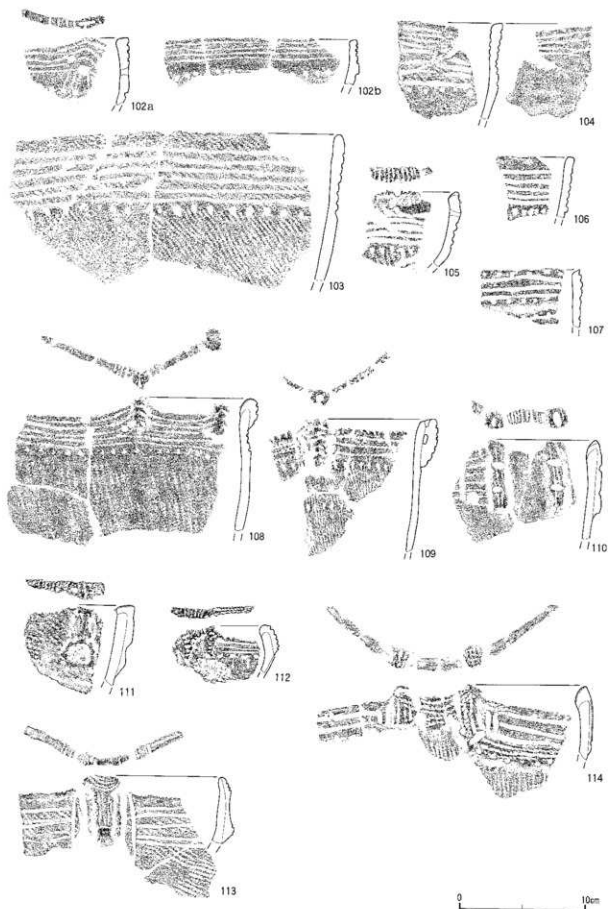
b 顕著な突起が見られるもの(30・37・170~178・186~188)

30は残存部分から大型浅鉢と推測される。全体の約1/3にあたり、主飾部の大半が残る。上面観は楕円形と推測される。端面は水平で、前突起に3条、それ以外は2条の横位R縄側面圧痕。前突起の中央にあたる大突起は頂部に縦位R縄側面圧痕→内面より穿孔。前突起の両端に頂部が肥大する小突起1対→内側からの棒状工具による刻みで左右に分割→それぞれに渦巻状R縄側面圧痕。外面は、横位・斜位回転R斜走縄文(指ナデにより一部不鮮明)。底部は丸底と推測される。37は推定口径33.5cmを測る大型浅鉢。全体の約2/5にあたり、主飾部の右突起、副飾部の一部が残る。上面観は楕円形と推測される。端面はやや内傾する。右突起は3連(推定)の山形突起で、外面に粘土めくれ。後突起は低い台形で、内面から篋状工具による刻み。外面は、横位回転R斜走縄文(口縁部ナデ消し)。底部は丸底と推測される。

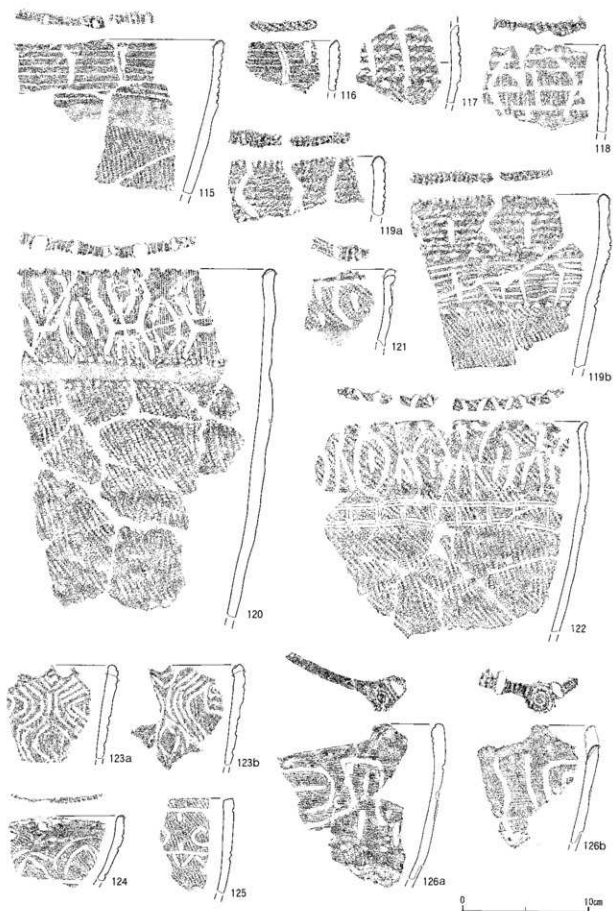
170~178・186~188は破片資料。いずれも主飾部の一部を含むと考えられる。突起はいずれも台形



図V-27 土器(27)



图V-28 土器(28)



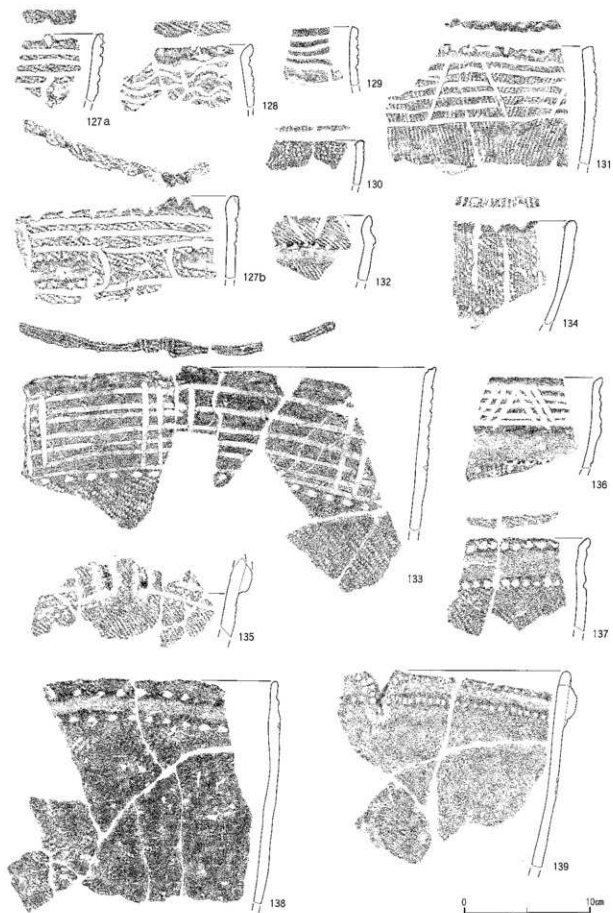
図V-29 土器 (29)

の単峰で、角状の小突起が2個のもの(170・171・177)、3個のもの(173・175・178)、欠損するが複数個と推測されるもの(172・174・176)がある。小突起頂部の施文は、縦位縄側面圧痕(170・175・177・178)、刺突孔を中心とする同心円状縄側面圧痕(171・172・173・176)、弧状または横位縄側面圧痕(173・174)、竹管状工具の先端による刺突(175)があり、複合する例も見られる。突起以外の端面は、無文(170・175・176・177)、横位縄側面圧痕(171~174)、縦位縄側面圧痕(178)があり、いずれも突起を含む端面外縁が竹管状工具による刻み。173・176・178は、突起または口縁部に円形刺突孔が確認される。外面には斜位・横位回転R L縄文が斜走(170・172・175・177)、縦走(171・173・178・179)、横走(174)する。170は底面の周縁部が残存しており、丸底と推測される。口縁部に補修孔が1か所確認される。171は左突起が残存しており、形状・施文は主突起両端の小突起と同様である。172は中央の小突起の内面に指頭による凹み。173は突起が外傾する。174・176・177は口唇直下に厚い粘土めくれ。175は中央の小突起をさらに刻んで2分割し、それぞれに施文する。177は左突起の可能性がある。178は小突起の外面に指頭による凹み。186~188は注口部。186・187は注口の上部に、把手状の粘土輪が取り付けられる。いずれも把手部にボタン状突起が複数貼り付けられ、186は円形刺突孔、187は弧状L縄側面圧痕。186は注口外面に沈線が非常に狭い間隔で廻り、端面に同心円状L縄側面圧痕。187は注口外面にもボタン状突起の貼り付け。188は注口の上部に、ボタン状突起を連結する粘土紐。ボタン状突起には円形刺突孔→同心円状L縄側面圧痕。粘土紐に横位L縄側面圧痕→両側面からの掴みによる下部の凹み。浅鉢本体の端面にも同様のボタン状突起。

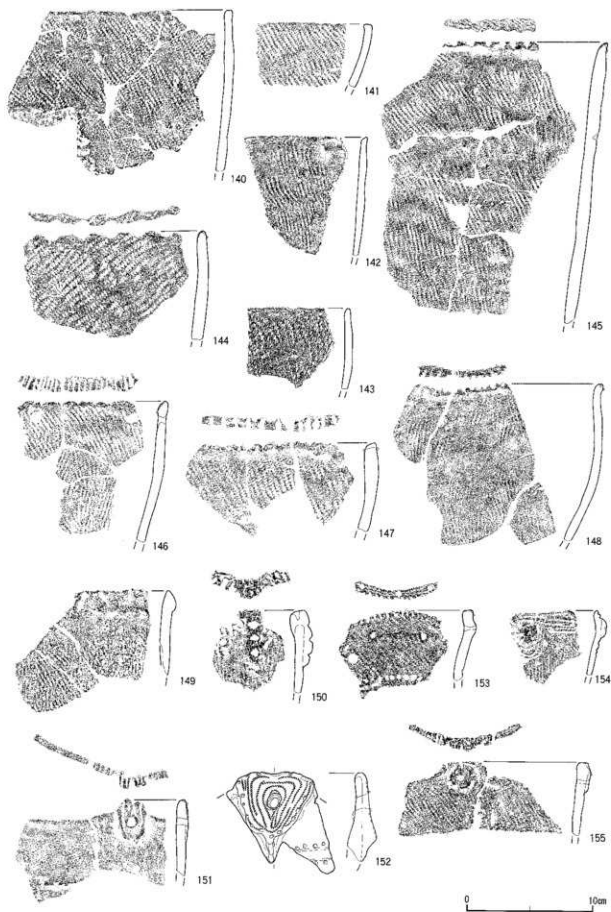
c 内面に文様が見られるもの(31~34・39・179~183)

31は推定口径27.8cmを測る中型浅鉢。全体の約1/3にあたり、主飾部のうち左右突起のいずれかが残る。上面観はほぼ円形と推測される。端面はやや内傾し、山形突起→回転R L縄文→縦位R L縄側面圧痕。口唇直下に粘土めくれ。外面は斜位回転R L斜走縄文。底部は平底である。32は口径37.2cmを測る大型浅鉢。底部を欠失する。上面観は卵形。端面はやや内傾し、主飾部に横位R縄側面圧痕1ないし2条。前突起は台形で、両端に2か所(推定)の小突起→外縁に棒状工具による刻み→突起頂部に半同心円状R縄側面圧痕。左突起・右突起は低い台形で、それぞれ両端に2か所の小突起→外縁に指頭圧痕→突起頂部に縦位R縄側面圧痕。後突起は台形で、内外両面より縦位R縄側面圧痕。外面は斜位回転R L斜走縄文。33は推定口径20.2cmを測る中型浅鉢。口縁部の約1/2が欠失しており、突起の有無は不明。上面観はほぼ円形と推測される。端面は内傾し、回転R L縄文。外面は、斜位回転R L斜走縄文。底部は平底で、底外面にも回転R L縄文。34は推定口径28.4cmを測る中型浅鉢。口縁部の約1/3が欠失する。上面観はやや歪んだ楕円形。端面はやや内傾し、主飾部に縦位L縄側面圧痕。前突起は台形の小突起3か所から成る。左・右突起および副飾部の形状は不明。外面は斜位回転R L斜走縄文(口縁部ナゲ消し)。底部は丸底。39は全体の約1/2が残存する大型浅鉢。主飾部のうち前突起と左突起が残存し、副飾部は失われている。上面観は楕円形または卵形と推測される。端面はやや内傾し、R縄側面圧痕1条→外縁に竹管状工具の先端による刻み。前突起は台形で、縦位R縄側面圧痕→3連の小突起それぞれに内面より指頭圧痕。中央のやや大きな突起の外縁に竹管状工具の側面による刻み(俯瞰が花卉状になる)→円形刺突孔の周囲に横位・縦位弧状R縄側面圧痕。前突起両端の小突起および右突起も横位弧状R縄側面圧痕。外面は、横位回転R L斜走縄文。

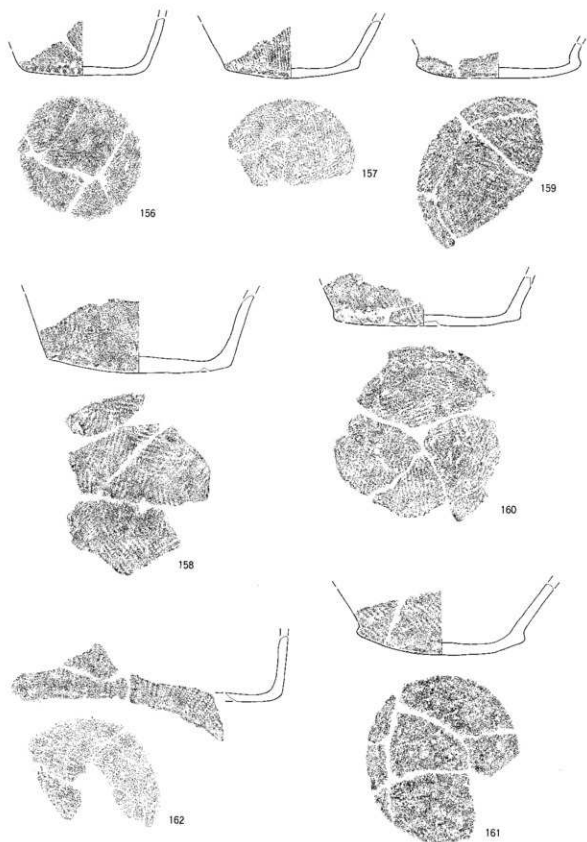
179~183は破片資料。179・180は鋭角に内傾する端面に施文されるもの。179は前突起の一部と考えられる、角状に突き出す大突起と、やや小さな突起が各1個残存する。大突起は頂部が肥厚し、指頭により縦位の凹帯が設けられ、2分割される。左右の頂部には、それぞれ竹管状工具の刻み中心とする同心円状L縄側面圧痕。突起の下部にも及び、端面に横位に施されるが、口縁部内面まで弧状に垂



図V-30 土器 (30)



图V-31 土器 (31)



0 10cm

図V-32 土器 (32)

下する部分が見られる。これら大突起～端面の縄側面圧痕の周縁部には錐状工具の先端による刺突列。もう1つの小突起は欠損しており、全体の形状は不明。頂部は縦位L縄側面圧痕→内面より円形刺突孔。外面には横位回転R L斜走縄文。180は右突起を含む主飾部の一部。双峰の突起の頂部に縄端圧痕。突起以外の端面は回転R L縄文→竹管状工具の側面による「八」の字状の刻み→外縁に指頭による刻み(端面が小波状になる)。外面には斜位回転R L斜走縄文。181～183は口縁部の内面に施文されるもの。181は単峰の台形突起の中央を指頭側面深く抉って分割し、さらに左右それぞれを指頭で刻み、計4個の小突起を作り出している。各小突起の頂部には内外面より縄端が圧痕される。突起以外の端面に縦位R L縄側面圧痕。突起の外面には横位貼付帯→横位R L縄側面圧痕1条と縄端による刺突列。突起の内面には竹管状工具の先端による刺突4か所。外面に斜位回転R L斜走縄文。182は粘土紐を口縁部内面に被せるように貼り付け、突起を含む肥厚帯を作り出している。端面は密な縦位R縄側面圧痕→突起の頂部に外面より竹管状工具の側面圧痕。肥厚帯の内面は横位R縄側面圧痕→竹管状工具の側面による「八」の字状の刻み。外面は無文(ナデのまま)で、肥厚帯の接合部に横位沈線1条。183は端面に抉りのある尖頭形の突起→内面に菱形の貼付帯。突起の頂部は密な縦位R縄側面圧痕→竹管状工具の側縁圧痕。突起の中央は、内外両面より穿孔される。内面の貼付帯は縦位R縄側面圧痕→刺突孔を頂いて十字の沈線。外面は無文(ナデのまま)である。

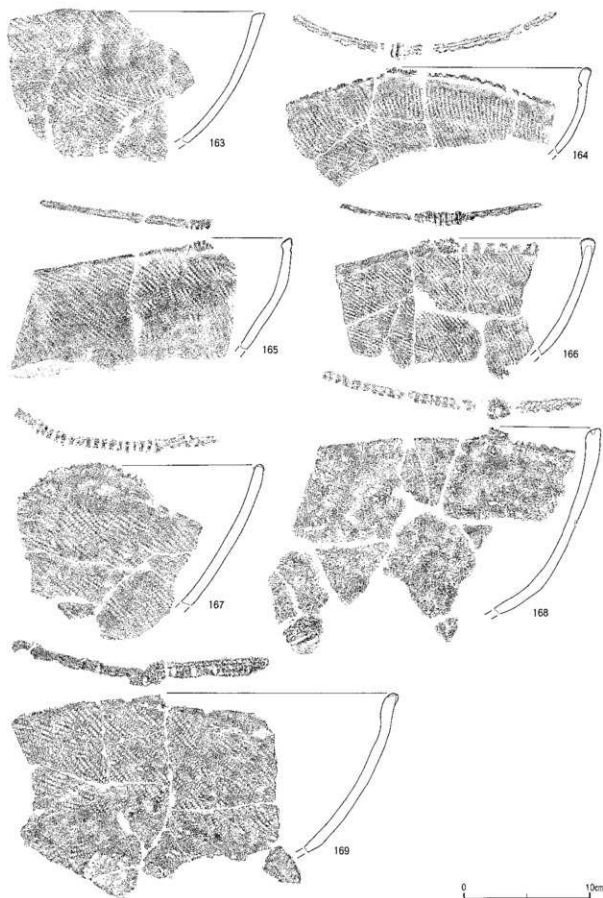
d 外面に文様が見られるもの(35・36・38・40・184)

35は小型浅鉢の胴～底部。全体の約1/5が残存する。平成14年度報告の図V-1-13-379(口縁～胴部破片、北埋調報193)と同一個体だが、接合しない。図示はできなかったが、既報告のものと同併せて全体を説明する。器形は口縁部が屈曲して垂直ぎみに立ち上がる。上面観はほぼ円形と推測される。口縁部は平縁で、端面がやや内傾する。外面は、斜位回転R L斜走縄文(屈曲より下位ナデ消し)→円形刺突列により連続山形文→刺突列を挟んで、3ないし4条を単位とする二重の断続山形沈線。底部は凸底。36は口径19.4cmを測る小型浅鉢。上面観は卵形に近い円形。端面はやや内傾し、主飾部にR縄側面圧痕2条→外縁に棒状工具による刻み。前突起は台形で、両端に2か所(推定)の小突起。左・右突起は双峰の山形突起。外面は、横位回転R L斜走縄文(口縁部ナデ消し)→下向き弧状の沈線とR縄側面圧痕を対にして3段→沈線・縄線間を円形刺突列で充填→胴～底部に2ないし3条の不整な横位沈線、一部に円形刺突列。底部は丸底で回転R L縄文。口縁部に2孔1対の補修孔。38は推定口径21.5cmを測る中型浅鉢。約1/4を失っており、主飾部・副飾部が存在していたかは不明。上面観は楕円形と推測される。端面は水平もしくは外傾し、半截竹管状工具による刻み。双峰の山形突起3か所が現存し、それぞれ内面より2孔1対の円形刺突孔。外面は、無文(ナデのまま)→口縁部に4条、胴部に7条、底部に2条の横位沈線→胴部の沈線の施文単位の間「V」字状の短沈線。底部は平底。底外面は、外縁に沿って1条の沈線が周回し、その内部に4ないし5条を単位とする沈線が交差する。40は推定口径30.3cmを測る大型浅鉢。上面観は楕円形と推測される。口縁部はやや内傾するが、大部分を欠失する。外面は、横位回転R L斜走縄文(摩滅が著しい)→横位沈線3条→竹管状工具による横からの刺突列。底部は丸底。

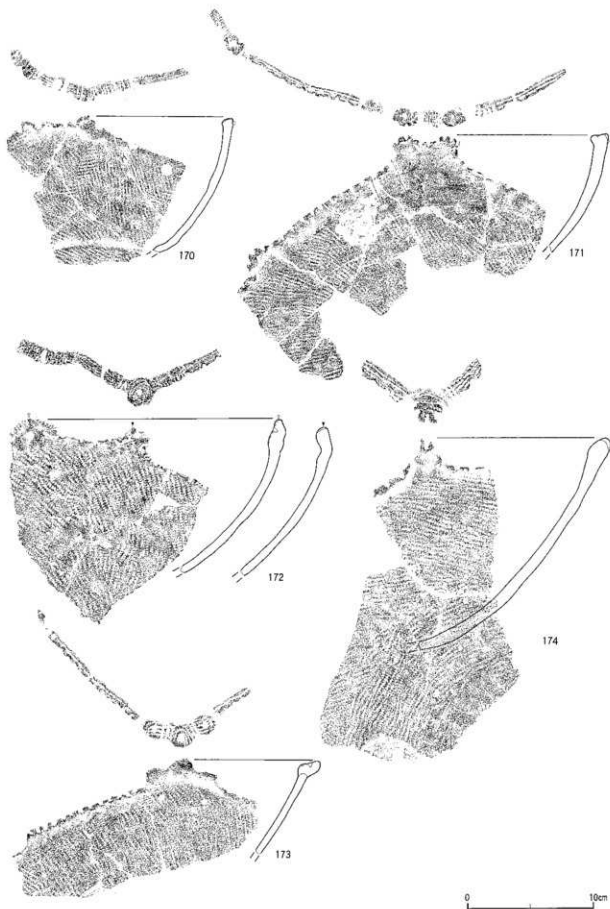
184は破片資料。端面に幅広い台形突起→上部に小突起3か所→横位L縄側面圧痕4条。突起以外の端面には横位L縄側面圧痕1条→外縁に竹管状工具による刻み。外面は、横位回転R L斜走縄文(一部ナデ消し)→突起下に内面よりの2孔1対の円形刺突孔→口縁部に細沈線による垂下屈曲文、楕円線文。

③臺(図V-21・37/表V-2/図版V-8・20)

41は残存器高14.4cmを測る中型臺で、胴部下位～底部を欠失する。端面は水平で、外面へ肥厚→回



図V-33 土器 (33)



图V-34 土器 (34)



図V-35 土器(35)

転R L縄文。外面は、横位回転R L斜走縄文（摩滅・剥落により不鮮明）→口縁部に不整な横位沈線5ないし6条→頸部に竹管状工具による下からの刺突列。肩部の屈曲は弱い。42は小型壺の口縁部を打ち欠いた再生品。肩部の屈曲は強い。外面は、斜位回転R L斜走縄文（摩滅が著しい）→頸部に横位沈線3条。平成11年度報告の図V-6-25（北埋調報147）と接合する。

189～194は破片資料。いずれも壺の口縁～頸部。189・190・193は口縁部に横位沈線2ないし3条。191は端面に山形突起→頂部に竹管状工具の側面による刻み。外面は口縁部に肥厚帯→強い横ナデによる凹み→上下に半截竹管状工具による横からの刺突列。内面に突帯。192は頸部に隆帯→半截竹管状工具による横からの刺突列。193は端面に竹管状工具の側面による刻み。194 a・bは内面に狭い間隔の横位沈線3条。

④ミニチュア土器（図V-22・31／表V-2／図版V-8・9・17）

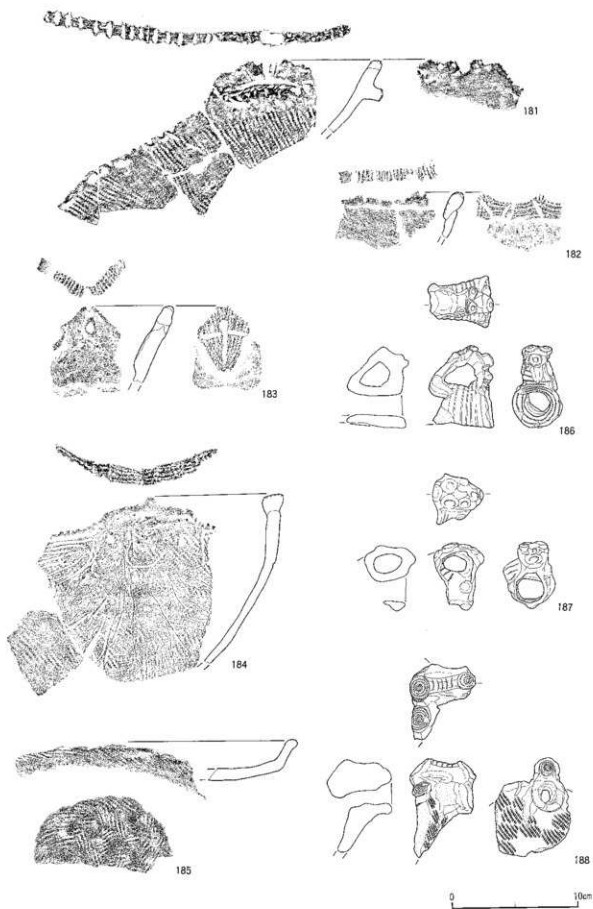
44は口径8.0cmを測るミニチュア浅鉢。上面観は楕円形。端面は尖り、双峰の山形突起が1か所現存。外面は無文。底部は丸底。45は器高13.3cmを測るミニチュア深鉢。端面はやや内傾し、回転R L縄文→つまみ出しによる山形突起2か所（推定）→突起頂部と外縁に竹管状工具による刻み。外面は、横位回転R L斜走縄文→突起下には円形刺突孔。底部は凸底で、底外面に回転R L縄文。46は口径9.8cmを測るミニチュア鉢。口縁部が外側へ開き、胴部が少し膨らむ器形。端面はやや内傾し、不整に波打つ。外面は無文で、疎らな縦位沈線。底部は丸底。47は規格では小型浅鉢とすべきだが（口径11.0cm）、出土状況から45との関連性を重視し、ミニチュア浅鉢に含めた。上面観は楕円形。端面はやや内傾し、横位R縄側面圧痕2条→低い台形の前突起に小突起1か所、副飾部に小突起3か所→小突起の頂部に縦位R縄側面圧痕。外面は、横位回転R L斜走縄文（口縁部ナデ消し）→口唇直下に竹管状工具による下からの刺突列、前突起下に円形刺突孔2か所→胴部に不整な括弧状沈線→底部に横位沈線1条。底外面は周縁部分のみ残存し、回転R L縄文。内外面ともに剥落が著しい。48は残存器高12.6cmを測るミニチュア壺で、底部を欠失する。口縁部は緩やかな小波状を呈し、肩部の屈曲は弱い。端面はほぼ水平で、山形突起が2か所（推定）。外面は、無文（ナデのまま）→突起下に円形刺突孔→口縁部に3条、肩部に7条、底部に5条の横位沈線→胴部に3条を単位とする断続山形沈線→底部に2条を単位とする斜位沈線。

153～155は破片資料。153は胴部が括れる器形のミニチュア深鉢の口縁→胴部と推測される。口縁部は屈曲し、内傾する。端面はやや内傾し、横位R縄側面圧痕2条→外縁に縄端による刻み。端面、口縁の屈曲部分、胴部の括れ部分には、竹管状工具による円形刺突が施され、口縁部のものは貫通している。胴部には補修孔が1か所確認される。154・155は、いずれもボタン状突起が貼り付けられたミニチュア深鉢あるいは鉢の口縁部。154は突起の中心に円形刺突孔→周囲に横位・弧状の細い沈線。155は山形突起の頂部に錐状工具による縦位の刻み。ボタン状突起は同じ工具により穿孔。

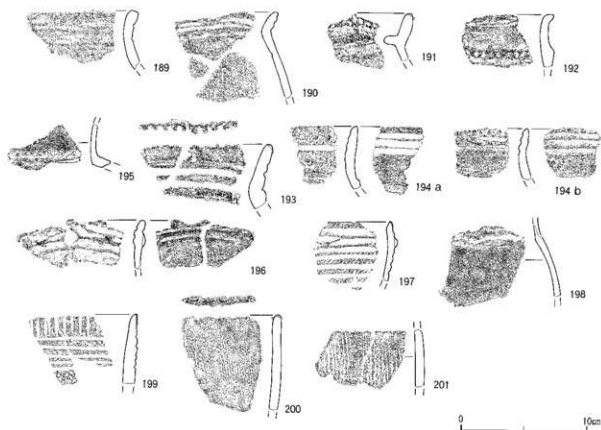
⑤搬入品と見なされるもの（図V-21・37／表V-2／図版V-8・20）

43は推定器高44.0cmを測る大型壺。口縁部の内側に突帯。頸部は無文帯。磨り消しにより工字文風の隆帯と粘土の貼り付けによりA状突起を作り出している。肩部の屈曲はやや強い。肩→胴部に横位・斜位回転R L斜走縄文（摩滅と剥落で不鮮明）。底部は平底。大洞A式に相当する。

195～198は破片資料。195は壺の頸部で、隆帯の一部が残存する。196は深鉢または鉢の口縁部。全体に摩滅して、施文が不鮮明。端面にB突起。口縁部外面には、隆帯により並列菱形文と推測される文様が描かれ、連結部に瘤状突起のが貼付。口唇直下の内面には横位沈線2条。197は、端面が鋭角に内傾する。外面に細かな回転L R斜走縄文（ナデ消され不鮮明）→幅の一定な横位沈線7条（現存）→細い隆帯を伴う瘤状突起の貼付。198は壺の肩部。外面は無文で、丁寧に磨かれる。



図V-36 土器 (36)



図V-37 土器 (37)

(5) VI群土器

①深鉢 (図V-23・37/表V-2/図版V-9・10・20)

49は器高28.8cmを測る中型深鉢。口縁部が少し外側へ開く器形。端面はやや内傾し、山形突起が4か所(推定)→回転LR縄文→突起頂部に指頭による窪み。外面は、斜位回転LR斜走縄文(口縁部は強くナデ消し)→下部に横位沈線3条。底部は凸平底。口縁部に2孔1対の補修孔が確認される。鈴木(2003)のH37丘球期「新」段階に相当する。50は残存口径12.1cmを測る小型鉢で、口縁部を欠失する。外面は、縦位撚糸L縄文(摩滅により不鮮明)→胴部に横位沈線1条(現存)と円形刺突列。底部は平底。52は器高21.0cmを測る小型深鉢。口縁部が外側へ開き、胴部が膨らむ器形。中心軸が歪み、正立しない。端面は外傾し、山形突起4か所(推定)。口縁→頸部は無文帯。頸部上位に5条、胴部上位に1条、口縁部内面に3条の横位沈線。胴部はRL縞縄文。底部は凸平底。内面は平滑に仕上げられており、炭化物が付着する。口縁部に補修孔が1か所確認される。恵山式土器(アヨロ2a式相当)。54は小型深鉢の底部。無文で凸平底。

199~201は破片資料。199は斜位回転LR斜走縄文(口縁部ナデ消し)→口唇直下に縦位短沈線→横位沈線5条。200・201は外面に縦位L撚糸文。200は端面に撚糸Lの丸絡結繩体による刻み。

②鉢 (図V-23/表V-2/図版V-10)

53は形状から鉢の底部と推測される。平底。器表・底外面には回転RL斜走縄文。

③ミニチュア土器 (図V-23/表V-2/図版V-9)

51は推定口径10.0cmを測るミニチュア浅鉢。上面観はほぼ円形。口縁部は小波状で、口唇は丸い。全体に無文(ナデのまま)で、赤色顔料が一部に残る。底部は丸底。(芝田)

2 石器等

(1) 分類

石器等の分類については分類記号等を用いなくて記述を行う。今年度の報告において使用した分類は下記のとおりである。

石鏃、石槍・ナイフ類、スクレイパー、石斧、たたき石、台石、砥石、石錘、石核、Uフレイク、Rフレイク、加工痕のある礫、剥片、原石、礫・礫片、土製品・石製品

なお、形状が判明しないもの、残存が半分以下のものについては破片としている。各分類の細分類については下記の文中において述べる。

(2) 概要

今年度報告範囲において出土した石器等は、剥片石器309点、礫石器179点、剥片22,493点、礫・礫片1,509点、合計24,492点である。出土遺物の約54%に当たる。器種別で見ると石鏃・たたき石・スクレイパーが多く出土し、石器の71%を占める。出土位置は138線以東にそのほとんどが集中する。

石材は、剥片石器ではほとんどを黒曜石、礫石器では砂岩・安山岩が多くを占める。玉髄としたものはメノウ・メノウ質頁岩である。

掲載した各石器の出土位置・生活面・大きさ・重さは表V-3を、石器等における遺構を含む全点分布・器種別分布については図V-42~46を参照していただきたい。

(3) 石器等

石鏃 (図V-38-1~24/表V-3/図版V-21)

108点が出土した。内訳は無茎鏃2点、有茎鏃92点、破片・未製品14点である。無茎鏃の平均規模は長さ4.2cm・幅1.6cm・厚さ0.3cm・重さ1.9gである。有茎鏃の平均規模は長さ2.2cm・幅1.2cm・厚さ0.3cm・重さ0.7gである。石材は黒曜石104点、頁岩4点である。

1・2は無茎鏃。基部は凹基。長さ：幅が1.5：1以上で二等辺三角形の形状をしている。1は褐灰色の頁岩、2は黒曜石で一部原石面が残る。3~24は有茎鏃。3~13は基部の返しが明瞭なもの。13の一部には原石面が残る。14~21は基部の返しが不明瞭で菱形に近い形状をするもの。22~24は基部の返しが不明瞭なもの。3~22は黒曜石、23は灰白色の頁岩、24は暗褐色の頁岩である。なお、『対雁2遺跡(1)』(北埋調報147)の図V-10-1・2・3・9、図V-12-6・7・9・10・12・17・21において、この他に実測した遺物を図示している。

石槍・ナイフ類 (図V-38-25/表V-3/図版V-21)

7点が出土した。つまみ付きナイフおよび両面調整により刃部を作出しているものを本分類とした。つまみ付きナイフ1点、有茎のもの1点、破片5点である。有茎のものについては『対雁2遺跡(1)』(北埋調報147)の図V-12-22に掲載している。石材は頁岩2点、黒曜石5点である。

25は縦型つまみ付きナイフ。つまみ部は一侧縁に両面加工を施して作出している。頁岩。

スクレイパー (図V-38-25~42/表V-3/図版V-21)

135点が出土した。内訳はV字状の刃部があるもの9点、縦長の剥片の側縁に直線的な刃部を作出したもの20点、半円形や円形の剥片の周縁に曲線的な刃部を作出したもの21点、縦長の剥片の下端部に刃部を作出したもの3点、横長の剥片に直線的な刃部を作出したもの8点、剥片の形状を生かして側縁に刃部を作出したもの52点、棒状原石を利用したもの2点、破片20点である。石材は黒曜石120点、安山岩9点、頁岩3点、玉髄2点、泥岩1点である。

26~29はV字状の刃部があるもの。30~32は縦長の剥片の側縁に直線的な刃部を作出したもの。33~36は半円形や円形の剥片の周縁に曲線的な刃部を作出したもの。37は縦長の剥片の下端部と側縁に直線的な刃部を作出したもの。38~40は横長の剥片に直線的な刃部を作出したもの。41は剥片の形状を生かして側縁に刃部を作出したもの。錯交剥離で刃部が作出されている。42は黒曜石の棒状原石を利用したもの。30・38は安山岩、39は泥岩、その他はすべて黒曜石。

なお、『対雁2遺跡(1)』(北理調報147)の図V-10-13、図V-12-29・30、図V-13-33・34・35においてこの他に実測した遺物を図示している。

石斧 (図V-40-43/表V-3/図版V-22)

19点出土している。図示したものの以外は全て破片。石材は片岩9点、緑色泥岩5点、安山岩2点、砂岩2点、閃緑岩1点である。

43は楕形の磨製石斧。敲打による整形の後、ほぼ全面を研磨している。刃部は両刃の円刃で、錆が見られる。使用による欠損がある。石材は緑色泥岩。

たたき石 (図V-40-44~54/表V-3/図版V-22)

103点が出土した。礫の腹背部・端部・周縁部に単独もしくは複数部に敲打痕があるものをたたき石とした。礫の腹背部に敲打痕があるものについては、台石との区別を礫の形状や使用痕を考慮に入れ、重さを約500g以内のものをたたき石とし、それ以上のものを台石とした。しかし、たたき石としたものの中にも台石として使用された可能性はある。内訳は扁平な棒状礫の腹背部を利用したもの40点、棒状礫の端部を利用したもの2点、棒状礫の端部と腹背部を利用したもの3点、扁平な棒状礫の側縁部と腹背部を利用したもの10点、扁平礫の腹背部を利用したもの5点、扁平礫の腹背部と周縁部を利用したもの3点、円礫を利用したもの1点、破片39点である。石材は安山岩55点・砂岩30点・閃緑岩1点・片岩5点・凝灰岩1点・緑色泥岩5点・泥岩1点・玄武岩2点・花崗岩1点・珪岩2点である。

44~46は扁平な棒状礫の腹背部に敲打痕があるもの。47は棒状礫の端部と腹背部に敲打痕があるもの。48~50は扁平な棒状礫の側縁部と腹背部に敲打痕のあるもの。50は整形と見られる敲打痕が側縁にあり、石斧の破損品を転用した可能性がある。51~53は扁平礫の腹背部と側縁に敲打痕があるもの。54は円礫に敲打痕のあるもの。44が片岩、46が砂岩、54は珪岩、その他は安山岩である。

台石

31点が出土している。扁平な礫の平坦面に敲打痕のあるもの7点、棒状礫の腹背部に敲打痕のあるもの9点、破片15点である。石材は安山岩24点、砂岩3点、珪岩1点、泥岩1点、花崗岩2点である。包含層からは図示しなかったが、図IV-13-2においてS-27出土の台石を図示している。

砥石 (図V-41-55~56/表V-3/図版V-22)

18点出土している。広い研磨面のあるもの2点、破片16点である。この中には細い溝状の研磨面のあるもの3点が含まれる。石材は砂岩12点、泥岩4点、軽石2点。

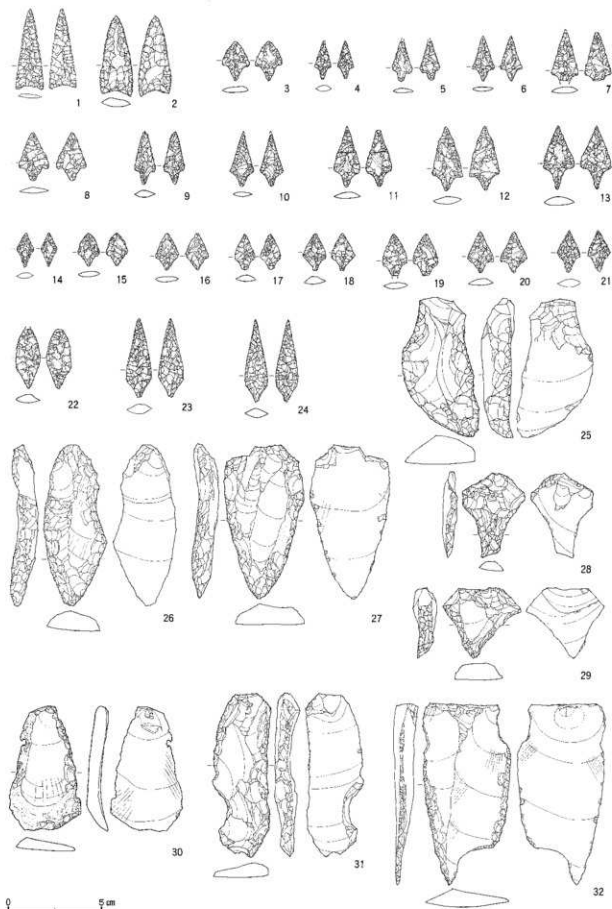
55は広い研磨面のあるもの。56はほぼ全面を研磨面として利用している。矢柄研磨痕と見られる細長い研磨面が裏面にある。一部に敲打痕もあり、たたき石もしくは台石として利用されていた可能性もある。55は泥岩、56は砂岩。

石錘 (図V-41-57/表V-3/図版V-22)

57は扁平な棒状礫の上部両側縁に敲打によって凹みを出している。腹背部に敲打痕あることから台石として使用された可能性がある。同面から検出された炭化物で放射性炭素年代測定を行った結果、補正年代で2190±40y.BPという測定値を得ている(Ⅵ章)。石材は砂岩である。

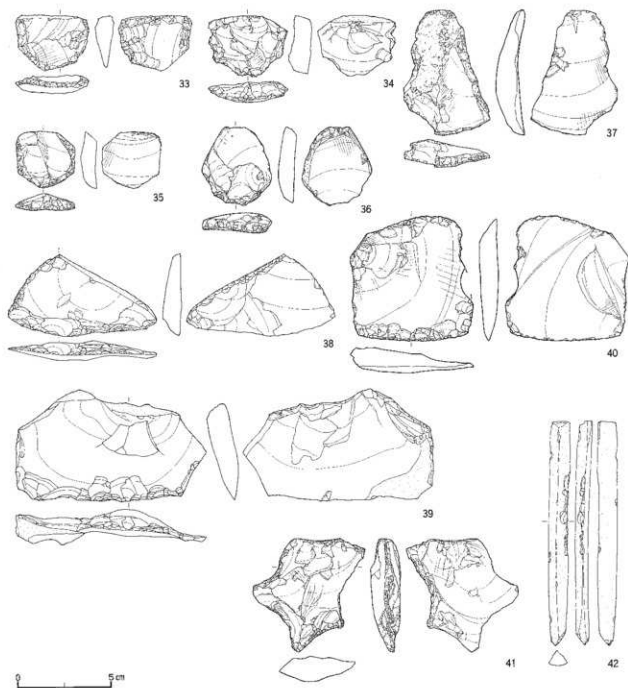
原石

黒曜石の棒状原石が1点出土している。



図V-38 石器 (1)

2 石器等



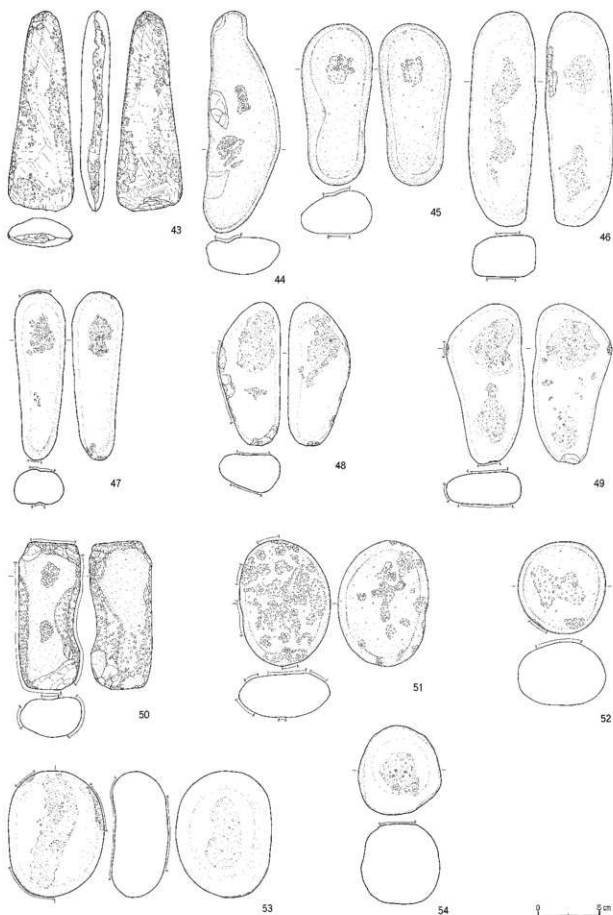
図V-39 石器 (2)

剥片

22,494点出土している。うち19,650点が黒曜石、2,844点が頁岩・玉髄等である。ほとんどが大きなものではなく微細なチップ類である。

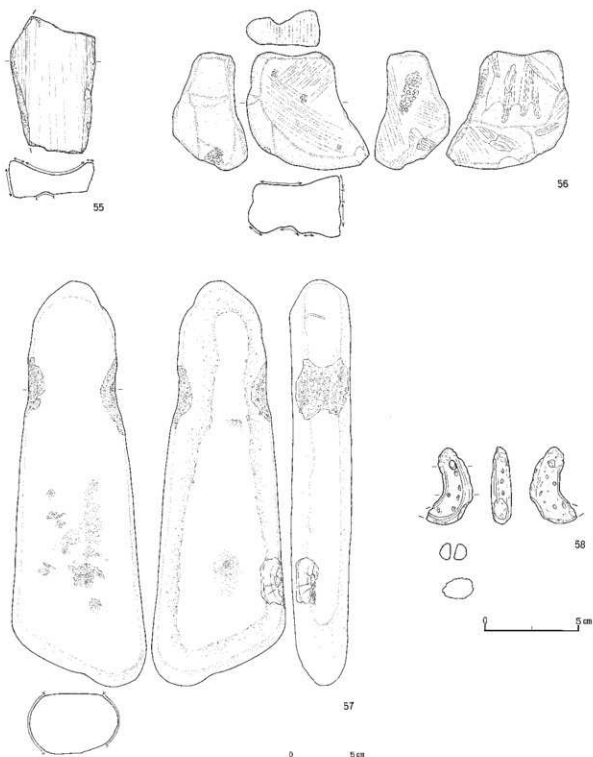
礫・礫片

1,509点出土している。安山岩・砂岩・珪岩・泥岩・軽石がほとんどを占める。これらの礫のうち、泥岩を除いては遺跡付近の状況から見て、遺跡の土層に由来するものではない。豊平川の中・下流域や石狩川の中流域のような他の地域からの搬入物と考えられる。



図V-40 石器 (3)

2 石器等



図V-41 石器(4)・土製品

(4) 土製品・石製品

土製の玉2点、焼成粘土塊193点が出土している。うち土製の玉1点は破片である。石製品は1点出土している。特に図示はしなかったが、楕円形の扁平な軽石である。砥石の可能性もある。

58は土製の勾玉。上部に貫通孔があり、沈線と刺突により施文されている。(酒井)

遺物総計 45,401点

	110	112	114	116	118	120	122	124	126	128	130	132									
71						2	1	1			5	1	7								
72									1			2	2								
73																					
	132	134	136	138	140	142	144	146	148	150	152	154									
71		3	3	4	1852	2	1	212	7	2	3	24	5043	27	61			13	32	91	356
72		4	79		3	3	2	2	1	6	2	53	23	10477	117	15	4	43	397	119	458
73																					
	69	70																			
71	11	3																			
72	16	1																			
73																					
	154	158	160	162	164	166	168	170	172	174											
71	316	570	1464	1756	3993	1343	43	233	302	4	11	3	1	36	1						
72	691	2948	4744	1343	1864	3616	140	27	279	18	7	28		1	1	6					
73																					

表採 1点 排土 14点 うち遺構分440点

土器・土製品総計 20,908点

	110	112	114	116	118	120	122	124	126	128	130	132								
71											1									
72																				
73																				
	132	134	136	138	140	142	144	146	148	150	152	154								
71			3	5				1	5	45	25	9	16	76	251					
72				1	3	2		1	1	46	14	120	82	3	35	169	98	440		
73																				
	69	70																		
71	7	2																		
72	12																			
73																				
	154	158	160	162	164	166	168	170	172	174										
71	296	518	1205	1177	2592	1229	34	214	282	3	11	3	1	36	1					
72	600	2904	2078	1081	1585	3137	114	21	259	7	4	28		1		2				
73																				

表採 1点 排土 11点 うち遺構分266点

石器等総計 24,492点

	110	112	114	116	118	120	122	124	126	128	130	132								
71						2	1	1			4	1	7							
72									1			2	2							
73																				
	132	134	136	138	140	142	144	146	148	150	152	154								
71		3	3	1	1847	2	1	212	7	2	2	19	4998	2	61		4	16	15	105
72		4	79		2		2	1	5	1	7	9	10357	35	15	1	8	228	21	18
73																				
	69	70																		
71	4	1																		
72	4	1																		
73																				
	154	158	160	162	164	166	168	170	172	174										
71	20	52	259	579	1401	114	9	19	20	1										
72	91	44	2666	262	279	479	26	6	20	11	3			1	4					
73																				

排土 2点 うち遺構分174点

図V-42 遺物分布図(1)

2 石器等

土器 20,713点

110	112	114	116	118	120	122	124	126	128	130	132						
71									1								
72																	
73																	
132	134	136	138	140	142	144	146	148	150	152	154						
71			3	5			1	5	45	25	9	16	76	251			
72			1	3	2		1	1	46	14	120	82	3	35	169	97	437
73																	

69	7	2
70	12	

154	158	160	162	164	166	168	170	172	174										
71	296	518	1204	1171	2567	1199	34	209	277	3	11	3	1	36	1				
72	598	2903	2049	1077	1555	3084	114	21	259	7	4	28	1				2		
73																			

表採 1点 排土 11点 うち遺構分255点

土製品 195点

110	112	114	116	118	120	122	124	126	128	130	132	
71												
72												
73												
132	134	136	138	140	142	144	146	148	150	152	154	
71												
72											1	3
73												
154	156	158	160	162	164	166	168	170	172	174		
71		1	6	25	30		5	5				
72	2	1	29	4	30	53						
73												

うち遺構分11点

図V-43 遺物分布図(2)

石 鐵 108 点

110	112	114	116	118	120	122	124	126	128	130	132
71											
72											
73											
132	134	136	138	140	142	144	146	148	150	152	154
71			2		1				1		1
72								1			1
73											
154	156	158	160	162	164	166	168	170	172	174	
71	2	11	8	14	6						
72	5	1	11	9	13	18	1	1	1		
73											

石槍・ナイフ類 7 点

110	112	114	116	118	120	122	124	126	128	130	132
71											
72											
73											
132	134	136	138	140	142	144	146	148	150	152	154
71				1			1				
72							2				
73											
154	156	158	160	162	164	166	168	170	172	174	
71			2								
72	1										
73											

スクレイパー 135 点

110	112	114	116	118	120	122	124	126	128	130	132	
71												
72												
73												
132	134	136	138	140	142	144	146	148	150	152	154	
71							1			2	2	3
72							1	2		5	1	
73												
69												
70			1									
154	156	158	160	162	164	166	168	170	172	174		
71	5	4	14	3	16	9		1				
72	7	1	18	17	12	9		1				
73												

図V-44 遺物分布図(3)

2 石器等

たたき石 103点

110	112	114	116	118	120	122	124	126	128	130	132
71											1
72											
73											
132	134	136	138	140	142	144	146	148	150	152	154
71						1	1				5
72										1	1
73									1	1	1
154	156	158	160	162	164	166	168	170	172	174	
71	3	3	2	5	12	8	2	2	1		
72											
73	3	10	9	6	5	15	2	1	1	1	

うち遺構分14点

台石 29点

110	112	114	116	118	120	122	124	126	128	130	132
71											
72											
73											
132	134	136	138	140	142	144	146	148	150	152	154
71											
72											
73											
154	156	158	160	162	164	166	168	170	172	174	
71				5	1		1	1			
72											
73	2	5	3	9	2						

うち遺構分7点

砥石 18点

110	112	114	116	118	120	122	124	126	128	130	132
71						1					
72											
73											
132	134	136	138	140	142	144	146	148	150	152	154
71											
72											
73								1			
154	156	158	160	162	164	166	168	170	172	174	
71				3	1		1				
72											
73		1	5	1	3	1					

図V-45 遺物分布図(4)

剥片(黒曜石) 19,650点

110	112	114	116	118	120	122	124	126	128	130	132				
71										1	1				
72								1							
73															
132	134	136	138	140	142	144	146	148	150	152	154				
71			600		210		7	4484	1	2	15	6	63		
72				2			4	8920	12	6	1	2	222	9	4
73															

69															
70															
154		1	158	160	162	164	166	168	170	172	174				
71	7	11	170	495	1155	42	3	3	5						
72	53	8	2553	162	154	235	5		9	1	1				
73															

排土 2点 うち遺構分20点

剥片(その他) 2,844点

110	112	114	116	118	120	122	124	126	128	130	132		
71											1		
72													
73													
132	134	136	138	140	142	144	146	148	150	152	154		
71			1243				2	71					
72			1				1	1361	6		1		
73													
154	156	158	160	162	164	166	168	170	172	174			
71	2	5	12	6	29	6							
72		3	10	39	44	1							
73													

うち遺構分6点

礫・礫片・軽石 1509点

110	112	114	116	118	120	122	124	126	128	130	132								
71					2		1			4		4							
72																			
73											2	2							
132	134	136	138	140	142	144	146	148	150	152	154								
71	3	3	1	2	1	1	1	7	2	1	8	439	1	61	1	1	5	15	
72	4	79		1			1	5	1	7	3	70	14	7		5	5	5	8
73																			

69	4																	
70																		
154	4		158	160	162	164	166	168	170	172	174							
71	2	22	37	58	155	38	4	12	9	1								
72	20	23	62	48	44	145	15	4	8	5	1						4	
73																		

排土 1点 うち遺構分126点

図V-46 遺物分布図(5)

表V-1 遺物集計(続き)

生活面別出土遺物集計

分期	土器等		石器等																遺物合計									
	土器	土製品	土器等合計	石鏃	ナイフ類	スクレイパー	石斧	たが石	石	台石	すり石	砥石	石	石	石	石	石	石		削片		原石	その他	紐・織片	石製品	石器等合計		
																				黒曜石	その他							
42																												
43																												
44																												
45	1		1																									1
46																												1
47																												1
48																												1
49																												1
50																						161				161	161	
51																						48				48	48	
52																												
53																												
54																												
55																												
56																						1				1	1	
57																												
58																												
59																												
60																												
61																												
62																												
63																												
64																												
65																												
66																												
67																												
68																												
69	2		2																									2
70	3		3																									3
71																												
72																												
73	25		25																									25
74	1		1																									1
75	62		62																									62
76	15		15																									15
77	20		20																									20
78	20		20																									20
79	26		26																									26
80	12		12																									12
81																												
82																												
83	109		109																									109
84																												
85	4		4																									4
86	1		1																									1
87																												
88																												
89	2		2																									2
90																												
91																												
92	2		2																									2
93																												
94																												
95																												
96																												
97																												
98																												
99	1		1																									1
100																												
101	1		1																									1
102																												
103	1		1																									1
104	1		1																									1
105	6		6																									6
106	27		27																									27
107	27		27																									27
108	5		5																									5
109																												
110																												
111	1		1																									1
112	2		2																									2
113	13		13																									13
114	1		1																									1
115	1		1																									1
116																												
117	77		77																									77
118	24		24																									24
119	1		1																									1
120	2		2																									2
121																												
122	3		3																									3
123	3		3																									3
124	230		230																									230
125																												
126	27		27																									27
127	2		2																									2
128	4		4																									4
129	130		130																									130
130	1		1																									1
131	13		13																									13
132	28		28																									28

付表

表V-2 掲載土器一覧

図番号	発掘区	取上げ層	遺物番号	生活層	遺構名	破片数	分類	図版番号					
BEV-1-1	69-159-b	Ⅱ-上	111	—	—	12	V群	図版V-1					
	69-159-c	Ⅱ-上	72	—	包含層	4							
	Ⅱ-中4	212	—	—	2								
		Ⅱ-中6	215	—	—	3							
		Ⅱ-下	220	—	—	1							
BEV-2-2	Ⅱ-3	256	—	—	4	V群	図版V-1						
		72-156-イ	②	019	366			包含層	71				
		71-157-イ	③	021	218			包含層	1				
		71-157-イ	④	019	254			包含層	16				
		71-157-ウ	⑤	016	254			包含層	19				
BEV-3-3	Ⅱ	013	—	—	7	V群	図版V-1						
		72-159-ア	⑥	037	256			包含層	1				
		⑦	024	252	—			72					
BEV-3-4	Ⅱ	060	—	—	3	V群	図版V-1						
		70-158-ウ	⑦	014	14-186			包含層	1				
		71-158-ア	⑧	619	246			包含層	3				
		71-158-ウ	⑨	012	235			包含層	1				
		⑩	013	236	—			1					
BEV-4-5	Ⅱ	024	—	—	16	V群	図版V-1						
		71-158-d	Ⅱ-中6	442	—			包含層	3				
		Ⅱ-中6	453	—	—			2					
		Ⅱ-中6	457	—	—			1					
		Ⅱ-中6	462	—	—			1					
		Ⅱ-中6	570	—	—			1					
		71-162-a	Ⅱ-1	1	—			—	71	V群	図版V-2		
				2	—			—	3				
				3	—			—	3				
				4	—			—	4				
				5	—			—	6				
6	—			—	15								
7	—			—	3								
8	—			—	4								
9	—			—	15								
10	—			—	4								
BEV-5-6	Ⅱ	11	—	—	13	V群	図版V-2						
		12	—	—	9								
		13	—	—	9								
		72-160-ア	⑪	005	236			包含層	11				
		72-155-ア	⑫	011	179			包含層	1				
		72-155-a	⑬	013	—			—	35	V群	図版V-2		
				007	—			—	12				
				010	—			—	1				
				71-156-イ	⑭			008	163			包含層	3
				71-156-ウ	⑮			003	不明			包含層	1
71-166-x	⑯			007	—	—	4	V群	図版V-1				
				016	—	—	1						
				002	—	—	144						
				004	—	—	147						
BEV-6-8	⑰			004	—	—	15	V群	図版V-1				
		013	—	—	167								
		015	—	—	161								
		017	—	—	163								
		021	—	—	183								
		024	—	—	183								
		031	—	—	182								
		034	—	—	182								
BEV-7-10	⑱	004	—	—	8	V群	図版V-2						
		004	—	—	167								
		009	—	—	包含層			2					
BEV-7-11	⑲	011	—	—	229	V群	図版V-2						
		016	—	—	233								
		008	—	—	230								
BEV-8-12	⑳	004	—	—	4	V群	図版V-3						
		007	—	—	144								
		006	—	—	147								
		007	—	—	147								
		008	—	—	161								
BEV-9-13	㉑	001	—	—	5	V群	図版V-3						
		002	—	—	143								
		002	—	—	149								
		003	—	—	151								
		004	—	—	159								
BEV-9-13	㉒	006	—	—	29	V群	図版V-3						
		007	—	—	159								
		006	—	—	161								
		001	—	—	143								
		002	—	—	144								
BEV-9-13	㉓	005	—	—	2	V群	図版V-3						
		004	—	—	147								
		004	—	—	154								
		004	—	—	157								
		007	—	—	154								

表V-2 掲載土器一覧(続き)

図番号	発掘区	取り上げ層	遺物番号	生産層	遺物名	破片数	分類	図記番号				
	70-150 c	(B-2-中) ㉑	001	14-125	包合層	15	V群	図版V-3				
			002	14-135	"	8						
		(B-2-中) ㉒	003	14-137	包合層	2						
			005	14-137	"	7						
		70-154 b	(B-2-中) ㉓	003	14-137	包合層			5			
				005	14-137	"			4			
		70-154 c	(B-2-中) ㉔	002	14-151	包合層			1			
				004	14-165	"			1			
		8V-9-14	13, 14年度 不明	㉕	002	147			包合層	5	V群	図版V-3
					005	147			包合層	1		
72-154 z	㉖			001	147	包合層	2					
				003	153	"	1					
73-154 y	㉗			001	未命名	包合層	7					
				007	未命名	包合層	5					
74-154 x	㉘			008	未命名	"	2					
				001	未命名	包合層	1					
				㉙	002	未命名	"	6				
					006	159	包合層	6				
8V-10-15		㉚	007	147	包合層	6	V群	図版V-4				
			006	147	包合層	11						
			009	147	"	2						
			006	151	包合層	8						
8V-10-16		㉛	008	151	"	4	V群	図版V-4				
			003	141	包合層	1						
			006	147	包合層	5						
			004	14-154	包合層	3						
		(B-2-下) ㉜	013		P-29 No7	1						
			012	14-152	包合層	2						
			023	14-153	"	2						
			001		包合層	11						
69-155 e	(B-1) 不明	㉝	002	14-123	"	5						
			005	14-125	"	2						
			003	147	包合層	1						
			004	151	"	9						
8V-11-17	71-152 ㉞	㉞	003	147	包合層	1	V群	図版V-4				
			004	151	"	9						
		71-153 a	B-2-中	325	-	包合層			1			
				415	-	"			1			
				419	-	"			1			
				421	-	"			1			
				B-3	424	-			"	1		
					424	-			"	1		
		71-153 ㉟	㉟	㉟	006	151			包合層	18		
					006	151			包合層	11		
005	151				包合層	19						
006	117				包合層	2						
007	117				"	3						
008	117				"	4						
72-151 z	㊱				㊱	004	118	包合層	1			
						005	118	"	13			
						003	137	包合層	4			
						004	115	"	12			
74-153 ㊲	㊲	㊲	001	未命名	包合層	4						
			003	124	包合層	36						
			009	117	包合層	36						
			013	211	包合層	1						
8V-12-20	72-151 ㊳	㊳	009	117	包合層	36						
			013	211	包合層	1						
8V-12-21	72-157 ㊴	㊴	001	143	包合層	8						
			002	144	"	2						
8V-13-22	71-156 ㊵	㊵	001	124	包合層	4						
			004	151	"	82						
			005	151	"	1						
			007	147	包合層	1						
8V-13-23	72-155 ㊶	㊶	004	154	包合層	4						
			005	124	"	178						
8V-14-24	72-159 ㊷	㊷	005	210	包合層	95						
			001	106	包合層	10						
8V-14-25	71-151 ㊸	㊸	001	106	包合層	5						
			008	277	包合層	2						
8V-15-26	72-157 ㊹	㊹	047	277	包合層	11						
			018	254	包合層	4						
8V-15-27	71-157 ㊺	㊺	019	254	"	5						
			016	254	包合層	6						
8V-15-28	71-158 ㊻	㊻	008	250	包合層	3						
			009	252	"	2						
			016	255	包合層	4						
			006	227	包合層	1						
8V-15-29	71-157 ㊼	㊼	007	227	"	11						
			006	163	包合層	10						
8V-16-30	72-156 ㊽	㊽	006	161	包合層	5						
			012	161	"	7						
			018	163	"	2						
			018	163	"	2						

表V-2 掲載土器一覧(続き)

図番号	発掘区	取上げ層	遺物番号	品名	遺物名	破片数	分類	図番号
85V-16-31	72-154-ア	㉑	003	147	包衣類	13	V群	85版V-6
		㉒	004	147	"	1		
		㉓	002	147	包衣類	2		
		㉔	001	147	包衣類	1		
85V-17-32	71-153-イ	㉕	006	151	包衣類	3	V群	85版V-6
		㉖	006	151	包衣類	12		
		㉗	007	151	"	1		
		㉘	008	151	"	1		
85V-17-33	72-154-ア	㉙	005	151	包衣類	62	V群	85版V-6
		㉚	006	151	"	8		
		㉛	003	147	包衣類	20		
		㉜	004	147	"	1		
85V-18-34	72-153-ウ	㉝	004	141	包衣類	56	V群	85版V-7
		㉞	004	141	包衣類	4		
85V-18-35	72-157-イ	㉟	094	147	包衣類	1	V群	85版V-7
		㊱	013	233	"	1		
		㊲	020	211	"	1		
		㊳	033	223	"	1		
85V-18-36	71-156-ウ	㊴	008	210	包衣類	6	V群	85版V-7
		㊵	009	227	"	1		
		㊶	006	229	包衣類	1		
		㊷	045	不明	包衣類	1		
		㊸	047	233	"	4		
		㊹	049	235	"	4		
85V-19-37	71-159-イ	㊺	001	227	包衣類	21	V群	85版V-7
		㊻	001	154	包衣類	74		
		㊼	004	220	包衣類	1		
		㊽	007	227	"	7		
85V-20-39	72-159-イ	㊾	011	227	"	1	V群	85版V-7
		㊿	012	227	"	11		
		㋀	045	不明	包衣類	7		
		㋁	049	235	"	12		
85V-20-40	72-155-ウ	㋂	052	235	"	1	V群	85版V-7
		㋃	052	235	"	4		
		㋄	056	236	"	1		
		㋅	066	233	包衣類	10		
85V-21-41	72-155-ウ	㋆	008	189	包衣類	1	V群	85版V-8
		㋇	007	182	包衣類	2		
		㋈	011	183	"	14		
		㋉	011	183	"	14		
85V-21-42	71-157-ア	㋊	545	276	包衣類	1	V群	85版V-8
		㋋	024	273	包衣類	5		
		㋌	B-2-465	456	包衣類	2		
		㋍	B-2-463	454	"	2		
		㋎	"	"	包衣類	2		
		㋏	597	"	"	1		
85V-21-43	72-159-イ	㋐	079	252	包衣類	2	V群	85版V-8
		㋑	007	不明	包衣類	1		
		㋒	034	不明	"	3		
		㋓	043	不明	"	1		
		㋔	045	不明	"	3		
		㋕	053	不明	"	1		
		㋖	065	210	"	97		
		㋗	012	210	包衣類	16		
		㋘	022	210	"	298		
		㋙	023	233	"	1		
		㋚	026	236	"	4		
85V-22-44	71-157-イ	㋛	031	237	"	3	V群	85版V-7
		㋜	025	276	包衣類	3		
		㋝	027	276	"	2		
		㋞	007	167	包衣類	7		
85V-22-45	72-153-イ	㋟	008	167	包衣類	1	V群	85版V-8
		㋠	007	167	包衣類	20		
85V-22-46	71-157-ウ	㋡	007	227	包衣類	26	V群	85版V-8
		㋢	007	167	包衣類	1		
85V-22-47	72-153-イ	㋣	006	167	包衣類	1	V群	85版V-9
		㋤	007	167	包衣類	8		
		㋥	007	167	包衣類	6		
		㋦	007	167	包衣類	6		
85V-22-48	72-155-ア	㋧	003	124	包衣類	47	V群	85版V-9
		㋨	001	73	包衣類	15		
85V-23-49	72-144-ウ	㋩	002	73	"	6	VIIa類	85版V-9
		㋪	004	73	"	9		
		㋫	001	466名	包衣類	14		
		㋬	477	不明	包衣類	3		
85V-23-50	71-146-ア	㋭	002	73	"	6	VIIa類	85版V-9
		㋮	001	92	包衣類	2		
85V-23-51	72-162-イ	㋯	001	307	包衣類	8	VIIa類	85版V-9
		㋰	002	307	"	78		
		㋱	004	308	"	1		
		㋲	005	231	"	1		
85V-23-53	71-147-ウ	㋳	002	83	包衣類	23	VIIa類	85版V-10
		㋴	003	307	包衣類	26		
85V-23-54	72-162-イ	㋵	003	307	包衣類	26	VIIa類	85版V-10

表V-2 掲載土器一覧(続き)

図番号	発掘区	取り上げ層	遺物番号	生産量	遺物名	破片数	分類	図番番号
図V-24-55	71-157-ア	⑩	544	276	包含層	1	V群	図版V-10
図V-24-56	72-157-ア	⑬	041	261	包含層	1	V群	図版V-10
図V-24-57	71-158-ウ	⑬	024	263	包含層	2	V群	図版V-10
図V-24-58	71-157-エ	⑩	541	269	包含層	2	V群	図版V-10
図V-24-59	71-155-イ	⑮	015	211	包含層	2	V群	図版V-10
図V-24-60	72-158-エ	⑬	032	269	包含層	3	V群	図版V-10
図V-24-61	72-159-イ	⑬	067	274	包含層	1	V群	図版V-10
	71-158-イ	⑬	026	269	包含層	2		
図V-24-62	71-159-イ	⑬	024	263	包含層	2	V群	図版V-10
		⑭	028	263	〃	6		
		⑮	029	269	〃	15		
図V-24-63	72-158-ウ	⑫	022	274	包含層	1	V群	図版V-10
図V-24-64	72-156-エ	④	015	163	包含層	1	V群	図版V-10
		⑤	017	165	〃	5		
	72-157-ア	⑦	010	223	包含層	1		
		⑧	016	235	包含層	1		
図V-24-65	72-159-ア	⑤	017	230	〃	2	V群	図版V-10
		⑦	021	235	〃	3		
		⑧	023	236	〃	1		
図V-24-66	71-159-ア	⑧	618	261	包含層	1	V群	図版V-10
		⑨	623	275	〃	1		
図V-24-67	71-159-ウ	⑫	023	262	包含層	6	V群	図版V-11
図V-24-68	71-156-ウ	⑩	018	252	包含層	2	V群	図版V-11
図V-24-69	71-158-ウ	⑬	020	261	包含層	2	V群	図版V-11
図V-24-70a	72-158-ウ	⑫	016	253	包含層	4	V群	図版V-11
図V-24-70b	71-159-ウ	⑫	006	227	包含層	1		
図V-25-71	72-159-イ	⑬	067	274	包含層	7	V群	図版V-11
	72-159-ア	⑭	029	252	包含層	1		
	72-159-イ	⑬	067	274	包含層	1		
図V-25-72	72-159-ウ	覆土1層	072	-	P-187	1	V群	図版V-11
		⑥	078	269	包含層	3		
		⑦	081	269	〃	1		
		⑧	089	274	〃	1		
図V-25-73	72-159-イ	⑬	049	235	包含層	3	V群	図版V-11
		⑭	052	235	〃	5		
図V-25-74	72-156-ア	⑩	017	200	包含層	1	V群	図版V-11
図V-25-75	72-157-ウ	⑫	003	144	包含層	3	V群	図版V-11
図V-25-76	71-159-エ	①	604	295	包含層	5	V群	図版V-11
図V-25-77	71-157-イ	⑨	023	269	包含層	10	V群	図版V-11
図V-25-78	72-159-イ	⑬	085	263	包含層	9	V群	図版V-11
図V-25-79	71-159-イ	⑫	001	227	包含層	5	V群	図版V-11
図V-26-80	71-156-イ	⑨	021	218	包含層	7	V群	図版V-12
	72-159-イ	⑬	023	214	包含層	1		
図V-26-81	71-158-イ	⑮	608	250	包含層	1	V群	図版V-12
図V-26-82	71-156-イ	⑮	021	218	包含層	1	V群	図版V-12
図V-26-83	72-159-エ	⑮	025	235	包含層	2	V群	図版V-12
図V-26-84	72-159-ア	⑭	039	252	包含層	2	V群	図版V-12
		⑮	040	252	〃	1		
図V-26-85	72-158-ア	④	005	229	包含層	1	V群	図版V-12
図V-26-86	72-159-イ	⑥	062	252	包含層	2	V群	図版V-12
図V-26-87	71-159-イ	⑬	004	235	包含層	1	V群	図版V-12
		⑭	007	236	〃	4		
	71-159-ウ	⑫	003	227	包含層	4		
図V-26-88	72-158-ウ	⑧	018	252	包含層	13	V群	図版V-12
図V-26-89	71-156-イ	⑮	006	159	包含層	3	V群	図版V-12
図V-26-90	72-159-イ	⑥	062	252	包含層	2	V群	図版V-12
図V-26-91	71-158-ア	①	602	210	包含層	1	V群	図版V-12
図V-26-92	72-158-ウ	⑤	015	232	包含層	2	V群	図版V-12
図V-26-93	72-163-ウ	④	006	145	包含層	1	V群	図版V-12
図V-26-94	72-157-エ	③	002	149	包含層	1	V群	図版V-12
図V-26-95	71-159-イ	⑫	011	227	包含層	18	V群	図版V-12
図V-27-96	72-157-ウ	⑥	012	227	〃	7	V群	図版V-13
		⑥	015	227	〃	14		
図V-27-97	72-162-ウ	②	002	226	包含層	7	V群	図版V-13
図V-27-98	71-156-ウ	④	017	225	包含層	1	V群	図版V-13
	71-157-エ	⑦	542	277	包含層	1		
図V-27-99	71-158-イ	⑫	025	269	包含層	5	V群	図版V-13
	72-158-ア	⑩	012	269	包含層	4		
図V-27-100	71-159-ア	④	605	256	包含層	19		
		⑥	606	256	〃	3	V群	図版V-13
		⑮	608	250	〃	1		
	72-158-ウ	④	011	229	包含層	4	V群	図版V-13
	72-159-イ	③	047	233	包含層	3		
図V-28-102a	71-159-ア	⑨	619	263	包含層	1	V群	図版V-14
	71-157-ウ	⑬	027	269	包含層	1		
図V-28-102b	71-158-ア	⑨	619	263	包含層	1		
	71-158-ウ	⑬	024	263	包含層	1		
図V-28-103	72-158-ウ	⑫	022	274	包含層	4	V群	図版V-14
図V-28-104	72-156-ウ	⑫	007	147	包含層	1	V群	図版V-14
		⑬	018	163	〃	1		

表V-2 掲載土器一覧(続き)

図番号	発掘区	取上げ位置	遺物番号	生産量	産地名	破片数	分類	図番番号
図V-28-105	72-157-㉔	㉔	007	204	包気類	2	V群	図版V-14
図V-28-106	72-155-ア	㉔	017	205	包気類	1	V群	図版V-14
図V-28-107	72-156-ア	㉔	006	159	包気類	1	V群	図版V-14
図V-28-108	72-156-イ	㉔	006	163	包気類	3	V群	図版V-14
	72-156-エ	㉔	028	252	包気類	1		
	72-159-ア	覆土1層	067	-	P-196	2		
図V-28-109	72-159-イ	㉔	085	263	包気類	1	V群	図版V-14
	72-不明	不明	不明	不明	包気類	1		
図V-28-110	72-156-㉔	㉔	013	161	包気類	2	V群	図版V-14
図V-28-111	72-153-㉔	㉔	007	167	包気類	1	V群	図版V-14
図V-28-112	72-158-ア	㉔	005	229	包気類	1	V群	図版V-14
図V-28-113	72-156-㉔	㉔	012	161	包気類	4	V群	図版V-14
	72-159-ア	㉔	010	233	包気類	1		
図V-28-114	72-159-イ	掘乱	045	不明	包気類	1	V群	図版V-14
	72-159-イ	㉔	057	249	⊕	1		
	72-159-㉔	掘乱	026	不明	包気類	1		
	72-156-㉔	㉔	006	161	包気類	2		
		㉔	041	147	⊕	1		
図V-29-115		㉔	042	161	⊕	1	V群	図版V-14
		㉔	017	163	⊕	1		
図V-29-116	72-156-㉔	㉔	007	147	包気類	1	V群	図版V-14
図V-29-117	72-155-㉔	㉔	003	151	包気類	3	V群	図版V-14
図V-29-118	71-154-㉔	㉔	005	131	包気類	3	V群	図版V-14
	72-156-エ	㉔	014	161	包気類	1		
図V-29-119a		㉔	015	163	⊕	1		
		㉔	016	163	⊕	1		
	72-156-㉔	㉔	015	163	包気類	1	V群	図版V-14
図V-29-119b	72-156-エ	㉔	015	163	包気類	1		
		㉔	016	163	⊕	2		
図V-29-120	71-156-イ	㉔	004	151	包気類	15	V群	図版V-15
	72-156-ア	㉔	006	159	包気類	1		
図V-29-121	72-156-ア	㉔	011	163	包気類	1	V群	図版V-14
図V-29-122	72-154-イ	㉔	005	147	包気類	19	V群	図版V-15
図V-29-123a	72-159-イ	㉔	049	255	包気類	1	V群	図版V-15
図V-29-123b	72-159-イ	㉔	052	255	包気類	1		
図V-29-124	71-157-㉔	㉔	011	217	包気類	1	V群	図版V-15
図V-29-125	72-156-ア	㉔	021	218	包気類	1	V群	図版V-15
図V-29-126a	72-152-㉔	㉔	001	133	包気類	1		
		㉔	002	133	⊕	2	V群	図版V-15
図V-29-126b	72-162-㉔	㉔	003	137	包気類	2		
図V-30-127a	72-156-エ	㉔	006	147	包気類	1		
図V-30-127b	72-157-イ	㉔	001	143	包気類	1	V群	図版V-15
	72-157-㉔	㉔	002	144	包気類	5		
	72-156-㉔	㉔	006	159	包気類	2	V群	図版V-15
図V-30-128	72-156-エ	㉔	006	147	包気類	1		
図V-30-129	71-158-イ	㉔	018	255	包気類	1	V群	図版V-15
図V-30-130	71-158-㉔	㉔	015	250	包気類	1	V群	図版V-16
	72-168-㉔	㉔	017	252	包気類	1		
図V-30-131	72-158-㉔	㉔	022	274	包気類	2	V群	図版V-15
図V-30-132	71-155-㉔	㉔	002	149	包気類	1	V群	図版V-15
	72-154-ア	㉔	002	147	包気類	3		
図V-30-133	72-154-イ	㉔	007	147	包気類	2	V群	図版V-16
	72-154-㉔	㉔	002	147	包気類	2		
図V-30-134	72-157-イ	㉔	001	143	包気類	2	V群	図版V-15
図V-30-135	72-154-イ	㉔	005	147	包気類	7	V群	図版V-15
図V-30-136	72-156-イ	㉔	006	163	包気類	1	V群	図版V-16
図V-30-137	72-151-ア	㉔	005	119	包気類	1	V群	図版V-16
	72-151-イ	㉔	003	118	包気類	2		
	72-157-イ	㉔	001	143	包気類	5		
図V-30-138	72-157-㉔	㉔	002	144	包気類	2	V群	図版V-16
		㉔	003	144	⊕	1		
図V-30-139	71-151-イ	㉔	001	106	包気類	5	V群	図版V-16
図V-31-140	71-159-イ	㉔	001	227	包気類	14	V群	図版V-16
図V-31-141	71-156-イ	㉔	018	200	包気類	1	V群	図版V-16
図V-31-142	72-159-ア	㉔	016	235	包気類	1	V群	図版V-16
図V-31-143	72-156-ア	㉔	022	243	包気類	1	V群	図版V-16
図V-31-144	72-151-㉔	㉔	009	117	包気類	1	V群	図版V-16
図V-31-145	71-155-㉔	㉔	004	151	包気類	9	V群	図版V-16
	72-154-㉔	㉔	002	147	包気類	1		
図V-31-146	72-154-㉔	㉔	001	147	包気類	3	V群	図版V-17
	71-158-ア	㉔	818	261	包気類	4		
図V-31-147	71-158-㉔	㉔	024	263	包気類	1	V群	図版V-17
図V-31-148	72-159-イ	㉔	085	263	包気類	4	V群	図版V-17
図V-31-149	72-156-ア	㉔	004	142	包気類	3	V群	図版V-17
図V-31-150	72-168-エ	㉔	009	229	包気類	1	V群	図版V-17
図V-31-151	72-156-イ	㉔	004	161	包気類	2	V群	図版V-17
図V-31-152	71-155-㉔	㉔	002	149	包気類	2	V群	図版V-17
図V-31-153	71-159-㉔	㉔	006	227	包気類	1	V群	図版V-17
図V-31-154	71-158-㉔	㉔	014	252	包気類	1	V群	図版V-17
図V-31-155	72-159-ア	㉔	021	255	包気類	2	V群	図版V-17

表V-2 掲載土器一覧(続き)

図番号	発掘区	取り上げ層	遺物番号	生活層	遺物名	破片数	分類	図番番号
図V-32-156	72-158-㉔	㉔	008	227	包含層	7	V群	図版V-17
図V-32-157	72-159-㉔	㉔	025	235	包含層	3	V群	図版V-17
図V-32-158	72-159-㉔	㉔	074	274	包含層	1	V群	図版V-17
		㉔	076	274	—	—	—	—
図V-32-159	72-160-㉔	㉔	014	161	包含層	5	V群	図版V-17
図V-32-160	72-158-㉔	㉔	011	229	包含層	5	V群	図版V-17
図V-32-161	72-156-㉔	㉔	003	147	包含層	9	V群	図版V-17
図V-32-162	72-153-㉔	㉔	007	167	包含層	6	V群	図版V-17
図V-33-163	71-157-㉔	㉔	002	184	包含層	9	V群	図版V-18
図V-33-164	72-156-㉔	㉔	006	159	包含層	1	V群	図版V-18
	72-157-㉔	㉔	005	211	包含層	6	V群	図版V-18
図V-33-165	71-159-㉔	㉔	004	235	包含層	2	V群	図版V-18
	72-157-㉔	㉔	004	211	包含層	2	—	—
		㉔	005	220	—	—	V群	図版V-18
		㉔	007	224	—	—	—	—
図V-33-167	72-156-㉔	㉔	006	163	包含層	3	V群	図版V-18
図V-33-168	71-159-㉔	㉔	003	227	包含層	10	V群	図版V-18
図V-33-169	72-157-㉔	㉔	003	144	包含層	12	V群	図版V-18
図V-34-170	71-155-㉔	㉔	008	179	包含層	7	V群	図版V-18
図V-34-171	71-159-㉔	㉔	001	227	包含層	14	V群	図版V-19
	71-158-㉔	表層	002	不明	包含層	4	—	—
図V-34-172		㉔	003	207	—	2	V群	図版V-19
	71-158-㉔	表層	001	不明	包含層	2	—	—
	71-159-㉔	㉔	025	261	包含層	1	—	—
	71-157-㉔	㉔	037	259	包含層	1	V群	図版V-19
		㉔	038	259	—	1	—	—
	71-157-㉔	㉔	032	255	包含層	1	—	—
図V-34-174	72-157-㉔	㉔	001	143	包含層	1	V群	図版V-19
		㉔	002	144	—	3	—	—
図V-35-175	71-188-㉔	㉔	017	255	包含層	6	V群	図版V-19
	72-156-㉔	㉔	006	147	包含層	4	—	—
		㉔	007	147	—	1	—	—
		㉔	011	147	—	2	—	—
		㉔	012	161	—	1	V群	図版V-20
		㉔	017	163	—	5	—	—
		㉔	018	163	—	2	—	—
		㉔	019	163	—	1	—	—
図V-35-177	72-157-㉔	㉔	001	143	包含層	1	—	—
		㉔	002	144	—	1	V群	図版V-19
		㉔	003	147	—	1	—	—
	71-156-㉔	㉔	012	184	包含層	1	—	—
図V-35-178	71-156-㉔	㉔	019	228	包含層	1	V群	図版V-19
	71-159-㉔	㉔	007	263	包含層	2	—	—
	72-156-㉔	㉔	019	214	包含層	1	—	—
図V-35-179	72-156-㉔	㉔	006	161	包含層	7	V群	図版V-20
図V-35-180	71-188-㉔	㉔	003	207	包含層	17	V群	図版V-19
	71-158-㉔	㉔	025	269	包含層	2	—	—
図V-36-181	71-158-㉔	㉔	024	263	包含層	1	V群	図版V-20
	72-158-㉔	㉔	012	269	包含層	2	—	—
図V-36-182	72-156-㉔	㉔	007	147	包含層	3	V群	図版V-20
図V-36-183	72-156-㉔	㉔	010	161	包含層	1	V群	図版V-20
図V-36-184	71-159-㉔	㉔	013	236	包含層	1	V群	図版V-20
		㉔	014	250	—	1	—	—
図V-36-185	72-151-㉔	㉔	002	117	包含層	1	V群	図版V-20
図V-36-186	71-159-㉔	㉔	001	227	包含層	3	V群	図版V-20
図V-36-187	72-159-㉔	遺土	034	—	P-303 Soil	1	V群	図版V-20
図V-36-188	71-159-㉔	遺土	001	227	包含層	9	V群	図版V-20
図V-37-189	71-158-㉔	㉔	004	227	包含層	1	V群	図版V-20
	72-156-㉔	㉔	016	163	包含層	1	V群	図版V-20
	72-157-㉔	㉔	007	220	包含層	2	—	—
図V-37-191	72-156-㉔	㉔	004	142	包含層	1	V群	図版V-20
図V-37-192	72-159-㉔	遺土	028	不明	包含層	1	V群	図版V-20
	72-159-㉔	遺土	079	252	包含層	1	V群	図版V-20
		遺土	080	—	P-303 Soil	1	V群	図版V-20
図V-37-194a	72-156-㉔	㉔	014	161	包含層	1	—	—
図V-37-194b	72-156-㉔	㉔	015	163	包含層	1	V群	図版V-20
図V-37-195	72-154-㉔	㉔	009	153	包含層	1	V群	図版V-20
	72-154-㉔	㉔	004	153	包含層	1	V群	図版V-20
		㉔	005	159	—	1	—	—
図V-37-197	72-156-㉔	㉔	015	163	包含層	1	V群	図版V-20
図V-37-198	71-157	不明	001	不明	包含層	1	V群	図版V-20
	72-157-㉔	㉔	001	23	包含層	1	—	—
図V-37-199	72-159-㉔	㉔	001	29	包含層	1	VI群a類	図版V-20
図V-37-200	71-146-㉔	風樹木	475	不明	包含層	1	VI群a類	図版V-20
図V-37-201	71-146-㉔	㉔	001	77	包含層	2	VI群a類	図版V-20

表V-3 掲載石器一覧

図番号	名 称	発掘区	通物番号取上面	H17 生活面	長さ (cm)	幅・径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石 材	図版番号	備 考
図V-38-1	石鏃 (黒基)	71-150-イ	001	①	101	4.2	1.4	0.2	1.2	頁岩	図版V-21
図V-38-2	石鏃 (黒基)	72-146-エ	018	⑤	83	4.2	1.7	0.4	2.6	黒曜石	図版V-21
図V-38-3	石鏃 (有基)	72-157-イ	040	⑤	222	2.1	1.4	0.3	0.6	黒曜石	図版V-21
図V-38-4	石鏃 (有基)	72-154-イ	005	⑥	147	2.0	0.8	0.3	0.4	黒曜石	図版V-21
図V-38-5	石鏃 (有基)	72-156-エ	014	⑥	161	(2.0)	1.0	0.2	(0.4)	黒曜石	図版V-21
図V-38-6	石鏃 (有基)	72-157-ア	029	⑥	221	2.4	1.2	0.3	0.5	黒曜石	図版V-21
図V-38-7	石鏃 (有基)	71-155-イ	010	④	193	2.5	1.4	0.3	1.0	黒曜石	図版V-21
図V-38-8	石鏃 (有基)	72-156-エ	049	⑦	183	2.6	1.6	0.3	0.9	黒曜石	図版V-21
図V-38-9	石鏃 (有基)	72-154-ア	008	⑤	147	2.7	1.0	0.3	0.7	黒曜石	図版V-21
図V-38-10	石鏃 (有基)	72-156-エ	009	⑦	172	(2.8)	1.2	0.2	(0.6)	黒曜石	図版V-21
図V-38-11	石鏃 (有基)	72-161-ア	001	⑤	206	3.0	1.4	0.3	1.0	黒曜石	図版V-21
図V-38-12	石鏃 (有基)	72-159-ア	053	⑦	235	3.4	1.6	0.5	1.9	黒曜石	図版V-21
図V-38-13	石鏃 (有基)	72-158-ウ	036	⑤	232	3.4	1.6	0.5	1.7	黒曜石	図版V-21
図V-38-14	石鏃 (有基)	72-153-ア	003	⑥	151	1.8	0.8	0.3	0.3	黒曜石	図版V-21
図V-38-15	石鏃 (有基)	72-158-ウ	035	⑥	274	1.8	1.2	0.3	0.5	黒曜石	図版V-21
図V-38-16	石鏃 (有基)	72-159-イ	070	⑧	274	1.9	1.3	0.3	0.5	黒曜石	図版V-21
図V-38-17	石鏃 (有基)	71-157-イ	012	⑧	229	1.9	1.1	0.4	0.6	黒曜石	図版V-21
図V-38-18	石鏃 (有基)	72-159-イ	044	④	274	2.0	1.2	0.4	0.7	黒曜石	図版V-21
図V-38-19	石鏃 (有基)	72-158-ア	013	⑥	263	2.2	1.3	0.4	0.8	黒曜石	図版V-21
図V-38-20	石鏃 (有基)	72-159-イ	065	⑥	252	2.2	1.4	0.4	0.8	黒曜石	図版V-21
図V-38-21	石鏃 (有基)	71-153-ウ	014	⑤	167	2.2	1.2	0.3	0.6	黒曜石	図版V-21
図V-38-22	石鏃 (有基)	72-163-ア	001	①	209	(3.1)	1.3	0.5	(1.7)	黒曜石	図版V-21
図V-38-23	石鏃 (有基)	71-138-イ	005	③	41	4.1	1.3	0.4	1.5	頁岩	図版V-21
図V-38-24	石鏃 (有基)	71-138-イ	006	③	41	1.6	1.1	0.3	0.4	頁岩	図版V-21
図V-38-25	→未付ナフ	72-155-ア	001	①	124	7.6	3.6	1.5	42.7	頁岩	図版V-21
図V-38-26	スクレイパー	71-151-イ	001	①	106	8.5	3.3	1.1	27.2	黒曜石	図版V-21
図V-38-27	スクレイパー	71-151-イ	002	②	106	8.0	4.2	1.1	39.3	黒曜石	図版V-21
図V-38-28	スクレイパー	72-154-ア	005	③	147	4.3	3.2	0.7	8.0	黒曜石	図版V-21
図V-38-29	スクレイパー	72-156-ア	010	④	161	3.7	4.1	1.2	13.0	黒曜石	図版V-21
図V-38-30	スクレイパー	72-158-エ	038	⑥	252	6.6	3.8	1.2	17.5	安山岩	図版V-21
図V-38-31	スクレイパー	72-156-ウ	003	②	147	8.6	2.9	1.0	23.6	黒曜石	図版V-21
図V-38-32	スクレイパー	72-156-エ	003	②	147	9.6	4.7	1.0	39.1	黒曜石	図版V-21
図V-38-33	スクレイパー	72-146-エ	008	④	80	2.9	3.8	0.9	10.5	黒曜石	図版V-21
図V-38-34	スクレイパー	71-156-イ	009	⑤	159	3.3	4.2	1.2	15.7	黒曜石	図版V-21
図V-38-35	スクレイパー	72-158-エ	011	④	229	3.1	3.1	0.8	8.2	黒曜石	図版V-21
図V-38-36	スクレイパー	72-158-ア	014	⑥	269	4.1	3.7	1.0	16.2	黒曜石	図版V-21
図V-38-37	スクレイパー	72-146-イ	001	①	207	6.6	4.1	1.5	29.9	黒曜石	図版V-21
図V-38-38	スクレイパー	72-154-ア	009	③	147	4.2	7.8	0.9	30.3	安山岩	図版V-21
図V-38-39	スクレイパー	71-154-イ	002	①	129	5.8	10.0	1.4	74.4	頁岩	図版V-21
図V-38-40	スクレイパー	72-157-ウ	001	②	144	6.6	6.6	1.0	43.5	黒曜石	図版V-21
図V-38-41	スクレイパー	71-155-ウ	009	⑥	179	6.0	5.8	1.6	36.5	黒曜石	図版V-21
図V-38-42	スクレイパー	72-154-イ	002	④	147	11.8	1.1	0.8	11.0	黒曜石	図版V-21
図V-40-43	石斧	71-158-ウ	006	③	227	15.9	5.2	2.1	247.8	緑色泥岩	図版V-22
図V-40-44	たつき石	71-146-ア	182	-	-	15.9	5.6	3.0	344.9	頁岩	図版V-22
図V-40-45	たつき石	72-156-ア	014	⑤	163	12.7	5.4	3.4	395.7	安山岩	図版V-22
図V-40-46	たつき石	71-160-ウ	002	②	235	17.0	5.3	3.6	514.5	砂岩	図版V-22
図V-40-47	たつき石	71-158-ア	243	②	227	13.2	4.1	2.8	219.0	安山岩	図版V-22
図V-40-48	たつき石	72-157-ア	016	④	160	11.3	4.8	3.1	212.1	安山岩	図版V-22
図V-40-49	たつき石	72-159-イ	072	⑧	269	12.6	6.4	2.6	275.0	安山岩	図版V-22
図V-40-50	たつき石	72-151-ウ	002	⑤	117	11.6	4.8	3.3	358.6	緑色泥岩	図版V-22
図V-40-51	たつき石	71-154-イ	003	①	129	10.7	7.1	3.6	380.9	安山岩	図版V-22
図V-40-52	たつき石	72-156-エ	017	⑥	161	7.2	6.9	4.9	308.5	安山岩	図版V-22
図V-40-53	たつき石	72-161-エ	002	②	236	10.0	7.6	4.4	536.4	安山岩	図版V-22
図V-40-54	たつき石	71-158-ウ	007	③	227	7.0	6.7	6.4	408.6	頁岩	図版V-22
図V-41-55	砥石片	72-158-エ	017	④	229	10.5	6.8	2.9	190.0	頁岩	図版V-22
図V-41-56	砥石	72-146-ウ	010	④	86	8.8	8.5	5.8	416.9	砂岩	図版V-22
図V-41-57	石鏃	72-169-エ	001	①	47	31.0	10.5	4.8	2370.0	砂岩	図版V-22
図V-41-58	土製均玉	72-159-ア	030	⑦	235	4.0	1.6	1.0	6.4		図版V-22

VI 自然科学的分析

1 放射性炭素年代測定結果

平成17年度に当財団が株式会社加速器分析研究所に委託した、年代測定の成果として提出された「放射性炭素年代測定結果 報告書」(平成18年1月31日・2月28日付け)を掲載する。測定の対象となった試料TK 2-81~99の採取位置・標高・内容等については表VI-1のとおりである。

TK 2-81~96は、測定試料の少ない160線以东および150~158線間において測定を行い、遺跡形成の時期を東西方向で細かく把握することを目的として行った。また、TK 2-97~99ではP-179内において炭化したクルミを層別に測定し、遺構の形成年代を測った。

(酒井)

表VI-1 放射性炭素年代測定試料一覧

試料番号	試料種類	測定法	遺構名	採取グリッド・取上面	生活面	標高(m)	重量(乾:g)	備考(処理番号)
TK 2-81	炭化材片	AMS	F-1241	71-150-イ② 72-150-ア③	105	7.53	0.07	フローテーション2.0mmメッシュ(16-147)
TK 2-82	炭化クルミ	AMS	F-1267	72-151-ウ⑥/エ⑤	118	7.43	0.48	フローテーション残渣(16-181)
TK 2-83	炭化クルミ	AMS	F-1283	72-152-ウ③ 72-153-イ⑦	151	7.48	0.29	フローテーション残渣(16-230)
TK 2-84	炭化クルミ	AMS	F-1299	72-153-ア⑦/イ⑧/ウ⑥	167	7.11	0.13	フローテーション残渣(16-249)
TK 2-85	炭化材片	AMS	F-1380	70-155-ア②	206	5.65	0.14	フローテーション2.0mmメッシュ(17-167)
TK 2-86	炭化材片	AMS	F-1355	72-155-ウ⑧/エ⑧ 72-156-ア⑦/イ⑥	182	7.80	0.10	フローテーション2.0mmメッシュ(17-103)
TK 2-87	炭化クルミ	AMS	F-1369	71-155-ウ① 71-156-イ② 72-155-エ⑩ 72-156-ア③	188	7.51	0.08	フローテーション残渣(17-137)
TK 2-88	炭化クルミ	AMS		71-157-ア③	259	7.37	0.28	土器片(図V-34-173)に付着したクルミ
TK 2-89	炭化クルミ	AMS	F-1446	71-157-イ⑧/ウ② 72-157-ア⑧/エ⑨	266	7.00	0.23	フローテーション2.0mmメッシュ(17-266)
TK 2-90	炭化クルミ	AMS	F-1372	72-159-ウ③ 72-160-ア⑤/イ③/ウ④	263	7.73	0.15	フローテーション残渣(17-156)
TK 2-91	炭化材片	AMS	F-1372	72-159-ウ⑤ 72-160-ア⑤/イ③/ウ④	263	7.73	0.06	フローテーション2.0mmメッシュ(17-156)
TK 2-92	炭化材片	AMS		72-164-イ①/ウ②	235	8.02	0.07	フローテーション2.0mmメッシュ(17-23)
TK 2-93	炭化クルミ	AMS	F-1585	71-168-イ①/ウ①	302	6.95	0.15	フローテーション残渣(17-485)
TK 2-94	炭化材片	AMS		71-170-ウ① 72-169-ウ① 72-170-ア①/イ①/ウ①/エ①	47	8.02	0.35	石鏝と同面 フローテーション2.0mmメッシュ(17-480)
TK 2-95	炭化クルミ	AMS	F-1586	72-172-イ①	305	7.00	0.16	遺跡最東端の機土 フローテーション残渣(17-486)
TK 2-96	炭化材片	AMS		72-174-イ①	258	7.82	0.05	遺跡の最東端 水漏遺物
TK 2-97	炭化クルミ	AMS	P-179	72-160-ア/2~5層	—	7.36	0.44	フローテーション2.0mmメッシュ(17-159)
TK 2-98	炭化クルミ	AMS	P-179	72-160-ア/6~7層	—	7.30	0.53	フローテーション残渣(17-160)
TK 2-99	炭化クルミ	AMS	P-179	72-160-ア/8層	—	7.16	0.27	フローテーション2.0mmメッシュ(17-161)

年代測定結果報告書

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用しています。
- 2) BP年代値は、1950年からさかのぼること何年前かを表しています。
- 3) 付記した誤差は、次のように算出しています。
複数回(通常は4回)の測定値について χ^2 検定を行い、通常報告する誤差は測定値の統計誤差から求めた値を用い、測定値が1つの母集団とみなせない場合には標準誤差を用いています。
- 4) $\delta^{13}\text{C}$ の値は、通常は質量分析計を用いて測定しますが、AMS測定の場合に同時に測定される $\delta^{13}\text{C}$ の値を用いることもあります。
 $\delta^{13}\text{C}$ 補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載しておきます。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差(‰;パーミル)で表したものです。

$$\delta^{14}\text{C} = [^{14}\text{A}_s - ^{14}\text{A}_R] / ^{14}\text{A}_R \times 1000 \quad (1)$$

$$\delta^{13}\text{C} = [^{13}\text{A}_s - ^{13}\text{A}_{\text{PDB}}] / ^{13}\text{A}_{\text{PDB}} \times 1000 \quad (2)$$

ここで、 $^{14}\text{A}_s$: 試料炭素の ^{14}C 濃度 ($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$)_s または ($^{14}\text{C}/^{13}\text{C}$)_s

$^{14}\text{A}_R$: 標準現代炭素の ^{14}C 濃度 ($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$)_R または ($^{14}\text{C}/^{13}\text{C}$)_R

$\delta^{13}\text{C}$ は、質量分析計を用いて試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{A}_s = ^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)を測定し、PDB(白亜紀のペレムナイト(矢石)類の化石)の値を基準として、それからのずれを計算します。

但し、JAAでは加速器により測定中に同時に $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ も測定していますので、標準試料の測定値との比較から算出した $\delta^{13}\text{C}$ を用いることもあります。この場合には表中に(加速器)と注記します。

また、 $\Delta^{14}\text{C}$ は、試料炭素が $\delta^{13}\text{C} = -25.0(\text{‰})$ であるとしたときの ^{14}C 濃度 ($^{14}\text{A}_R$)に換算した上で計算した値です。(1)式の ^{14}C 濃度を、 $\delta^{13}\text{C}$ の測定値をもとに次式のように換算します。

$$^{14}\text{A}_s = ^{14}\text{A}_s \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000))^2 \quad (^{14}\text{A}_s \text{として } ^{14}\text{C}/^{12}\text{C} \text{ を使用するとき})$$

または

$$= ^{14}\text{A}_s \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000)) \quad (^{14}\text{A}_s \text{として } ^{14}\text{C}/^{13}\text{C} \text{ を使用するとき})$$

$$\Delta^{14}\text{C} = [(^{14}\text{A}_s - ^{14}\text{A}_R) / ^{14}\text{A}_R] \times 1000 \quad (\text{‰})$$

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については、海洋中の放射性炭素濃度が大気中の炭酸ガス中の濃度と異なるため、同位体補正のみを行なった年代値は実際の年代との差が大きくなります。多くの場合、同位体補正をしない $\delta^{14}\text{C}$ に相当するBP年代値が比較的良好でその貝と同一時代のものと考えられる木片や木炭などの年代値と一致します。

^{14}C 濃度の現代炭素に対する割合のもう一つの表記として、pMC(percent Modern Carbon)がよく使われており、 $\Delta^{14}\text{C}$ との関係は次のようになります。

$$\Delta^{14}\text{C} = (\text{pMC} / 100 - 1) \times 1000 \quad (\text{‰})$$

$$\text{pMC} = \Delta^{14}\text{C} / 10 + 100 \quad (\%)$$

国際的な取り決めにより、この $\Delta^{14}\text{C}$ あるいはpMCにより、放射性炭素年代(Conventional Radiocarbon Age; yrBP)が次のように計算されます。

$$T = -8033 \times \ln[(\Delta^{14}\text{C} / 1000) + 1]$$

$$= -8033 \times \ln(\text{pMC} / 100)$$

試料に伴う分析工程

【処理法】

1. メス、ピンセットを用いて適量を採取した。この際、付着していた土をできるだけ除去した。炭化物については、内部より採取した。
2. 1Nの塩酸を用いて、80℃で数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈した。
3. 0.001~1Nの水酸化ナトリウム水溶液を用いて数時間処理した。その後、超純水で中性になるまで希釈した。
4. 1Nの塩酸を用いて、80℃で数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈した。なお、酸・アルカリ処理後の希釈の際には遠心分離法を用いた。
5. 試料を80℃で乾燥させた。
6. 試料を1gの酸化銅と共に、外径9mm、長さ30cmの石英管に入れ、真空下で封じ切った。
7. 6を500℃30分、850℃2時間で加熱し、試料中の炭素を二酸化炭素にした。
8. 真空ライン中で冷媒を用いて、二酸化炭素を精製した。
9. 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイトにした。
10. 得られたグラファイトを、内径1mmのアルミニウム製の容器にハンドプレス機で詰め、ターゲットとした。

【測定】

測定機器は、134試料装填可能なイオン源が設置された、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。

AMS測定時には、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-II）とバッググラウンド試料の測定も行なう。また、測定では加速器により測定中同時に¹³C/¹²Cの測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}\text{C}$ を算出する。

【放射性炭素年代算出法】

1. 加速器を用いて微量炭素の同位体比分析を行う。
2. 定量は14C測定の標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-II）を用いている。
3. 放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma）に相当する年代である。
4. 暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4（Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、いずれの試料も北半球の大気圏における暦年較正曲線を用いる条件を与え計算を行っている。

IAA Code No.	試料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-51595 #1082-1	試料採取場所：F-1241 試料形態：木炭 試料名(番号)：TK2-81	Libby Age(yrBP)：2,430±40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -31.95±0.85 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -261.3±3.4 pMC(%) = 73.87±0.34
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -271.8±3.1 pMC(%) = 72.82±0.31 Age(yrBP)：2,550±40
IAAA-51596 #1082-2	試料採取場所：F-1267 試料形態：炭化物 試料名(番号)：TK2-82	Libby Age(yrBP)：2,530±40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -23.80±0.79 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -270.3±3.1 pMC(%) = 72.97±0.31
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -268.5±2.9 pMC(%) = 73.15±0.29 Age(yrBP)：2,510±30
IAAA-51597 #1082-3	試料採取場所：F-1283 試料形態：炭化物 試料名(番号)：TK2-83	Libby Age(yrBP)：2,420±30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -25.28±0.84 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -260.1±3.1 pMC(%) = 73.99±0.31
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -260.5±2.9 pMC(%) = 73.95±0.29 Age(yrBP)：2,420±30
IAAA-51598 #1082-4	試料採取場所：F-1299 試料形態：炭化物 試料名(番号)：TK2-84	Libby Age(yrBP)：2,480±30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -25.08±0.77 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -265.4±2.9 pMC(%) = 73.46±0.29
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -265.6±2.7 pMC(%) = 73.44±0.27 Age(yrBP)：2,480±30
IAAA-51599 #1082-5	試料採取場所：F-1380 試料形態：木炭 試料名(番号)：TK2-85	Libby Age(yrBP)：2,550±30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -24.32±0.87 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -272.2±3.1 pMC(%) = 72.78±0.31
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -271.2±2.8 pMC(%) = 72.88±0.28 Age(yrBP)：2,540±30

IAA

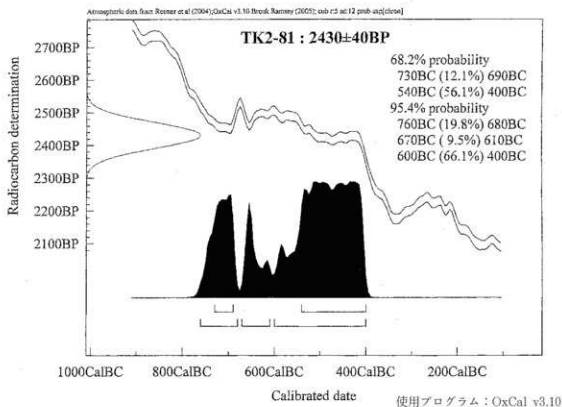
IAAA-51600 #1082-6	試料採取場所：F-1355 試料形態：木炭 試料名(番号)：TK2-86	Libby Age(yrBP)：2,490±40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -26.84±0.88 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -266.2±3.1 pMC(%) = 73.38±0.31
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -269.0±2.8 pMC(%) = 73.10±0.28 Age(yrBP)：2,520±30
IAAA-51601 #1082-7	試料採取場所：F-1369 試料形態：炭化物 試料名(番号)：TK2-87	Libby Age(yrBP)：2,540±40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -32.23±0.84 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -271.3±3.2 pMC(%) = 72.87±0.32
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -282.1±2.9 pMC(%) = 71.79±0.29 Age(yrBP)：2,660±30
IAAA-51602 #1082-8	試料採取場所：71-157-ア③ 試料形態：炭化物 試料名(番号)：TK2-88	Libby Age(yrBP)：2,480±30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -22.69±0.79 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -265.3±3.0 pMC(%) = 73.47±0.30
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -261.8±2.8 pMC(%) = 73.82±0.28 Age(yrBP)：2,440±30
IAAA-51603 #1082-9	試料採取場所：F-1446 試料形態：炭化物 試料名(番号)：TK2-89	Libby Age(yrBP)：2,510±30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -25.71±0.76 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -268.1±3.1 pMC(%) = 73.19±0.31
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -269.2±2.8 pMC(%) = 73.08±0.28 Age(yrBP)：2,520±30
IAAA-51604 #1082-10	試料採取場所：F-1372 試料形態：炭化物 試料名(番号)：TK2-90	Libby Age(yrBP)：2,550±40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -25.91±0.85 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -272.3±3.2 pMC(%) = 72.77±0.32
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -273.7±2.9 pMC(%) = 72.63±0.29 Age(yrBP)：2,570±30

IAAA-51605	試料採取場所：F-1372	Libby Age(yrBP) : 2,480± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -25.16± 0.84 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -265.2± 3.0 pMC(%) = 73.48± 0.30
	試料形態 : 木炭 試料名(番号)：TK2-91	
#1082-11	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -265.4± 2.7 pMC(%) = 73.46± 0.27 Age(yrBP) : 2,480± 30
IAAA-51606	試料採取場所：72-164-イ①、ウ② 炭化物範囲	Libby Age(yrBP) : 2,580± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -24.35± 0.83 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -275.0± 3.0 pMC(%) = 72.50± 0.30
	試料形態 : 木炭 試料名(番号)：TK2-92	
#1082-12	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ 補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -274.0± 2.7 pMC(%) = 72.60± 0.27 Age(yrBP) : 2,570± 30
IAAA-51607	試料採取場所：F-1585	Libby Age(yrBP) : 2,890± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -23.50± 0.80 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -302.6± 3.1 pMC(%) = 69.74± 0.31
	試料形態 : 炭化物 試料名(番号)：TK2-93	
#1082-13	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -300.4± 2.9 pMC(%) = 69.96± 0.29 Age(yrBP) : 2,870± 30
IAAA-51608	試料採取場所：71-170-ウ① 72-169-ウ① 72-170-ア①、イ①、ウ①、エ①炭化物範囲	Libby Age(yrBP) : 2,190± 40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -25.99± 0.98 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -238.3± 3.4 pMC(%) = 76.17± 0.34
	試料形態 : 木炭 試料名(番号)：TK2-94	
#1082-14	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -239.8± 3.0 pMC(%) = 76.02± 0.30 Age(yrBP) : 2,200± 30
IAAA-51609	試料採取場所：F-1586	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -24.72± 0.71 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -299.0± 3.0 pMC(%) = 70.10± 0.30
	試料形態 : 炭化物 試料名(番号)：TK2-95	
#1082-15	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -298.6± 2.9 pMC(%) = 70.14± 0.29 Age(yrBP) : 2,850± 30

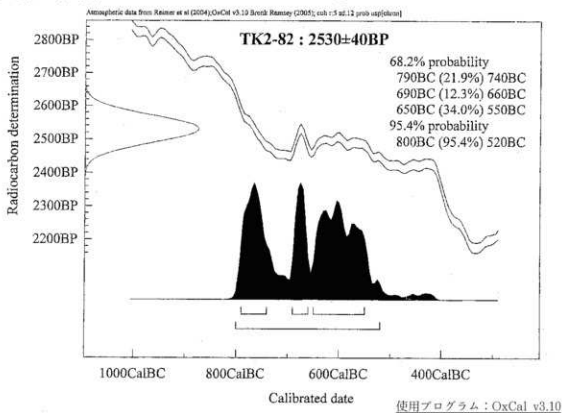
IAA

IAAA-51610 #1082-16	試料採取場所：72-174-イ① 炭化物範囲 試料形態：木炭 試料名(番号)：TK2-96	Libby Age(yrBP)：2,480±40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -22.15±1.02 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -265.7±3.5 pMC(%) = 73.43±0.35
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -261.4±3.2 pMC(%) = 73.86±0.32 Age(yrBP)：2,430±40
IAAA-51970 #1164-1	試料採取場所：P-179 試料形態：炭化物 試料名(番号)：TK2-97	Libby Age(yrBP)：2,430±40 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -27.62±0.77 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -261.0±3.3 pMC(%) = 73.90±0.33
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -265.0±3.1 pMC(%) = 73.50±0.31 Age(yrBP)：2,470±30
IAAA-51971 #1164-2	試料採取場所：P-179 試料形態：炭化物 試料名(番号)：TK2-98	Libby Age(yrBP)：2,470±30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -25.91±0.77 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -264.3±3.1 pMC(%) = 73.57±0.31
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -265.7±2.8 pMC(%) = 73.43±0.28 Age(yrBP)：2,480±30
IAAA-51972 #1164-3	試料採取場所：P-179 試料形態：炭化物 試料名(番号)：TK2-99	Libby Age(yrBP)：2,480±30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -27.74±0.76 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -265.2±3.0 pMC(%) = 73.48±0.30
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -269.3±2.8 pMC(%) = 73.07±0.28 Age(yrBP)：2,520±30

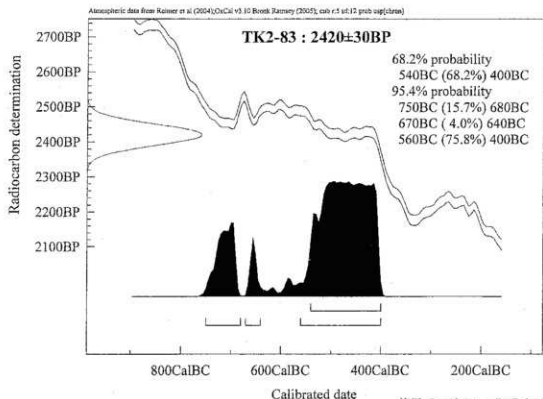
【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



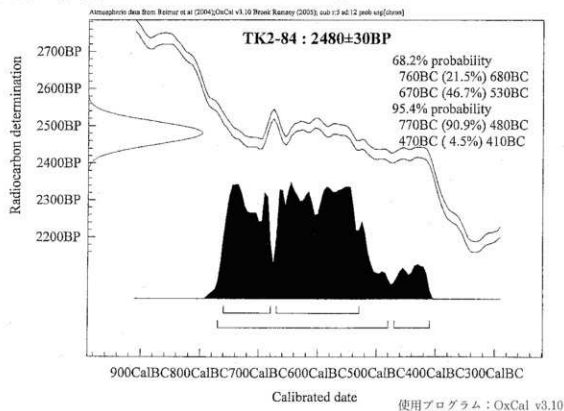
【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



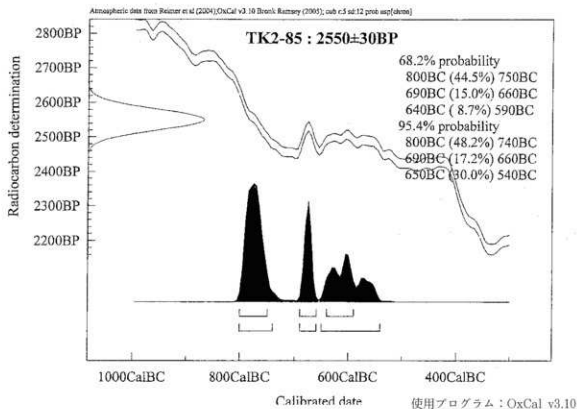
【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



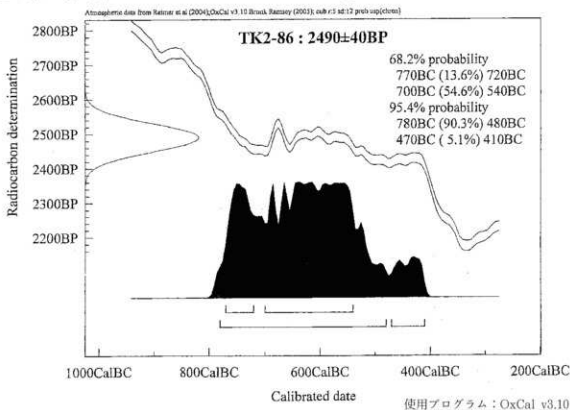
【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



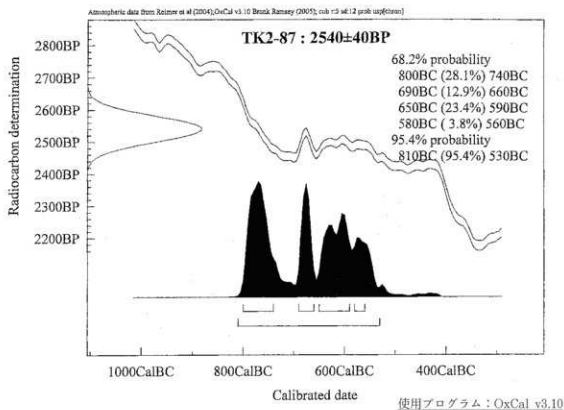
【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



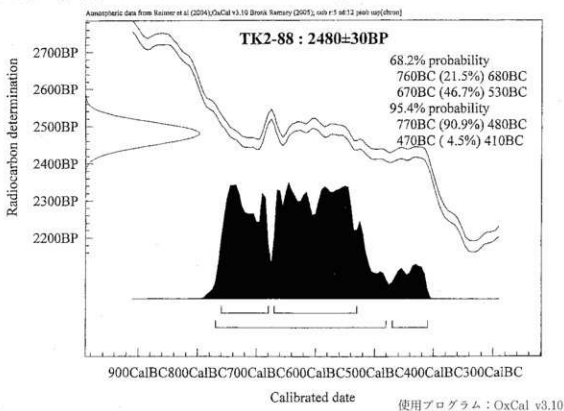
【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



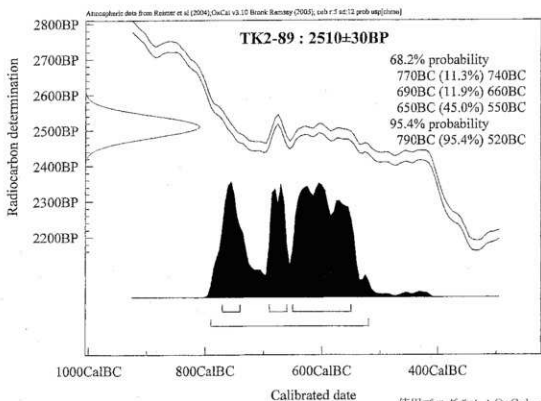
【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



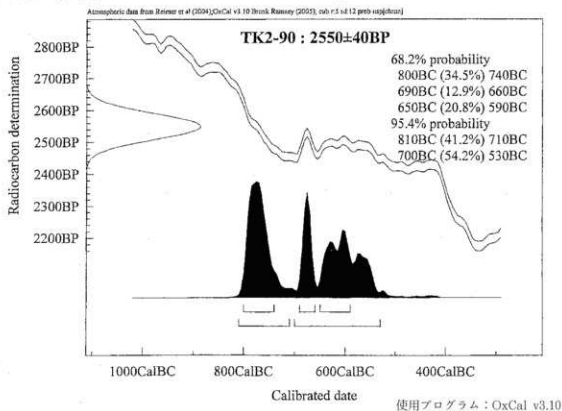
【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



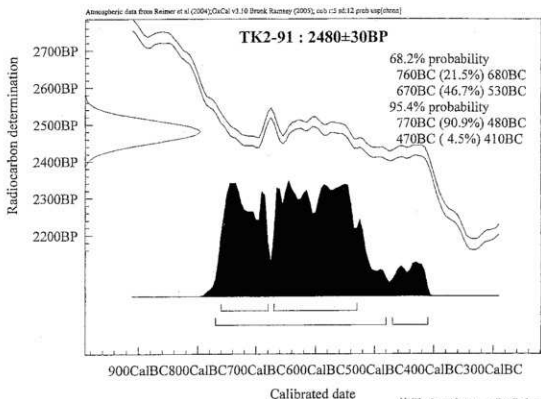
【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



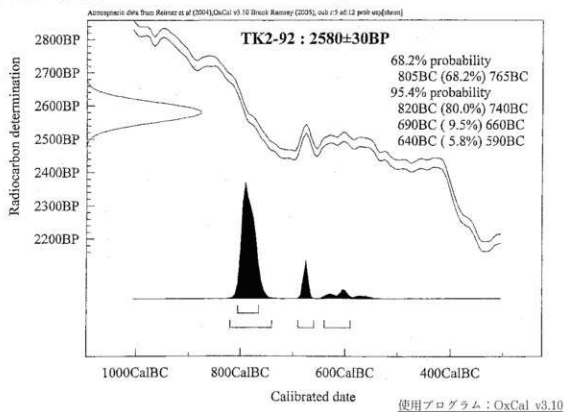
【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



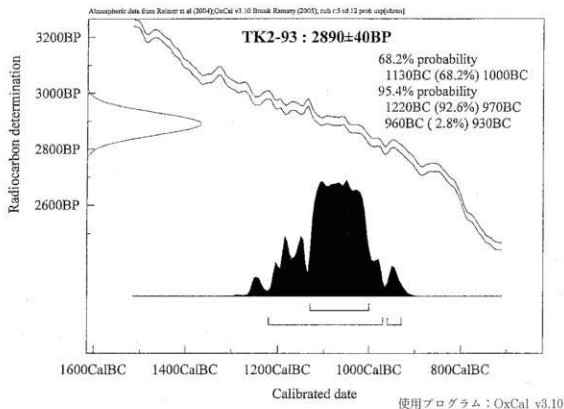
【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



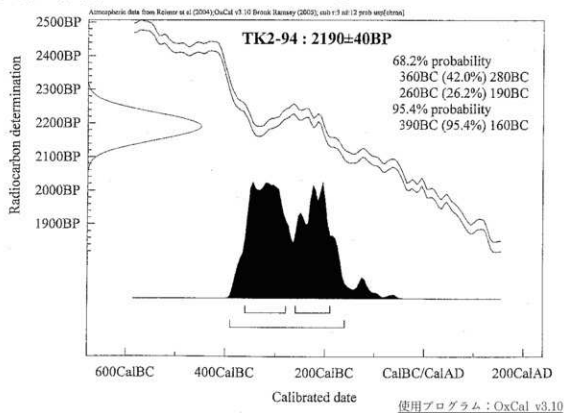
【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



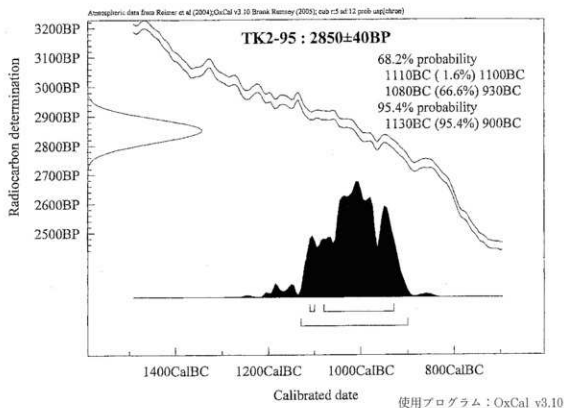
【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



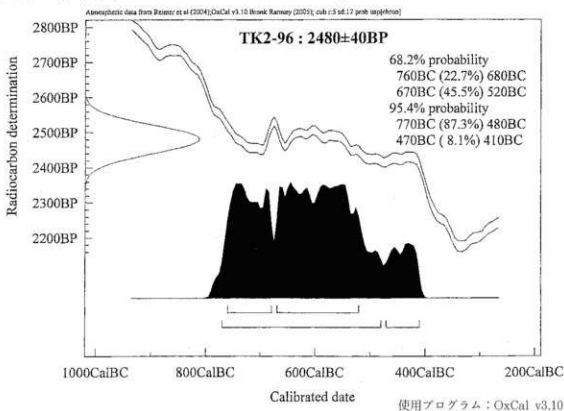
【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



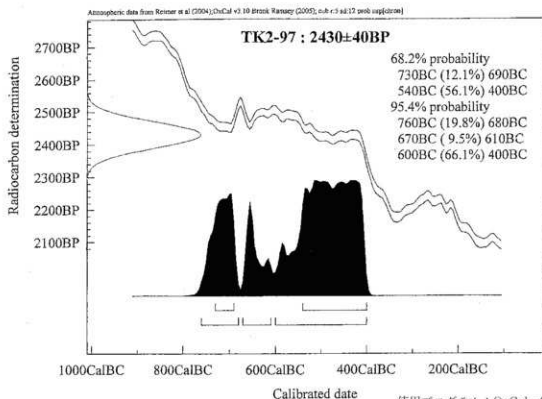
【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



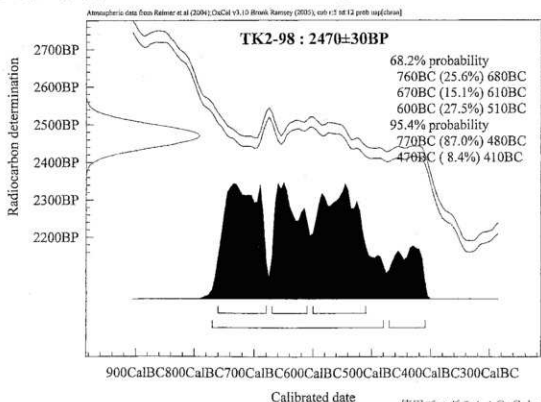
【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



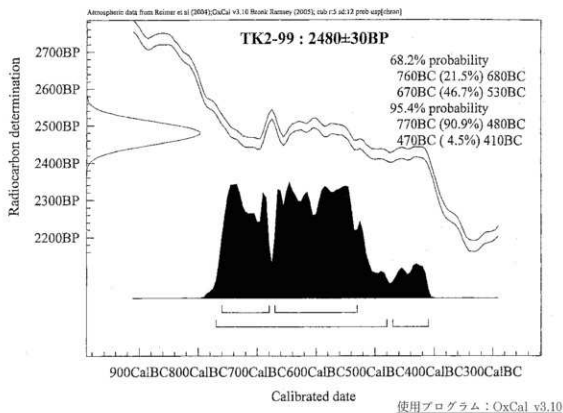
【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



Ⅶ 成果と問題点

1 対雁2遺跡出土のV群土器について

(1) はじめに

主に平成16・17年度に対雁2遺跡より出土した縄文時代晩期後半の土器を対象として、現段階における考察を行う。V章第1節では、客観的に器種・施文を基準に分類したが、ここでは出土層位（層面）に基づき、V群土器の変化を概観する。層面は73線上の土層断面での名称であり（Ⅲ章第3節参照）、必ずしも個々の遺物取り上げ面に付与されるわけではないが、出土地点の標高などから土器の属する生活面に内包されるものを推定した。生活面の序列と対応する土器の新旧については、過年度および継続調査範囲との接合関係を踏まえて次年度以降に考察する。なお、V章第1節の概要で述べたように、接合の結果から破片資料は原位置を保っていない場合（侵食による上下など）も推測される。よって、今回は主に比較的接合状況が良好な復元資料（主体部が堆積体止面より出土したもの）について、同一あるいは近接する層面より出土した個体をまとめて、Ⅰ～Ⅷ類に分けた（図Ⅶ-1・2）。

(2) 各類の特徴

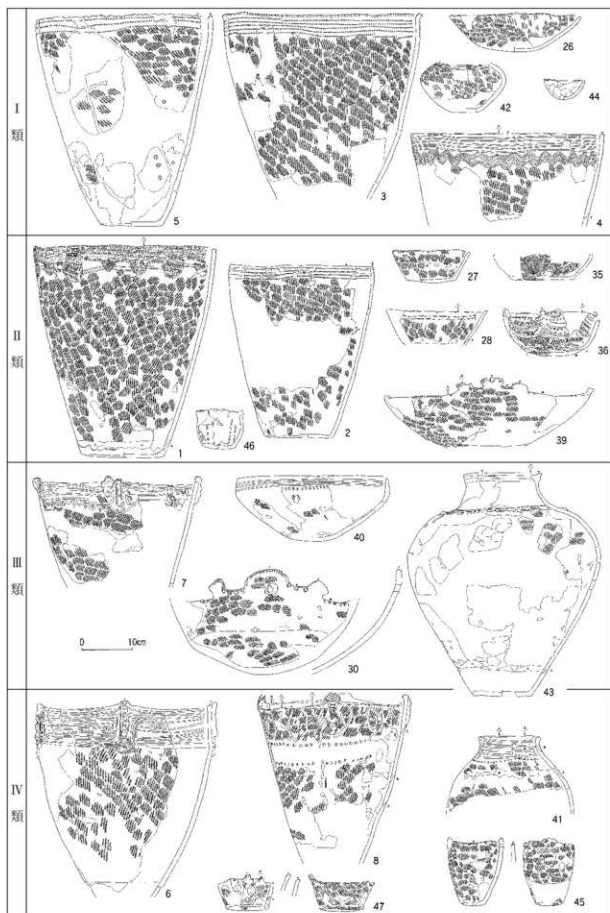
I類は、主に76～80層面より出土した。深鉢は横位の縄側面瓦痕文（縄線文）あるいは沈線文を主体とし、上描き文様を伴わない。縄線文、沈線文のいずれも間隔が一定ではなく、全周しないなど不整なものが多い（3・5）。また、下部に波状沈線（4）や屈曲文など浮線を伴うものも見られる。口縁端部が縄・工具・指頭などで刻まれる例が多く、外縁が肥厚するものもある。底部が残存する例は少ないが、器形などから平底と考えられる。浅鉢は平縁で顕著な突起などは見られず、平底である（26）。小型壺の再生品（42）は肩部の屈曲が強く、浜中大曲式の特徴（石狩町教委1979、林1981など）に類似する。平成14年度報告の13-1類および13-2類（北埋調報193）にほぼ相当する。

II類は、主に73～75層面より出土した。深鉢はI類と同様に横位の縄線文・沈線文を主体とするが、やや間隔が密になり、整ったものが多くなる（2）。縄線文・沈線文の下部に縄端や工具による刺突列を伴う例が目立つ。また、浮線はより上部へ進出し、刺突列・刻目列などを伴って横位縄線文・沈線文に上描きされるようになる（1）。浅鉢の外面にも類似する文様が施される例が見られる（35・36）。口縁部は垂直あるいはやや内傾きみで、底部は平底である。浅鉢は小型で平縁のもの（27・28）もあるが、大型で突起が発達したもの（39）が出現する。底部はやや丸底や凸底に近いものが多い。平成14年度報告の13-1類・13-2類の一部と13-3類（北埋調報193）に相当する。

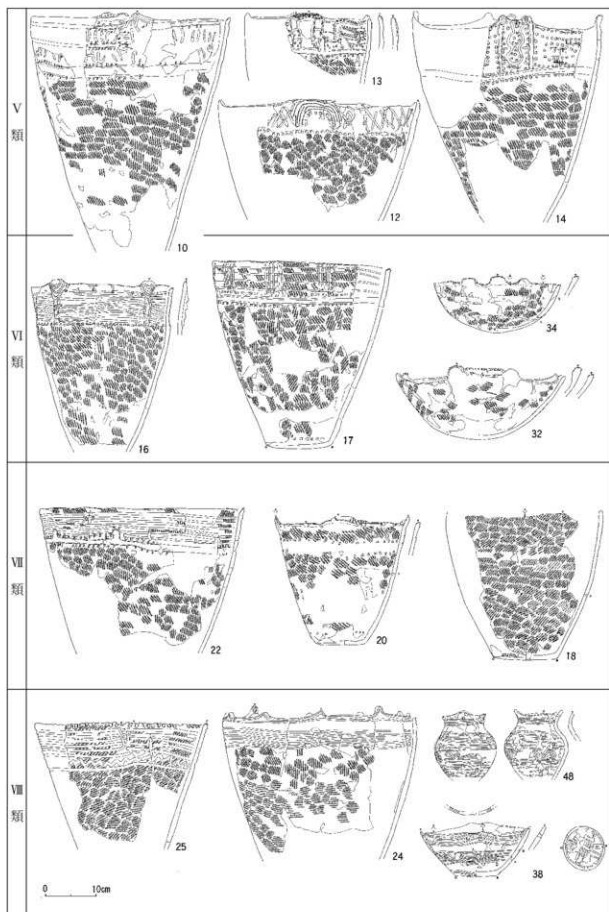
III類は、主に70～72層面より出土した。深鉢はI・II類の横位縄線文・沈線文に縦位貼付帯が加わる。貼付帯の周囲では、縦位やL字状の沈線が上描きされるなど新しい要素が見られる（7）。底部の形状は不明である。浅鉢は、口縁部の突起がより大きく、端面・頂部への施文も顕著になる（30）。底部は大半が丸底と推測される。頸部に強い磨り消しによりA字状突起と工字文状隆帯を作出した非在地系の壺（43）を伴っている。平成14年度報告の13-4類（北埋調報193）に相当する。

IV類は、主に60～69層面より出土した。深鉢はIII類で上描きされた沈線が弧状・斜位など多様になり、縦位貼付帯の左右へと展開する（6）。また、横位縄線文・沈線文を背景文様として（ない場合もある）、括弧状沈線文が上描きされるものが出現する。出土層面から前者より後者のほうが新しい。

I 对雁?道跡出土のV群土器について



図VII-1 V群土器分類図(1)



図Ⅶ-2 V群土器分類図(2)

縦位貼付帯にはボタン状突起が付加され、渦巻状・同心円状縄線文が施されるなど、装飾性が高くなる。また、括弧状沈線文の段階で上下に刺突列を伴うナデ消し帯が見られるが、ほとんど凹まない(8)。底部の形状は不明である。口縁～頸部に横位沈線文が施された壺(41)は、6と同面より出土した。ミニチュア土器の深鉢(45)・浅鉢(47)は一括出土資料で、47にはやや不整な括弧状沈線文が見られる。平成14年度報告の13-5類・13-6類(北埋調報193)に相当する。

V類は、主に58～59層面より出土した。深鉢は、IV類の括弧状沈線文が規則性を失い、縦位あるいは上向・下向の弧状沈線を羅列する(10)。それとともに、沈線文は弧状だけでなく蛇行状・渦巻状・曲線状・波状などへと変化し、貼付帯は上向弧状やT字状・H字状などが現れ、これらの組み合わせにより、多様な文様展開が見られる(12・13・14)。背景文様の櫛目状沈線、刺突列の多用、顕著なナデ消し凹帯などが特徴として挙げられる。この段階で、横位縄側面瓦痕文は口縁部の背景文様として用いられなくなるようである。底部の形状は不明。IV類・V類ともに浅鉢の形態は明らかではないが、破片資料より推測するとⅢ類で発達した突起が継続していた可能性がある。平成14年度報告の13-7類の一部(北埋調報193)に相当する。

VI類は、主に55～57層面より出土した。深鉢は、V類のような複雑な文様展開は見られなくなり、横位沈線文を主体とする簡易な文様となる。口縁部に幅広いナデ消し帯を作り出し、不整な横位沈線を施した後、縦位貼付帯を加えるもの(16)、口縁部をナデ消さずに、横位沈線を廻らした後に、縦位沈線を上描きするもの(17)があるが、いずれも横→縦の描順は共通である。16は口縁部内面が縄線・工具により施文される。底部は平底。浅鉢は突起がⅢ類などと比較すると小さくなり、やはり頂部から内面側へ施文される場合が多い(32・34)。底部は丸底。16・17・34は同面より出土した。平成14年度報告の13-7類の一部(北埋調報193)に相当する。

VII類は、主に52～54層面より出土した。深鉢は、さらに口縁部文様帯の単純化が進み、横位沈線文のみで上描き文様を欠く(22)。ナデ消し凹帯(上方へ貫入する場合がある)は、IV類(括弧状沈線文)～VII類に見られる。また、沈線などによる顕著な文様を持たず、ナデ消し帯と刺突列のみが施されたもの(20)もある。いずれも鋭角に内傾する口縁端面に回転縄文が施されるなど、VI類で見られた内面側への施文がより顕著になるようである。底部は平底。浅鉢・壺については明らかではない。平成14年度報告の13-8類の一部(北埋調報193)に相当する。

VIII類は、主に46～51層面より出土した。深鉢は、やはり横位沈線文を主体とし、不整な波状沈線を下部に伴うもの(25)や、口唇直下に無文帯をもつもの(24)などがある。底部が残存するものは凸平底で、底径が10cm以下と狭い。36(小型浅鉢)・48(ミニチュア壺)は同面より出土した一括資料である。いずれも細密な横位沈線文・断続山形沈線文と無文帯が組み合わさる。沈線と無文帯の間隔、胎土、色調などは24と非常に近い。VII・VIII類は標高8.0mより上位の旧称Ⅱ-1層出土のものを含んでおり、新旧については再考の余地がある。これらは将来的に調査の進捗により細分される可能性がある。平成14年度報告の13-8類の一部(北埋調報193)に相当する。

(3) 成形の変化

土器の成形は、接合面が露呈している個体を見ると、I～VI類は内傾接合、VII類は内傾接合と外傾接合、VIII類は外傾接合である。VII類の20(内傾接合)と18(外傾接合)は同面より出土している。すなわち、本遺跡においては、VIII類の段階で内傾から外傾への成形技術の変化が発生したと推測される。この変化は器形の変化に対応する可能性がある。I・II類の深鉢は底径が12～16cmと比較的大きく、安定して正立する。ところがIV類以降、口径が大きく開く一方で底部がすぼまる傾向が見られ、安定

を欠くようになる。このような器形では上半の重量が過重になり、底部に相当の負荷がかかる。成形における粘土紐の輪積みは歪みを回避するため連続して行わず、半乾燥の状態での休止を繰り返さなければならぬ(佐原1967)。この時間差による収縮率の違いにより、上段の粘土輪が剥落することがある。鈴木・西脇は、これを防ぐために外傾接合が採用され、上面観・側面観が歪んだ個体が多いことから横倒して成形された可能性を指摘している(鈴木・西脇2003)。Ⅷ類に後続すると考えられる土器集中3(北埋調報177)、土器集中1(道埋文2003)は大半が外傾接合である。平成15年度調査範囲では、統縄文前葉(Ⅵ群a類)まで外傾接合が継続することが確認されている(北埋調報204)。

(4) 放射性炭素年代測定結果との整合性

主に焼土より採取した炭化クルミ・炭化材片を用いて放射性炭素年代測定を行った(Ⅵ章第1節参照)。この測定結果より導かれた補正¹⁴C年代値とⅠ～Ⅷ類土器の変遷が対応するかについて検証する。各類の出土層面より採取した試料から、Ⅰ類:2520±40y.BP(TK2-20)、Ⅱ類:2510±30y.BP(TK2-89)、Ⅲ類:2490±40y.BP(TK2-86)、Ⅳ類:2480±30y.BP(TK2-84)、Ⅴ類:2420±30y.BP(TK2-83)、Ⅵ類:2415±25y.BP(TK2-78)、Ⅶ類:2530±40y.BP(TK2-82)、Ⅷ類:2375±25y.BP(TK2-79)という年代値を得た(表Ⅶ-1)。概ね年代値の序列は分類の新旧と合致する。Ⅷ類のみ予想される補正年代より約120～140年「古い」値を示す。試料TK2-82は $\delta^{13}C$ 値が -23.80 ± 0.79 と高く、何らかの二次的影響を受けた可能性がある。

ところが、千歳市キウス4遺跡のTa-c₁層とTa-c₂層間の泥炭層の補正¹⁴C年代値が2550±50y.BPと測定されている(北埋調報134)。この数値はⅠ類よりも古く、本遺跡のⅤ群土器はすべてⅠB(第1黒色土)層の時期に含まれることになる。後述のように、千歳市周辺の遺跡の類例ではⅡB(第2黒色土)層出土の土器がⅠ～Ⅴ類と考えられることから、本遺跡における土器型式の変遷と合致しない。むしろⅠB相当と考えられるⅦ類の数値が妥当であり、他の分類が約120～140年「新しい」という逆転現象が生じてしまう。さらに本遺跡の土器集中1・土器集中3の年代測定値(北埋調報147・177・215)がⅡ～Ⅴ類の時期に相当するというのも、土器型式上は認しづらい。複数の機関による測定試料の処理方法の相違が数値に反映した可能性がある。この問題については、土器が帰属する生活面をさらに精査し、他機関による同一試料の再測定も視野に入れて追及したい。

(5) 編年の位置と今後の課題

本遺跡の縄文時代晩期後半の土器は、いわゆる「タンネットウL式」(野村1977)を主体として、その前後の時期を含む。従来編年と対比すると、Ⅰ類は千歳市美々3遺跡西部地区出土の「美々3式」(北埋調報77)に類例が見られる。Ⅱ類は美々3遺跡東部地区出土の土器(北埋調報69)や千歳市ママチ遺跡のⅠ群またはⅠ類(北埋調報9・36)に相当する。以下、Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ類はママチⅡ群またはⅡ類、Ⅵ・Ⅶ類はママチⅢ群またはⅢ類、Ⅷ類はママチⅣ群またはⅣ類の一部に充当できる。鈴木の時区区分(鈴木2002)では、Ⅲ・Ⅳ類がⅠ期、Ⅴ・Ⅵ類がⅡ期、Ⅶ・Ⅷ類はⅢ期にはほぼ対比される。現段階では、Ⅰ・Ⅱ群が晩期中葉(Ⅴ群b類)、Ⅲ～Ⅷ群が晩期後葉(Ⅴ群c類)に相当すると予察しているが、この区分については来年度以降資料の蓄積を待って検討する。

今後の課題は、Ⅰ・Ⅱ類の型式内容をさらに整理し、従来不明瞭であった道央部の晩期中葉、特にタンネットウL式成立前後の様相を周辺の類例との比較検討を通じて明らかにすることである。また、本遺跡の地理的特性を考慮すると、Ⅰ～Ⅷ類の変遷が石狩川上～中流域(旭川・深川・芦別など)の在地系土器を主体とする遺跡においても共時性を有するか検討する必要がある。(芝田)

2 放射性炭素年代測定結果について

今年度調査範囲における測定結果について、表Ⅶ-1にまとめた。なお、図Ⅶ-3・表Ⅶ-1では今年度報告範囲内から採取した試料である、TK 2-8・12~14・16・20『対雁2遺跡(1)』(北埋調報147集)、TK 2-72~80『対雁2遺跡(6)』(北埋調報215集)を含めて示している。これらについては各年度の報告書において測定結果を掲載しているが、採取位置と測定結果、生活面を付した上で再掲載する。以下、測定結果から検討を行う。また、試料名の「TK2」はこれ以降省略する。

8・12~14は、同一小発掘区内における包含層の上下間の年代差を測る目的で行った。8と13において上下逆転した測定値が見られるが、測定誤差の範囲内と考えられる。

16は、土器付着炭化物を測定したが、海洋リザーバー効果やその他不測の原因があったと思われる、測定値がかなり古く出ている。

20は、土器集中4から検出した炭化材を測定したものである。

72~80は、地層断面において粘土~シルトが堆積し、分層が困難になる標高8.0m付近以上における東西方向の年代経過について、放射性炭素年代測定によって検証するために行った。また、測定試料の乏しいところを補強する目的で行った。その結果、ほぼ東から西に向かって新しくなる様子が確認できたが、73は予測値よりもかなり新しい測定値であり、上位から混入した炭化材を測定した可能性が高い。80は、前述した8・12~14と同一小発掘区内であり、これらよりも上位から検出された炭化クルミを測定し、層の上下と測定値は整合的である。

81~96は、これまで行ってきた測定の中で、東西方向において測定試料の乏しいところを補強する目的で行った。82は周囲の測定結果からするとやや古い測定値であると考えられる。δ13値がやや高く、この影響なのであろうか。

85は、今年度調査において標高の最も低い位置から検出された焼土の測定値である。

88は、土器片(図Ⅴ-34-173)に貼りついた状況で検出した炭化クルミを試料とした。炭化クルミは土器と同面と考えられる。

90・91は、同一遺構(F-1372)から検出した炭化クルミと炭化材を用いて測定を行った。その結果、同一遺構にもかかわらず測定値に大幅な差が出ている。気掛かりな部分である。一年生であるクルミの方が試料として良好であると考えられるが、類似例の増加を待って今後検討したい。

94は、石鍾(図Ⅴ-41-57)が出土した炭化物範囲から検出した炭化材を用いて測定したものである。

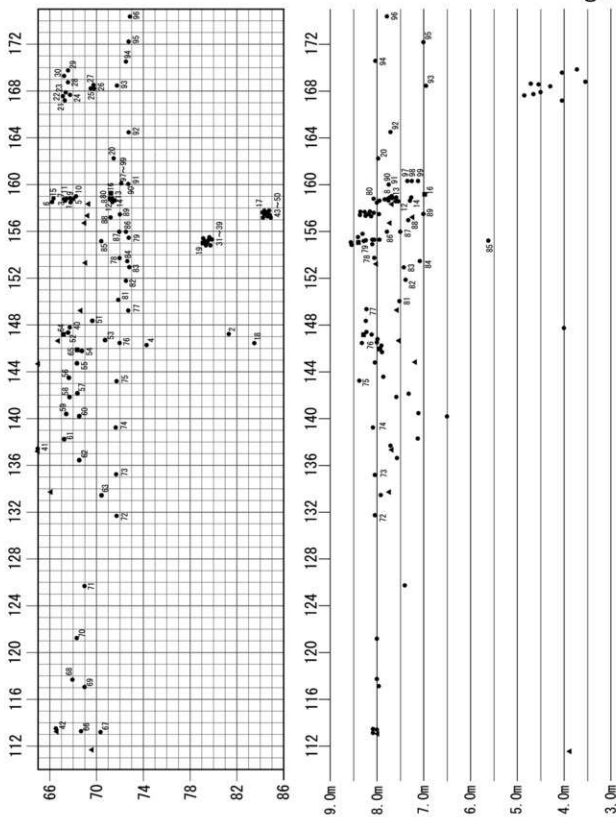
95は、遺跡最東端の焼土(F-1586)から検出した試料である。土層等から考えて、F-1586がこれまでの調査の中で最も古い年代と推定される焼土である。測定値からは93の方が古く出ているが、93が古く出ているのか95が新しく出ているのかは判別のよりどころがない。

96は、遺跡最東端の標高約7.8mから検出した炭化材を測定した。上位の粘土層から検出した試料のため、新しい測定値が出ていると考えられる。93~96の測定結果から、遺跡東側上位の層では新しい測定値が報告されており、土壌の堆積があまり進行していなかったことが推測される。

97~99は、P-179の構築年代を測るために行った。炭化物の検出された層別に測定を行い、上層・中層・下層と下位になるにつれ古くなる結果が得られている。90・91を採取した面と、土坑の掘り込み面はほぼ変わらないと考えており、その結果91の測定結果とは整合的である。だが、90の測定結果とは矛盾しており、検討の余地があると考えられる。

次年度以降も蓄積した測定結果をもとに、検討を重ねて行きたいと考えている。

(酒井)



図Ⅶ-3 放射性炭素年代測定試料検出位置図

引用・参考文献

個人論文・著作等

- 赤石慎三 2001 「縄文時代晩期後葉から統縄文時代初頭の突縮文土器について」『苫小牧市埋蔵文化財調査センター所報』3号 同センター p-19~30
- 今村峯雄 1999 「高精度14C年代測定と考古学—方法と課題—」『月刊 地球』号外No.26
海洋出版株式会社 p-23~31
- 上屋真一 1990 「柏木川11遺跡における浮遊選別法(フローテーション)による微細遺物採取方法について」『柏木川11遺跡』 恵庭市教育委員会 p-95~99
- 大沼忠春 1986 「北海道における縄文晩期から統縄文文化への変遷」『日本考古学協会昭和61年度大会発表要旨』 日本考古学協会 p-10~16
- 金盛典夫 1989 「幣舞式土器様式」『縄文土器大観4 後期・晩期・統縄文』 小学館 p-325~328
- 工藤研治 1999 「北海道的地域文化の形成—幣舞, 緑ヶ岡~宇津内式土器—」『日本考古学協会1999年度大会発表要旨』 日本考古学協会 p-24~25
- 近藤鎌三・岡田英樹・米山忠克 2001 「日本におけるイネ科植物由来の植物珪酸体の有機炭素量および13C自然存在比」『第四紀研究』Vol.40 No. 3 日本第四紀学会
- 榎原正文 1998 「豊平川を中心とした石狩川水系の河道変遷とその周辺のアイヌ語地名」『アイヌ語地名研究1』アイヌ語地名研究会 p-1~10
- 佐原 真 1967 「山城における弥生式文化の成立—畿内第I様式の細別と雲ノ宮遺跡出土土器の占める位置—」『史林』第50巻第5号 p-733~757
- 鈴木 信 2002 「VI-1 道央部における晩期後葉の土器編年」『江別市 対雁2遺跡(3)』北埋調報177 (財)北海道埋蔵文化財センター p-77~93
- 鈴木 信 2003 「VII-2 道央部における統縄文土器の編年」『千歳市 ユカンボシC15遺跡(6)』北埋調報192 (財)北海道埋蔵文化財センター p-410~452
- 鈴木 信・西脇対名夫 2003 「北海道縄文晩期後葉の土器製作技法について—江別市対雁2遺跡土器集中1の事例から—」『立命館大学考古学論集III』立命館大学考古学論集刊行会 p-123~142
- 鷹野光行 1994 「北海道東部の土器」『縄文文化の研究4 縄文土器II』雄山閣出版 p-196~206
- 椿坂恭代 1989a 『PROJECT SEEDS NEWS』No.1 p-6~7
1989b 『PROJECT SEEDS NEWS』No.2 p-14
- 戸苺賢二・土屋 篁 2000 『北海道の石』北海道大学図書刊行委員会
- 中田裕香 1998 「北海道美沢川流域における縄文時代晩期中葉から後葉の土器について」『北方の考古学』野村崇先生還暦記念論集編集委員会 p-189~198
- 野村 崇 1965 「北海道栗山町嶋山の墳墓遺跡」『石器時代』第7号 p-33~45
- 野村 崇 1994 「北海道南部・中部の土器」『縄文文化の研究4 縄文土器II』雄山閣出版 p-196~206
- 林 謙作 1981 「北海道」『縄文土器大成4 晩期』講談社 p-137~139
- 南川雅男 1993 『第四紀試料研究法』東京大学出版会

団体・組織刊行物

- (財)石狩川振興財団 2003 『石狩川流域発展の礎・治水』
- 石狩町教育委員会 1979 『SHIBISHIUSUⅡ』
- 江別市 2005 『新江別市史 本編』
- 江別市教育委員会 1979 『江別太遺跡』江別調報9
1981 『元江別遺跡群』江別調報13
1999 『大麻3遺跡(7)』江別調報92
2004 『七丁目沢6遺跡(10)』江別調報110
- 追分町教育委員会 1981 『追分町の埋蔵文化財』
- 札幌市埋蔵文化財センター 1995 『H317遺跡』札幌調報46
1996 『H37遺跡 丘珠空港内』札幌調報50
1998 『H37遺跡 栄町地点』札幌調報58
- 空知地方史研究協議会 1977 『長沼町幌内タンネツ遺跡の発掘調査』
- 千歳市教育委員会 1971 『ママチ遺跡』
1986 『梅川3遺跡における考古学的調査』千歳調報12
1986 『イヨマイ6遺跡における考古学的調査(2)』千歳調報14
- 苫小牧市埋蔵文化財調査センター 1987 『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅱ』
1997 『柏原5遺跡』
1998 『美沢東遺跡群』
- 北海道開発局石狩川開発建設部 1979 『石狩川治水地形分類図(6-2)千歳川治水地形分類図(4-1)』
1979 『豊平川治水地形分類図(2-1)』
- 北海道先史学協会 1980 『アヨロ 恵山文化の墓』
- 北海道文化財保護協会 1971 『柏木川』
- 由仁町教育委員会 1996 『川端遺跡・川端2遺跡』
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1983 『千歳市 ママチ遺跡』北埋調報9
1987 『千歳市 ママチ遺跡Ⅲ』北埋調報36
1991 『美沢川流域の遺跡群XⅣ』北埋調報69
1992 『美沢川流域の遺跡群XⅤ』北埋調報77
1997a 『美々・美沢-新千歳空港の遺構と遺物-』
1997b 『千歳市 キウス5遺跡(3)』北埋調報115
1998 『千歳市 キウス5遺跡(5)』北埋調報125
1999 『千歳市 キウス4遺跡(3)』北埋調報134
2000 『江別市 対雁2遺跡(1)』北埋調報147
2001 『江別市 対雁2遺跡(2)』北埋調報160
2002 『江別市 対雁2遺跡(3)』北埋調報177
2003a 『調査年報15』 p-10~17
2003b 『江別市 対雁2遺跡(4)』北埋調報194
2004 『江別市 対雁2遺跡(5)』北埋調報204
2005a 『北檜山町 生洩2遺跡』北埋調報214
2005b 『江別市 対雁2遺跡(6)』北埋調報215

写真図版



調査前状況 E→W



調査風景 W→E

図版Ⅱ-2



調査風景 NE→SW



調査風景 NE→SW



トレンチ調査風景 W→E



越冬養生作業風景 W→E



重機による法面施工状況 NW→SE



越冬養生状況 E→W

調査風景(2)



噴砂脈検出状況 NE→SW



焼土・遺物検出状況 SW→NE



焼土・遺物検出状況 S→N

図版Ⅱ-4



土器(図V-13-23等)出土状況 E→W



土器(図V-1-1)出土状況 N→S



土器(図V-3-3等)出土状況 NE→SW



石器(図V-41-57)出土状況 S→N



73-114-A~73-116-A NE→SW



73-135-A~73-137-A NE→SW



73-151-A~73-153-A NE→SW



73-153-A~73-155-A NE→SW

図版Ⅲ-2



73-155-ア～73-157-ア NE→SW



73-157-ア～73-159-ア NE→SW



73-159-ア～73-161-ア NE→SW



73-169-ア～73-171-ア NE→SW

地層断面(2)



東西・南北方向地層断面 73線・159線交点 NE→SW



南北方向地層断面(71-159-ア～73-159-ア) SE→NW



噴砂と断層(73-157-ア) NE→SW

図版IV-1



P-165上面遺物出土状況 S→N



P-165出土遺物



P-166遺物出土状況 S→N



P-166出土遺物



P-167上面遺物出土状況 SW→NE



P-167出土遺物



P-179断面と5層上面の状況 SE→NW



P-179の遺物

図版IV-3



P-179調査風景 N→S



P-179 6・7層上面の状況 E→W

土坑(3)



P-179 8層上面の状況 SW→NE



P-179完掘 SW→NE



P-180遺物出土状況 E→W



P-187完掘 SW→NE



P-193遺物出土状況 SW→NE



P-194遺物出土状況 S→N



S-30・図V-6-8出土状況 NW→SE



F-1206・頁岩剥片集中検出状況 S→N

土坑(5)・集石(1)等



焼土検出状況（145～147線）E→W



焼土検出状況（159線付近）E→W

焼土(1)

図版IV-7



小ビットのある焼土(F-1157) W→E



F-1169断面 S→N



F-1355検出状況 NE→SW



F-1179断面 SW→NE



F-1507断面 NE→SW



F-1268検出状況 S→N



F-1268断面 SW→NE



I 群土坑(P-165・167) SW→NE

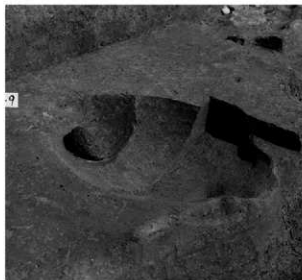


II 群土坑(P-168~170) SW→NE



II 群土坑(P-169~178) SE→NW

図版IV-9



P-9 完掘 SW→NE



P-9 出土遺物



P-128 完掘 NE←SW



P-180 遺物出土状況 SE→NW



P-180 出土の礫石器



P-180 出土遺物



P-181完掘 NE→SW



P-182完掘 E→W



P-183完掘 S→N



P-184完掘 S→N



P-185完掘 SE→NW



P-188完掘 S→N

図版IV-11



P-186完掘 E→W



P-186出土遺物



P-189完掘 SE→NW



P-190完掘 S→N



P-191完掘 SW→NE



P-192完掘 N→S



P-193完掘 SW→NE



P-193出土遺物



P-194完掘 S→N



P-194出土の礫石器



P-194出土遺物



P-195完掘 SW→NE

图版IV-13



P-196完掘 NE→SW



P-197完掘 N→S



P-198完掘 SW→NE



P-199完掘 NW→SE



P-200完掘 S→N



P-201完掘 N→S



P-202完掘 NE→SW



P-201・202検出状況 NE→SW



P-203断面 SE→NW



P-203完掘 S→N



P-203出土の礫石器



P-204完掘 SW→NE



P-205完掘 SW→NE



P-207完掘 N→S



P-206断面 SE→NW



P-206完掘 SE→NW



S-26検出状況 N→S



S-27検出状況 N→S



S-28検出状況 N→S



S-29検出状況 NE→SW



S-30検出状況 N→S



S-31検出状況 NE→SW



S-32検出状況 S→N



S-33検出状況 S→N

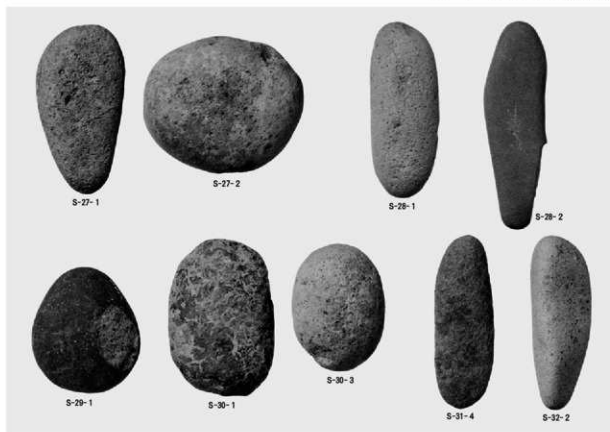
図版IV-17



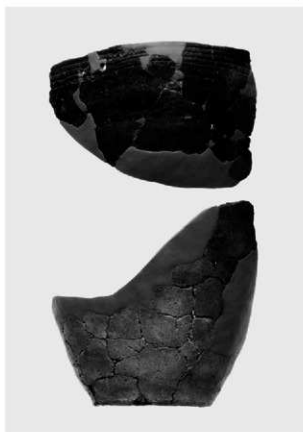
S-38検出状況 S→N



フローテーション2次選別作業



集石出土の礫石器





5



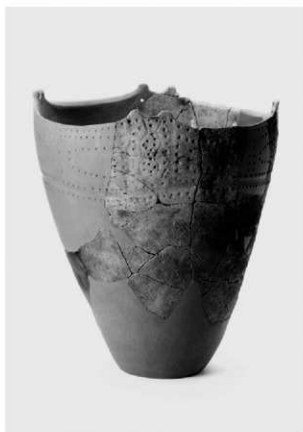
6



8



9





16



15



18



17



19



20



21



22



23



24



25



26



27



28



29



30



31



32



33



34



35



36



37



38



39



40



44



41



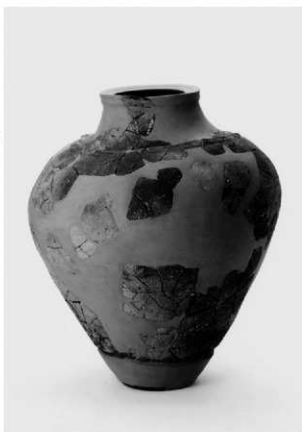
42



46



45



43



47



49



48



50



51



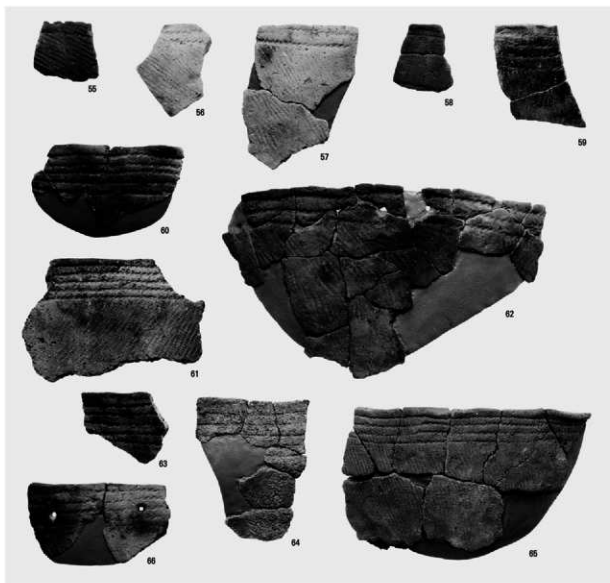
52

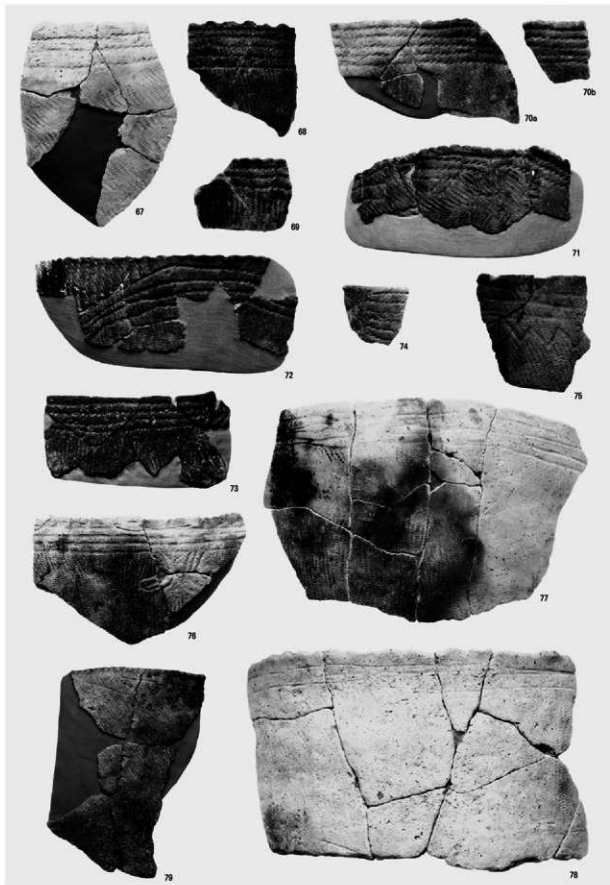


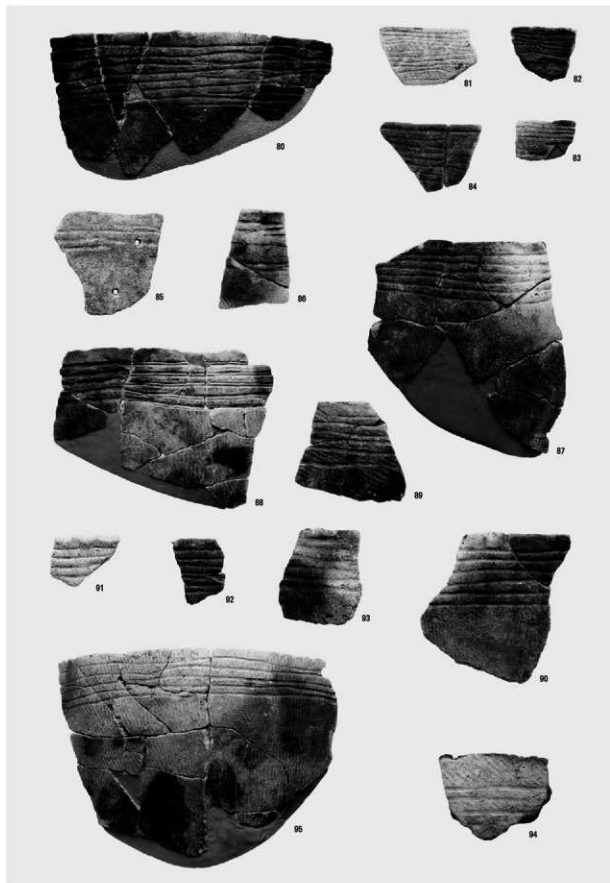
54



53

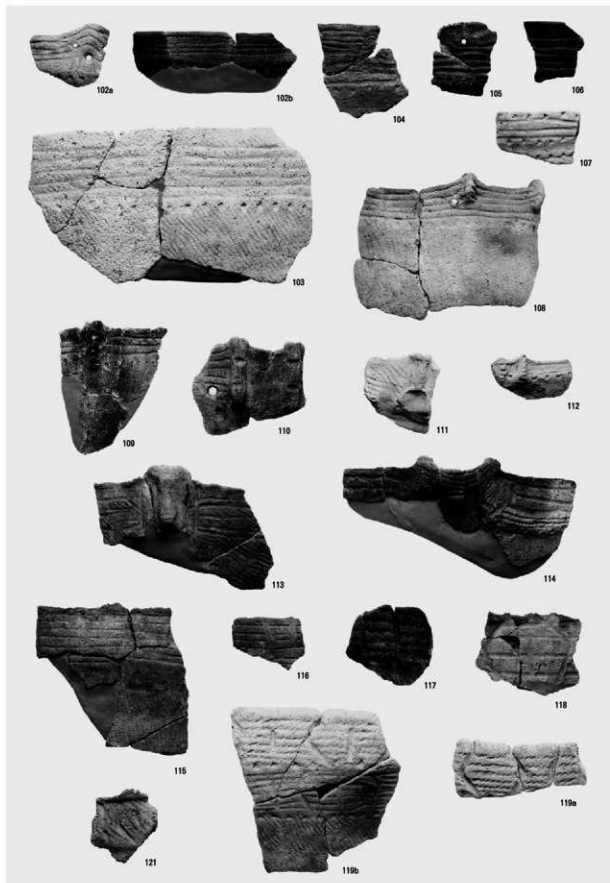




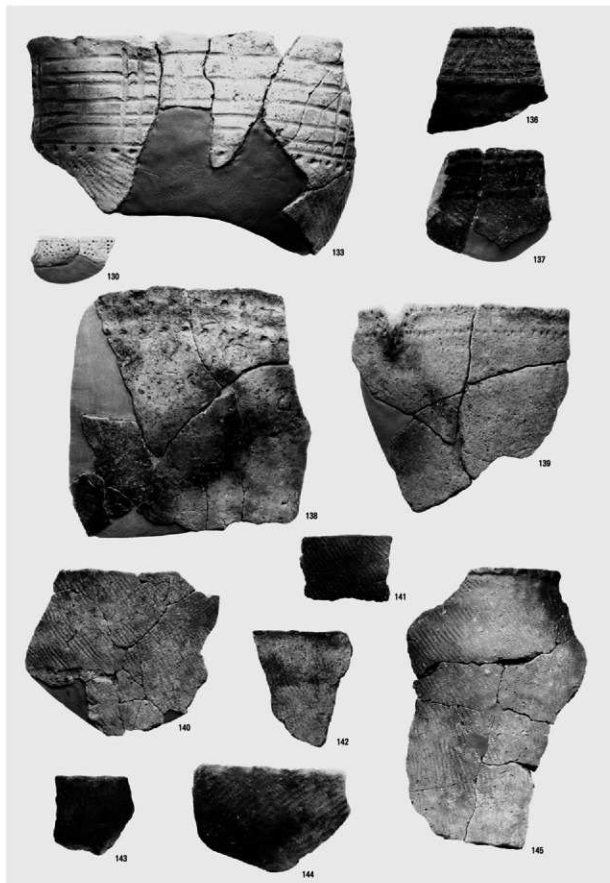


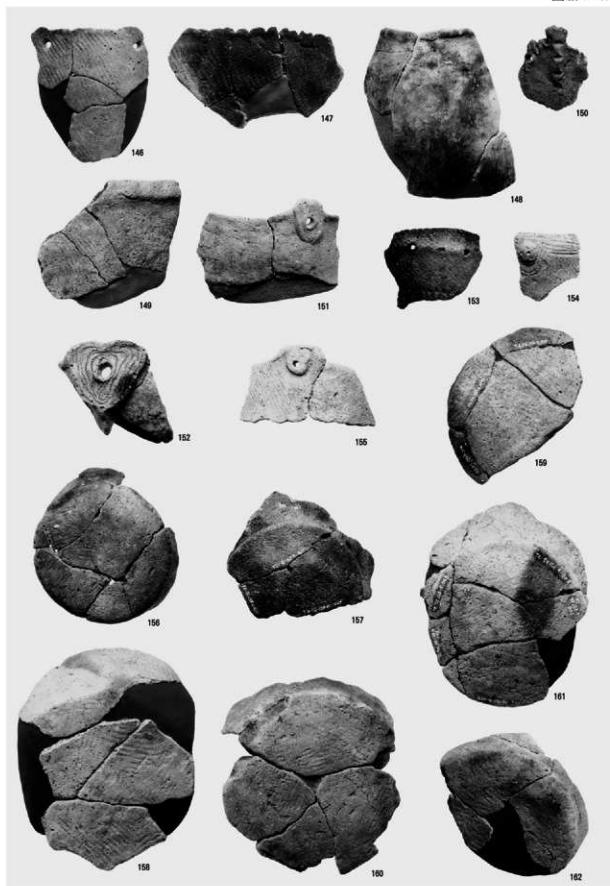


土器 (13)

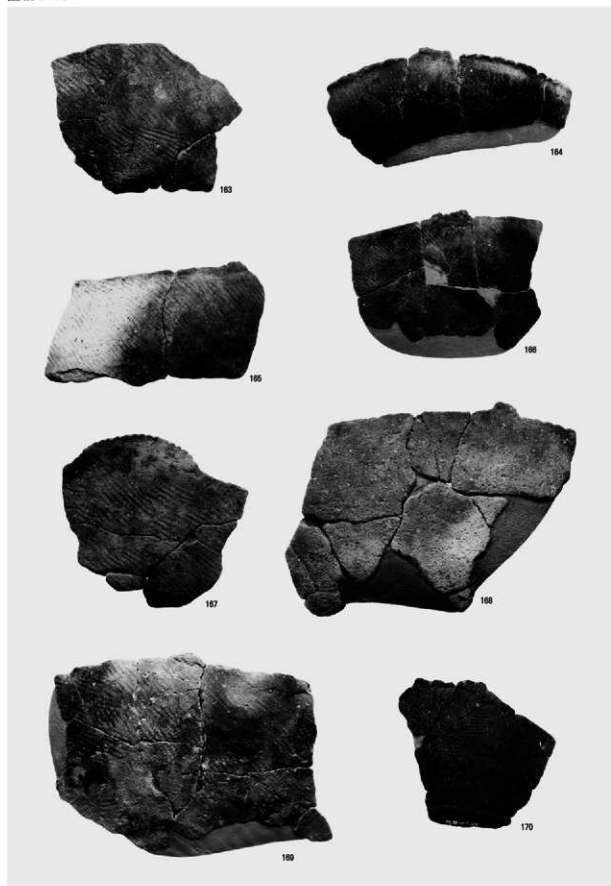


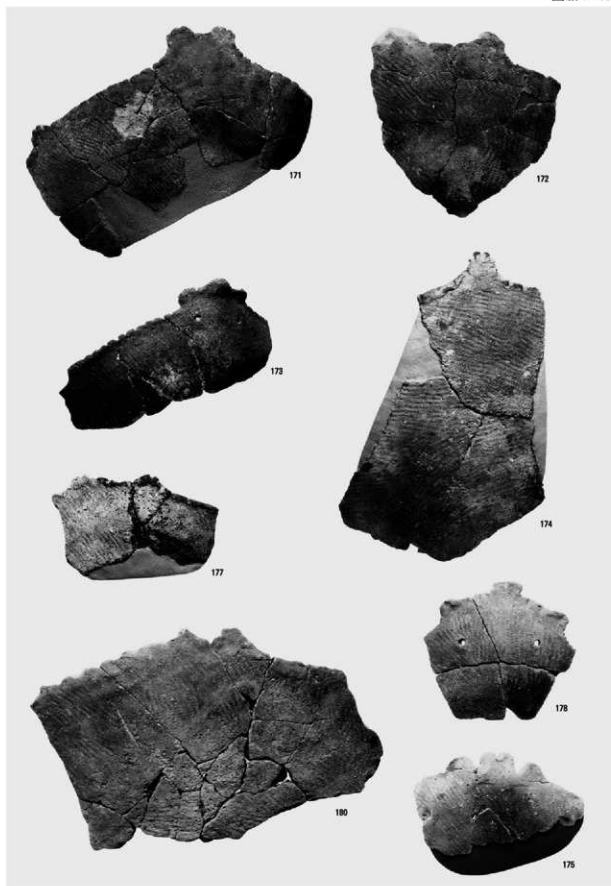




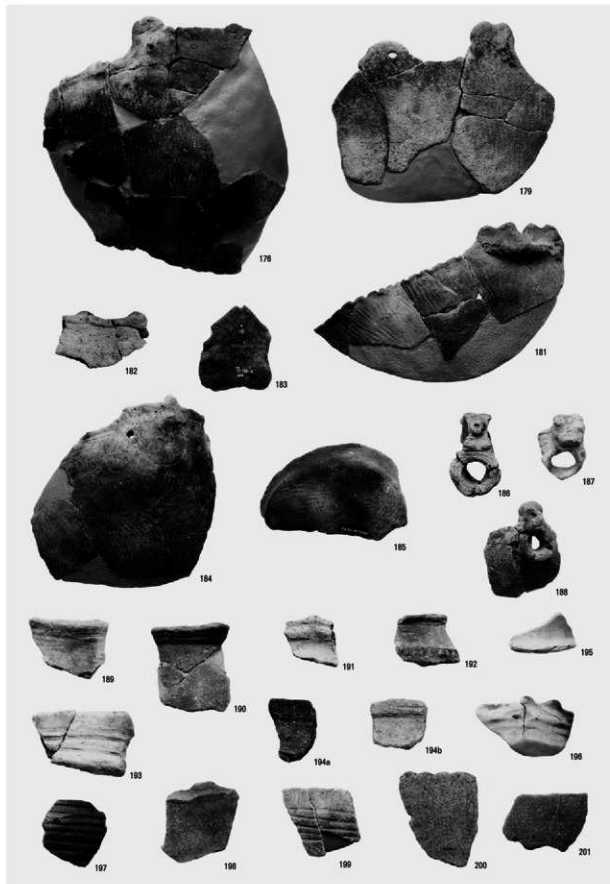


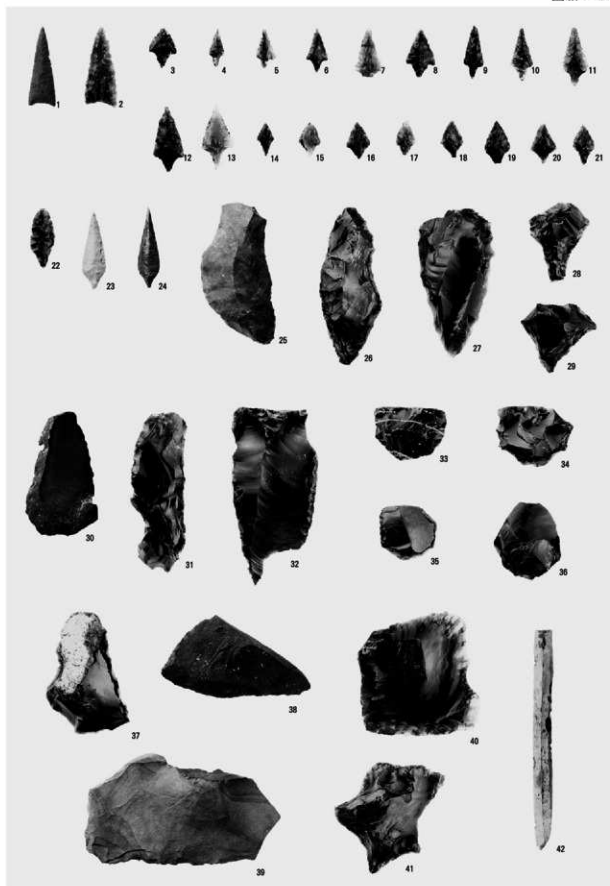
土器 (17)



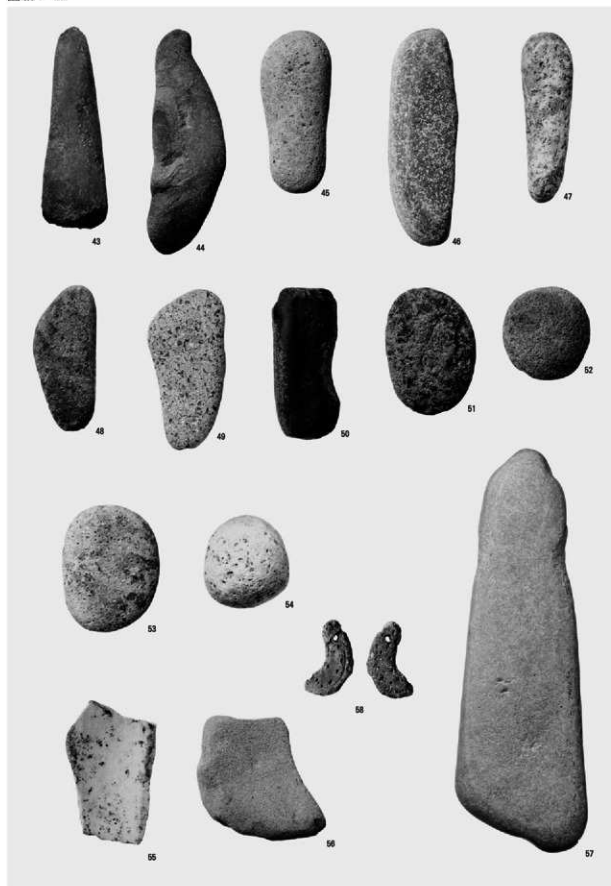


土器 (19)





石器 (1)



報告書抄録

ふりがな	えべつし ついしかり 2いせき かっこ7
書名	江別市 対雁2遺跡(7)
副書名	石狩川改修工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	なし
シリーズ名	財団法人 北海道埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第226集
編著者名	芝田直人・酒井秀治
編集機関	財団法人 北海道埋蔵文化財センター
所在地	〒069-0832 江別市西野幌685-1 TEL(011)386-3231 FAX(011)386-3238 E-mail mail@domaibun.or.jp ホームページ http://www.domaibun.or.jp
発行機関	財団法人 北海道埋蔵文化財センター
発行年月日	平成18(西暦2006)年3月27日
ふりがな	ついしかり 2 いせき
収録遺跡	対雁2遺跡
所在地	江別市工栄町28番地(地先)(石狩川河川敷緑地内)
市町村コード	01217
遺跡番号	A-02-110
北緯	43度07分47秒付近
東経	141度31分01秒付近
調査期間	20050509～20051031
調査面積	3,650㎡(うち3,250㎡について報告)
調査原因	河川改修に伴う記録保存
種別	遺物包含地
主な時代	縄文晩期後葉～続縄文前葉
主な遺構	土坑 45基 焼土 324ヵ所 集石 12ヵ所 など
主な遺物	土器片 石器等(石鏃、スクレイパー、たたき石、剥片、礫等)
特記事項	古自然堤防中に形成された

遺跡番号は北海道埋蔵文化財包蔵地周知資料登録番号、経緯度は世界測地系による。

(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第226集

江別市

ついでしかり
対雁 2 遺跡 (7)

—石狩川改修工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

発行 平成18年3月27日
編集 財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685番地1
TEL(011)386-3231 FAX(011)386-3238
E-mail mail@domaibun.or.jp
ホームページ <http://www.domaibun.or.jp>
印刷 小南印刷株式会社
〒060-0009 札幌市中央区北9条西23丁目2-5
TEL(011)641-5373 FAX(011)611-4343
E-mail print@kominami.jp